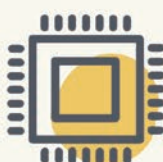




2024

日本大学生産工学部 キャンパスガイド

College of Industrial Technology, Nihon University Campus Guide



目 次

はじめに	4
日本大学の目的及び使命・生産工学部の教育目標	5
学科における人材の養成その他の教育研究上の目的	6
日本大学教育憲章・生産工学部教育方針	7
生産工学部各学科のディプロマ・ポリシー	8
生産工学部各学科のカリキュラム・ポリシー	10

履 修 編

総 論

1 授業科目について	20
2 履修について	21
3 授業について	23
4 試験について	24
5 成績の評価について	25
6 履修科目登録単位数の上限について	27
7 ポータルシステムについて	27
8 履修手続きについて	27
9 授業の出席管理について	28

全学共通教育科目・教養基盤科目

1 全学共通教育科目について	30
2 教養基盤科目について	30

生産工学系科目

生産工学系科目について	36
生産実習でつながるキャリアデザイン教育とエンジニアリングデザイン教育	37
実践を通じて「経験を学びに変える力」「生涯学び続ける力」を養う生産工学系科目	38

学科紹介・授業科目表

機械工学科	40
電気電子工学科	48

土木工学科	58
建築工学科	62
応用分子化学科	66
マネジメント工学科	74
数理情報工学科	82
環境安全工学科	90
創生デザイン学科	96

大学院

進学のおすすめ	102
生産工学研究科について	102
7つの専攻の教育・研究の目的	103

教職課程

教職課程とは	104
取得できる免許状	104
大学入学から免許状取得まで	105

海外留学・国際交流

海外提携校への交換・派遣留学制度	106
海外学部提携校	106
主な海外学術交流提携校等	107

生活編

学生生活をはじめるにあたって

知っておいて欲しいこと	110
守らなければならないこと	111
気をつけて欲しいこと	112

学費について

2024 年度入学者の学費	114
---------------	-----

学生生活について

学籍	114
窓口受付時間・電話番号案内	115
証明書の交付について	116
各種の届・願い出	118
施設・備品などの利用の願い出	119
各種相談	119
学生相談	120
学習支援活動	121
健康管理	122
学生食堂	123
購買部	123
大学・学部行事	124
特別講義	124
生産工学部学術講演会	124
公開講座	124
日本大学体育大会	124
生産工学部スポーツ大会	124
桜泉祭	125
課外活動	126
サークル一覧	127
保険制度	128

各種施設の利用

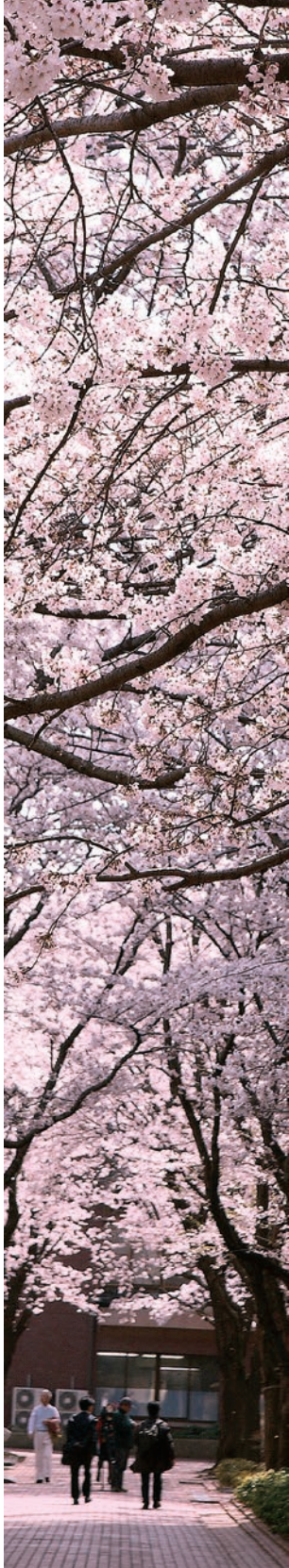
図書館	130
情報システム	132
コンピュータ・ネットワーク	132
教育用情報関係施設	133
教室、演奏室	134
学生ラウンジ	135
厚生施設	136
未来工房	137
体育施設	138

将来の道しるべ

就職	140
奨学金制度・特待生制度	144
各種資格について	148

学則及び諸規程(抜粋)

日本大学学則	149
日本大学学生・生徒表彰規程	153
特待生規程	155
日本大学生産工学部留学に関する内規	155
日本大学生産工学部情報システム利用要項	156
生産工学部ネットワーク利用に関する要項	157
日本大学生産工学部ホームページ及びサーバ管理要項	158
日本大学生産工学部教育用情報関係施設利用要項	159
入学前の既修得単位数の取扱いに関する要項	160
国際コミュニケーション科目における単位認定に関する申合せ	161
◆学園歌	163
◆キャンパス案内図	169
◆日本大学情報管理宣言・個人情報の取扱い告知文	172



この冊子は生産工学部に入学したみなさんの大学での学び方やキャンパスライフに必要なことを簡潔に書いてあります。必ず読んで内容を理解してください。

【履修編】には、本学部の教育内容が記載されています。これからの時代に求められる工学教育の内容を盛り込んだカリキュラムが2022年度からスタートしています。専門領域を重点的に学修するためのコース制を採用し、工学の多様化と専門化に対応できるように考えています。また工学の高度化に対応して学部から大学院への継続教育体制を整え、大学院まで連続する専門分野と、専門領域の多様化と学際化に対応したカリキュラムが構成されています。将来の進路を視野にいれて、各自が主体性を持って学修の目標を明確にし、科目を選択することが望ましくかつ重要です。さらに、各学科の専門的な基礎知識あるいは工学分野共通に必要な知識を学修するのに必要なコア科目を設置し、学修の仕方や成果の焦点がぼやけないように留意しています。

まず、学科のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーをよく理解してください。次に、授業科目及び履修方法についても理解してください。他学部との相互履修制度もあります。

さらに、より高度の専門知識を修得するためには、大学院に進学することを勧めます。進学を将来の選択肢として考慮している人は「大学院」に目を通してください。

将来、高校などの教員を希望する人は、履修すべき科目などを必ず理解してください。

その他には交換留学制度など海外留学に関することを紹介しています。

【生活編】は、本学に在籍する学生のみなさんに必要な事務手続きの方法、内容や、キャンパスライフを有意義に過ごすための規定などを紹介しています。

はじめに

また入学時だけでなく、進級していく度に履修科目も異なりますので、学修のマニュアルとしていつも活用するようにしてください。

「学生生活について」では、諸手続き、証明書の発行など学生生活に必要な事務手続きの内容や、生活上困ったことや健康上の問題がある時の大学側の対応の仕方を紹介しています。

「各種施設の利用」では、図書館やコンピュータ関連施設、体育施設、研修施設などの利用方法を紹介しています。

学生のみなさんを経済的にサポートするために色々な制度が設けられていますので、奨学金制度を利用したい人は「将来の道しるべ」に目を通してください。この章には学部卒業後に取得できる資格や、就職活動の方法を紹介しています。

「学則及び諸規定（抜粋）」は教育、学修、生活全般にわたる大学の組織的運営を円滑に行うための、大学側と学生のみなさんが守るべき約束ごとの内容を紹介しています。大学側もこれらの規則に準拠して、教育活動などを行っています。

『キャンパスガイド』には学生のみなさんが、最低限知っておくべき情報が履修方法を中心として、記載されています。他に、学科ごとの情報として『学習の手引』、教職員スタッフと学生のみなさんとのコミュニケーションを図るための情報誌として、『スプリング』が毎年2回発行されています。また「日本大学生産工学部ホームページ」は学内・学外及び海外に向けて学部、学科、研究室の紹介など、諸々の情報を発信しています。

【日本大学生産工学部ホームページアドレス】

<https://www.cit.nihon-u.ac.jp/>



日本大学の目的及び使命

(学則第1条)

日本大学は日本精神にもとづき
道統をたつとび憲章にしたがい
自主創造の気風をやしなひ
文化の進展をはかり
世界の平和と人類の福祉とに
寄与することを目的とする

(学則第2条)

日本大学は広く知識を世界にもとめて
深遠な学術を研究し
心身ともに健全な文化人を
育成することを使命とする

生産工学部の教育目標 (教育研究上の目的)

幅広い教養と経営能力を持ち
学生個々の個性・能力を生かして
人類の幸福と安全を
実現するために
考え行動し
社会に貢献できる
技術者を養成する

このために技術の進歩に対応できる
基礎学力と
応用能力及び技術の社会と
自然に及ぼす効果と影響について
多面的に考える能力を培う



学科における人材の養成その他の教育研究上の目的

機械工学科

機械工学は生産活動の基盤を支える学問であり、我々の生活を豊かにしてきた。近年、“機械”は人間や自然環境との調和を図ることが重要視され、長期的、広域的視野を持った技術者が必要とされている。このような背景から、機械の面白さやものづくりの楽しさを体感した経験を持ち、ものの作り方や使われ方を知り、自分が作りたいものを具体化して社会の理解を得ながら、ものづくりの現場をグローバルな視点からマネジメントできる人材を養成する。

電気電子工学科

産業構造の変革と高度情報化社会の進展に伴って、電気電子工学の進歩は著しく、また多様化している。これに対応できるように基礎学力と専門領域の知識を身に付け、さらに経営・管理工学を学び、実験・実習を通じて問題解決能力が高く、創造性豊かで、しかも経営能力も有する技術者を養成する。

土木工学科

土木分野に関する理論・現象を実験・実習・設計を通して習得するとともに、実社会における生産実習(企業体験)と経営や安全管理の基礎を学び、専門職の実務に対応できる基本能力を備えた技術者を養成する。さらに、習得した知識の集大成として、土木分野の課題を探究・創造・解決するプロセスを学び、土木技術者としての総合能力を養成する。

建築工学科

建築の基礎となる、「計画」、「構造」、「環境・設備」、「材料・施工」の総合的知識を持ち、高い倫理観のみならず、国際感覚、問題解決能力、应用能力、創造力、さらには発表能力・対話能力に重点をおいて、徹底的に教育指導をし、国際化が進む社会の要請に応えうる、そして経営能力も有する人材を養成する。

応用分子化学科

地球上に存在する物質は、わずか100種類ほどの元素の組み合わせによって成り立っている。これらの物質を対象に、豊かで安全な社会を維持させるために資源と環境を調和させながら、材料の無限の可能性を追求する教育研究を行っている。これによって、物質的な学問知識に加え、必要な特性を持つ素材を生み出す「分子デザイン能力」、環境に優しいものづくりのための「グリーンケミストリー」の概念、及び技術者としての倫理観を備え、製品化に向けた計画から生産するまでの「マネジメント能力」を身に付けた化学技術者を養成する。

マネジメント工学科

自然・社会・人間科学などの科学技術を応用した工学的知識をベースに、健全な企業経営の推進、自然・社会環境の向上、人にやさしい製品やシステムの開発・設計そして運用などにかかわる工学的理論や方法論を教育研究し、経済社会の活動を効果的に進めるため、グローバル化にも対応した経営・管理技術を身に付けた人材を養成する。

数理情報工学科

IT(情報技術)並びにICT(情報通信技術)が、既存の生産活動並びにビジネスの仕組みを大きく変えるエンジンであるという認識に立ち、インターネットの活用法、各種プログラミング技法、ソフトウェア構築法などの情報処理能力、並びにシステム工学・数理工学に裏付けられた問題発見・解決能力を習得した人材を養成する。

環境安全工学科

地球規模の視野を持ち、持続発展可能な社会の実現のために工学分野を複合的に学び、環境共生とエネルギーに関する知識と应用能力および技術が社会と自然に及ぼす効果と影響について、サステイナブル(持続可能)な視点から考え行動できる総合能力を有する技術者を養成する。

創生デザイン学科

自然科学をベースとする工学知識や技術、芸術を基礎とする感覚や技法、その両方を駆使して人と人工物の理想的な関係を築くことこそがデザインであると捉え、これを実践できる人材を育成することを目標とする。これを実現するために、統合された理論的なデザインの方法である「デザイン思考」の重要なステップ「共感」「問題定義」「創造」「プロトタイプング」「テスト」をカリキュラムに取り入れ、社会全般を見渡して、新しい商品やしくみを提案したり、開発できるデザイン・エンジニアを養成する。

日本大学教育憲章

日本大学は、本学の「目的及び使命」を理解し、本学の教育理念である「自主創造」を構成する「自ら学ぶ」、「自ら考える」及び「自ら道をひらく」能力を身につけ、「日本大学マインド」を有する者を育成する。

日本大学マインド

- 日本の特質を理解し伝える力
日本文化に基づく日本人の気質、感性及び価値観を身につけ、その特質を自ら発信することができる。
- 多様な価値を受容し、自己の立場・役割を認識する力
異文化及び異分野の多様な価値を受容し、地域社会、日本及び世界の中での自己の立ち位置や役割を認識し、説明することができる。
- 社会に貢献する姿勢
社会に貢献する姿勢を持ち続けることができる。

「自主創造」の3つの構成要素及びその能力

【自ら学ぶ】

- 豊かな知識・教養に基づく高い倫理観
豊かな知識・教養を基に倫理観を高めることができる。
- 世界の現状を理解し、説明する力
世界情勢を理解し、国際社会が直面している問題を説明することができる。

【自ら考える】

- 論理的・批判的思考力
得られる情報を基に論理的な思考、批判的な思考をすることができる。
- 問題発見・解決力
事象を注意深く観察して問題を発見し、解決策を提案することができる。

【自ら道をひらく】

- 挑戦力
あきらめない気持ちで新しいことに果敢に挑戦することができる。
- コミュニケーション力
他者の意見を聴いて理解し、自分の考えを伝えることができる。
- リーダーシップ・協働力
集団のなかで連携しながら、協働者の力を引き出し、その活躍を支援することができる。
- 省察力
謙虚に自己を見つめ、振り返りを通じて自己を高めることができる。

生産工学部教育方針

生産工学部ディプロマ・ポリシー（DP）

日本大学生産工学部は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに各学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士（工学）の学位を授与する。

- DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、倫理観を高めることができる。
- DP2 国際的視点から、必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。
- DP3 専門分野を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。
- DP4 生産工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。
- DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。
- DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。
- DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。
- DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気づきを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

生産工学部カリキュラム・ポリシー（CP）

日本大学生産工学部（学士（工学））では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）に基づく卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために、「全学共通教育科目」、「教養基盤科目」、「専門教育科目」、「生産工学

系科目」からなる教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目

学びをはじめる新入生に対し、日本大学の学生として共通して身につけるべき学修姿勢や修得すべきスタディ・スキルの涵養と、実社会との関連から教養を学ぶ意義の理解や自身の専門分野を学ぶ意識の向上をねらいとする科目として「自主創造の基礎」及び「日本を考える」を設置する。

教養基盤科目

統合的な視野で物事を正しく理解・認識するための能力を養うと共に、幅広い教養を身につけ、豊かな人間性や知性を育成するための「教養科目」、「国際コミュニケーション科目」、「基盤科目」と、俯瞰的かつ多面的な視点を育成するための「横断科目」によって編成する。

専門教育科目

各学科の専門分野を体系的に理解するための専門工学科目と、体験的学習を通じて専門知識より深く理解し応用力をつけるための実技科目によって編成する。

生産工学系科目

理論と実践の融合によって経営がわかる技術者を育成するためのキャリアデザイン教育とエンジニアリングデザイン教育で構成される科目群を体系的に編成する。

上記を構成する授業科目は、各能力に即して体系化するとともに、講義・演習・実験・実習等の授業形態を組み入れ、さらに、PBLや反転授業などによるアクティブラーニングの手法を授業形態に合わせて適切に取り入れた効果的で多様な学修方法によって実施する。

なお、「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の8

つの能力（汎用的能力）の達成度は、体系的に編成された教育課程に基づく授業科目の単位修得状況と卒業研究の到達度及び学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。具体的には、各学科の教育課程に則った評価方法（評価基準）に基づいて学修成果を評価する。そして、能力の土台となる専門的な知識・技能及び態度の達成度は、各授業科目のシラバスに明示される達成目標の達成度として、授業形態や授業手法に即した多面的な評価方法によって学修成果を評価する。

CP1 教養・知識・社会性を培い、倫理的に判断する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

CP2 国際的視点から必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、専門教育科目等を体系的に編成する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・実技科目等を編成する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために教養基盤

科目・実技科目等を編成する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

生産工学部アドミッション・ポリシー（AP）

日本大学生産工学部では、日本大学教育憲章に則り、自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力を有し、社会に貢献できる人材を育成します。

このため本学部では、高等学校課程までに修得した知識・教養・倫理観を基に、以下に示す「求める学生像」を理解して意欲的に学修を進めていくことのできる者を求めています。

「求める学生像」

豊かな知識・教養を身につけて高い倫理観をもって社会（日本社会・国際社会）に貢献することを目標とし、その目標に向かって自ら継続的に学修する意欲をもつ人。

問題発見及びその解決のために、必要な情報を収集・分析し、自らの思考力をもって、自らの考えをまとめ、表現しようと努力する人。

グループやチームをとおして自己を高め、さらに挑戦することや振り返ることの必要性を理解した上で、経営や生産管理ができる技術者になろうとする人。

なお、本学部に入学を志す者は、「求める学生像」を理解して受験していると判断し、入学試験では、学力試験等により、4年間の学修に必要な知識・技能・思考力・判断力を評価します。

生産工学部各学科のディプロマ・ポリシー

機械工学科

日本大学生産工学部機械工学科は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士（工学）の学位を授与する。

DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、機械工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。

DP2 国際的視点から、機械工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。

DP3 機械工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。

DP4 生産工学及び機械工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。

DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。

DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。

DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。

DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気づきを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

電気電子工学科

日本大学生産工学部電気電子工学科は、日本大学教育憲

章、生産工学部の教育目標並びに学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士（工学）の学位を授与する。

DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、電気電子工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。

DP2 国際的視点から、電気電子工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。

DP3 電気電子工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。

DP4 生産工学及び電気電子工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。

DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。

DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。

DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。

DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気づきを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

土木工学科

日本大学生産工学部土木工学科は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学

士（工学）の学位を授与する。

- DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、土木工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。
- DP2 国際的視点から、土木工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。
- DP3 土木工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。
- DP4 生産工学及び土木工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。
- DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。
- DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。
- DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。
- DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気づきを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

建築工学科

日本大学生産工学部建築工学科は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士（工学）の学位を授与する。

- DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、建築工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。
- DP2 国際的視点から、建築工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。
- DP3 建築工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。
- DP4 生産工学及び建築工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。
- DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。
- DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。
- DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。
- DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気づきを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

応用分子化学科

日本大学生産工学部応用分子化学科は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士（工学）の学位を授与する。

- DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、応用化学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。
- DP2 国際的視点から、応用化学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。
- DP3 応用化学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。
- DP4 生産工学及び応用化学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。
- DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。
- DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝

えて相互に理解することができる。

- DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。
- DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気づきを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

マネジメント工学科

日本大学生産工学部マネジメント工学科は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士（工学）の学位を授与する。

- DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、マネジメント工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。
- DP2 国際的視点から、マネジメント工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。
- DP3 マネジメント工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。
- DP4 生産工学及びマネジメント工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。
- DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。
- DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。
- DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。
- DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気づきを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

数理情報工学科

日本大学生産工学部数理情報工学科は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士（工学）の学位を授与する。

- DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、数理情報工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。
- DP2 国際的視点から、数理情報工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。
- DP3 数理情報工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。
- DP4 生産工学及び数理情報工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。
- DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。
- DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。
- DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。
- DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気づきを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

環境安全工学科

日本大学生産工学部環境安全工学科は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに学科の教育研究上の目的に基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士（工

学)の学位を授与する。

DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、環境安全工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。

DP2 国際的視点から、環境安全工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。

DP3 環境安全工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。

DP4 生産工学及び環境安全工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。

DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。

DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。

DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。

DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気づきを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

創生デザイン学科

日本大学生産工学部創生デザイン学科は、日本大学教育憲章、生産工学部の教育目標並びに学科の教育研究上の目的に

基づいた教育課程により、以下の項目を修得している者に学士(工学)の学位を授与する。

DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、デザイン工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。

DP2 国際的視点から、デザイン工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。

DP3 デザイン工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。

DP4 生産工学及びデザイン工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。

DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。

DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。

DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。

DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気づきを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

生産工学部各学科のカリキュラム・ポリシー

機械工学科

日本大学生産工学部機械工学科(学士(工学))では、日本大学教育憲章(以下、「憲章」という)を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力(コンピテンシー)を養成するために教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」(インターンシップ)、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

専門教育科目は、機械工学分野に関わる技術者を育成するために、機械工学に関する知識を修得するための機械力学、材料力学、熱流体力学、制御工学、材料加工工学等に関する講義科目に加え、機械技術者に求められる技能としての設計、製図、製作及び実験に関する実習科目を体系的に配置する。特に、『自動車コース』、『航空宇宙コース』、『ロボット・機械創造コース』においては、将来の就職先並びに専門性を考慮し、必要とされる知識・技能及び態度を修得するための授業科目を配置する。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、機械工学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために、教

養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP2 国際的視点から機械工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、機械工学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・機械工学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法(評価基準)に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づ

き、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

電気電子工学科

日本大学生産工学部電気電子工学科（学士（工学））では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」（インターンシップ）、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

『エネルギーシステムコース』・『e コミュニケーションコース』においては、将来の就職先並びに専門性を考慮し、必要とされる知識・技能及び態度を修得するための専門教育科目を体系的に配置する。さらに『クリエイティブエンジニアプログラム』においては、日本技術者教育認定機構（JABEE）による認定基準に基づいた知識・技能・態度を修得するための科目を必修科目として配置する。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、電気電子工学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を

評価する。

CP2 国際的視点から電気電子工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、電気電子工学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・電気電子工学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

土木工学科

日本大学生産工学部土木工学科（学士（工学））では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために教育課程を編成

し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」（インターンシップ）、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

専門教育科目においては、土木工学分野に関連する知識と技術基盤を修得する「専門基礎科目」、獲得した土木工学の基礎知識と能力を活用して創造性豊かなエンジニアを育成するための「応用専門科目」の科目群を配置し、土木工学に関わる実用的な学修を行う。また、より深い理解と実践力を高めるために、充実した実験・実習等の「実技科目」が配備され、社会の即戦力として活躍できるエンジニアを育成している。なお、これらの科目は、日本技術者教育認定機構(JABEE)による評価基準や評価方法に基づいている。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、土木工学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP2 国際的視点から土木工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、土木工学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・土木工学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケ

ーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

建築工学科

日本大学生産工学部建築工学科（学士（工学））では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」（インターンシップ）、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

専門科目においては、講義、演習、実験、実習、ワークショップ等の授業形態を組み入れた多様な学習方法による教育課程を編成し実施する。

また、学修成果の評価は、専門的な知識・建築理論及び科学的思考力を修得する授業科目に関しては、授業形態に即した多元的な評価方法により、各授業科目のシラバスに明示される達成目標の達成度について判定し、「憲章」に示される日本大学マインド及び自主創造の8つの能力への達成度に関しては、体系的に編成された教育課程に基づく授業科目の単位修得状況と卒業研究の到達度、学生自身による振り返り等をもとに段階的かつ総合的に判定する。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、建築工学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP2 国際的視点から建築工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編

成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、建築工学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・建築工学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

応用分子化学科

日本大学生産工学部応用分子化学科（学士（工学））では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎

力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」（インターンシップ）、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

『応用化学システムコース』においては、将来の就職先並びに専門性を考慮し、必要とされる知識・技能・態度を修得するための専門教育科目を体系的に配置する。

『国際化学技術者コース』においては、日本技術者教育認定機構（JABEE）による認定基準に基づいた知識・技能及び態度を修得するための科目を配置する。特に、国際的に通用する化学技術者に必要なエンジニアリング・デザイン能力を育成するための実技科目として、「化学プロセスデザイン演習」、「化学プロセスデザイン実験」、「エンジニアリング・デザイン型卒業研究1,2」を必修科目として配置する。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、応用化学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP2 国際的視点から応用化学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、応用化学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・応用化学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達

成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

マネジメント工学科

日本大学生産工学部マネジメント工学科（学士（工学））では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」（インターンシップ）、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

『ビジネスマネジメントコース』『経営システムマネジメントコース』『フードマネジメントコース』においては、将来の就職先並びに専門性を考慮し、必要とされる知識・技能及び態度を修得するための専門工学系科目を体系的に配置する。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、マネジメント工学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP2 国際的視点からマネジメント工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、マネジメント工学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を

評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・マネジメント工学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

数理情報工学科

日本大学生産工学部数理情報工学科（学士（工学））では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」（インターンシップ）、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

『シミュレーション・データサイエンスコース』『メディアデザインコース』においては、将来の就職先並びに専門性を考慮し、必要とされる知識・技能及び態度を修得するための専門教育科目を体系的に配置する。

『コンピュータサイエンスコース』においては、日本技術

者教育認定機構（JABEE）による認定基準に基づいた知識・技能及び態度を修得するための科目を配置する。特に、国際的に通用する情報技術者に必要なエンジニアリング・デザイン能力を育成するための科目として、「ソフトウェア構築及び演習」、「プロジェクト演習」を必修科目として配置する。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、数理情報工学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP2 国際的視点から数理情報工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、数理情報工学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・数理情報工学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

環境安全工学科

日本大学生産工学部環境安全工学科（学士（工学））では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」（インターンシップ）、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

『環境安全コース』及び『環境エネルギーコース』においては、技術者としての将来の専門性を考慮し、必要とされる知識・技能及び態度を修得するための専門教育科目を体系的に配置する。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、環境安全工学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP2 国際的視点から環境安全工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、環境安全工学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・環境安全工学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づ

き、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

創生デザイン学科

日本大学生産工学部創生デザイン学科(学士(工学))では、日本大学教育憲章（以下、「憲章」という）を基に、専門分野を加味した卒業の認定に関する方針として示された8つの能力（コンピテンシー）を養成するために教育課程を編成し実施する。

全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目は、本学部の育成する人材像である【経営がわかる技術者】の素養を培うための授業科目を系統的に配置する。特に、全学共通教育科目と生産工学系科目においては、社会人基礎力や社会的課題に対する解決能力を高めるために、「自主創造の基礎」、「生産工学の基礎」、「プロジェクト演習」、「データサイエンス」、「生産実習」（インターンシップ）、「キャリアデザイン」、「キャリアデザイン演習」、「技術者倫理」、「経営管理」を必修科目として配置する。

専門教育科目は、『デザイン思考』に基づいて〈課題の発見と解決策の提案〉を実社会の中で展開できる人材を育成するために、〈共感・課題定義・発想・プロトタイプ及びテスト・実装〉の5段階に準えて考える力を養成する講義科目及び内容で構成する。講義科目としてはその考え方を知識として身につけ、実習科目ではその知識に基づいてデザインを実践することができるように内容を編成する。

『プロダクトデザインコース』及び『空間デザインコース』のいずれも、技術者としての将来の専門性を考慮し、それぞれの分野において特に必要とされる知識・技能及び態度を修得するための科目を配置する。ディプロマ・ポリシーとの相互関係並びに評価方法に関しては、以下に示す。

CP1 教養・知識・社会性を培い、デザイン工学分野に関わる技術者として倫理的に判断する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP2 国際的視点からデザイン工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に説明する能力を育成するために、教養基盤科目・生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP3 専門知識に基づき、論理的かつ批判的に思考する能力を育成するために、デザイン工学に関する専門教育科目等を体系的に編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP4 新たな問題を発見し、解決策をデザインする能力を育成するために、全学共通教育科目・教養基盤科目・生産工学系科目・デザイン工学に関する実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP5 生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力に基づき、新しいことに果敢に挑戦する力を育成するために、生産実習を中核に据えた生産工学系科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP6 多様な考えを受入れ、違いを明確にしたうえで議論し、自らの考えを伝える能力を育成するために、コミュニケーション能力を裏付ける全学共通教育科目・教養基盤科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP7 新たな課題を解決するために自ら学び、自らの意思と役割を持って他者と協働する能力を育成するために、全学共通教育科目・実技科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題、レポート及び貢献度評価等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

CP8 自己を知り、振り返ることで継続的に自己を高める力を育成するために、全学共通教育科目及び生産工学系科目のキャリア教育に関連する科目等を編成する。

上記の能力は、筆記による論述・客観試験、口頭試験、演習、課題及びレポート等を用いて測定し、各科目の達成目標と成績評価方法（評価基準）に基づいて到達度を評価する。

履修編



総論

1 授業科目について

本学部の授業科目は、全学共通教育科目、教養基盤科目、生産工学系科目、専門教育科目に分類されています。そして、教養基盤科目はさらに教養科目、国際コミュニケーション科目、基盤科目、横断科目に、同様に専門教育科目も専門工学科目と実技科目に分類されています。以下に各科目の特徴を記します。

●全学共通教育科目

さまざまな動機・目的をもって入学した新入生に対し、学部・学科に関わらず、本学の学生として共通して身につけるべき学修姿勢や修得すべきスタディ・スキルを涵養することをねらいとする科目「自主創造の基礎」と、実社会との関連から教養を学ぶ意義の理解や自身の専門分野を学ぶ意識を高め、以後受講する科目等の成果の充実につなげることをねらいとする科目「日本を考える」が設置されています。

●教養基盤科目

教養科目

教養科目の目的は、自己と自己を取り巻く世界と、そこで展開されるすべての知的活動に目を向けてそれを問い直してみる姿勢を培うことです。そのために、一つの学問分野のものの見方だけを学ぶのではなく、むしろ様々な枠組みをもった学問や知的な営み全般を問い直し、総合的なものの見方を養っていくように科目が配置されています。

国際コミュニケーション科目

工学を志す者にとって、コミュニケーションとしての英語を身につけることは必須のスキルといえます。英語系科目は、すべての学生が各々の英語能力と興味に合った英語力を獲得することを目指します。その上で、グローバルな視点から世界を考える国際感覚と思考力を養成します。

英語以外の選択科目には、言語を学ぶことを通じて視野を広げるための科目や、言語を学ぶことを通じて課題発見能力・思考力・批評力を鍛える科目が用意されています。

基盤科目

基盤科目は、将来的にどのような工学系の分野に就いても対応できる基礎的な知識を養うこととともに、生涯を通して学問を学び続けるための基礎的な能力を養うことを目標としています。

自然科学、情報工学を含む様々な分野を網羅して、専門科目を学ぶ際に各学科間で共通となる幅広い基礎学力を構築します。

横断科目

基盤科目で養われた基礎能力を専門教育科目につなぐ橋渡しとなる科目で、専門工学を学修する際の出発点になります。複数学科にまたがる学生と教員が横断的・総合的に課題に取り組むことを特徴とし、STEAM教育により多岐に渡る高度な専門分野に適応できる能力を養成することを目的としています。また、実社会での問題発見・解決を考え抜く経験を通して、「意味のあるものづくり」「新たな価値の創造」に必要な能力の修得を目指します。

●生産工学系科目

「理論と実践の融合」を基本理念とし、経営・管理が分かる技術者の育成を目的とした本学部の特徴的科目です。

キャリアデザイン教育とエンジニアリングデザイン教育を柱として体系的に構成され、社会的課題に沿って学生が自ら考え、考え抜くことで、各分野・技術者の社会的役割を認識すること、一人ひとりが将来像を描き、具現化していくことに重点を置いています。3年次必修の生産実習は、インターンシップを通じて理論と実践、さらに将来像を統合し、キャリアデザイン教育とエンジニアリングデザイン教育の「結び目」を担います。

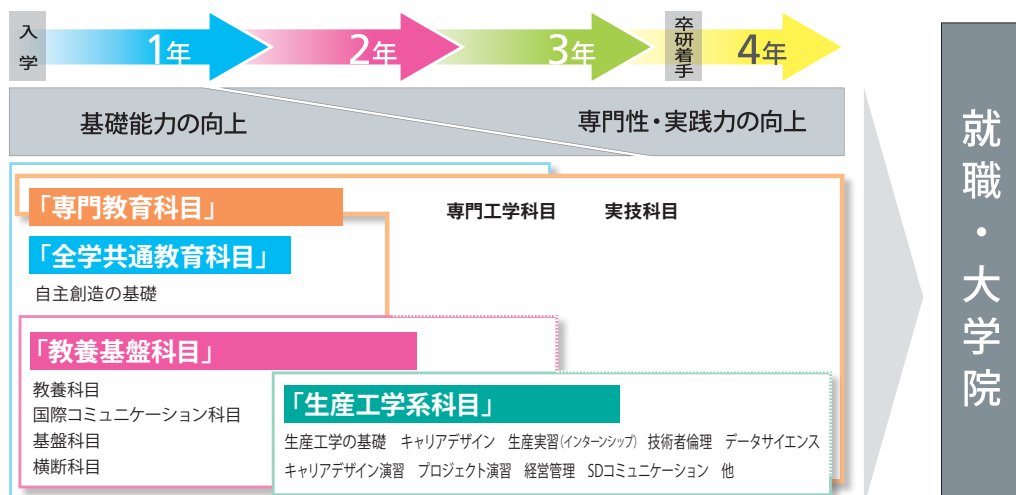
●専門教育科目

専門工学科目

工学の各専門分野に不可欠な授業科目で、講義と演習を主体とした科目です。基礎を重視した授業科目を中心にして、専門工学をより深く理解するための授業科目及び各学科内のコースにおける特徴的な授業科目で構成されており、専門教育の多様化に対応しています。

実技科目

専門分野に関する授業科目の中で、実験・実習並びに製図などのように実技による学習を通して応用力をつける科目です。その他、卒業研究、少人数によるゼミナールなどを通じて総合的な能力を養います。



2 履修について

工学系の授業科目を効率よく履修するためには、基礎的なものから応用的なものへと知識を積み重ねていく必要があります。

本学部では、1年次から4年次まで年次を追ってこれらの授業科目を履修しやすいように、有機的・体系的に設置しています。

低学年に設置された教養基盤科目や基礎的な専門教育科目の修得単位が少ないと、高学年に設置されている専門の授業科目を履修するための基礎知識が不足した状態となり、高度な専門の授業科目が理解できなくなります。そのため、高学年に設置された専門教育科目の中には、低学年に設置されている特定の授業科目を履修し、単位を修得していることを条件としているものもあります。

卒業研究着手条件・卒業要件などについては、卒業研究着手のための修得単位数（22ページ）・卒業要件（22ページ）・授業科目表・学科紹介（40～101ページ）及び各学科の「学習の手引」を参照してください。

〈JABEE 認定プログラムの科目履修について〉

JABEE（Japan Accreditation Board for Engineering Education、日本技術者教育認定機構）は理工系・農学系学部における技術者教育プログラムの審査と認定を統一的基準に基づいて行うものであり、1999年11月に設立されました。この技術者教育プログラム認定の目的は教育の質を高め、我が国の技術者教育の国際的な同等性を確保することにあります。すなわち、JABEEの審査を受け、要求する基準を満たしていることが認定されれば、その教育プログラムは国際水準にあることを認められたことになります。言い換えれば、本プログラムの修了者は、国際的に通用する技術者に必要な基礎教育を修得したものと見なされます。

認定を受けようとする教育プログラムには次の内容を含む学習・教育到達目標が設定されており、それらが達成されていることを示す必要があります。

- (a) 地球的視点から多面的に物事を考える能力とその素養
- (b) 技術が社会や自然に及ぼす影響や効果、及び技術者の社会に対する貢献と責任に関する理解
- (c) 数学、自然科学及び情報技術に関する知識とそれらを応用する能力
- (d) 当該分野において必要とされる専門的知識とそれらを応用する能力
- (e) 種々の科学、技術及び情報を活用して社会の要求を解決するためのデザイン能力
- (f) 論理的な記述力、口頭発表力、討議等のコミュニケーション能力
- (g) 自主的、継続的に学習する能力
- (h) 与えられた制約の下で計画的に仕事を進め、まとめる能力
- (i) チームで仕事をするための能力

本学部では、電気電子工学科、土木工学科、建築工学科、応用分子化学科、数理情報工学科の5学科にJABEE 認定プログラムが設置されています。これらのプログラムは(a)～(i)の内容を含む独自の教育目標を設定しており、国際的に通用する修了者を輩出するための教育を行います。それぞれの名称は電気電子工学科「クリエイティブエンジニアプログラム」、土木工学科、建築工学科、応用分子化学科「国際化学技術者コース」、数理情報工学科「コンピュータサイエンスコース」です。JABEE 認定プログラムでは、JABEEの要求する基準を満たすために指定（必修）科目が多くなっています。

なお数理情報工学科「コンピュータサイエンスコース」はソウル協定対応プログラムとして認定されており、ソウル協定の基準を含んだ学習・教育目標を設定しています。（詳細は数理情報工学科の「学習の手引」を参考にしてください）



●卒業研究着手のための修得単位数について

卒業研究に着手するためには、3年次終了までに卒業要件単位数〔128単位〕のうち104単位以上を修得する必要があります。つまり、卒業要件単位数のうち未修得の単位が24単位以下でなければなりません。

卒業要件単位数とは、科目区分ごとに指定されている卒業単位数のことです。いくら単位数を修得しても、この各科目区分ごとに指定されている卒業要件単位数を修得しなければ卒業できません。

次の事例を参考にして常に各自で単位の修得状況を把握してください。



科目区分		必・選 区 分	卒業要件 単位数		修得単位 (3年次終了時)	卒業要件に 対する不足単位
全学共通教育科目		必修 選択	2	2	2 0	0
教養基盤科目	教養科目	必修 選択	1	11 以上	1 14	0 0
		国際コミュニ ケーション科目	必修 選択	4	4 以上	2 0
	基盤科目	必修 選択	14	14 以上	6 8	8 0
	横断科目	選択			6	0
	生産工学系科目	必修 選択	16 4 以上	20 以上	16 8	0 0
専門教育科目	専門工学科目	必修 選択	20 10 以上	68 以上	4 30	16 0
		実技科目	必修 選択		10 22 以上	6 16
	合計単位数				128	

※104単位を超えていても、不足単位が25単位以上あると卒研着手条件を満たしません。
※学科によっては、付加条件がありますので、必ず確認してください。

※未修得単位数が25単位以上の場合
…「卒研着手不可」
※未修得単位数が24単位以下の場合
…「卒研着手可」

記載例は、未修得が36単位なので卒研着手は「不可」となる。

■卒業要件に対する不足単位欄の項目のうち、「0」は「卒業要件」の単位数を充足していることを示す。

■卒業要件に対する不足単位欄の項目のうち、「1」以上の数値は「卒業要件」の単位数が不足していることを示す。

他学科・他コースの専門教育科目で修得した単位（科目担当者に許可を得た上で履修登録した科目）を最大6単位まで専門教育科目の68単位内に算入することができます。（ただし、JABEE認定プログラムである電気電子工学科のクリエイティブエンジニアプログラム・土木工学科・建築工学科・応用分子化学学科の国際化学技術者コース・数理情報工学科のコンピュータサイエンスコースは該当しません。）

●卒業要件

本学部では、1年次から4年次までの学年進級制度を採用していません。

しかし、低学年で履修すべき授業科目の単位を修得しないまま進級すると高学年に設置されている授業科目を履修することができない場合があります。また、学期ごとに履修上限が設けられているため、3年次終了までに卒業研究着手のための条件を満たすことができない場合があります。

その結果、卒業に必要な授業科目及び単位数を満たせず、4年間で卒業することができなくなります。

したがって、授業科目の設置学年*と履修条件についてよく検討し、後で支障をきたさないよう高学年を見通した綿密な履修を立てることが大切です。

また、あらかじめ認められた他学部の科目を履修して単位を修得した場合でも、教養基盤科目又は専門教育科目に算入できることがあります。詳細についてはガイダンス時の案内で確認するようにしてください。

詳細は、40ページから101ページの学科・コース別の授業科目表で確認してください。

注 意

*原則として自分の在籍年次より高学年の授業科目は履修できません。

●他学部との相互履修について

日本大学の他の学部で履修した科目の単位を卒業に必要な単位として認める相互履修制度があります。

●他大学との単位互換について

日本大学の協定校（ケンブリッジ大学等）や生産工学部提携校のケンツ州立大学への派遣留学で履修した科目の単位を卒業に必要な単位として認める単位互換制度があります。

これらの制度には、J A B E E 認定プログラムでは卒業認定単位として算入することができない等の履修条件があるので注意が必要です。

手続き方法などの詳細については、年度始めの案内で確認してください。

3 授業について

●授業時間数と単位

授業科目の単位数は、大学設置基準で「1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して」単位数を計算するものと規定されています。

本学は、大学設置基準に基づき制定された「日本大学学則」により、授業科目の単位計算を次のとおり定めています。

講義・演習

15時間から30時間までの範囲で本学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

実験・実習・実技

30時間から45時間までの範囲で本学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

講義・演習・実験・実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用

その組み合わせに応じ、前述の基準を考慮して本学部が定める時間の授業をもって1単位とする。

卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらに必要な学修を考慮して単位数を定めることができます。

以上のことを踏まえて、本学部では各科目区分で定めた卒業に必要な単位数を満たし、かつ修得した単位の合計が128単位以上であれば卒業要件を満たします。

●学年と学期

学年は、4月1日に始まって翌年3月31日に終わります。

各学期は、4月1日から始まる前学期に第1クォーターと第2クォーター、9月中旬から始まる後学期に第3クォーターと第4クォーターに分かれています。

授業は、1クォーターで15回（原則として週2回）の授業をもって完了します。

（一部の科目については、半期【前学期・後学期】及び通年で開講されます。）

●授業時間帯

授業は、次の表のように通常月曜日から金曜日の毎日9時から19時30分の間に行われます。

時限	時間
1時限	9:00～10:30
2時限	10:40～12:10
3時限	13:00～14:30
4時限	14:40～16:10
5時限	16:20～17:50
6時限	18:00～19:30

●授業の欠席

欠席届の書式、手続き方法などの詳細については、学生向け資料掲載サイトに掲載される資料を参照してください。

- ① 病気、ケガ等の理由で10日以上欠席する場合
 - (1) 学部指定の欠席届に必要な事項を記入してください。
 - (2) 欠席届に欠席を証明する書類（加療期間が明記された診断書等）を添えて、学生向け資料掲載サイトに掲載されている資料の案内に従い、提出してください。
- ② 学校保健安全法に定められた感染症等により出校停止となった場合
 - (1) 学部指定の欠席届に必要な事項を記入してください。
 - (2) 欠席届及び証明する資料（領収書及び処方箋等）を持参の上、保健室にて、欠席届に受付印をもらってください。
 - (3) 欠席届に証明する資料を添えて、直接授業科目担当教員へ提出してください。

※ 学校保健安全法で定められている感染症（参考）

分 類	対象疾病
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ
第2種	インフルエンザ、百日咳、麻しん、流行性耳下腺炎、風しん、水痘、咽頭結膜熱、結核及び髄膜炎菌性髄膜炎、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎その他の感染症

- ③ 病気、冠婚葬祭等で欠席（10日未満）する場合
- (1) 学部指定の欠席届に必要事項を記入してください。
 - (2) 欠席届に欠席を証明する書類を添えて直接授業科目担当教員に提出してください。
- ④ 教育実習・介護等体験（教職課程履修者）の場合
- (1) 学部指定の用紙（ガイダンス等で配布）を実習・体験の前に配布しますので、必要事項を記入してください。
 - (2) 学部指定の用紙を学生向け資料掲載サイトに掲載されている資料の案内に従い、提出してください。

●休講

次の場合、休講となります。休講の連絡は、③にあげる場合を除き、ポータルシステム等により連絡します。

- ① 学校行事を行う場合。

- ② 授業担当教員にやむを得ない理由が生じた場合。
- ③ 休講の掲示等がなく、授業開始時間から30分を経過しても授業科目担当教員が講義を開始できない場合。ただし、特別な指示により、それ以上経過しても授業を行う場合があります。
- ④ 台風等自然災害や不測の事態等によって、京成電鉄「京成本線」あるいはＪＲ東日本「中央・総武各駅停車及び総武線快速」が、全線で運行できなくなり著しく通学に支障をきたす運行状況と判断される場合は、ポータルシステムに授業実施等の情報を掲載しますので、その指示に従ってください。通学にあたっては自身の安全を第一とし、無理な行動をとることのないようにしてください。

また、交通機関の遅延により、授業に遅刻した場合には、授業科目担当教員にその旨を申し出て、指示を受けてください。

●補講

休講等により、授業回数が不足した場合には補講を行います。補講の実施については授業科目担当教員によって指示されます。

また、補講実施日程等については、授業科目担当教員からの指示、又はポータルシステム等により伝達します。

4 試験について

いずれの試験にも必ず学生証を携帯してください。

授業内で実施する試験の実施方法については、授業科目担当教員がシラバスに提示し、授業中又はポータルシステム等により伝達します。

学生証を忘れた場合は授業科目担当教員の指示に従ってください。授業科目担当教員の指示により、仮受験票が必要な場合は、教務課又は実習校舎事務課で手続きを行ってください。仮受験票発行手数料は1,000円です。仮受験票とは、一時的に本学部学生である証明をするものです。学生証の所在を確認し、紛失した場合や不備の場合（破損しているもの・記載事項の不鮮明なもの）は速やかに教務課で再発行の手続きを行ってください。

●試験欠席者に対する追試験

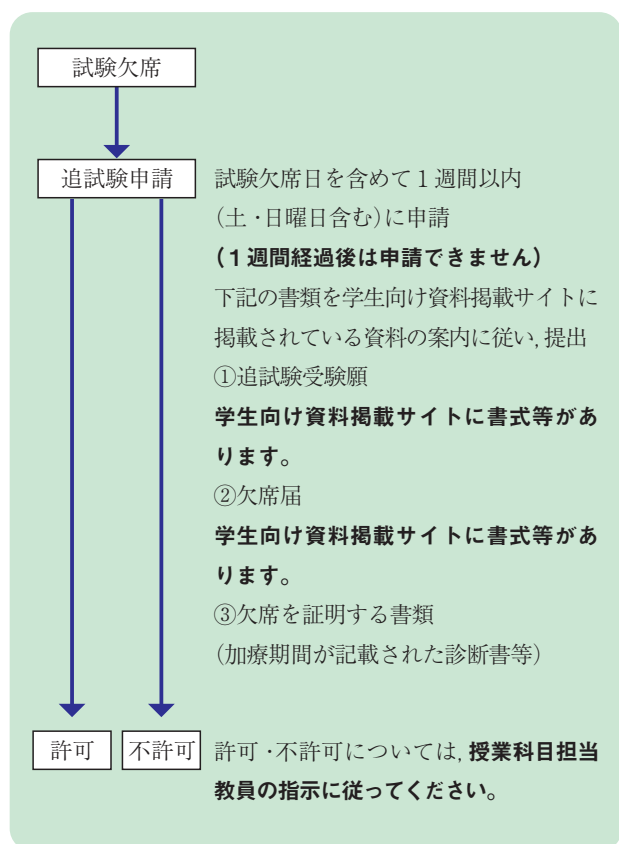
「シラバス」に明記されている授業内に実施する試験を次の理由により欠席した者が、欠席日を含めて1週間以内（土・日曜日を含む）に欠席届及び欠席を証明する書類を添付して追試験の申請をした場合、追試験を許可することがあります。

追試験を申請したい場合は、授業科目担当教員に申し出て、指示を受けてください。

ただし、追試験は申請があっても必ず許可するものではありません。

理 由	欠席を証明する書類
病気で受験できなかった場合	加療期間が明記された診断書等
親族の死亡などで受験できなかった場合	会葬礼状等
就職試験で受験できなかった場合	試験日時が明記された通知等
交通機関の運休、遅延などで受験できなかった場合	交通機関で発行される遅延証明書
教職関係の教育実習・介護等体験などにより受験できなかった場合	教務課で日程等を把握していますので申し出てください。
その他、災害など本人の責任でない、やむを得ない理由で受験できなかった場合	教務課までご相談ください。

追試験の手続きは次の図に従ってください。



●試験場での心得について

- ① 学生証は、机上の見やすいところに置いてください。
- ② 試験監督者の指示に従ってください。
- ③ 私語や疑惑を招くような態度をとらないでください。
- ④ 許可されたもの以外の携帯品は、カバン等にしまってください。
- ⑤ スマートフォン等は必ず電源を切り、カバン等にしまってください。

●無効答案について

学生番号、氏名の記入がない答案、履修登録をしていない授業科目を受験した場合には、答案は無効となります。

●不正行為について

試験等における不正行為

不正行為とは次の行為をいいます。なお、試験終了後又は採点の際に発覚したものも含まれます。

（試験等）

- ① 替え玉受験又は身代わり受験
- ② 答案用紙交換行為
- ③ 氏名不正記入受験
- ④ 複数人が関わる不正行為を主導した場合等
- ⑤ カンニングペーパーを使用する行為
- ⑥ 机等にあらかじめ書き込みを行う行為
- ⑦ 参照を許可されていない教科書、携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル機器等の電子機器類を使用する又は貸借する行為
- ⑧ 他人の答案を書き写す行為
- ⑨ 答案を持ち出す行為
- ⑩ 他人と相談して解答する行為
- ⑪ 他人の答案や論文等を盗用する行為
- ⑫ その他、試験監督の指示・注意に従わない行為等

（レポート課題）

他人のレポートを盗用する行為

不正行為は、次のように取扱われます

- ① 日本大学学則第76条、第77条により懲戒となります。
- ② 試験等における不正行為等により懲戒処分を受けた学生は、その懲戒の種類にかかわらず、原則として**1Qまたは2Qに処分を受けた場合は、1Q及び2Qに履修しているすべての科目（通年科目含む）、3Qまたは4Qに処分を受けた場合は、3Q及び4Qに履修しているすべての科目（通年科目含む）を無効とします**（但し、実験・実習・実技・ゼミナールは、不正行為に対する無効対象から除きます）。
 ※実験・実習・実技・ゼミナールで不正行為を行った場合は、当該科目も含めて無効の対象となります。
- ③ 処分については学内に掲示をもって周知するものとします。

5 成績の評価について

成績は、授業科目ごとに試験やその他の方法によって判定されます。

合格した授業科目には、所定の単位数が与えられます。なお、成績はクォーターごとに発表され、ポータルシステムにて所定

の期間内であれば確認することができます。

注）単位が一度付与された授業科目については、成績が不本意でも再びその授業科目を履修することはできません。

① 成績評価基準

		点 数	評 価	係 数	内 容	成績証明書
判 定	合 格	100～90点	S	4	特に優れた成績を示したもの	S
		89～80点	A	3	優れた成績を示したもの	A
		79～70点	B	2	妥当と認められたもの	B
		69～60点	C	1	合格と認められるための成績を示したもの	C
	不 合格	59点以下	D	0	合格と認められるに足る成績を示さなかったもの	—
無 判 定		—	E	0	履修登録をしたが評価を受けなかったもの	—
		—	P	—	履修登録後、所定の履修中止手続きを取ったもの	—
		—	N	—	修得単位として認定になったもの	N

※成績評価は点数から導き出されますが、履修登録をしたが評価を受けなかった場合、点数はありませんが評価は**E**となり、該当する係数は0となります。

② GPA

GPA (Grade Point Average) は、卒業研究を含めた学科の課程修了に係る授業科目（卒業要件に算入できる科目）すべてを対象として、授業科目ごとの成績評価を5段階（**S・A・B・C・D**）で判定し、それぞれに対して4・3・2・1・0の係数を付与し、係数に各科目の単位数を掛けてポイント数を計算します。そのポイント数の総計を総履修単位数（**D, E**の単位数も含める）で除して全履修科目の平均値を算出したものがGPAとなります。GPAは小数点以下第3位を四捨五入し、小数点以下第2

位までを有効としています。なお、**P**（履修中止）、**N**（認定科目）はGPAに算入しません。

また累積GPA^{*}の算出にあたって、不合格になった科目を再履修した場合には、新しい成績に置き換えて再度計算をします。ただし、途中で履修中止をした場合には、直前の成績が有効となります。

※ 学期ごとに算出する値を学期GPA、通算の学期で算出する値を累積GPAと呼びます。

$$\text{GPA 計算式} = \frac{(4 \times \text{Sの修得単位数}) + (3 \times \text{Aの修得単位数}) + (2 \times \text{Bの修得単位数}) + (1 \times \text{Cの修得単位数})}{\text{総履修単位数 (D, Eの単位数も含める)}}$$

GPAの計算例

科目名 (例)	体育	社会学	微分積分学 I	物理学 I	経営管理	合 計
単位数 (a)	1	2	2	2	2	9
評 価	A	S	D	B	S	—
係 数 (b)	3	4	0	2	4	—
ポイント数 (a × b)	3	8	0	4	8	23
GPA	23 (各科目のポイント数合計) ÷ 9 (各科目の単位数合計) = 2.56 (小数点第3位四捨五入)					

※不合格科目（評価**D**）や履修登録をしたが評価を受けなかった科目（評価**E**）は係数0点となり、GPAが下がってしまうので、安易な気持ちでの履修は避けましょう。

③ 履修中止手続き

GPAは**D**や**E**評価の成績も含めて計算されるので、それらの評価を受けた科目がある場合はGPAを下げる大きな要因となります。授業開始後1か月程度授業を履修し、履修を中止したいと判断した科目については、定められた期間内において履修中止手続きを認めています。この場合の成績評価は**P**となり、GPAの算出対象外となります。なお、履修中止した科目も年度内の履修上限単位に含まれるため、履修中止した科目の替わりに他の科目を登録することはできません。

履修中止の手続きをする場合は、学期始めのガイダンスで伝達される期間に所定の手続きにより行ってください。それ以降は原則として履修中止を許可しません。

なお、事故・疾病等のやむを得ない理由により履修中止手続き期間以降に履修中止手続きをする場合は、手続き遅延を証明する書類（オリジナル）を添付の上、教務課に申し出てください。

④ 評価D, E, Pの取扱

評価が**D, E, P**になった授業科目の成績は、成績通知書にはそのまま記載されますが、成績証明書には記載されません。

また、これらの授業科目を再履修して合格すれば、その成績が成績通知書と成績証明書に記載されます。

各学科のクラス担任及び学務委員会委員が履修指導や相談に当たります。（問い合わせ先：各学科・系事務室）

6 履修科目登録単位数の上限について

本学部では、一人一人の学生の学修効果を向上させるため、次のように各学期に履修登録できる単位数の上限を定めています。なお、学生一人一人の学修進度に応じて、直前の学期の成績（学期GPA）により各学期に履修登録できる単位数の制限を緩和しています。

① 各学期に履修科目として登録することができる単位数は卒業要件科目においては20単位を上限とします。ただし、下記科目についてはその限りではありません。

- 1) 生産実習
- 2) 卒業研究1・卒業研究2
エンジニアリング・デザイン型卒業研究1
エンジニアリング・デザイン型卒業研究2
- 3) 4BE プログラム科目
英語コミュニケーション基礎
英語コミュニケーション応用I
英語コミュニケーション応用II
グローバル・ビジネスエンジニアリングI
グローバル・ビジネスエンジニアリングII
グローバル・ビジネスエンジニアリングIII
技術と経営

事業継承者・企業家の実務I

事業継承者・企業家の実務II

ロボットデザイン入門

ロボットデザイン基礎I

ロボットデザイン基礎II

ロボットデザイン実践I

ロボットデザイン実践II

つくりかたマップ

なんでも作るジム

チャレンジ・ハッカソン

4) 基盤科目に算入することのできる教職課程に設置されている科目のうち、物理学実験・化学実験・生物学実験・地学実験・情報と職業

5) 不定期に開講する授業科目（集中講義・集中実験等）

② 上記にかかわらず、2年次以降直前の学期において優れた成績により単位を修得した者は、次のとおり上限単位数を超えて履修科目を登録することができます。

- 1) 直前学期の学期GPAが2.7以上の場合、22単位まで。
- 2) 直前学期の学期GPAが3.0以上の場合、24単位まで。

7 ポータルシステムについて

URL <https://portal.cit.nihon-u.ac.jp/>



学内・学外PC又はスマートフォンより、日本大学生産工学部ホームページ（<https://www.cit.nihon-u.ac.jp/>）からポータルシステムにログインすることができます。アクセスすることで、履修登録をしたり自分の履修登録状況、成績、休講・補講、事

務連絡等の情報をWeb上で閲覧することができます。

ログインするためのユーザ名及び初期パスワードは、学部のユーザIDとパスワードを使用します。

8 履修手続きについて

履修登録の手続きは各学期の始めに、履修する科目を自己申告する大切な手続きです。「キャンパスガイド（履修編）」、「学習の手引」を熟読して自分にあった学修計画を立て、時間割を作成することが大切です。

登録は、以下の順に行い、その後、誤りがなければ手続き完了になります。具体的な手続方法（日程・登録方法等）についてはポータルシステム等により伝達します。

1 履修する科目の選定

自分が履修する科目を選定する必要があります。「GPA」や「履修科目登録単位数の上限」を考慮に入れて、慎重に選定してください。

2 履修登録（Web登録）

各自の履修計画に基づき、履修を希望する科目が確定したら、それらの科目を、インターネットに接続されている学内・学外の

PC又はスマートフォンからポータルシステムにログインし、指定された期間内にWeb登録してください。

3 履修登録の確認・完了

ポータルシステムのMy時間割で、内容（科目担当者・曜日・時限など）を確認してください。

内容に誤りがあった場合

Web登録期間中→Web登録画面から速やかに修正をしてください。

Web登録期間後→速やかに教務課に申し出て、指示に従い修正の手続きを行ってください。

履修登録をしていなかった場合や履修登録を間違えたまま授業を履修し、試験を受けても、単位の修得はできませんので注意してください。

9 授業の出席管理について

授業の出欠は教室にある端末（あるいは教員等が持参する可搬式の端末）に学生証をタッチすることにより管理されています。原則として、全ての授業で出席を確認しますので、**学内においては学生証をストラップ付名札入れに入れて常に携帯してください。**

【注意】

- ① 「出席」となる時間帯に学生証をタッチしてください。授業を受講しようとする教室が、前の時限から空いている場合であっても**受付時間帯以外にタッチすると出席や遅刻は記録されません。**受付時間帯は以下のとおりとなります。
- ② 交通機関等の遅延により「遅刻」になった場合は、授業科目担当教員に当該授業当日に直接申し出て指示を受けてください。
- ③ 学生証を忘れた場合は、授業科目担当教員に当該授業時間内に直接申し出て指示を受けてください。申し出がない場合

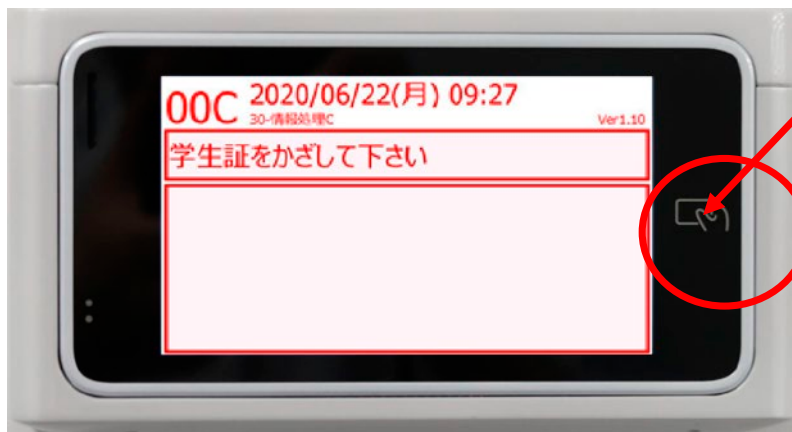
は、原則として欠席扱いとなります。

- ④ 学生証の読み込みができなかった場合や学生証を汚損・破損・紛失した場合は、速やかに教務課で学生証の再発行の手続きを行ってください。

学生証を紛失し再発行した場合、新しく発行された学生証でタッチした場合のみ出席として登録されます。（古い学生証でも端末は反応しますが、出席データがシステム内に取り込まれる際に破棄されます。）

- ⑤ 端末で授業の出欠を取っていない場合は、ポータルシステムへの出欠情報の反映には日時を要する場合があります。

出欠状況は、履修登録確定後、ポータルシステムから確認できます。



この部分に学生証をしっかりとざしてください。

チャイムが鳴り「出席を受付けました」のメッセージと自分の学生番号等の情報が表示されたら受け終了です。
「学生証ではありません」と表示された場合は授業科目担当教員に申し出てください。

【受付時間帯】

時限	「出席」で記録		「遅刻」で記録	
	開始時刻	終了時刻	開始時刻	終了時刻
1 時限	8 時 30 分 00 秒	9 時 00 分 59 秒	9 時 01 分 00 秒	10 時 29 分 59 秒
2 時限	10 時 30 分 00 秒	10 時 40 分 59 秒	10 時 41 分 00 秒	12 時 09 分 59 秒
昼休み				
3 時限	12 時 50 分 00 秒	13 時 00 分 59 秒	13 時 01 分 00 秒	14 時 29 分 59 秒
4 時限	14 時 30 分 00 秒	14 時 40 分 59 秒	14 時 41 分 00 秒	16 時 09 分 59 秒
5 時限	16 時 10 分 00 秒	16 時 20 分 59 秒	16 時 21 分 00 秒	17 時 49 分 59 秒
6 時限	17 時 50 分 00 秒	18 時 00 分 59 秒	18 時 01 分 00 秒	19 時 29 分 59 秒

全学共通教育科目・教養基盤科目

1 全学共通教育科目について

2 教養基盤科目について

1 全学共通教育科目について

初年次教育は、新入生に最初に提供されることを強く意識したもので、高校までの「勉強」を大学での「自主的な学び」へと転換するために必要となる「大学生らしい学修スキル及び学修態度」を習得することや、学生同士のつながりを深めると共に、学生と教員との距離を縮め、大学に定着するきっかけを作ることと「自校への理解と意識」の向上を図ることを期待する要素を含んでいます。こうした観点から、日本大学では、学びを始める新入生への意識づけやスタディ・スキルの涵養を目的とした全学共通教育科目として、「自主創造の基礎」及び「日本を考える」を開講しています。

「自主創造の基礎」では、さまざまな動機・目的をもって入学した新入生に対し、学部・学科に関わらず、本学の学生として

共通して身につけるべき学修姿勢や修得すべきスタディ・スキルを涵養することをねらいとしています。大学生としての学びの礎を築くことができるだけでなく、多様な学生との関わり合いから本学学生としての意識の向上を図り、修学意欲の継続に寄与する科目です。

「日本を考える」では、専門の学びを前に多角的な視野と物事を捉える視点を養い、以後受講する科目等の学びをより豊かなものすることをねらいとしています。日本の諸相を多様な観点から見つめ直し、世界とのつながりを意識しつつ、自己の立ち位置を理解して今後の学びの在り方や生き方を考える意識を高める科目です。

2 教養基盤科目について

考える力を養うリベラルアーツ教育により、与えられた問題の正解を求めるのではなく、正解のない課題に対して、その可能性や解決策を自ら考え抜く力を身につけるための素地づくりを行います。教養基盤科目は、「教養科目」、「国際コミュニケーション科目」、「基盤科目」、「横断科目」に分類されます。

1) 教養科目

教養教育のねらいは、多面的な視点を確保し、人間の多様な価値を認める力を養うことにあります。また高度に情報化し、複雑化した現代社会では、手に入れた情報を吟味し批評的に考える力が必要です。そのためには多面的なものの見方が必要となるのです。その力は、学生自身が社会の一員として自立していく素養として重要です。

これを実現するためには、学生自身が、ある特定の学問のみにとらわれることのない、自由で主体的な知的探究の意義に目覚めていくことが必要となります。単に幅広いだけの知識の修得をするのではなく、自らが疑問を持ち、その解決方法をさぐることから学問は始まります。また全体像を、より的確に把握していくための大きな視点を持つことも大切です。

教養教育が目指しているものは、自己と自己を取り巻く世界と、そこに展開するすべての知的活動へ目を向けて、そしてそれを改めて問い直してみる姿勢を培うことです。そのために、ひとつの学問分野のものの見方だけを学ぶのではなく、むしろ様々な枠組みをもった学問や知的な営み全般を問い直し、統合的なものの見方を養っていくように科目が配置されています。

教養科目が扱う内容は、大まかに科学、人間学、社会学、健康科学と学問領域に応じて分類されます。また、学問領域を超えた総合的な科目も設置されています。

以下、大まかな分類に基づいて概要を述べます。興味ある主題の中から、授業概要やシラバスを参照することによって授業内容を把握し、目的をもって受講する科目を選択してください。

科学に関する科目：科学基礎論

今日、科学は高度化する一方、それに伴い細分化も進んでおり、自分の専門分野以外のことは分りにくくなっています。しかし、将来社会に出ると、様々な学問的バックグラウンドを持った人たちと交流する必要があります。その際、自分の専門分野ではないから分からないという態度は通用しません。

科学基礎論では、歴史的な観点から科学がどのように誕生し発展してきたのかを考察したり、哲学的な観点から現代科学の基礎を深く探ることによって、科学の様々な問題をつとめて学際的に考えていきます。目標は、科学を大局的な視点から捉えられるようになることです。そして、自分が学ぶ専門分野とそれ以外の分野との関わりを大局的な観点から理解した上で、身につけた技術がどのように他分野と関連しているかを意識できるようになることを目指します。

人間学に関する科目：芸術と文学・歴史学・心理学・比較文化論

自分の生き方を探り、自己を確立し、社会における自己の役割を認識し、人生をより良く生きるためのきっかけを得ることを

目指した科目です。

近年ますます国際化が浸透し、インターネットを通じてあらゆる情報の入手が可能になってきました。その結果、価値観が急速に変化し、個人の、あるいは集団や国家の間の競争が激化しています。こうした不確実で厳しい現代社会を生き抜くためには、自己を見失うことなく、他者と対等な立場で競合・共存する強靱な精神力が必要です。

その精神力を育てるために、この科目群では人間そのものについて体系的に学びます。人間の本性や心理についての理論、人間が犯した過ちと成功の軌跡、人間が構築した社会の歪みと進化の記録、人間の創造活動などを幅広く知ること、複眼的視野と問題解決への発想力を獲得することができます。

社会に関する科目：社会学・政治経済論・法学・国際関係論

グローバル化の進む現代社会において、私たちには国際的視野に立ち、必要な情報を幅広く収集・分析して活用する能力が求められています。とくに知識基盤社会の一員である技術者には、そのようなニーズに加えて、多種多様な言語・文化圏からなる国際社会を熟知しながら、あらゆる地域・分野の人びとと円滑に交流を図っていかねばなりません。そのためにも私たちは国内事情はもちろんのこと、国際事情についても精通している必要があります。

これらの科目では、政治・経済といった社会科学の諸分野から、国内外の社会的システムを多角的に理解し、グローバル化社会における人間の営みを幅広く学んでいくことを目的としています。

健康科学に関する科目：体育

我が国は世界一の長寿国といわれるものの、すべての人が健康で充実した時を過ごしているわけではなく、運動不足や不適切な食事による“生活習慣病”の増加が大きな問題となっています。これを予防するためには、若い頃から適度な運動を習慣

づけ、食生活を改善し、身体と心の健康を維持する方法を身につけておく必要があります。

1年生対象の必修実技科目「体育」は、自分自身の身体とその動きを知ることを通じて、ヒトの身体についての理解を深めます。そして、正しい知識に基づいた正しい運動習慣を身につけ、健康で活力に満ちた生活を送ることができる力を養うことを目標としています。また、スポーツを通じた仲間とのコミュニケーションの深まりを体験しながら、動きの改善や身体能力の向上を通じて、自己の身体の実践能力や操作技能を習得します。

総合的な科目：教養探究・総合科目

学問領域に応じて分類される科目の他に、学問の専門領域を超えて、考える能力を養うための科目も設置されています。それが、「教養探究」と「総合科目」という科目です。

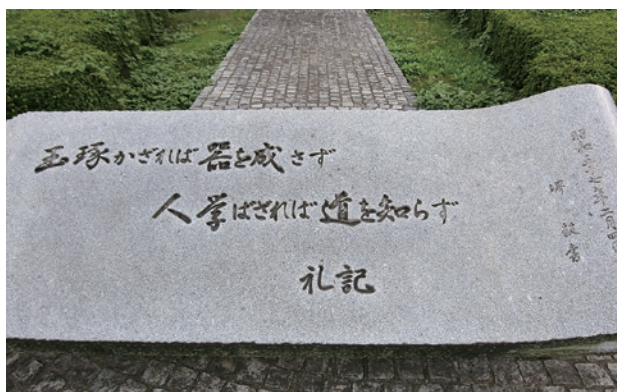
「教養探究」は、実社会の明確な答えがない問いに対し、分野横断的な視野で課題を捉え、様々な知識やスキルを活用して解決策を探究する科目です。例えば、文系と理系双方の教員やゲストスピーカーの講義、並びに文献情報から知識を習得し、それらを関連付けながら、チームで独自の解決策を導き出します。その過程で、読解力や分析力に加え、批判的思考力や問題発見力、コミュニケーション力を実際に活用する中で身につけます。

「総合科目」は、取り上げられたテーマについて横断的に学び、さまざまな学問の体系のなかで、どのように位置づけられているかを俯瞰的にとらえる科目です。知識を統合する思考力が求められ、教養の実践力をあらためて認識する重要な役割を持っています。

2) 国際コミュニケーション科目

工学を志す者にとって、コミュニケーションとしての英語を身につけることは必須のスキルといえます。英語系科目は、すべての学生が各々の英語能力と興味に合った英語力を獲得することを目指します。その上で、グローバルな視点から世界を考える国際感覚と思考力を養成します。1年次には「英語Ⅰ」、「英語Ⅱ」の授業が週2回あり、英語能力を伸ばすために不可欠な文法・語彙・音声の理解・表現の基礎を、重点的に学びます。1年次の学習内容を踏まえつつ、2年次は学生各々の興味のある分野で、さらに英語力と国際感覚の基盤を固めます。2年次の「イングリッシュスキルA」、「イングリッシュスキルB」では、「コミュニケーション力」、「TOEIC等の実用英語検定に対応する英語力」、そして、「読む・聞く・話す・書くをバランスよく学ぶ総合的英語力」を伸ばす授業の中から選択し、受講します。

さらに英語力と国際感覚を磨きたい学生は2年次以降、選択科目「イングリッシュスキルC」、「イングリッシュスキルD」の受講が可能です。これらの科目では、「コミュニケーション力」、「実用英語検定に対応する英語力」、そして「エンジニアに必要な工



実務キャンパスモニュメント

業系の英語力」などを伸ばします。

英語以外の選択科目には、言語を学ぶことを通じて視野を広げるための科目や、言語を学ぶことを通じて課題発見能力・思考力・批判力を鍛える科目が用意されています。

「初習外国語」は、英語以外の外国語の基礎を学び、簡単なコミュニケーションができるようになることを目指します。言葉の学習を通じて、異文化に対する知識や理解を深めながら、幅広い視野と思考能力を養います。

「日本語表現法」は、大学生に必要な日本語を使った論理能力を養います。大学での学びには主体性が必要です。自ら学ぶためには、批判的に思考する力が必要になります。批判的な思考力を鍛えながら、自分の考えを具体的にまとめて説得的に表現する方法を身につけ、発信力を高めます。

「日本の言葉」は、留学生だけが履修できる科目です。日本語運用能力をいっそう磨くとともに、大学で使うレベルの日本語を確認・理解し、大学の教育課程におけるスムーズな知識修得の土台を作ります。



授業風景（英語）

3) 基盤科目

基盤科目では、科学技術の基礎となる数学、物理学、化学を中心に、専門知識を習得する上で基幹となる知識と実技を修得します。工学の現状を理解し、さらに新しい分野を切り開いていくためには、基盤科目の学習を通して工学の背景となっている諸科学を深く理解し、幅広い基礎的能力を養うことがきわめて大切です。基盤科目を体系的にかつ深く学ぶことにより、自然現象への理解を深め、自然を科学的に認識するための方法を身につけるだけでなく、専門科目を容易に学修することができるようになります。また、情報を収集・分析し、自らの考えを効果的に伝達するための基礎となる情報処理能力を身につけます。

基盤科目には、数学系、物理系、化学・生物系、実技系、科学系、情報系の科目が設置され、総合的かつ多面的に理解できるように組み立てられています。基本的な科目は全学科必修で、それ以外の科目は選択科目として設置されています。

数学系

数学は、工学を学ぶ上で必要不可欠であり非常に便利な道具です。現象を数式で表すことにより、その本質を物質間の関係性として捉えることができ、さらに数学的な方法を利用して解析すれば、その工学的構造を理解することができます。数学系の科目は、数学を道具として使うために必要な基礎知識を体系的に習得できるように、配置されています。

1年次には、数学全般の基礎となる「微分積分学Ⅰ」・「微分積分学Ⅱ」や「線形代数学」を設置しています。いずれの科目も、数学的に厳密な論証を述べることに偏らず、実際の計算技術を体得させながら直観的な理解と納得が得られることを目標に、工学的应用を含め幅広く講義を行います。

物理系

物理学は、自然界の諸現象を学んでその中に法則性を見出し、基本的法則の相互作用を認知して体系化していく学問で、すべての自然科学の基礎となっています。さらに物理学は、工学、特に先端技術の根幹をなす学問であり、工学を志す者にとって、物理学の基礎を学ぶことは必須の事柄となっています。

1年次には、物理学の中でも特に工学の基礎として重視される力学と電磁気学の基礎を理解するための「物理学Ⅰ」・「物理学Ⅱ」が設けられています。全体を通して物理学の基礎を体系的に学ぶことができるように配置されています。

化学・生物系

これからの技術者にとっては、数学系科目や物理系科目のみならず、物質や環境に関連した工学の基礎となる化学系科目の知識を身につけておくことが重要になります。

1年次には、物質の成り立ちとその性質及び物質の変化を理解するための基礎として、「化学」「応用化学」が設置されています。また、2年次には工学と深く関係している環境問題を紐解くための基礎として、「生物環境科学」が設置されています。

実技系

これからの自然科学各分野は学際性が必要であり、学問領域も複雑に絡み合っていくため、各分野の知識や技術を身につけておくことが必要となります。



授業風景（科学基礎実験）

「科学基礎実験 A, B」では、物理学、化学、生物学の基本的な実験を行うことにより、自然法則の概念を理解するばかりでなく、自然現象の解明に必要な観察力・洞察力を養うとともに基本的技法を修得します。また実験装置の取り扱い方や測定の方法を学び、データの取り方と整理の仕方、誤差の処理方法及びレポートの作成方法など、実験に必要な基本事項も学んでいきます。さらに、「工学基盤実験 A, B」では、「つくる」「調べる」「使う」をコンセプトに実際にものづくりを体感するとともに、原料や実験計画などをチームで考え、課題解決を目指すことで、科学から工学への転換の素地づくりを行います。

科学系

科学系科目は、数学、物理、化学の有機的なつながりを理解し、工学の多様な分野の学びへスムーズに移行するための確かな基礎力を養うことを目的とします。

「基礎科学演習」では、基礎的な計算力を着実に身につけ、物理や化学において数学が具体的にどのように活用されているかを学びます。

「物理数学演習」では、現実的な物理現象のモデル化を通じて実践的な数学手法を学び、工学的応用も見据えた問題や自然現象を解析する能力を身につけます。

「計算科学基礎」では、数式や自然現象を記述する方程式を数値的に解くために使用される基本的な数値解析アルゴリズムとプログラミング技術を学びながら、数値解析手法の基礎力を身につけます。

情報系

急速に発展する高度情報化社会において情報を活用する能力、すなわち“情報リテラシー”を身につけることは、以前にも増して求められています。特に工学系の学生にとっては、情報リテラシーは“コンピュータリテラシー”の育成と同時に学修することが必須の事柄となっています。

情報系科目は、初年次からコンピュータを活用した総合的な情報リテラシーを身につけることを目的に設置されています。1年次の必修科目では、情報とコンピュータに関する知識と活用スキルの基礎力を身につけます。

1年次で学習する情報リテラシーの修得は、工学系技術者としての基礎だけでなく、大学生活を送るうえでも必要不可欠となっています。

4) 横断科目

横断科目では、体験や実践を通して、高度な専門分野及び多岐に渡る高度な専門分野に適応できる基盤を担う能力を修得します。特に、“ものづくり科学”の基幹となる工学基礎、先端工学、環境学などに関連する知識をSTEAM的に修得し、積極的に使いこなせる技術を実践的に身につけ、知識基盤社会の一員として技術の進歩に貢献できる技術者を育成することを目指し、1年次に「生産工学とSDGs」、「エンジニアリングスキル」、「工学基盤演習」を設置しています。

生産工学とSDGs

「経営がわかる技術者（ものづくりの全体を俯瞰することができる技術者）」の育成に向けた科目です。この科目では、国連サミットで採択された「SDGs（持続可能な開発目標）」の多角的な視点から問題を捉え、様々な要素を統合的に活用し、変動性・不確実性・複雑性・曖昧性の高いVUCAの世界に対応していくためのマネジメント力を養います。特に、各学科の個性的な視点による問題発見と、各学科のMid-techを融合的に活用しながら考え抜く問題解決によって、意味のあるものづくり・新たな価値の創造を体験し、プロジェクトマネジメントに必要な「コミュニケーションスキル」、「管理スキル」、「ビジネススキル」、「問題解決スキル」の向上を目指します。

エンジニアリングスキル

実社会でみられるであろう「容易に答えることが難しい」複数のテーマを設定し、選択したテーマについて、複数学科にまたがる学生と教員がチームとして共同作業を行うことで一定の解決策を見出すことを目指します。その中で「適応力」を高め、「リーダーシップ力」を育成するとともに、Mid-techの融合を実践し、考え抜く経験を積み、生産工学を体験する科目となっています。また、様々な状況下で問題解決をするためには、基礎的な知識が役に立つという気づきを得ることで、基礎技術や基礎理論への学習の促進につながることも目的としています。

工学基盤演習

リバーシエンジニアリングを取り入れたものづくり教育を実践します。授業では、身近な製品の実物から機器の構造や動作原理を学ぶだけでなく、CADや3Dプリンターを活用した製品改良の過程において、自身のアイデアを取り入れ最適化を図る体験から自主的な「学び」を引き出すとともに考え抜く力を養います。このように一連のものづくり体験を通して、問題解決に必要な基礎技術の修得を目指します。

これらの科目は相互に関連付けられており、ユニットプログラムとして学修することで「意味のあるものづくり」に必要な能力を習得できるように設計されています。

生産工学系科目

生産工学系科目について

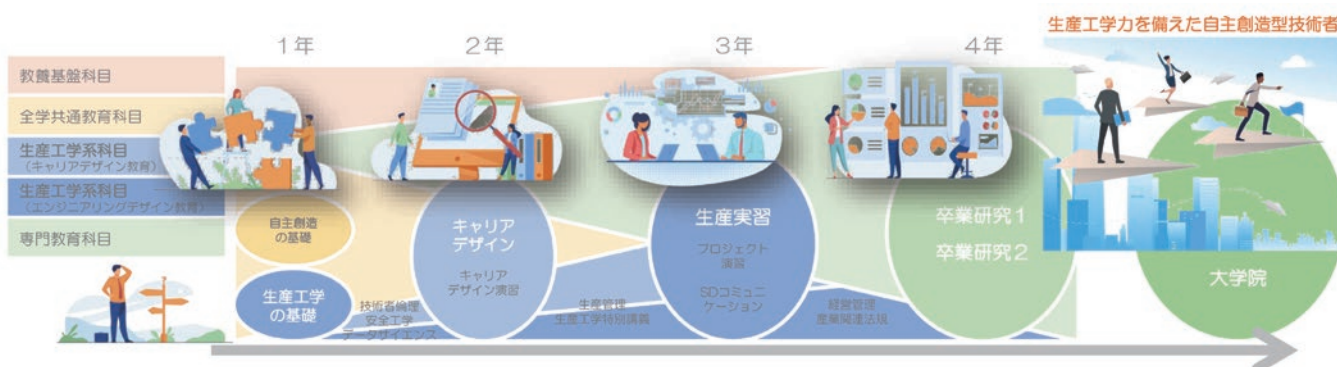


図-1 「生産工学力を備えた自主創造型技術者」を育成する日本大学生産工学部カリキュラムの概念図

グローバル化及びボーダーレス化が加速する昨今では、国際的に活躍できる知識と能力を兼ね備えた技術者の育成が急務であり、専門知識や語学力のみならず、多様性を強みとしたチームワークにより新たな価値を創造できる人材が求められています。

生産工学部では、教養基盤・専門分野の知識と能力に加え、皆さんが国際社会を生き抜くうえで必要な普遍的能力を獲得するために、カリキュラムの継続的改善に取り組んでいます。その基本的な考え方は、「ものづくり」のみを対象とした技術者教育とは一線を画し、国際社会を舞台に「ものづくり」の全体をマネジメントし、新たな価値を創造・提供できる経営管理能力、すなわち「生産工学力を備えた自主創造型技術者」の育成です。本学部では、これを具現化するために、ディプロマ・ポリシーの達成度向上と質保証を重視した特徴的なカリキュラムを構築しています。カリキュラムは、図-1のように教養基盤科目、全学共通教育科目、専門教育科目、そして生産工学系科目の4つの科目群で構成され、皆さんは4年間の学習を通じて各科目の達成目標とディプロマ・ポリシーを満足することで「生産工学力を備えた自主創造型技術者」へと成長します。

生産工学系科目では、皆さん一人ひとりが将来像を描きながら、主体性や課題発見・解決力等に代表されるジェネリックスキル（汎用的な基礎力）を身につけるために、インターンシップの先駆けである「生産実習」を学部創設当初から必修科目として開講しています。「生産実習」を中心とした教育プログラムは、1991(平成3)年度から専門教育科目の一体系として機能し、2007(平成19)年度には生産工学系科目としての独立と同時に、



生産実習（カナダの現地企業におけるインターンシップ）

その柱を担うキャリアデザイン教育が体系化されました。さらに、2017(平成29)年度にはエンジニアリングデザイン教育を新たな柱に加えて再構築し、それらを支える土台の役割を「生産工学の基礎」が、それらを統合する結び目の役割を「生産実習」が担っています。

生産工学系科目において、キャリアデザイン教育とエンジニアリングデザイン教育を柱とすることは、本学部の教育を特徴づけるとともに、グローバル化やボーダーレス化に対応した技術者の育成を可能とします。エンジニアリングデザイン教育では、国際的な活動で求められるチームワーク力や主体性、課題発見・解決力等を養うために、PBL型授業を全学科で積極的に展開しています。また、表-1に示す○印の科目では、ディプロマ・ポリシー(表中のDP)の達成度を向上させるため、達成目標や主要教材を全学科で共通化し、科目レベルでの学習効果を同一とすることで教育の質を保証しています。

表-1 生産工学系科目（うち、学部共通教育科目）の概要

科目群	科目名	授業の概要	対応するDP
生産工学系科目 (共通科目)	○生産工学の基礎	学科の特徴を理解し、チームワークによって新たな課題を発見し、解決に向けた最適解を提案する。	DP2, 4, 5, 6, 7, 8
	○キャリアデザイン	求められる知識と能力を理解し、技術者としての将来像と実現に向けたキャリアを設計する。	DP8
	キャリアデザイン演習	人生観と職業観を養い、「なりたい自分」を実現するためのアクションプランを立案する。	DP8
	技術者倫理	技術が社会や自然に及ぼす影響を理解し、各分野の技術者の社会に負う責任を認識する。	DP1, 8
	○生産実習	実社会での実習を通じて、理論と実践の関係を学び取り、「経験を学びに変える力」を養う。	DP1, 3, 5, 8
	プロジェクト演習	専門知識を活用したPBLを通じて、エンジニアリングデザインプロセスを実践する。	DP4, 5, 7
	○データサイエンス	種々の情報を定量的に把握し、データに基づく新たな課題の発見と解決を目指す。	DP1, 2, 4
	○経営管理	「ものづくり」を俯瞰し、新たな価値の創造に向けて組織目標を達成する仕組みを理解する。	DP1, 2, 5
	○SDコミュニケーション	産官学民連携により、地域社会や会社組織における新たな課題の発見と解決に取り組む。	DP4, 5, 7

生産実習でつながるキャリアデザイン教育とエンジニアリングデザイン教育

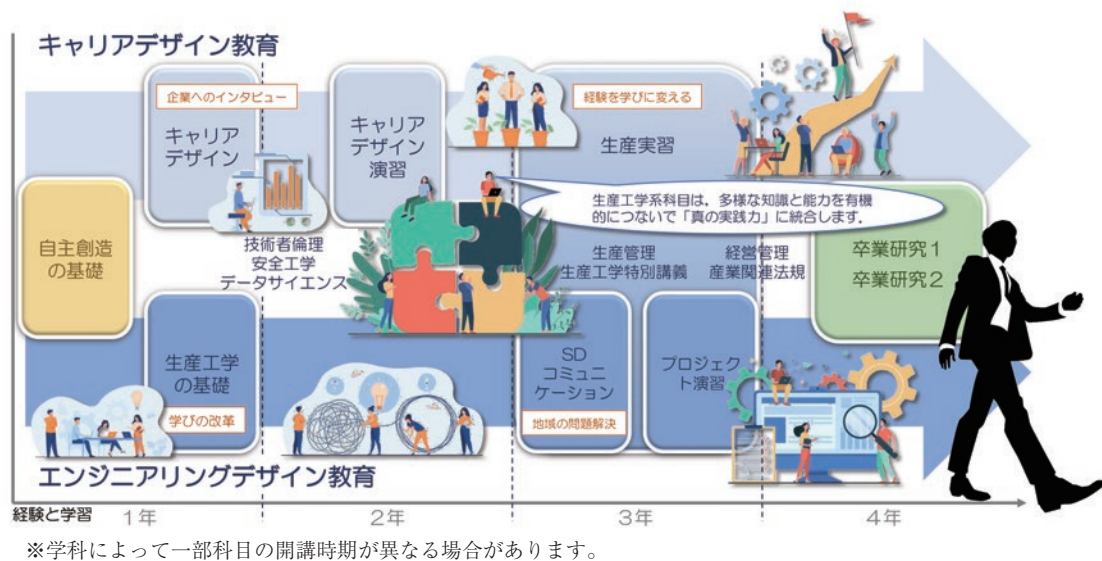


図-2 キャリアデザイン教育とエンジニアリングデザイン教育を柱とする生産工学系科目の概念図

生産工学系科目では、図-2に示すとおり「理論と実践の融合」を基本理念としたキャリアデザイン教育とエンジニアリングデザイン教育を2本の柱とし、学生が自ら考え、各分野・技術者の社会的役割を多面的に認識すること、技術者としての将来像を主体的かつ具体的に描くことに重点を置いています。

キャリアデザイン教育では、1～2年次の「キャリアデザイン」や「キャリアデザイン演習」における社会との接点を通じ、一人ひとりがこれまでのキャリアとこれからのキャリアと向き合い、自己分析や業界研究、キャリア開発を重ねて技術者としての将来像を描きます。さらに、3年次には「生産実習」におけるインターンシップを通じて、技術者の実務を経験しながら基礎理論と実践技術を関連付け、将来像を具現化するためのキャリアを自らデザインします。「生産実習」は、自身が志望する企業や官公庁等での実習と事前・事後学習で構成される計100時間以上の必修型インターンシップ・プログラムです。

エンジニアリングデザイン教育では、皆さんが多様なメンバーとの協働を通じて、コミュニケーション力、チームワーク力、課題設定力及び創造力等からなるエンジニアリングデザイン能力を獲得するため、図-3に示すように本学部が独自に開発したPBL科目を体系的に配置しています。1年次には、本学・本学部の歴史と特色を理解したうえで、一人ひとりがグループのメンバーとして課題解決に取り組む「自主創造の基礎」、チームのメンバー及びリーダーとして課題発見・解決に取り組む「生産工学の基礎」を設置しています。これらの科目では、共通目標の達成に向けてメンバーが丸となり、特定解のない問いに対して試行錯誤と創意工夫を重ね、最適解を導くことにより、自主・自律的にエンジニアリングデザインに必要な基礎的能力を身につけます。特に「生産工学の基礎」では、「自主創造の基礎」における学部横断型PBLの経験を土台として、複数学科からなる混成チームの一員として「2050年に向けてものづくりを企てる」をテーマとした学科横断型PBLに取り組めます。

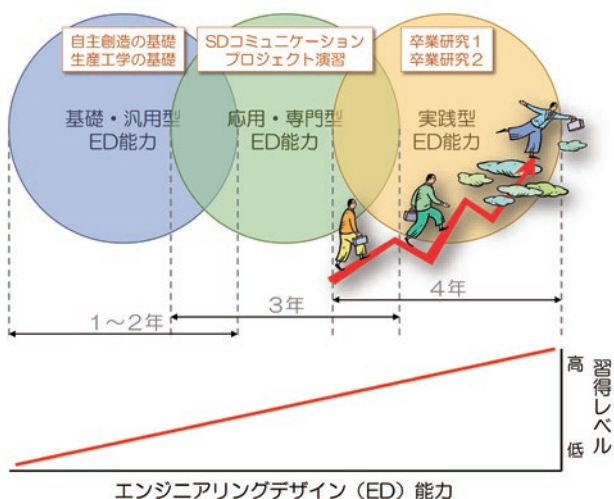


図-3 エンジニアリングデザイン教育の体系



生産工学の基礎（学科横断型PBLにおけるワールドカフェの様子）

3年次には、図-4に示すとおりインターンシップ等の実践に基づいて、技術者に必要な知識や能力を実務に関連付けて理解・獲得する「生産実習」、 「SD コミュニケーション」及び「プロジェクト演習」、さらに、4年次には新たな社会的ニーズや課題と向き合い、様々な制約を考慮しながら解決策を創出する「卒業研究1」、「卒業研究2」等を設置しています。このように、3～4年次では実社会において多様な技術者と協働する「生産実習」、社会的課題の解決に向けて情報収集、調査・実験・解析等に取り組む「卒業研究1・2」を通じて、社会と密接に関わりながらエンジニアリングデザインプロセスを経験することにより、実践的なエンジニアリングデザイン能力を養います。

生産工学系科目のキャリアデザイン教育及びエンジニアリングデザイン教育では、授業内でのグループワークからチームワーク、そして実社会における協働と研究開発を経て、将来展望と課題発見・解決を段階的に積み重ねることで、「真の実践力」を磨き上げます。近年、皆さんには多様な技術者間での協働のみならず、ユーザや地域住民といった非技術者とのチームワークも強く求められています。2019年度から3年次に新設された「SD コミュニケーション」は、非技術者を含む幅広い視点から地域社会や会社組織等の課題発見・解決に取り組むPBL科目です。「生産工学力を備えた自主創造型技術者」として、新たな実践的課題に是非とも積極的に挑戦してください。



図-4 産官学連携による実践教育の概念図



生産実習（自身の志望に沿った企業や官公庁等で様々な技術者と協働する様子）

3. 実践を通じて「経験を学びに変える力」、「生涯学び続ける力」を養う生産工学系科目

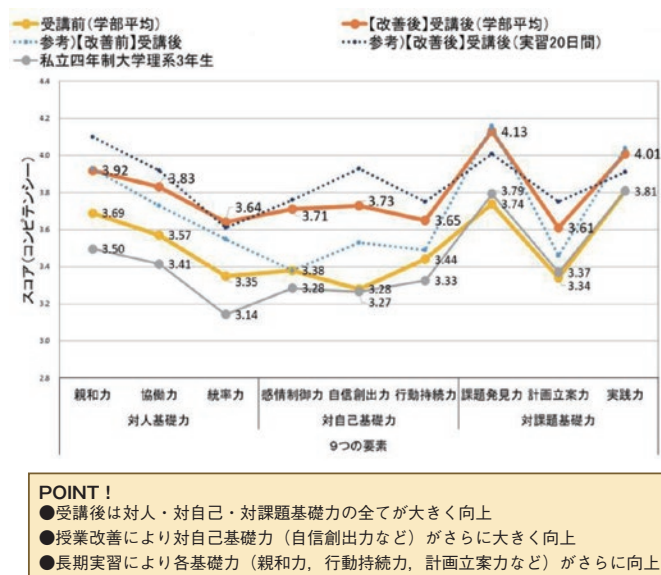


図-5 生産実習における学習効果と授業改善効果

日本大学生産工学部では、「自主創造」の理念および本学部の教育目標・方針に則り、「生産実習」に代表される伝統的な実践教育を通じて「経験を学びに変える力」、「生涯学び続ける力」を養成し、『EL CYCLE』からの学びを活性化させる独自の教育プログラムを開発・提供しています。

このような教育理念・目標、さらに伝統を体現した本学部の教育を特徴づける生産工学系科目は、第3者評価に基づく継続的改善に努めることで、図-5に例示する学習効果と社会からの高い評価を獲得しています。このように、社会的ニーズに応えた独自性の高い教育プログラムを皆さんに提供し続けることは、教育機関としての責務であり、学生ファーストを重んずる本学教職員の重要な職務のひとつであると考えています。

4年間の自主・自律的な学びを礎とし、皆さん一人ひとりが「生産工学力を備えた自主創造型技術者」として国内外で幅広く活躍されることを心から願っています。

学科紹介

授業科目表

機械工学科

電気電子工学科

土木工学科

建築工学科

応用分子化学科

マネジメント工学科

数理情報工学科

環境安全工学科

創生デザイン学科

機械工学科

Department of Mechanical Engineering

1 機械工学科の教育目標と特徴

機械工学は、あらゆる産業の基盤として重要な役割を担い、他分野の学問とも融合して豊かな社会の発展に大きく貢献している学問です。機械工学科のキャッチフレーズは**実践力重視のものづくりと乗り物大好き学科**です。したがって本学科の使命は、ものづくりのセンスと実践力を養い、産業の基盤を支える機械や乗り物を創造できる人材を社会に供給し続けることです。

本学科の特徴を以下に示します。

- 明るい雰囲気とオープンな科風。
- 機械系メーカーの工場を見学し、機械生産現場の知見を広げ、機械エンジニアの役割をイメージさせることを目的とする2年生学外オリエンテーションの実施。
- 消化不良が少なく、身をもって機械工学を学習できる実習・実験・製図など実技系授業が多いことと、充実した実験実習・研究施設。
- 達成目標を明確に提示し機械を設計製作し、実践的なものづくりのセンスを養成するプロジェクト演習系授業、いわゆるPBL (Project Based Learning) 教育の推進。
- 各自の興味、未来の目標に合わせて、自動車コース、航空宇宙コース、ロボット・機械創造コースのいずれか一つを選択させ専門化した機械エンジニアの育成を積極的に支援。
- 四輪自動車、オートバイなどの運転シミュレータ、微小重力実験装置、軽量構造材料製作装置、新材料製作装置、ハイテク接合装置など最新の研究設備を使用する卒業研究。
- 卒業研究は、従来から行われている機械工学に関する研究開発のテーマに加えて、学生フォーミュラ用マシンなどを実際に設計製作するテーマを設定し多様化している学生の要求への対応。
- さらに学問の追究をめざしている学生への大学院進学への推奨と支援。



2年生学外オリエンテーション

2 カリキュラムの概要

本学科では、低学年のうちから将来の目標を真剣に考えて、目的意識を持って積極的に勉学に励むことができるカリキュラム（教育プログラム）で教育しています。その特色は、

- 「講義+演習」の形式で2倍の時間をかけてわかりやすくかつ実践的な授業である基礎力学系4科目（機械力学Ⅰ及び演習、材料力学Ⅰ及び演習、熱力学Ⅰ及び演習、流体力学Ⅰ及び演習）を低学年次に設置
 - 進路目標に沿って、自動車コース、航空宇宙コース、ロボット・機械創造コースのいずれか一つのコースを2年後期開始時に選択
 - PBL科目（プロジェクト演習、実践のものづくりⅠ・Ⅱ）を3年次に設置
- などです。

1年次は、**教養基盤科目**の授業がメインとなりますが、それと並行して専門教育科目が設置されています。デザインセンスの養成及び設計の楽しさを体験させることなどを目的とした3次元グラフィックス演習、機械設計の基礎となる機械力学Ⅰ及び演習と材料力学Ⅰ及び演習が受講できます。

2年次からは、**専門教育科目**の授業がメインとなり、機械エンジニアとしての素養を磨き始めます。機械工学の基礎となる学問はすべて共通しています。機械を作る時あるいは利用する時を考えると、種々の機械要素を縦横に取り入れるための機械要素、適切な材料を選択するための機械材料、合理的なエネルギー変換を行うための熱力学Ⅰ及び演習と流体力学Ⅰ及び演習、機械を有効に働かせるための制御工学Ⅰと電気・電子工学などが非常に重要となります。また基礎工学実験、プログラミング演習、基礎製図製作、要素製図製作などの専門的な実技科目も始まります。これらの授業で修得する内容は、どの分野に進んでも必ず必要となる基礎学力であり、これらを身に付けた上で、より専門的な勉強に入っていくことになります。2年第3クォーター開始時にコース配属が行われます。自動車コース、航空宇宙コース、ロボット・機械創造コースのいずれか一つを選択します。

3年次には、専門の応用系科目が設置されています。学科共通科目は、材料加工系の機械加工学A・B、機械力学・制御工学系の機械振動工学と人間・機械システム、熱・流体力学系の内燃機関と流体力学Ⅱなど、実際に機械設計する上で重要な授

業が受講できます。実技系科目は、コンピュータで機械設計と機構解析が行える CAD/CAE 演習、高度な機械の仕組みを理解する機械工学実験などが設置されています。これらの知識を総合的に活用し、コース別のテーマで機械を設計する授業が後期に設置されています。

また、3年次にはゼミナールが用意されており、ここでは1教員が数名の学生を相手に自由に討論しながら機械工学のおもしろさを認識してもらうよう指導します。この授業は4年次の卒業研究と密接に連携していますので、3年次後期開始時には将来の目標をある程度明確にしておく必要があります。さらに本学科の大きな特色である PBL 授業（プロジェクト演習、実践ものづくりⅠ・Ⅱ）も開講します。レギュレーションに沿った企画、設計、製作、評価に至るまで、一貫したものづくりを体験し、創造力並びに機械工学としての総合力を養います。

4年次に設置されている卒業研究はこれまでに学んだ機械工学の集大成です。1年間の研究活動を通じて機械エンジニアとして重要な創造力、洞察力、実践力、応用力などと共に豊かな人間性を獲得すべく各教員が指導しています。

前述したプロジェクト演習科目も同じジャンルになりますが、1年次から3年次まで生産工学系科目が設置されています。キャリアデザイン、生産管理、技術者倫理などです。これらの科目は、生産工学部における教育プログラムの大きな特色の一つでもあり、経営・管理が理解でき、マネジメントのできる技術者を育成することを目的として特別に強化された科目です。さらに、3年次の夏季休暇期間に民間企業の工場等で研修を行う生産実習が設置されており、来るべき就職活動へ向けての貴重な体験ができるようになっています。

3 受講条件が設定されている科目と その内容

機械工学科では1年次から4年次まで、それぞれ年次を追って履修しやすいように、授業科目を体系的に設置しています。



情報処理演習室

そのため、下記の受講条件を定めています。

- ①在籍年次以上の学年に設置されている科目は受講できません。たとえば、1年生は、2年次設置の「基礎工学実験」を受講できません。
- ②卒業研究は卒業研究着手条件（42～47ページ参照）を満足していないと受講できません。

4 三つのコース

2年次後期始めに三つのコースから一つを選択します。各コースの教育目標とその概要を以下に示します。

(1)自動車コース（定員約70名）

自動車工学をはじめ、軽量構造力学、エネルギー変換工学などの講義が応用科目として設置されています。日本の基幹産業である自動車関連企業に就職を考えている学生をターゲットとしたコースです。ドライビングシミュレータやエンジンスタンドなど、実験・研究設備も充実しています。

(2)航空宇宙コース（定員約40名）

航空宇宙工学をはじめ、航空機力学、航空宇宙推進機などの講義が応用科目として設置されています。航空機やロケットを対象に学習することで機械工学に対する興味を引き出し、先端技術の理解と習得を図ります。風洞や微小重力実験設備などに直に触れることができます。

(3)ロボット・機械創造コース（定員約70名）

優れた性能を有する機械を効率的に生産する工学を重点的に学習するコースです。機械構造材料、マシンツール、デザイン工学、ロボット工学Ⅰ・Ⅱなどものづくりに精通した学生を育てることを目標としています。CAD室、機械工場、材料評価設備を使って学習することができます。



プロジェクト演習

機械工学科 自動車コース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	選択	日本を考える	2								卒業要件外 ※3
	計									2	
教養科目	基礎科目	必修	体育	1						1	
		A 群	芸術と文学 歴史学	2 2	科学基礎論 心理学 教養探求	2 2 2				4	
			B 群	社会学 政治経済論	2 2	法学 総合科目	2 2	比較文化論 国際関係論	2 2	4	
		計								11 以上	
	国際コミュニケーション科目	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1				4	
		選択	初習外国語 日本語表現法	1 1	イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1					
			日本の言葉	1							留学生のみ履修可
		プログラム履修者必修	英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		計								4 以上	
	基盤科目	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学	2 2					4	
			選択	微分積分学Ⅱ	2	確率統計 微分方程式	2 2				
		物理学系	必修	物理学Ⅰ	2					2	
			選択	物理学Ⅱ	2	物理学概論	2				
		化学・生物系	必修	化学	2					2	
			選択	応用化学	2	生物環境科学	2				
		実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1					4	
			科学系	基礎科学演習 物理数学演習	1 1	計算科学基礎	2				
		情報系	必修	情報リテラシー	2					2	
		教職課程	選択			物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2		教職課程履修者のみ履修可
		計								14 以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
			グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		プログラム履修者必修	技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
			ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
			つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修講者のみ履修可
	計									38 以上	

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考	
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数			
生産工学系科目		必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 データサイエンス	1 2	生産実習 プロジェクト演習 技術者倫理 経営管理	4 1 2 2			16	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。	
		選択		生産管理 安全工学	2 2	生産工学特別講義	2	産業関連法規	2		4以上		
						SDコミュニケーション	2				4以上	全学科共通科目	
	計										20以上		
専門教育科目	専門工学科目	学科共通	必修	機械力学Ⅰ及び演習 材料力学Ⅰ及び演習	3 3	機械加工学概論 機械材料 熱力学Ⅰ及び演習 流体力学Ⅰ及び演習	2 2 3 3					16	
		選択			機械力学Ⅱ 材料力学Ⅱ 機械要素 電気・電子工学 計測工学 制御工学Ⅰ 熱力学Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2	機械加工学A 機械加工学B 流体力学Ⅱ 機械振動工学 内燃機関 人間・機械システム 制御工学Ⅱ 有限要素法 伝熱工学 熱流体解析	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	実験計画法	2			
		コース	選択		自動車工学	2	軽量構造力学 軽量材料 エネルギー変換工学	2 2 2				6以上	
	実技科目	学科共通	必修	3次元グラフィックス演習	2	基礎製図製作 要素製図製作 基礎工学実験 機械設計製図ⅠA 機械設計製図ⅠB	3 3 2 1 1	機械工学実験 機械設計製図ⅡA 機械設計製図ⅡB	2 1 1	卒業研究1 卒業研究2	3 3	22	
		選択			プログラミング演習	2	実践ものづくりⅠ 実践ものづくりⅡ CAD/CAE演習 システムモデリング演習 ゼミナール	1 1 2 2 1					
		計										68以上	
合 計											128以上		

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上

卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上

上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※1 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

※2 他学科・他コースの専門教育科目で修得した単位（科目担当者に許可を得たうえで履修登録した科目）を最大 6 単位まで専門教育科目の 68 単位内に算入できる。

また、あらかじめ認められた他学部の科目（相互履修科目）等でも、教養基盤科目又は専門教育科目に算入できることがある（詳細は年度初めのガイダンス時に配布する資料を参照）。

※3 「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

機械工学科 航空宇宙コース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	選択	日本を考える	2								卒業要件外 ※3
	計									2	
教養科目	基礎科目	必修	体育	1						1	
		A 群	芸術と文学 歴史学	2 2	科学基礎論 心理学 教養探求	2 2 2				4	
			社会学 政治経済論	2 2	法学 総合科目	2 2	比較文化論 国際関係論	2 2		4	
		B 群									
		計								11 以上	
	国際コミュニケーション科目	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1				4	
		選択	初習外国語 日本語表現法	1 1	イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1					
			日本の言葉	1							留学生のみ履修可
		プログラム履修者必修	英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		計								4 以上	
	基盤科目	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学	2 2					4	
			選択	微分積分学Ⅱ	2	確率統計 微分方程式	2 2				
		物理学系	必修	物理学Ⅰ	2					2	
			選択	物理学Ⅱ	2	物理科学概論	2				
		化学・生物系	必修	化学	2					2	
			選択	応用化学	2	生物環境科学	2				
		実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1					4	
			科学系	基礎科学演習 物理数学演習	1 1	計算科学基礎	2				
		情報系	必修	情報リテラシー	2					2	
		教職課程	選択		物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2			教職課程履修者のみ履修可
		計								14 以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
			グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		プログラム履修者必修	技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
			ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
			つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									38 以上	

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考	
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数			
生産工学系科目		必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 データサイエンス	1 2	生産実習 プロジェクト演習 技術者倫理 経営管理	4 1 2 2			16	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。	
		選択		生産管理 安全工学	2 2	生産工学特別講義	2	産業関連法規	2	4以上			
	計						SDコミュニケーション	2			20以上	全学科共通科目	
専門教育科目	専門工学科目	学科共通	必修	機械力学Ⅰ及び演習 材料力学Ⅰ及び演習	3 3	機械加工学概論 機械材料 熱力学Ⅰ及び演習 流体力学Ⅰ及び演習	2 2 3 3				16		
			選択		機械力学Ⅱ 材料力学Ⅱ 機械要素 電気・電子工学 計測工学 制御工学Ⅰ 熱力学Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2	機械加工学A 機械加工学B 流体力学Ⅱ 機械振動工学 内燃機関 人間・機械システム 制御工学Ⅱ 有限要素法 伝熱工学 熱流体解析	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	実験計画法	2			
		コース	選択		航空宇宙工学	2	軽量構造力学 軽量材料 航空宇宙推進機 航空機力学	2 2 2 2			6以上		
	実技科目	学科共通	必修	3次元グラフィックス演習	2	基礎製図製作 要素製図製作 基礎工学実験 機械設計製図ⅠA 機械設計製図ⅠB	3 3 2 1 1	機械工学実験 機械設計製図ⅡA 機械設計製図ⅡB	2 1 1	卒業研究1 卒業研究2	3 3	22	
			選択		プログラミング演習	2	実践ものづくりⅠ 実践ものづくりⅡ CAD/CAE演習 システムモデリング演習 ゼミナール	1 1 2 2 1					
		計									68以上		
合 計										128以上			

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上
卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上
上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※1 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

※2 他学科・他コースの専門教育科目で修得した単位（科目担当者に許可を得たうえで履修登録した科目）を最大 6 単位まで専門教育科目の 68 単位内に算入できる。

また、あらかじめ認められた他学部の科目（相互履修科目）等でも、教養基盤科目又は専門教育科目に算入できることがある（詳細は年度初めのガイダンス時に配布する資料を参照）。

※3 「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

機械工学科 ロボット・機械創造コース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	選択	日本を考える	2								卒業要件外 ※3
	計									2	
教養科目	必修	体育	1							1	
	A 群	芸術と文学	2	科学基礎論	2					4	
		歴史学	2	心理学	2						
	B 群	社会学	2	法学	2	比較文化論	2			4	
		政治経済論	2	総合科目	2	国際関係論	2				
	計									11 以上	
	国際コミュニケーション科目	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1				4	
		選択	初習外国語	1	イングリッシュスキルC	1					
			日本語表現法	1	イングリッシュスキルD	1					
		プログラム履修者必修	日本の言葉	1							留学生のみ履修可
			英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									4 以上	
	基盤科目	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学	2 2					4	
			選択	微分積分学Ⅱ	2	確率統計 微分方程式	2 2				
		物理学系	必修	物理学Ⅰ	2					2	
			選択	物理学Ⅱ	2	物理科学概論	2				
		化学・生物系	必修	化学	2					2	
			選択	応用化学	2	生物環境科学	2				
		実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1					4	
			選択	基礎科学演習 物理数学演習	1 1	計算科学基礎	2				
		情報系	必修	情報リテラシー	2					2	
		教職課程	選択		物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2			教職課程履修者のみ履修可
			計							14 以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
			グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		プログラム履修者必修	技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
			ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
			つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									38 以上	

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考	
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数			
生産工学系科目		必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 データサイエンス	1 2	生産実習 プロジェクト演習 技術者倫理 経営管理	4 1 2 2			16	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。	
		選択			生産管理 安全工学	2 2	生産工学特別講義	2	産業関連法規	2	4以上		
							SDコミュニケーション	2			4以上	全学科共通科目	
	計										20以上		
専門教育科目	専門工学科目	学科共通	必修	機械力学Ⅰ及び演習 材料力学Ⅰ及び演習	3 3	機械加工学概論 機械材料 熱力学Ⅰ及び演習 流体力学Ⅰ及び演習	2 2 3 3					16	
			選択			機械力学Ⅱ 材料力学Ⅱ 機械要素 電気・電子工学 計測工学 制御工学Ⅰ 熱力学Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2	機械加工学A 機械加工学B 流体力学Ⅱ 機械振動工学 内燃機関 人間・機械システム 制御工学Ⅱ 有限要素法 伝熱工学 熱流体解析	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	実験計画法	2		
		コース	選択			マシンツール	2	機械構造材料 ロボット工学Ⅰ ロボット工学Ⅱ デザイン工学	2 2 2 2				6以上
	実技科目	学科共通	必修	3次元グラフィックス演習	2	基礎製図製作 要素製図製作 基礎工学実験 機械設計製図ⅠA 機械設計製図ⅠB	3 3 2 1 1	機械工学実験 機械設計製図ⅡA 機械設計製図ⅡB	2 1 1	卒業研究1 卒業研究2	3 3	22	
			選択			プログラミング演習	2	実践ものづくりⅠ 実践ものづくりⅡ CAD/CAE演習 システムモデリング演習 ゼミナール	1 1 2 2 1				
		計										68以上	
合 計											128以上		

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上
卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上
上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※1 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

※2 他学科・他コースの専門教育科目で修得した単位（科目担当者に許可を得たうえで履修登録した科目）を最大 6 単位まで専門教育科目の 68 単位内に算入できる。

また、あらかじめ認められた他学部の科目（相互履修科目）等でも、教養基盤科目又は専門教育科目に算入できることがある（詳細は年度初めのガイダンス時に配布する資料を参照）。

※3 「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

電気電子工学科

Department of Electrical and Electronic Engineering

1 電気電子工学科の特徴

電気・電子工学は、ミクロな電子デバイスから、現代社会を支える多種多様な電気機器を開発し利用するための技術、並びに大規模な電力システムや高度情報化社会を支える基盤技術であり、今後ますます高度化、多様化する社会の要求に応え、進歩し発展することが期待されています。

多様な分野において活躍できる技術者を育成するために、電気電子工学科には下記の2つのコースがあります。

エネルギーシステムコース

電気をエネルギーとして利用する分野で、電力の発生から、輸送、利用の方法までに関する技術を学びます。国家資格の電気主任技術者の資格取得に繋がります。

eコミュニケーションコース

エレクトロニクス分野の基礎である電子工学と情報化社会を支える情報通信工学に関する技術を修得します。国家資格の電気通信主任技術者や第1級陸上無線技術士の資格取得に繋がります。

クリエイティブエンジニアプログラム(JABEE 認定)

入学時にクリエイティブエンジニアプログラムに登録した学生は、プログラム指定のカリキュラムを受講し、所定の条件を満足した場合、卒業時に国際基準のカリキュラムを終了したことを示す認定書が授与されます。修了者は申請により技術士補となることができ、将来、技術士として国際的に活躍できる技術者となることが期待されます。このプログラムは2つのコースに所属しながら履修するカリキュラムです。

本学科は基礎力と応用力を養うために、1年次には、教養基盤科目に加え、専門科目の基礎となる数学、物理、電気電子工学の基礎となる電気数学、電気電子工学特別講義などを学びます。2年次は、回路理論、電磁気学や電子回路などの基礎的な専門科目を、3年次以降には各コースの特徴ある科目を履修します。そして、4年次には大学で学んだことの集大成である卒業研究を行います。

また、2年次よりものづくりや経営に必要な生産工学系科目を履修し、3年次には生産実習（インターンシップ）を体験することにより、社会における電気・電子工学の役割を理解し、ものづくり、経営の分かる技術者を育成します。

2 育成する技術者像と学習・教育到達目標

電気電子工学科が育成しようとする将来達成すべき技術者像及び、卒業時までに身につけるべき知識、能力等を「学習・教育到達目標」として次に示します。

(1) 技術者像

現代社会を支える基盤技術である電気・電子工学の基礎から応用までの知識を身につけ、課題を提起しそれを解決する能力を有する創造性豊かな技術者及び研究者

(2) 学習・教育到達目標

- A 電気・電子・情報通信分野の技術を理解し応用するために必要な数学、自然科学の基礎知識、情報処理技術を身につけ、応用ができる技術者を育成する
- A-1 線形代数学、微分積分学を中心とする基礎知識の修得
- A-2 力学をはじめとする自然科学に関する基礎知識の修得
- A-3 コンピュータが操作でき、プログラミング及び数値解析法の修得
- B 電気・電子・情報通信分野の専門知識を有する技術者を育成する
- B-1 電磁気学、回路理論に関する基礎知識の修得
- B-2 電子回路をはじめとする電気・電子系分野における要素技術の修得

- C 生産及び製造技術（ものづくり）に関する基礎的な知識と経営管理能力を有する技術者を育成する
- C-1 生産工学系科目を学ぶことによる生産管理技法の修得、生産実習（インターンシップ）や実験を通じた製造技術の学習、社会における電気電子工学の位置付けを理解し、同時にプレゼンテーションとコミュニケーション能力の育成
- D 数学・物理等の基礎知識と電気・電子・情報通信分野の技術を応用し実践する能力を有する技術者を育成する
- D-1 課題を理解し、それを解決するための立案、設計、製作、実行、評価する能力
- E 社会の要求を的確に理解し、社会人としての倫理観を持ち問題を解決する能力を有する技術者を育成する
- F 国内外で通用するコミュニケーション能力と国際感覚を有する技術者を育成する
- F-1 英語を含む関連資料を読んで理解できる能力
- F-2 社会的に十分なコミュニケーション能力を身につけ、議論ができる能力
- F-3 実験を通じた技術的な報告書が作成でき、人に説明できる能力
- F-4 自然科学や国内外の経済・政治・歴史に関する基礎的事項を理解する能力

3 履修について

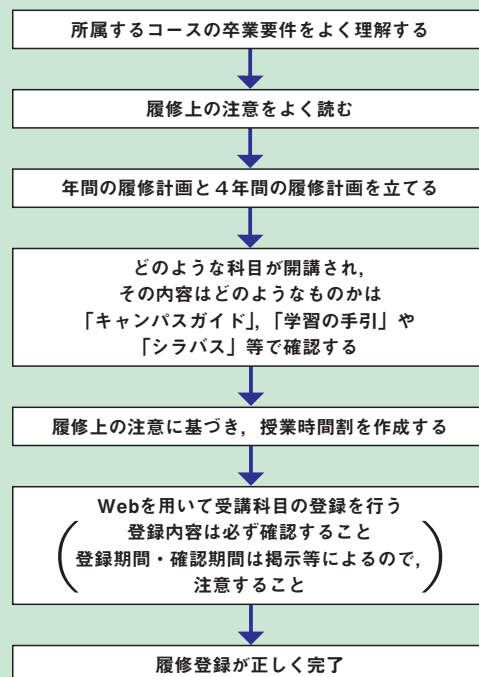
年度初めに受講計画をたてる際には、下記の事項に十分留意することが必要です。もし不明な点があれば、遠慮なくクラス担任に相談してください。

- (1) すべての授業科目は設置年次の順に履修しなければならない。
- (2) 専門科目を履修する際にはシラバス等を参考に、関連する科目を順序よく履修することが望ましい。
- (3) 1年次の受講計画は特に綿密に行い、2年次（津田沼キャンパス）に移行してから1年次（実硯キャンパス）設置の科目を受講することがないように万全を期すこと。
- (4) 電気・電子工学の基礎となる1年次及び2年次設置の必修科目は、上級学年の専門工学科目の基礎となる重要な科目なので、必ず当該年次で単位を修得すること。
- (5) 1年入学時から自分の希望する進路に応じてコースを選択しますが、エネルギーシステムコースあるいはeコミュニケーションコースを選択し、電気主任技術者又は電気通信主任技術者や第1級陸上無線技術士の資格取得を目指す者は、特に科目の選択に留意すること。さらに、JABEE認定のカリキュラムとなっているクリエイティブエンジニアプログラムを合せて履修する場合、卒業後の技術士の資格取得に向け、充分な科目を選択し積極的に勉学に取り組むこと。
- (6) 4年次に設置の「卒業研究」に着手するには、卒業要件に係る単位から104単位以上でなければならない。
- (7) 4年終了時まで以下に以下の条件を満足することによって、卒業できる。

- ① 総修得単位数 128 単位以上修得
- ② 全学共通教育科目及び教養基盤科目は履修規定に基づき 40 単位以上履修
- ③ 生産工学系科目は履修規定に基づき 20 単位以上修得
- ④ 専門教育科目は各コースの卒業要件を満たした上で 68 単位以上修得

なお、電気主任技術者又は電気通信主任技術者や第1級陸上無線技術士の資格取得を目指している場合は、科目の履修状況を検討し、認定に必要な科目が不足している場合には4年次において再履修することを勧めます。

履修登録の流れ



電気電子工学科 エネルギーシステムコース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	選択	日本を考える	2								卒業要件外 ※3
	計									2	
教養科目	必修	体育	1							1	
	A 群	芸術と文学	2	科学基礎論	2					4	
		歴史学	2	心理学	2						
	B 群	社会学	2	法学	2	比較文化論	2			4	
		政治経済論	2	総合科目	2	国際関係論	2				
	計									11 以上	
	国際コミュニケーション科目	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1				4	
		選択	初習外国語	1	イングリッシュスキルC	1					
			日本語表現法	1	イングリッシュスキルD	1					
		プログラム履修者必修	日本の言葉	1							留学生のみ履修可
			英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									4 以上	
	基盤科目	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学	2 2					4	
			選択	微分積分学Ⅱ	2	確率統計 微分方程式	2 2				
		物理学系	必修	物理学Ⅰ	2					2	
			選択	物理学Ⅱ	2	物理科学概論	2				
		化学・生物系	必修	化学	2					2	
			選択	応用化学	2	生物環境科学	2				
		実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1					4	
			選択	基礎科学演習 物理数学演習	1 1	計算科学基礎	2				
		情報系	必修	情報リテラシー	2					2	
		教職課程	選択			物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2		教職課程履修者のみ履修可
	計									14 以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
			グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		プログラム履修者必修	技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
			ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
			つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可
		計								38 以上	

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考	
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数			
生産工学系科目		必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 技術者倫理 データサイエンス	1 2 2	生産実習 プロジェクト演習 経営管理	4 1 2			16	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。	
		選択			生産管理 安全工学	2 2	産業関連法規 生産工学特別講義 SDコミュニケーション	2 2 2			4以上		全学科共通科目
	計										20以上		
専門教育科目	学科共通	必修			回路理論及び演習Ⅰ 回路理論及び演習Ⅱ 電磁気学及び演習Ⅰ 電磁気学及び演習Ⅱ 電気電子計測Ⅰ	2 2 2 2 2	プログラミング及び演習	2			12	左記単位数には6単位まで他学科・他コースの専門教育科目等の単位を算入することができます。	
			A群	電気数学Ⅰ 電気電子工学特別講義	2 1	電子回路Ⅰ 電子回路Ⅱ 電気数学Ⅱ 情報理論	2 2 2 2	回路理論及び演習Ⅲ 回路理論及び演習Ⅳ 電磁気学及び演習Ⅲ 電磁気学及び演習Ⅳ 電気電子設計Ⅰ 電気電子設計Ⅱ 科学技術欧文技法	2 2 2 2 1 1 1				13以上
		選択											
		B群			電気電子設計製図 電気電子材料 論理デジタル回路 情報管理	2 2 2 2	過渡現象 電気電子計測Ⅱ 制御工学 コンピュータシステム 数値計算法 デジタル信号処理	2 2 2 2 2 2	ロボットテクノロジー	2			
	コース	選択					高電圧プラズマ工学 電気機器Ⅰ 電気法規及び施設管理 電力輸送工学 電気化学 電力発生工学	2 2 2 2 2 2	パワーエレクトロニクス 電気機器Ⅱ 照明工学 電気音響工学 非破壊検査工学	2 2 2 2 2	41以上		
	実技科目	選択	生産工学実習 A 生産工学実習 B	1 1									
		必修			電気電子工学実験Ⅰ A 電気電子工学実験Ⅰ B 電気電子工学実験Ⅱ A 電気電子工学実験Ⅱ B	1 1 1 1	電気電子工学実験Ⅲ A 電気電子工学実験Ⅲ B 電気電子工学実験Ⅳ A 電気電子工学実験Ⅳ B ゼミナール	1 1 1 1 1	卒業研究 1 卒業研究 2	3 3	15		
	計											68以上	
合 計											128以上		

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上
卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下 (22 ページ参照)。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上
上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

- ※1 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。
- ※2 他学科・他コースの専門教育学科目で修得した単位 (科目担当者に許可を得たうえで履修登録した科目) を最大 6 単位まで専門教育学科目の 68 単位内に算入できる。
また、あらかじめ認められた他学部の科目 (相互履修科目) 等でも、教養基盤科目又は専門教育学科目に算入できることがある (詳細は年度初めのガイダンス時に配布する資料を参照)。
- ※3 「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

電気電子工学科 e コミュニケーションコース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	選択	日本を考える	2								卒業要件外 ※3
	計									2	
教養科目	基礎科目	必修	体育	1						1	
		A 群	芸術と文学 歴史学	2 2	科学基礎論 心理学 教養探求	2 2 2				4	
			B 群	社会学 政治経済論	2 2	法学 総合科目	2 2	比較文化論 国際関係論	2 2	4	
		計								11 以上	
	国際コミュニケーション科目	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1				4	
		選択	初習外国語 日本語表現法	1 1	イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1					
			日本の言葉	1							留学生のみ履修可
		プログラム履修者必修	英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		計								4 以上	
	基盤科目	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学	2 2					4	
			選択	微分積分学Ⅱ	2	確率統計 微分方程式	2 2				
		物理学系	必修	物理学Ⅰ	2					2	
			選択	物理学Ⅱ	2	物理学概論	2				
		化学・生物系	必修	化学	2					2	
			選択	応用化学	2	生物環境科学	2				
		実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1					4	
			科学系	基礎科学演習 物理数学演習	1 1	計算科学基礎	2				
		情報系	必修	情報リテラシー	2					2	
		教職課程	選択			物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2		教職課程履修者のみ履修可
		計								14 以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
			グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		プログラム履修者必修	技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
			ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
			つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可
		計								38 以上	

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考				
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数						
生産工学系科目	必修		生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 技術者倫理 データサイエンス	1 2 2	生産実習 プロジェクト演習 経営管理	4 1 2			16	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。				
			選択		生産管理 安全工学	2 2	産業関連法規 生産工学特別講義 SDコミュニケーション	2 2 2			4以上		全学科共通科目			
	計										20以上					
	専門教育科目	学科共通	必修			回路理論及び演習Ⅰ 回路理論及び演習Ⅱ 電磁気学及び演習Ⅰ 電磁気学及び演習Ⅱ 電気電子計測Ⅰ	2 2 2 2 2	プログラミング及び演習	2			12	左記単位数には6単位まで他学科・他コースの専門教育科目等の単位を算入することができます。			
A群				選択	電気数学Ⅰ 電気電子工学特別講義	2 1	電子回路Ⅰ 電子回路Ⅱ 電気数学Ⅱ 情報理論	2 2 2 2	回路理論及び演習Ⅲ 回路理論及び演習Ⅳ 電磁気学及び演習Ⅲ 電磁気学及び演習Ⅳ 電気電子設計Ⅰ 電気電子設計Ⅱ 科学技術欧文技法	2 2 2 2 1 1 1	13以上					
					B群		電気電子設計製図 電気電子材料 論理ディジタル回路 情報管理	2 2 2 2	過渡現象 電気電子計測Ⅱ 制御工学 コンピュータシステム 数値計算法 ディジタル信号処理	2 2 2 2 2 2		ロボットテクノロジー		2		
コース						選択					半導体デバイス工学 伝送路システム 情報通信工学 アンテナ・伝搬工学 通信法規	2 2 2 2 2		ナノテクノロジー 光通信システム 通信機器・通信システム イメージテクノロジー 応用情報処理	2 2 2 2 2	41以上
					実技科目		学科共通	選択	生産工学実習 A 生産工学実習 B	1 1						
必修									電気電子工学実験Ⅰ A 電気電子工学実験Ⅰ B 電気電子工学実験Ⅱ A 電気電子工学実験Ⅱ B	1 1 1 1	電気電子工学実験Ⅲ A 電気電子工学実験Ⅲ B 電気電子工学実験Ⅳ A 電気電子工学実験Ⅳ B ゼミナール	1 1 1 1 1		卒業研究 1 卒業研究 2	3 3	15
		計										68以上				
合 計											128以上					

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上
卒業に必要な単位数 [128 単位] のうち未修得が 24 単位以下 (22 ページ参照)。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上
上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※1 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

※2 他学科・他コースの専門教育科目で修得した単位 (科目担当者に許可を得たうえで履修登録した科目) を最大 6 単位まで専門教育科目の 68 単位内に算入できる。

また、あらかじめ認められた他学部の科目 (相互履修科目) 等でも、教養基盤科目又は専門教育科目に算入できることがある (詳細は年度初めのガイダンス時に配布する資料を参照)。

※3 「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

電気電子工学科 エネルギーシステムコース【クリエイティブエンジニアプログラム履修者】

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	計									2	
教養科目	必修	体育	1	科学基礎論	2					3	
	A群	芸術と文学 歴史学	2 2	心理学	2					2	
	B群	社会学 政治経済論	2 2	法学 総合科目	2 2	比較文化論 国際関係論	2 2			4	
	計									9以上	
	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1 1 1					6	
	選択	初習外国語 日本語表現法 日本の言葉	1 1 1								留学生のみ履修可
	計									6以上	
	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学 微分積分学Ⅱ	2 2 2	確率統計	2				8	
		選択			微分方程式	2					
	物理系	必修	物理学Ⅰ 物理学Ⅱ	2 2						4	
		選択			物理科学概論	2					
	化学・生物系	必修	化学	2						2	
		選択	応用化学	2	生物環境科学	2					
	実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1						4	
	科学系	選択	物理数学演習	1							
	情報系	必修	情報リテラシー	2						2	
	計									20以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
	計									38以上	
生産工学系科目	必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 技術者倫理 データサイエンス	1 2 2	生産実習 プロジェクト演習 経営管理	4 1 2			16	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。
	選択			生産管理 安全工学	2 2	産業関連法規 生産工学特別講義 SDコミュニケーション	2 2 2			4以上	全学科共通科目
	計									20以上	

				1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
				科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
専門教育科目	専門工学科目	学科共通	必修			回路理論及び演習Ⅰ	2	プログラミング及び演習	2			12	
						回路理論及び演習Ⅱ	2						
						電磁気学及び演習Ⅰ	2						
						電磁気学及び演習Ⅱ	2						
						電気電子計測Ⅰ	2						
				電気数学Ⅰ	2	電子回路Ⅰ	2	回路理論及び演習Ⅲ	2			22	
				電気電子工学特別講義	1	電子回路Ⅱ	2	回路理論及び演習Ⅳ	2				
						電気数学Ⅱ	2	電磁気学及び演習Ⅲ	2				
						情報理論	2	電磁気学及び演習Ⅳ	2				
								電気電子設計Ⅰ	1				
							電気電子設計Ⅱ	1					
							科学技術英文技法	1					
		選択			電気電子設計製図	2	過渡現象	2	ロボットテクノロジー	2			
				電気電子材料	2	電気電子計測Ⅱ	2						
				論理デジタル回路	2	制御工学	2						
				情報管理	2	コンピュータシステム	2						
						数値計算法	2						
							デジタル信号処理	2					
		コース	選択					高電圧プラズマ工学	2	パワーエレクトロニクス	2	19以上	
							電気機器Ⅰ	2	電気機器Ⅱ	2			
						電気法規及び施設管理	2	照明工学	2				
						電力輸送工学	2	電気音響工学	2				
						電気化学	2	非破壊検査工学	2				
						電力発生工学	2						
	実技科目	学科共通	選択	生産工学実習 A	1							15	
				生産工学実習 B	1								
			必修			電気電子工学実験Ⅰ A	1	電気電子工学実験Ⅲ A	1	卒業研究 1	3	68以上	
						電気電子工学実験Ⅰ B	1	電気電子工学実験Ⅲ B	1	卒業研究 2	3		
						電気電子工学実験Ⅱ A	1	電気電子工学実験Ⅳ A	1				
						電気電子工学実験Ⅱ B	1	電気電子工学実験Ⅳ B	1				
								ゼミナール	1				
計												68以上	
合計												128以上	

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上
卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上
上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※ 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

3 卒業要件外科目

				1 年		2 年		3 年		4 年		単位数	備考
				科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
全学共通教育科目				選択	日本を考える	2							
教養基盤科目	基盤科目	教職課程	選択			物理学実験(コンピュータ活用を含む)	2	情報と職業	2				教職課程履修者のみ履修可
						化学実験(コンピュータ活用を含む)	2						
						生物学実験(コンピュータ活用を含む)	2						
						地学実験(コンピュータ活用を含む)	2						
	横断科目	国際コミュニケーション科目	プログラム履修者必修		英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ	1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
						英語コミュニケーション応用Ⅱ	1						
					グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ	1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
						グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1						
					技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ	1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
						事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1						
	横断科目	国際コミュニケーション科目	プログラム履修者必修		ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ	1	ロボットデザイン実践Ⅰ	1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
						ロボットデザイン基礎Ⅱ	1	ロボットデザイン実践Ⅱ	1				
	横断科目	国際コミュニケーション科目	プログラム履修者必修		つくりかたマップ	1	なんでも作るジム	1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可
						チャレンジ・ハッカソン	1						

※「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

電気電子工学科 eコミュニケーションコース【クリエイティブエンジニアプログラム履修者】

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	計									2	
教養科目	必修	体育	1	科学基礎論	2					3	
	A群	芸術と文学 歴史学	2 2	心理学	2					2	
	B群	社会学 政治経済論	2 2	法学 総合科目	2 2	比較文化論 国際関係論	2 2			4	
	計									9以上	
	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1 1 1					6	
	選択	初習外国語 日本語表現法 日本の言葉	1 1 1								留學生のみ履修可
	計									6以上	
	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学 微分積分学Ⅱ	2 2 2	確率統計	2				8	
		選択			微分方程式	2					
	物理系	必修	物理学Ⅰ 物理学Ⅱ	2 2						4	
		選択			物理学概論	2					
	化学・生物系	必修	化学	2						2	
		選択	応用化学	2	生物環境科学	2					
	実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1						4	
	科学系	選択	物理数学演習	1							
	情報系	必修	情報リテラシー	2						2	
	計									20以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
	計									38以上	
生産工学系科目	必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 技術者倫理 データサイエンス	1 2 2	生産実習 プロジェクト演習 経営管理	4 1 2			16	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。
	選択			生産管理 安全工学	2 2	産業関連法規 生産工学特別講義 SDコミュニケーション	2 2 2			4以上	全学科共通科目
	計									20以上	

				1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考	
				科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数			
専門教育科目	専門工学科目	学科共通	必修	電気数学Ⅰ 電気電子工学特別講義	2 1	回路理論及び演習Ⅰ	2	プログラミング及び演習	2			12		
						回路理論及び演習Ⅱ	2							
						電磁気学及び演習Ⅰ	2							
						電磁気学及び演習Ⅱ	2							
						電気電子計測Ⅰ	2							
			選択	電子回路Ⅰ	2	回路理論及び演習Ⅲ	2			22				
				電子回路Ⅱ	2	回路理論及び演習Ⅳ	2							
				電気数学Ⅱ	2	電磁気学及び演習Ⅲ	2							
				情報理論	2	電磁気学及び演習Ⅳ	2							
						電気電子設計Ⅰ	1							
		コース	選択			電気電子設計Ⅱ	1					19以上		
						科学技術英文技法	1							
	実技科目	学科共通	選択	生産工学実習 A	1								15	
				生産工学実習 B	1									
		必修		電気電子工学実験Ⅰ A	1	電気電子工学実験Ⅲ A	1	卒業研究 1	3	3				
				電気電子工学実験Ⅰ B	1	電気電子工学実験Ⅲ B	1	卒業研究 2						
				電気電子工学実験Ⅱ A	1	電気電子工学実験Ⅳ A	1							
				電気電子工学実験Ⅱ B	1	電気電子工学実験Ⅳ B	1							
	計											68以上		
	合計											128以上		

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上
卒業に必要な単位数 [128 単位] のうち未修得が 24 単位以下 (22 ページ参照)。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上
上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※ 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

3 卒業要件外科目

				1 年		2 年		3 年		4 年		単位数	備考
				科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
全学共通教育科目				選択	日本を考える	2							
教養基盤科目	基盤科目	教職課程	選択			物理学実験(コンピュータ活用を含む)	2	情報と職業	2				教職課程履修者のみ履修可
						化学実験(コンピュータ活用を含む)	2						
						生物学実験(コンピュータ活用を含む)	2						
						地学実験(コンピュータ活用を含む)	2						
	横断科目	国際コミュニケーション科目	必修		英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ	1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
						英語コミュニケーション応用Ⅱ	1						
					グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ	1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
						グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1						
					技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ	1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
						事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1						
					ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ	1	ロボットデザイン実践Ⅰ	1		5	モノづくり人材育成実践プログラム履修者のみ履修可
						ロボットデザイン基礎Ⅱ	1	ロボットデザイン実践Ⅱ	1				
					つくりかたマップ	1	なんでも作るジム	1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可
						チャレンジ・ハッカソン	1						

※「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

土木工学科

Department of Civil Engineering

1 土木工学科の特徴

● プログラムの概要

土木工学は、幅広い知識と多様な能力の修得を必要とする総合的な学問です。したがって、生産工学部 土木工学科では土木工学に必要とされる専門知識の獲得と、知識を組み合わせることを含めた応用能力についての学修を可能するプログラムを構築しています。プログラムでは、学生のみなさんが目標とする技術者像についての具体的な「しるべ」を示すために、2002（H14）～2012（H24）年度において、3つのコースを設置していました。そのコースはマネジメントコースと環境プランニングコース、並びに都市コースです。その後、2013（H25）年度のカリキュラム改訂に伴い、同年度からの入学生を対象として、マネジメントコースと環境・都市コースの2コース体制となりました。このうち、マネジメントコースの教育プログラムが日本技術者教育認定機構（JABEE）に認定されています。

土木工学科では、より良い学修環境を学生のみなさんへ提供するために、2022（R4）年度からのすべての学生を対象として、プログラム名称を土木工学科日本技術者教育認定機構認定プログラムとする JABEE に認定された学習・教育を行っています。2022（R4）年度からのプログラムでは、マネジメントコースのプログラムを基本として、環境・都市コースの特色を融合させたカリキュラムを整備しています。これは、これまでの土木工学科の教育的な伝統を重視したプログラムの構築に関する重要な考え方を体現したものとなります。新たなプログラムは、この考え方に基づいて、次項に示す自立した技術者像と学習・教育到達目標を設定しています。これらの設定は、土木工学科における「卒業認定・学位授与の方針（DP）」、「教育課程編成・実施の方針（CP）」、並びに「入学者受入れの方針（AP）」などの教育活動の質保証の基礎となるものです。

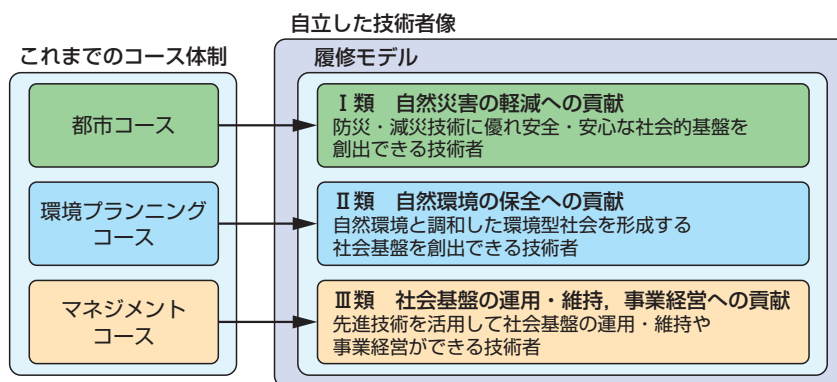
● カリキュラムの特色

土木工学科では教育改善を継続的に実施しており、カリキュラムの特色は自立した技術者像に照らして、学生のみなさんが自ら思考して行動し、土木工学の専門知識の習得のみならず、

将来、職業人として社会において活躍できる普遍的な能力の獲得も目指すものです。カリキュラムは、教養科目、基盤科目、生産工学系科目、専門教育科目の4つの大きな科目群から構成されています。生産工学系科目では学生のキャリア形成を支援し、教養基盤科目に属する基盤科目と横断科目では、エンジニアリングデザイン教育を活用して教養課程と専門教育課程の円滑な接続を可能としています。さらに、2022（R4）年度からのカリキュラムでは、「履修モデル」を構築しています。「履修モデル」は、本学科に2002（H14）～2012（H24）年度において設置されていたマネジメントコースと環境プランニングコース、並びに都市コースの3つのコースのあり方を基本としています。土木工学は総合工学的な学術領域を有していることから、幅広い知識と多様な能力の修得を必要とします。したがって、土木工学科における教育の質を保証して、学生のみなさんの学習・教育到達目標や DP の達成度を向上させるために「履修モデル」を設定しました。

1 年次と 2 年次の土木工学の専門領域の知識獲得型の力学科目に代表される基礎分野の学修では、ミニマム・リクワイアメントを設定し、学生のみなさんの知識量獲得量別に授業を開講します。さらに、3 年次の専門応用分野への勉学意識の向上を図るとともに、調査研究を考慮した学習・教育を展開し、学生のみなさんの知識と能力の着実な定着を図ります。これは、土木工学の技術者としての目標へ向かう第一歩にあたります。

「履修モデル」は、「履修モデル」によって学生のみなさんの授業科目の選択パターンや取得単位数を制限するものではありません。学生のみなさんが目標とする技術者となるための授業科目の履修についての「しるべ」の一つを示すものです。これまでの3つのコース体制とカリキュラムにおける履修モデルの関係を図示します。同図には、都市コースに対応する「自然災害の軽減への貢献」、環境プランニングコースに対応する「自然環境の保全への貢献」、マネジメントコースに対応する「社会基盤の運用・維持、事業経営への貢献」という履修モデル名称と「履修モデル」が「しるべ」とする技術者像が示されています。



これまでのコース体制とカリキュラムにおける履修モデルの関係

2 自立した技術者像と学習・教育到達目標

土木工学科では、2022（R4）年度のカリキュラム改定に伴い、従前の環境・都市コースとマネジメントコースの特色を、学習・教育到達目標に反映させました。そして、学習・教育到達目標

を達成するためのカリキュラムも設計し学びの深化が可能となるプログラムを構築しました。なお、自立した技術者像は学習・教育到達目標の前文として設定してあります。

1. 学習・教育到達目標の前文

施設・構造物の計画・設計・施工・維持管理までの土木技術の基礎を修得し、自然災害を軽減した安全な社会基盤の創出、自然環境と調和した持続可能な社会基盤の創出、社会基盤の建設にともなう計画から維持管理、さらには事業経営など、総合的にマネジメントができる技術者を育成する。

● 学習・教育到達目標について

自立した技術者像を具現化した学習・教育到達目標は、6つから構成されています。学習・教育到達目標の特徴は、各学習・教育到達目標がカリキュラムにおける科目群と対応していることにあります。これにより、各授業科目が、どの学習・教育到達目標の達成に寄与するものなのかが明確となり、科目群によるカリキュラムの体系化が可能となります。また、学生のみなさんに学習・教育到達目標と各授業科目の関係が判りやすいものとなります。

学習・教育到達目標の設定では、前述したようにマネジメントコースの学習・教育到達目標を基本として、環境・都市コースの特色を融合させています。すなわち、マネジメントコースの学習・教育到達目標に含有される知識と能力要素のすべてを維持し、環境・都市コースの学習・教育到達目標の特色を合わせた学習・教育到達目標としています。この特徴として、カリキュラムでは、3年次の専門応用科目に環境・都市コースで開講されていた資源再生工学や地震・防災工学などの授業科目が設置されています。

2. 学習・教育到達目標

A 全学共通教育科目： 分野を横断した学習・教育を通して、自ら考えて他者との協働に関する知識を修得し、自身の行動を判断し他者へ働きかける能力、課題解決力を育成する。	
B 教養基盤科目： 生産工学に関わる基礎的な知識と幅広い教養に関わる知識を修得し、自ら考えて社会において活躍するための工学全般に共通な幅広い基礎能力を育成する。	B-1 教養科目： 文化と社会、並びに自然に関する知識を修得し、健全なる心身を持つ技術者を育成。
	B-2 国際コミュニケーション科目： 専門知識を獲得する際の基礎知識を修得し、国際的に社会で活躍できる基礎能力を育成。
	B-3 基盤科目・横断科目： 専門知識を獲得する際の基礎知識と実技、並びにものづくりに関わる知識を修得し、高度な専門分野に適応するための基礎能力を育成。
C 専門工学科目： 土木分野に関する専門知識と技能を修得し、それらを応用したマネジメント能力を育成する。	C-1 専門基礎科目： 土木工学の基礎知識を修得し、演習を通じてそれを活用できる能力を育成。
	C-2 応用専門科目： 土木工学の基本知識を修得し、国内外で活躍できる建設プロジェクトマネージャーのための能力と社会基盤の整備に対応するための能力を育成。
D 実技科目： 土木分野に関する理論・現象を実験・実習・設計を通して修得し、工学的にそれらを説明できる技術者を育成する。	
E 生産工学系科目： 実社会における生産実習で立場の異なる人との協働を経験するとともに経営的視点を養うための基礎を修得し、専門職の実務に対応できる基本能力を備えた技術者を育成する。	
F 卒業研究： 修得した知識・能力の集大成として、土木分野の課題を探究・創造・解決するプロセスを修得し、自然環境との調和を図ることができ、利便性の高い都市空間を想像できるマネジメント技術者としての総合能力を育成する。	

● 土木工学科における「教育の質保証」について

土木工学科における「教育の質保証」とは、すべての学生のみなさんを対象として、国際的同等性を確保したエンジニア教育を実施することと考えています。土木工学科が自主・自律的な組織として質の保証された教育を運用、展開するにあたっては、教育と研究の独自性と伝統を尊重することが重要です。生産工学系科目のように、約70年の歴史のある科目群の充実を図りながら、自らの教育的な活動の質を点検し、その一連の過程や成果を学生のみなさんだけではなく、社会に示していくこと

が大切であると認識しています。第3者の客観的な認定評価に基づき、すべての学生のみなさんの学修成果の水準を担保し、継続的に保証するために、プログラムの改善を行っています。2022（R4）年度のカリキュラム改定もその一例です。4年間の学習・教育において、みなさんが知識と能力を獲得することで学習・教育到達目標やDPの達成度を向上させ、将来、技術者として活躍するために、積極的に学修に取り組んでください。

土木工学科

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
全学共通 教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	計									2	
教養科目	必修	体育	1	科学基礎論	2					3	
	A群	芸術と文学 歴史学	2 2	心理学	2					2	
	B群	社会学 政治経済論	2 2	法学 総合科目	2 2	比較文化論 国際関係論	2 2			4	
	計									9以上	
	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1 1 1					6	
	選択	初習外国語 日本語表現法 日本の言葉	1 1 1								留學生のみ履修可
	計									6以上	
	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学 微分積分学Ⅱ	2 2 2						6	
		選択		確率統計 微分方程式	2 2						
	物理学系	必修	物理学Ⅰ 物理学Ⅱ	2 2						4	
		選択		物理学概論	2						
	化学・ 生物系	選択	化学 応用化学	2 2	生物環境科学	2				2	
	実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1						4	
		選択	物理数学演習	1							
	情報系	必修	情報リテラシー	2						2	
	計									18以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
		計								38以上	
生産工学系科目	必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 技術者倫理 データサイエンス	1 2 2	生産実習 経営管理 プロジェクト演習	4 2 1			16	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。
	選択					生産工学特別講義	2	安全工学 産業関連法規 生産管理	2 2 2	4以上	
						SDコミュニケーション	2				全学科共通科目
	計									20以上	

授業科目表

(2024)

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
専門教育科目	専門工学科目	必修	土木工学基礎及び演習Ⅰ 土木工学基礎及び演習Ⅱ	3 3	構造力学及び演習Ⅰ 土質力学及び演習Ⅰ 水理学及び演習Ⅰ コンクリート工学 構造力学及び演習Ⅱ 土質力学及び演習Ⅱ 水理学及び演習Ⅱ 測量学	3 3 3 2 3 3 3 2					28	
		選択	土木材料科学	2			橋梁工学 河川工学 道路工学 水環境浄化システム 施工技術 応用測量学 鉄筋コンクリート工学 構造工学 地盤工学 海岸港湾工学 環境工学 都市システム工学 土木計測及び解析法 地震・防災工学 テクニカルイングリッシュⅠ テクニカルイングリッシュⅡ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2	メンテナンス工学 国際建設情報 火薬学 資源再生工学	2 2 2 2	20以上	
	実技科目	必修	土木生産製図	1	土木設計製図Ⅰ 測量実習	2 2	土木CAD演習 土木設計製図Ⅱ 土木工学演習 ゼミナール	1 2 1 1	卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3 3	16	
		選択					構造・コンクリート実験 水工・衛生実験 土質・道路実験	2 2 2			4以上	
							応用測量実習 土木技術演習	2 1	ジョインフォーマティクス	1		
		計									68以上	
	合 計										128以上	

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上
卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上
上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※ 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

3 卒業要件外科目

			1 年		2 年		3 年		4 年		単位数	備考
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
全学共通教育科目			選択	日本を考える	2							
教養基礎科目	基礎科目	教職課程	選択		物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2				教職課程履修者のみ履修可
		国際コミュニケーション科目		英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
	横断科目	横断科目	プログラム履修者必修	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
				技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
				ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	事業継承者・企業家育成実践プログラム履修者のみ履修可
				つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可

※「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

土木工学科

建築工学科

Department of Architecture and Architectural Engineering

1 建築工学科の特徴

建築工学科が育成すべき技術者像

歴史と文化、科学への深い造詣と教養のうえに、建築の技術、美、デザインの専門知識と力を培い、SDGs、建築生産、マネジメントの視点から新たな社会を創造的に切りひらく建築の専門家を輩出します。これを実現する教育プログラムである建築工学科のカリキュラムは、一般社団法人日本技術者教育認定機構(JABEE)の認定を取得しています。JABEE認定プログラムの卒業生は、JABEE認定基準に基づく建築技術者としての基礎的な能力を身につけていると認められることになります。

建築工学科の学習・教育到達目標

次の4つのカテゴリー、A～Jの10項目で構成されています。

◆基本的な人間力やものごとのとらえ方、学ぶ姿勢 (A, B, C)

A. 学びつづける力を養い豊かな教養を身につける

豊かな教養、歴史や文化、自然科学、社会科学への深い造詣をもち、建築の学びを継続し、建築の専門家としての責任と社会的役割を理解し実践する。

B. 想像する力と考える力を養う

言語能力をみがき、想像する力を高めて、眼前の事象だけではない未だ見ぬ気づきを獲得し、身体的なリアルな感覚を拠り所に、これを解決する力をもつ。

C. 普遍と固有を意識し多様な視点をもつ

地球規模と地域の風土文化、技術、空間、時間など多様な切り口において普遍性と固有性を意識し、問題を多角的にとらえることにより新たなものの見方を獲得する。

◆技術、美、デザインの専門知識と基礎力 (D, E)

D. 建築の専門知識と技術を修得する

建築の専門知識と技術を身につけ、基礎から先進のテクノロジー

までを使いこなし、技術力、構想力、計画力、デザイン力を磨き、表現する。

E. 『目を養い手を練れ』を実践しつづける手を鍛える

優れた先達を範として、美的感覚を身につけ、つくりだす手と技を鍛え、新たな創造を身体の内底から引きだすための技能を練り、身につける。

◆新たな社会を目指す力 (F, G, H)

F. SDGsを意識し専門能力を生かして社会を変革する

持続可能でよりよい世界を目指す国際目標(SDGs)に向き合い、実社会における課題をあぶりだし、専門能力をもってこれを解決することで、新たな世界を構築する。

G. 建築の生産としてのあり方を探究し実践する

ものの在り方とものづくりの在り方(建築の生産)を構想し、秩序を構成する。建築の専門家としての職能を理解し、社会をイノヴァティブに変革してゆく力を養う。

H. マネジメント力により新たな価値を創造する

事実を正確にとらえ新たなしくみをつくりだす力(マネジメント力)を発揮し、状況を打開し、個人やチームまたプロジェクトに価値を創造する。経営管理という視点も醸成する。

◆社会に貢献する専門家としての在り方 (I, J)

I. 専門家との協働により実践的に創造する力を養う

異分野の専門家と協働し、高い専門的知見を交わすことにより、問題を実践的、創造的に解決する力を養う。個の力と協働により高いパフォーマンスを発揮する力を養う。

J. 専門家として人びとと共に社会を切り開く力を培う

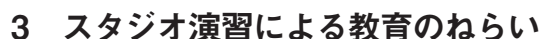
専門的な知識と技術をもち、多様な考えを理解し相互理解を育む力をもつことで、多くの人びとをサポートしまたそれゆえリードして新たな社会を構築する。

2 カリキュラムの構成

建築では基礎工学から応用科学(実学)までを幅広く学んでおく必要があります。建築工学科のカリキュラムは、基礎知識から先端の建築技術までを学習できるように整えています。多くの科目は基礎と応用(例:建築史Ⅰが基礎、建築史Ⅱが応用)の2段階構成を基本としており、1年次、2年次でおおよそ通りの建築の基礎的な専門科目を学びます。3年次以降は1、2年次で修得した基礎知識と建築的素養を土台にスタジオ演習科目

で学びを広げます。スタジオ演習では、各科目多様なテーマから学生毎に学びを選ぶことで建築家マインドを持つ技術者を育成します。卒業研究で学びの仕上げを行い、さらに専門性を高める大学院での学びへとつなげます。

なお、卒業時に、一級建築士及び二級建築士の受験資格のほか、技術士補の登録資格が得られます。



スタジオ演習科目は各科目でテーマを設定しており、学年が上がるにつれて高度なテーマを扱います。スタジオ演習Ⅰ・Ⅱは2年次までの学びをベースにして建築を解く場ですが、スタジオ演習Ⅲ以降では夏期休暇中に行う生産実習での経験も踏まえて、実社会の課題に徐々に切り込んでいきます。各スタジオ演習ではテーマに合わせてバラエティに富む複数の課題を用意しています。学生の皆さんは、自身のキャリアを描き、科目と課題の取り方で学びを主体的に選択し、その選び方により、自分の専門性を拓いていきます。



貫プログラム認定を受ける準備をしています。学部から大学院を含めた6年間一貫教育プログラムによるJABEE 建築系学士修士課程認定の導入により、国際的に認定された教育を受けかつ国際的な広い視野を持った人材の輩出を目指しています。

建築工学科

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	計									2	
教養科目	必修	体育	1	科学基礎論	2					3	
	A群	芸術と文学 歴史学	2 2	心理学	2					2	
	B群	社会学 政治経済論	2 2	法学 総合科目	2 2	比較文化論 国際関係論	2 2			4	
	計									9以上	
	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1	イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1			6	
	選択	初習外国語 日本語表現法 日本の言葉	1 1 1								留学生の履修可
	計									6以上	
	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学	2 2						4	
		選択	微分積分学Ⅱ	2	確率統計 微分方程式	2 2					
	物理系	必修	物理学Ⅰ 物理学Ⅱ	2 2						4	
		選択			物理学概論	2					
	化学・生物系	必修	化学	2						2	
		選択	応用化学	2	生物環境科学	2					
	実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1						4	
		選択	物理数学演習	1							
		必修	情報リテラシー	2						2	
		計								16以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
	計									38以上	
生産工学科科目	必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習	1	生産実習 プロジェクト演習 経営管理 技術者倫理 データサイエンス	4 1 2 2 2			16	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。
	選択							安全工学 生産管理 生産工学特別講義 産業関連法規	2 2 2 2	4以上	
						SDコミュニケーション	2				全学科共通科目
	計									20以上	

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
専門教育科目	専門工学科目	必修	一般構法 建築史Ⅰ 建築構造力学Ⅰ 建築材料Ⅰ	1 2 3 2	建築計画Ⅰ 建築デザインⅠ 都市地域計画 建築構造力学Ⅱ 建築環境工学Ⅰ 建築設備Ⅰ 建築応用力学 建築施工Ⅰ	2 2 2 3 2 2 2 2	建築法規 鉄筋コンクリート構造	2 2			29	
		選択			住居学 建築材料Ⅱ	2 2	建築史Ⅱ 建築計画Ⅱ 建築デザインⅡ 建築環境工学Ⅱ 建築設備Ⅱ 鉄骨構造 建築施工Ⅱ	2 2 2 2 2 2 2	建築教養 構造設計 建築マネジメント	2 2 2	17以上	
	実技科目	選択	特別演習Ⅰ	1	特別演習Ⅱ 特別演習Ⅲ	1 1						
		選択					スタジオ演習Ⅰ スタジオ演習Ⅱ スタジオ演習Ⅲ スタジオ演習Ⅳ	2 2 2 2	スタジオ演習Ⅴ スタジオ演習Ⅵ	2 2	6以上	
		必修	建築設計ⅠA 建築設計ⅠB 建築設計ⅠC	1 1 1	建築設計ⅡA 建築設計ⅡB 建築設計ⅢA 建築設計ⅢB 建築実験 建築コンピュータ演習	1 1 1 1 2 1			卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3 3	16	
	計										68以上	
	合 計										128以上	

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上
卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上
上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※ 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

3 卒業要件外科目

			1 年		2 年		3 年		4 年		単位数	備考
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
全学共通教育科目			選択	日本を考える	2							
教養基礎科目	基礎科目	教職課程	選択		物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2				教職課程履修者のみ履修可
		国際コミュニケーション科目		英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
	横断科目	プログラム履修者必修		グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
				技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
				ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
				つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可

※「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

応用分子化学科

Department of Applied Molecular Chemistry

応用分子化学科の特徴

応用分子化学科の構想

化学技術は、私たちの身の回りにある医薬品、化粧品、電化製品、自動車などの製品や材料の製造に密接に関わっており、様々な産業を支える基盤技術です。また、エレクトロニクス、新素材、ライフサイエンス、新エネルギー、ファインケミカルなどの先端分野における発展にも大きく寄与しており、化学技術の進歩は常に求められています。一方、現在の社会では、VUCA、すなわち変動性（Volatility）、不確実性（Uncertainty）、複雑性（Complexity）、曖昧性（Ambiguity）の時代という「答えのない時代」、「変化し続ける時代」に対応することが求められています。これは、社会のニーズに応えるだけでなく、「創りたい社会を具体的にすること」、そして、「その社会の実現に向けて必要な技術や研究開発の内容を明らかにすること」が不可欠となっていることを意味します。応用分子化学科では、社会と化学技術を俯瞰的に思考し、新たな価値を創造して「化学と工学の力で未来をひらく」ことを目標に教育・研究を行っています。

「化学と工学の力で未来をひらく」人財育成のためのカリキュラム

化学工学から生まれる持続可能で革新的な技術は、現在から未来にわたり豊かな暮らしを多様な形で支えています。応用分子化学科のカリキュラムは、われわれの生活に密接した「化学工学」を主軸としていることが最大の特徴です。そして、「有機化学」、「無機化学」、「物理化学」、「分析化学」、「生物化学」、「高分子化学」などの基礎化学分野と「資源化学」などのグリーン・サステナブル・ケミストリーに関連する分野は「化学工学」の学びへと活かされるように配置されています。さらに、応用分子化学科では以下の特色あるカリキュラムで未来社会が求める化学技術者へと皆さんを導きます。

①学生が主体的に学び、考え抜く力を鍛える実習科目

分析化学実習、物性化学実習、そして創造化学実習は従来の化学実験の概念とは一線を画した内容となっています。自らが課題を設定して解決に結びつけるテーマや、分析機器などを例に「製品を組み立てる」→「全体の機能を理解する」→「構成要素の関わり合いを理解する」のような段取りで実体を扱ったテーマを通して、広い視野から物事を考え抜く力を養成します。

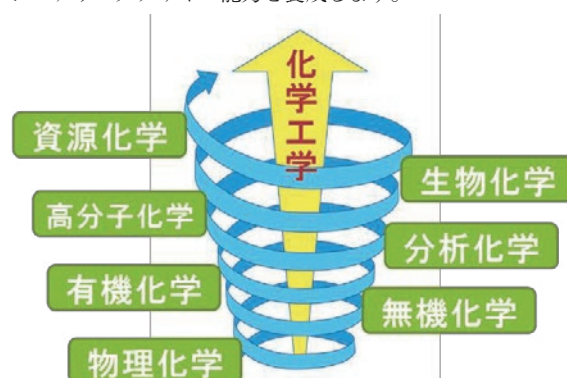
②人間の感性に響く意味のあるものづくりに向けたリテラシー教育

化学系工学リテラシー及び情報技術演習では基礎化学分野から派生した理論や工学的な理論、現象を身近に感じ、それらを

応用することを目指します。製品を開発する際に必要な化学工学的な知識（基本概念や原理）に対して、ワクワクする製品を創造するための思考方法、ものづくりに関する倫理観、情報処理技術、社会的な貢献の必要性などを関連付け、応用できる力を養成します。

③これからのものづくりに必須のエンジニアリングデザイン教育

応用分子化学科ではものづくりに必要な「アイデア創出」→「設計」→「試作」→「評価」→「検討」→「製品化」それぞれのプロセスを網羅するエンジニアリングデザイン能力を重視しています。化学プロセス実習、卒業研究演習、卒業研究1・2ではグループディスカッション、研究企画立案と発表、そして成果発表など、仲間と刺激し合いながら高い問題意識のもと、エンジニアリングデザイン能力を養成します。



自らのキャリアプランから選ぶ2つのコース

応用分子化学科では、自らのキャリアプランを設計し、社会で活躍できる素養を身に付け、SDGsの達成に向けて活躍できる実践的なエンジニアの育成を目指し、「応用化学システムコース」と「国際化学技術者コース」の2つのコースを設置しています。応用化学システムコースは、化学の基礎から応用に至るまでの幅広い知識と技術に加え、ものづくりに関するリスク、エネルギー、コスト等をマネジメントできる能力を身に付け、様々な業界・職種で活躍できる技術者を育成します。国際化学技術者コースは、応用化学システムコースの内容に加えて、日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準に基づいて、カリキュラムが設計されています。このコースは、技術士を育成するプログラムで、この技術士は、弁護士や薬剤師と同じ、国家試験に合格して得る資格です。このコースを修了すると、技術士資格試験の第一次試験が免除され、技術者としてのライセンスである技術士となるための有利な道となります。

応用化学システムコース

日本大学教育憲章と生産工学部の教育方針に基づいて、化学の基礎から応用に至る幅広い知識・技術を持ち、社会からの要望に応える物質や材料を俯瞰的（システム）思考に基づき、デザインや開発、製造するための素養を身につけ、SDGsの達成に向けて活躍できる実践的な技術者を養成するコースです。本コースにおける実践的な技術者の養成は生産工学部のミッションである社会的課題の解決と心豊かな社会の実現への貢献に大きく寄与します。

応用化学分野における「ものづくり」の過程は、いくつもの「単位操作（反応、蒸留、輸送など）」を組み合わせで構築されています。本コースでは化学の基礎から応用に至る幅広い知識と技術に加えて、「単位操作」に関する知識を広く修得し、リスク、エネルギー、コストなどをマネジメントできる能力を身につけることができます。さらに、実習科目、リテラシー教育、そしてエンジニアリングデザイン教育とともに分野を横断した協働を体得することにより、新たな価値の創出を武器として社会的課題の解決を実現するための素養を身につけることができます。

応用化学システムコースの教育目標（応用分子化学科ディプロマ・ポリシー）

- DP1：豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、応用分子化学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。
- DP2：国際的視野から、応用分子化学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。
- DP3：応用分子化学を体系的に理解して得られる情報に基づき、理論的な思考・批判的な思考をすることができる。
- DP4：生産工学及び応用分子化学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。

- DP5：生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。
- DP6：多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。
- DP7：チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。
- DP8：経験を主観的・客観的に振り返り、気付きを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

国際化学技術者コース

日本技術者教育認定機構（JABEE）の基準に基づいて教育プログラムが設定されています。本コースで育成しようとする技術者像は「日本大学教育憲章と生産工学部の教育方針に基づいて、持続可能な社会の実現に向け、国際的な視野に立ち、科学技術が担う社会的責任と人類の幸福を念頭に入れ、他者と協働

しながら生産工学及び化学の視点から問題を発見し、論理的かつ批判的思考によりデザインした解決策を自律的に遂行できる者」です。また、この技術者像に照らして、プログラム修了時点で確実に身につけておくべき知識・能力として、下記の学習・教育到達目標を設定しています。

国際化学技術者コースの学習・教育到達目標

- 1-A：豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、化学及び関連のエンジニアリング分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。
- 2-B：国際的視野から多面的に必要な情報を収集・分析し、化学及び関連のエンジニアリング分野に関わる事象について自らの考えを説明することができる。
- 3-C：化学及び関連のエンジニアリング分野において必要とされる専門的知識に基づき、解決すべき問題に対して理論的な思考・批判的な思考をすることができる。
- 4-D：生産工学と化学及び関連のエンジニアリング分野に関する視点から、解決すべき問題を発見し、それらを論理的に特定、整理、分析し、解決策をデザインして遂行できる。

- 5-E：生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。
- 6-F：多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。
- 7-G：チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。
- 8-H：経験を主観的・客観的に振り返り、気付きを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

応用分子化学科 応用化学システムコース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
全学共通 教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	選択	日本を考える	2								卒業要件外 ※4
	計									2	
教養科目	教養科目	必修	体育	1						1	
		A群 選択	芸術と文学 歴史学	2 2	科学基礎論 心理学 教養探求	2 2 2				4	
			社会学 政治経済論	2 2	法学 総合科目	2 2	比較文化論 国際関係論	2 2		4	
		計								11 以上	
	国際コミュニケーション科目	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1				4	
		選択	初習外国語 日本語表現法	1 1	イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1					
			日本の言葉	1							留学生のみ履修可
		プログラム履修者必修	英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		計								4 以上	
	基盤科目	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学	2 2					4	
			選択	微分積分学Ⅱ	2	確率統計 微分方程式	2 2				
		物理学系	必修	物理学Ⅰ	2					2	
			選択	物理学Ⅱ	2	物理学概論	2				
		化学・生物系	必修	化学	2					2	
			選択	応用化学	2	生物環境科学	2				
		実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1					4	
			科学系	基礎科学演習 物理数学演習	1 1	計算科学基礎	2				
		情報系	必修	情報リテラシー	2					2	
		教職課程	選択			物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2		教職課程履修者のみ履修可
		計								14 以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
			グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		プログラム履修者必修	技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
			ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
			つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修講者のみ履修可
	計									38 以上	

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
生産工学系科目	必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 データサイエンス	1 2	生産実習 プロジェクト演習 技術者倫理	4 1 2	経営管理	2	16	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。
	選択					生産工学特別講義 安全工学 SDコミュニケーション	2 2 2	生産管理 産業関連法規	2 2	4以上	全学科共通科目
	計									20以上	
専門教育科目	選択	ケミカルエンジニアリング系	コース		化学熱力学 化学動力学 化学工学 I	2 2 2	化学工学 II 分離プロセス工学	2 2		4以上	
		グリーン・サステイナブル・ケミストリー系	学科共通				無機資源化学 有機資源化学 グリーン・サステイナブル・ケミストリー	2 2 2		2以上	
		分子デザイン系	学科共通				無機材料工学 分子生物学 生物工学	2 2 2			
			コース	基礎物理化学 基礎無機化学 無機化学 I 応用化学システム入門	2 2 2 2	無機化学 II 分析化学 I 分析化学 II 基礎有機化学 有機化学 I 生物化学 分子構造解析学	2 2 2 2 2 2 2	界面化学 有機化学 II 高分子化学 有機化学 III 触媒反応工学 工業電気化学 高分子材料工学 分析化学 III 生体高分子化学	2 2 2 2 2 2 2 2 2	40以上	
	実技科目	必修	学科共通		分析化学実習 物性化学実習	3 3	創造化学実習	3		9	
			コース				化学プロセス実習 卒業研究演習	3 1	卒業研究 1 卒業研究 2	3 3	10
		選択	学科共通		化学系工学リテラシー 技術英語 I	1 1	情報技術演習 技術英語 II	1 1		3以上	
			コース								
	上記、専門教育科目（選択）から指定された単位数の他に 6 単位以上修得すること。									6以上	※ 2
	計									68以上	
合 計										128以上	

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上
卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上
上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

- ※1 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。
- ※2 他学科・他コースの専門教育科目で修得した単位（科目担当者に許可を得たうえで履修登録した科目）を最大 6 単位まで専門教育科目の 68 単位内に算入できる。
また、あらかじめ認められた他学部の科目（相互履修科目）等でも、教養基盤科目又は専門教育科目に算入できることがある（詳細は年度初めのガイダンス時に配布する資料を参照）。
- ※3 国際化学技術者コースにおいて修得した単位数は、応用化学システムコースに移行した場合、卒業に必要な単位数に算入することができる。（詳細は 72 ページの別表を参照）
- ※4 「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

応用分子化学科 国際化学技術者コース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
全学共通 教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	計									2	
教養科目	必修	体育	1	科学基礎論	2					3	
	A群 選択	芸術と文学 歴史学	2	心理学	2					2	
		社会学 政治経済論	2	法学 総合科目	2	比較文化論 国際関係論	2			4	
	計									9以上	
	国際コミュニケーション科目	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1	イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1		6	
		選択	初習外国語 日本語表現法 日本の言葉	1 1 1							留学生のみ履修可
		計								6以上	
	基盤科目	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学 微分積分学Ⅱ	2 2 2	確率統計	2			8	
			選択			微分方程式	2				
		物理系	必修	物理学Ⅰ 物理学Ⅱ	2 2					4	
			選択			物理科学概論	2				
		化学・生物系	必修			生物環境科学	2			2	
			選択								
		実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1					4	
			選択	科学系	物理数学演習	1					
		情報系	必修	情報リテラシー	2					2	
	計									20以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
	計									38以上	
生産工学系科目	必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 データサイエンス	1 2	生産実習 エンジニアリングプロジェクト演習 安全工学 技術者倫理	4 1 2 2	経営管理	2	18	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。
	選択					SDコミュニケーション	2	生産管理 産業関連法規	2 2	2以上	全学科共通科目
	計									20以上	

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考			
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数					
専門 教育 科目	専門工学科目	必修	無機化学序論	2	化工熱力学	2	移動現象	2			34				
			有機化学序論	2	化学数学	2	量子化学	2							
			物理化学序論	2	無機固体化学	2									
			無機化学各論	2	分析化学	2									
			有機反応化学Ⅰ	2	有機反応化学Ⅱ	2									
				反応速度論	2										
				化学工学量論	2										
				機器分析化学	2										
				有機機器分析	2										
				生物有機化学	2										
専門工学科目	学科共通	選択					無機資源化学	2			8以上				
							有機資源化学	2							
							グリーン・サステイナブル・ケミストリー	2							
							無機材料工学	2							
							分子生物学	2							
							生物工学	2							
			コース	選択		高分子化学総論	2	電気化学					2		
							有機合成化学	2							
							界面・コロイド化学	2							
							分離工学	2							
		プロセス工学			2										
実技科目	学科共通	必修		化学系工学リテラシー	1	創造化学実習	3			26					
				分析化学実習	3	情報技術演習	1								
				物性化学実習	3										
			コース	必修			化学プロセスデザイン					2	エンジニアリング・デザイン型卒業研究	3	
							化学プロセスデザイン実験					4	エンジニアリング・デザイン型卒業研究	3	
			エンジニアリング・デザイン型卒業研究演習	1											
			基礎技術英語	1											
			技術英語表現	1											
計											68以上				
合 計											128以上				

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上
卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上
上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※ 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

3 卒業要件外科目

			1 年		2 年		3 年		4 年		単位数	備考
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
全学共通教育科目			選択	日本を考える	2							
教養 基盤 科目	基礎科目	教職課程	選択		物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2				教職課程履修者のみ履修可
		国際コミュニケーション科目		英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
	横断科目	プログラム履修者必修		グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
				技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
				ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
				つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可

※「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

別表 国際化学技術者コースから応用化学システムコースに コース変更した場合の科目の対応

国際化学技術者コースから応用化学システムコースにコース変更した場合、以下のとおり、国際技術者コースで修得した科目は、応用化学システムコースの科目を修得したものと見なし、卒業要件に含むことができます。

そのため、他コース科目として履修することはできません。

国際化学技術者コースで修得した科目			応用化学システムコースにコース変更した際の科目		
科目名	単位数	設置学年	科目名	単位数	設置学年
エンジニアリングプロジェクト演習	1	3年	プロジェクト演習	1	3年
物理化学序論	2	1年	基礎物理化学	2	1年
無機化学序論	2	1年	基礎無機化学	2	1年
有機化学序論	2	1年	基礎有機化学	2	2年
無機化学各論	2	1年	無機化学Ⅰ	2	1年
有機反応化学Ⅰ	2	1年	有機化学Ⅰ	2	2年
基礎技術英語	1	3年	技術英語Ⅰ	1	2年
化学工学量論	2	2年	化学工学Ⅰ	2	2年
反応速度論	2	2年	化学動力学	2	2年
化工熱力学	2	2年	化学熱力学	2	2年
高分子化学総論	2	2年	高分子化学	2	3年
生物有機化学	2	2年	生物化学	2	2年
有機機器分析	2	2年	分子構造解析学	2	2年
分析化学	2	2年	分析化学Ⅰ	2	2年
機器分析化学	2	2年	分析化学Ⅱ	2	2年
無機固体化学	2	2年	無機化学Ⅱ	2	2年
有機反応化学Ⅱ	2	2年	有機化学Ⅱ	2	3年
技術英語表現	1	3年	技術英語Ⅱ	1	3年
移動現象	2	3年	化学工学Ⅱ	2	3年
界面・コロイド化学	2	3年	界面化学	2	3年
高分子工学	2	3年	高分子材料工学	2	3年
電気化学	2	3年	工業電気化学	2	3年
有機合成化学	2	3年	有機化学Ⅲ	2	3年
化学プロセスデザイン実験	4	3年	化学プロセス実習	3	3年
エンジニアリング・デザイン型卒業研究演習	1	3年	卒業研究演習	1	3年
エンジニアリング・デザイン型卒業研究Ⅰ	3	4年	卒業研究Ⅰ	3	4年
エンジニアリング・デザイン型卒業研究Ⅱ	3	4年	卒業研究Ⅱ	3	4年

早期卒業

- 履修科目登録単位数の上限について
履修科目登録単位数の上限に関する基準に定める。
- 優秀な成績の基準
累積のGPAが3.60以上であること。
- 早期卒業候補学生卒業研究着手条件
 - 2年終了時に「2 優秀な成績の基準」を満たしていること。
 - 2年終了時の卒業要件に係る修得単位数が80単位以上であること。
- 早期卒業の条件
 - 3年終了時に「2 優秀な成績の基準」を満たしていること。
 - 応用分子化学科（国際化学技術者コースを除く）の定めた卒業条件を満たしていること。

マネジメント工学科

Department of Industrial Engineering and Management

1 マネジメント工学科の特徴

日本大学には、工学系学部として生産工学部をはじめ、理工学部、工学部の3つの学部があります。この中で、マネジメント工学科はただひとつ生産工学部のみに設置されているユニークな学科です。

企業は人・物・金・情報、並びに流通・知財などに関する考え方を有機的に結合させ、顧客が求める新たな価値（製品やサービス）を創り、タイムリーに提供することによって成長してゆきます。それを実現させるのがマネジメント工学です。

マネジメント工学科では、工学の基礎知識や方法をベースに、マネジメントに関する色々な理論や技法を段階的に学んでいき

ます。その目標とするところは、①顧客が求める製品やサービスを予測し、その製品を安いコストで安全に作るためにはどうしたらよいかを考え、②その過程でいかにムリ、ムダ、ムラを省いて効率性を高めるかを工夫し、③それを実現するための最適なシステム（仕組み）を設計し運用することを学ぶ、文理融合型の新しい領域です。

これらの専門的な知識やスキルを身につけるため、2年次から「ビジネスマネジメントコース」、「経営システムコース」、「フードマネジメントコース」の3コースに分かれて学習します。

2 教育目標

マネジメント工学科では、企業経営や情報技術などのマネジメントに関する理論や技法を駆使して、複雑かつ多様に変化する社会やビジネスの問題に取り組むことができる人材の育成を目標としています。具体的には、工学の基礎知識や論理的な思考を身につけビジネスの現場をマネジメントできるエキスパー

トの育成、企業の経営者や知的財産のプロフェッショナルの育成、並びに生産性の向上や効果的なシステムの開発をマネジメントできるエンジニアの育成を目指しています。こうしたマネジメント工学科の専門分野を系統的に学ぶため、3つのコースを設けています。

(1) ビジネスマネジメントコース

ビジネスマネジメントコースは経営資源といわれるモノ、ヒト、カネ、情報、並びに流通、知的財産などに関する考え方や理論・技法を学習します。資源の選択と集中を図るための戦略を考え、日々変化するビジネスの状況において直面するさまざまな問題をマネジメントできる専門スタッフ、あるいは企業経営者を育成することを教育目標としています。

(2) 経営システムコース

経営システムコースは科学技術や工学、情報通信技術の知識のみならず、組織が直面するさまざまなマネジメントの問題を解決するための方法論を実践的に学習します。製品やサービス

の企画、システムの開発・設計及び運用の各段階において創造力を発揮して効果的にマネジメントできる経営スタッフ、あるいはエンジニアを育成することを教育目標としています。

(3) フードマネジメントコース

フードマネジメントコースは広くサービス産業を扱いフードビジネス等をモデルにマネジメント工学の理論、手法などの考え方をとおして問題解決を見出していく方法論を学習します。実践教育によって世界戦略としてグローバルな視点からの経営スタッフ、あるいはエンジニアとして必要となる企画力、問題解決能力、マネジメント能力を有する人材を育成することを教育目標としています。

3 履修について

マネジメント工学科では、すでに述べたように、ビジネスマネジメントコースと経営システムコース、フードマネジメントコースの3つのコースを設置しています。各コースは、学科としての教育目標を実現するために、基礎部分を共有していますが、それぞれコースの特徴を反映した異なるカリキュラムを用

意しています。

したがって、2年次のコース選択後は、自分が所属するコースのカリキュラムに基づいて、周到に履修計画を立てる必要があります。

4 ゼミナールⅠ・Ⅱ, 卒業研究について

3年次に開講されるゼミナールⅠ・Ⅱでは、学生の希望をできるだけ反映する仕方で、すべての学生が専任教員の研究室に振り分けられます。一人の教員が約15名の所属学生に対し、研究室のテーマに沿った学習をさめ細かに指導します。卒業研究に必要なとされる基礎学力は、このゼミナールⅠ・Ⅱによって養われます。さらに、ゼミナールⅠ・Ⅱを通して、指導教員との対話が増し、研究室の学生同士の親睦も深まり、将来の夢をお互いに語り合うことで、卒業後の進路を考える最初の機会が生まれます。その意味で、ゼミナールはとても重要な科目です。

卒業研究は4年間の学習の集大成です。それまでに習得した知識と考え方を土台に、所属する研究室の教員の指導を受けながら、一つのテーマの下に研究を進め、その成果をまとめるものです。卒業研究を通して、マネジメント工学の専門家として必要な理解力、分析力、応用力、対話能力、創造力、そしてエンジニアとして最も大切となる豊かな人間性が養われることを目指しています。

〈ゼミナールⅠ・Ⅱのテーマ〉

- テキストマイニングを活用した定性分析
- エージェントベースモデリングによるシミュレーション
- ユーザビリティ（使いやすさ）の評価
- 感性工学－ユーザ印象とモノの設計値の関係分析－
- メディアコンテンツ分析
- 数理最適化のためのプログラミング
- 数理最適化モデルの構築と応用
- ソフトウェア開発のためのプログラミング
- データ分析のためのプログラミング
- エンジニアリングとデザイン（設計）
- 材料の客観的評価（プラスチック善悪論）
- ゲーム理論
- ゲーム（意思決定問題）のプログラミングによる解決
- ロジスティクスシステム
- 物流センター業務の改善提案
- デジタルマーケティング
- データサイエンスによるユーザ評価のAI分析
- 統計科学と経営モデル
- 経営理論・経営課題・社会問題の実証研究
- 工学的リスク評価
- 人間信頼性評価
- オペレーションズ&プロダクションマネジメント
- リーンマネジメント
- 品質データに関する分析と評価
- OpenPoseを用いたスポーツの動作分析
- 深層学習を用いた古着の価格予測

〈卒業研究のテーマ〉

- 消費者行動分析
- 組織行動シミュレーション
- 企業理念・企業行動分析
- 自動車用の表示系やスイッチの使いやすさと運轉行動
- ユーザ・インタフェースの分かりやすさと効果的な改善
- 食品パッケージのデザインと視認行動誘導や印象の関係
- 店舗で流れるBGM速度と滞在時間の関連調査
- 数理最適化による社会シミュレーションの高速化
- 交通ネットワークにおける施設配置モデル
- ノンパラメトリック手法による都市分析
- 機械学習における近似最適化
- ベイズ統計とベイズ最適化 / AutoMLの理論
- 信号処理・画像処理・自然言語処理
- 様々なモノの耐久性、信頼性、経済性について
- 生産設備などの検査、管理方法の検討
- スポーツ用品の特性評価及び耐久性について
- ゲーム理論
- 社会シミュレーション
- 情報システム開発
- 物流現場改善
- ロジスティクスシステム
- 物流不動産マーケティング
- Web・SNS デジタルマーケティング
- 視線追跡による商品開発パッケージ評価
- AIによる企業評価
- 両利きの経営的視点によるM&Aが企業業績に及ぼす影響
- ディープラーニングによる知を活用したSECIモデルの実証
- 高齢者介護施設における入居希望者の入居可否要因
- 確率論的リスク評価
- 組織事故と安全文化
- ペット美容業界における新人育成プロセスに関する研究
- 無形時代における有形物購買に関する一考察
- MFCAを用いた蒸留プロセスの構造ロスに関する研究
- 大量データ・多次元データの圧縮分析法の検討
- 多次元距離の実データへの応用と予測
- パターン解析と数値的評価
- ランダムフォレストを用いたバレーの動作分析
- 大学キャンパスにおける学生の退構シミュレーション
- 深層学習や機械学習の経営に関する問題への応用

マネジメント工学科 ビジネスマネジメントコース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
全学共通 教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	選択	日本を考える	2								卒業要件外 ※3
	計									2	
教養科目	基礎科目	必修	体育	1						1	
		A群 選択	芸術と文学 歴史学	2 2	科学基礎論 心理学 教養探求	2 2 2				4	
			社会学 政治経済論	2 2	法学 総合科目	2 2	比較文化論 国際関係論	2 2		4	
		計								11以上	
	国際コミュニケーション科目	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1				4	
		選択	初習外国語 日本語表現法	1 1	イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1					
			日本の言葉	1							留学生のみ履修可
		プログラム履修者必修	英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		計								4以上	
	基盤科目	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学	2 2					4	
			選択	微分積分学Ⅱ	2	確率統計 微分方程式	2 2				
		物理系	必修	物理学Ⅰ	2					2	
			選択	物理学Ⅱ	2	物理学概論	2				
		化学・生物系	必修	化学	2					2	
			選択	応用化学	2	生物環境科学	2				
		実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1					4	
			選択	基礎科学演習 物理数学演習	1 1	計算科学基礎	2				
		情報系	必修	情報リテラシー	2					2	
		教職課程	選択		物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2			教職課程履修者のみ履修可
		計								14以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
			グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		プログラム履修者必修	技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
			ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
			つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可
		計								38以上	

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
生産工学系科目		必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 生産管理 経営管理 データサイエンス	1 2 2 2	生産実習 プロジェクト演習 技術者倫理	4 1 2			18	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。
		選択		産業関連法規	2	安全工学 生産工学特別講義 SDコミュニケーション	2 2 2			2以上	全学科共通科目	
	計											20以上
	専門教育科目	学科共通	必修	マネジメント工学総論 アカウンティング	2 2	人的資源管理 経営情報論 品質管理 販売流通管理	2 2 2 2					12
選択			工学基礎 情報科学 生産工学概論 基礎製図学	2 2 2 2	情報システム	2	商品企画開発 品質工学 ビジネスイングリッシュ	2 2 2				
コース		選択		経営法規 改善マネジメント論 在庫・物流管理 管理会計 経営統計	2 2 2 2 2	顧客・販売戦略 イノベーション・ケーススタディ リスクマネジメント プロジェクトマネジメント ビジネスと人工知能	2 2 2 2 2	環境マネジメント	2	24以上		
		必修		経営戦略	2	サプライチェーンマネジメント デジタルマーケティング	2 2			6		
実技科目		学科共通 必修		マネジメント工学実験Ⅰ コンピュータ演習Ⅰ マネジメント工学実験Ⅱ コンピュータ演習Ⅱ	2 2 2 2	ゼミナールⅠ マネジメント工学実習Ⅰ ゼミナールⅡ マネジメント工学実習Ⅱ	1 2 1 2	卒業研究 1 卒業研究 2	3 3	20		
			上記、専門教育科目（選択）から指定された単位数の他に6単位以上修得すること。									6以上
計										68以上		
合 計										128以上		

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上

卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上

上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※1 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

※2 他学科・他コースの専門教育科目で修得した単位（科目担当者に許可を得たうえで履修登録した科目）を最大 6 単位まで専門教育科目の 68 単位内に算入できる。

また、あらかじめ認められた他学部の科目（相互履修科目）等でも、教養基盤科目又は専門教育科目に算入できることがある（詳細は年度初めのガイダンス時に配布する資料を参照）。

※3 「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

マネジメント工学科 経営システムコース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
全学共通 教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	選択	日本を考える	2								卒業要件外 ※3
	計									2	
教養科目	基礎科目	必修	体育	1						1	
		A群 選択	芸術と文学 歴史学	2 2	科学基礎論 心理学 教養探求	2 2 2				4	
			B群 社会学 政治経済論	2 2	法学 総合科目	2 2	比較文化論 国際関係論	2 2		4	
		計								11以上	
	国際コミュニケーション科目	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1				4	
		選択	初習外国語 日本語表現法	1 1	イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1					
			日本の言葉	1							留学生のみ履修可
		プログラム履修者必修	英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		計								4以上	
	基礎 盤科目	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学	2 2					4	
			選択	微分積分学Ⅱ	2	確率統計 微分方程式	2 2				
		物理系	必修	物理学Ⅰ	2					2	
			選択	物理学Ⅱ	2	物理学概論	2				
		化学・生物系	必修	化学	2					2	
			選択	応用化学	2	生物環境科学	2				
		実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基礎実験A 工学基礎実験B	1 1 1 1					4	
			選択	基礎科学演習 物理数学演習	1 1	計算科学基礎	2				
		情報系	必修	情報リテラシー	2					2	
		教職課程	選択		物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2			教職課程履修者のみ履修可
		計								14以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基礎演習	2 2 1							
			グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		プログラム履修者必修	技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
			ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
			つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									38以上	

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考	
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数			
生産工学系科目	必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 生産管理 経営管理 データサイエンス	1 2 2 2	生産実習 プロジェクト演習 技術者倫理	4 1 2			18	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。		
		選択		産業関連法規	2	安全工学 生産工学特別講義 SDコミュニケーション	2 2 2			2以上			
	計									20以上	全学科共通科目		
専門教育科目	学科共通	必修	マネジメント工学総論 アカウンティング	2 2	人的資源管理 経営情報論 品質管理 販売流通管理	2 2 2 2				12			
		選択	工学基礎 情報科学 生産工学概論 基礎製図学	2 2 2 2	情報システム	2	商品企画開発 品質工学 ビジネスイングリッシュ	2 2 2					
	コース	選択		生産技術 情報処理基礎 経営戦略	2 2 2	人間－機械システム デジタルマーケティング 意思決定論 社会シミュレーション システム方法論 データベースシステム プロジェクトマネジメント	2 2 2 2 2 2 2			18以上			
		必修		信頼性工学 経営統計 人間工学	2 2 2	デザインエンジニアリング 機械学習 オペレーションズリサーチ	2 2 2			12			
	実技科目	学科共通 必修		マネジメント工学実験Ⅰ コンピュータ演習Ⅰ マネジメント工学実験Ⅱ コンピュータ演習Ⅱ	2 2 2 2	ゼミナールⅠ マネジメント工学実習Ⅰ ゼミナールⅡ マネジメント工学実習Ⅱ	1 2 1 2	卒業研究 1 卒業研究 2	3 3	20			
			計		上記、専門教育科目（選択）から指定された単位数の他に6単位以上修得すること。								
	計										68以上		
	合 計										128以上		

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上
卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上
上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※1 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

※2 他学科・他コースの専門教育科目で修得した単位（科目担当者に許可を得たうえで履修登録した科目）を最大 6 単位まで専門教育科目の 68 単位内に算入できる。

また、あらかじめ認められた他学部の科目（相互履修科目）等でも、教養基盤科目又は専門教育科目に算入できることがある（詳細は年度初めのガイダンス時に配布する資料を参照）。

※3 「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

マネジメント工学科 フードマネジメントコース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	選択	日本を考える	2								卒業要件外 ※3
	計									2	
教養科目	基礎科目	必修	体育	1						1	
		A群	芸術と文学 歴史学	2 2	科学基礎論 心理学 教養探求	2 2 2				4	
			社会学 政治経済論	2 2	法学 総合科目	2 2	比較文化論 国際関係論	2 2		4	
		計								11以上	
	国際コミュニケーション科目	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1				4	
		選択	初習外国語 日本語表現法	1 1	イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1					
			日本の言葉	1							留学生のみ履修可
		プログラム履修者必修	英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		計								4以上	
	基盤科目	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学	2 2					4	
			選択	微分積分学Ⅱ	2	確率統計 微分方程式	2 2				
		物理系	必修	物理学Ⅰ	2					2	
			選択	物理学Ⅱ	2	物理学概論	2				
		化学・生物系	必修	化学	2					2	
			選択	応用化学	2	生物環境科学	2				
		実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1					4	
			選択	基礎科学演習 物理数学演習	1 1	計算科学基礎	2				
		情報系	必修	情報リテラシー	2					2	
		教職課程	選択		物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2			教職課程履修者のみ履修可
		計								14以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
			グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		プログラム履修者必修	技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
			ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
			つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									38以上	

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
生産工学系科目	必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習	1	生産実習 プロジェクト演習 技術者倫理	4 1 2			18	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。	
				産業関連法規	2	安全工学 生産工学特別講義 SDコミュニケーション	2 2 2			2以上	全学科共通科目	
	選択											
	計									20以上		
専門教育科目	学科共通	マネジメント工学総論 アカウンティング	2 2	人的資源管理 経営情報論 品質管理 販売流通管理	2 2 2 2					12		
		工学基礎 情報科学 生産工学概論 基礎製図学	2 2 2 2	情報システム	2	商品企画開発 品質工学 ビジネスイングリッシュ	2 2 2					
		コース		改善マネジメント論 在庫・物流管理 経営統計 管理会計 海外市場展開 人間工学	2 2 2 2 2 2	デジタルマーケティング 機械学習 顧客・販売戦略 オペレーションズリサーチ ビジネスと人工知能 データベースシステム ホスピタリティマネジメント	2 2 2 2 2 2 2	環境マネジメント	2	22以上		
			必修		フードサプライシステム 経営戦略	2 2	サプライチェーンマネジメント イノベーション・ケーススタディ	2 2			8	
	実技科目	学科共通 必修		マネジメント工学実験Ⅰ コンピュータ演習Ⅰ マネジメント工学実験Ⅱ コンピュータ演習Ⅱ	2 2 2 2	ゼミナールⅠ マネジメント工学実習Ⅰ ゼミナールⅡ マネジメント工学実習Ⅱ	1 2 1 2	卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3 3	20		
		計									68以上	
	合 計										128以上	

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上

卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上

上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※1 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

※2 他学科・他コースの専門教育科目で修得した単位（科目担当者に許可を得たうえで履修登録した科目）を最大 6 単位まで専門教育科目の 68 単位内に算入できる。

また、あらかじめ認められた他学部の科目（相互履修科目）等でも、教養基盤科目又は専門教育科目に算入できることがある（詳細は年度初めのガイダンス時に配布する資料を参照）。

※3 「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

数理情報工学科

Department of Mathematical Information Engineering

1 数理情報工学科の特徴

日本の工学は、情報化社会と global standard による価値基準によって、これまで以上に技術開発型となっていくべき宿命を負わされております。

毎年、次々と技術革新が行われる状況にあって、その先端的役割を担い、中核で活躍することのできる情報処理技術者の育成を目指し、実践力と共に基礎力と問題解決能力の養成を重視した3つのコースを設置し、社会の要請に応えることのできる技術者の育成プログラムを用意しております。

1つめのコースはシミュレーション・データサイエンスコースです。情報処理技術者に必要とされる各種技術が習得できる情報関連科目だけではなく、データサイエンスの基盤となる科目も多く設置されております。自然現象、構造物等の人工システムに関わる複雑な現象、社会事象等の数理モデル化とその解析、さらにこれらに関わる制御・設計・意思決定等を行うための数理モデル化など、情報技術を駆使したシミュレーション技術についても自分の要求に応じて自由に選択して、学ぶことができるカリキュラムになっております。

2つめのコースはメディアデザインコースです。情報を表現する技術を中心として「魅力的な表現で、役に立つ情報を、必要とする人に提供する」ための情報の分析・処理・表現の全般に関するデザイン技術の習得ができるようにカリキュラムが構成されています。また実技科目が多数用意され、多様なメディ

アコンテンツのデザイン能力や、メディアシステムの企画提案、設計、管理といったプロジェクトマネジメント能力など幅広い知識と、世界を視野に活躍できるコミュニケーション能力を養うことができます。

3つめのコースは、コンピュータサイエンスコースです。インターネット、マルチメディア、知的情報処理というようなITの中心となるソフトウェアの基礎的かつ主要な技術、及びそれらを統合した情報システムの開発技術の習得が可能になるよう、カリキュラムは編成されております。情報工学（ソフトウェア）の標準的な基礎科目はもとより、コンピュータを用いた実技科目が多く用意され、基礎技術力の上に、さらに実践的な技術力を養うことができます。

情報そのものが本質的に global なものであるため、当然その技術並びに技術者は国際的なものであることが要請されます。コンピュータサイエンスコースの教育プログラムは global standard による認定を受けるべく日本技術者教育認定機構（JABEE Japan Accreditation Board for Engineering Education）に申請を行い、2007年5月に認定されました。学習・教育目標に基づいたカリキュラム及び教育プログラムのすべてが国際的基準のもとで検討されております。この教育プログラムに第三者の評価を受けることで、学科全体の教育プログラムに評価結果を反映させております。

2 学習・教育到達目標

数理情報工学科では、各コース毎に次のような学習・教育到達目標を掲げています。内容の詳細はホームページを参照してください。

〈シミュレーション・データサイエンスコース〉

- (A) 数学、自然科学、情報工学の基礎知識の習得
- (B) 技術者倫理の習得
- (C) システムの数理モデル化と解析シミュレーション技術の習得
- (D) 情報技術の活用能力の習得
- (E) システムのデザイン能力とインテグレーション能力の習得

〈メディアデザインコース〉

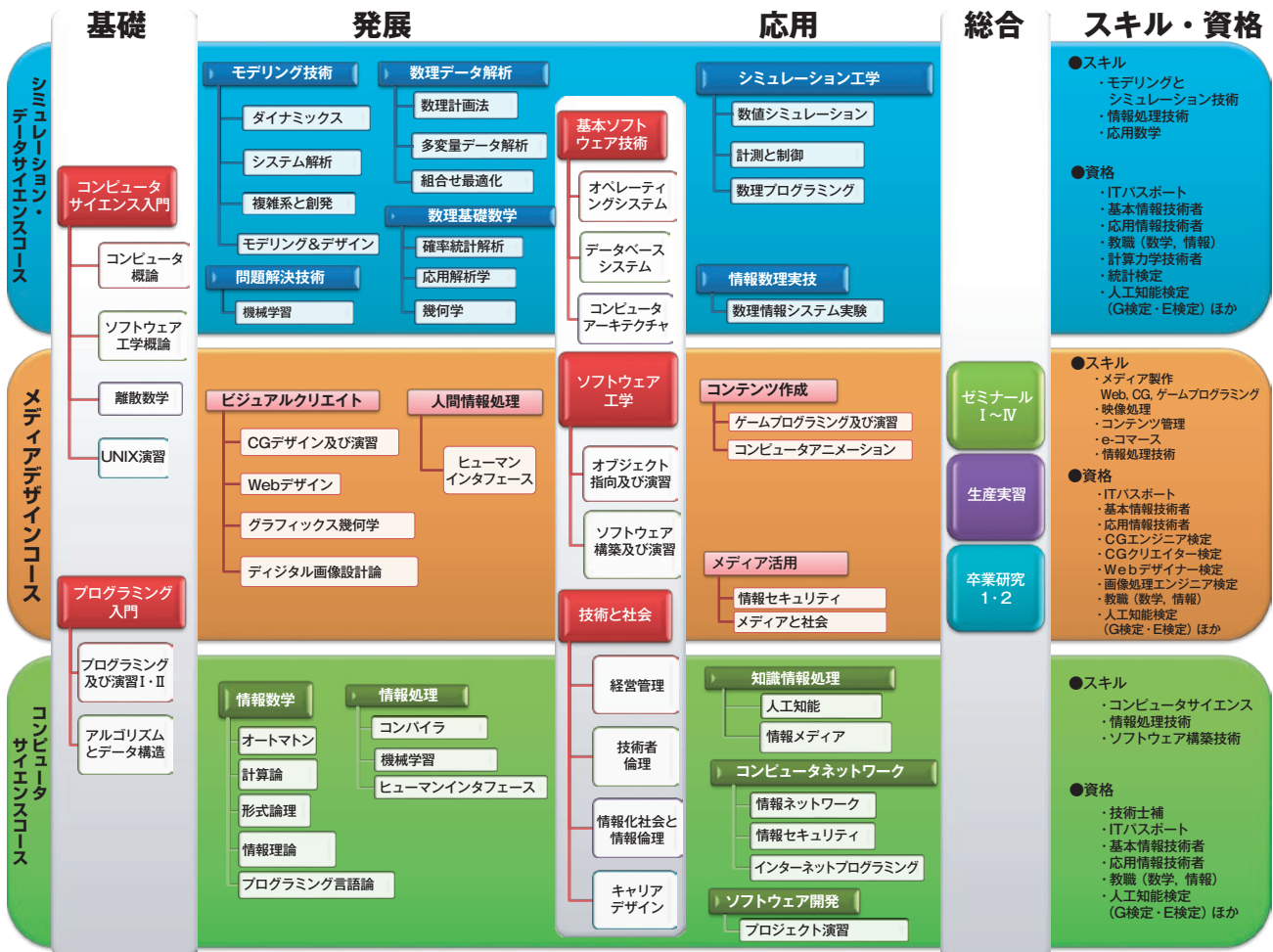
- (A) メディアデザイン技術及びそれに必要な基盤情報技術の習得
- (B) 技術者倫理の習得
- (C) プロジェクトの計画・遂行能力の習得
- (D) 社会の要求に対する問題解決能力とメディアデザイン能力の習得
- (E) メディア技術による表現及びコミュニケーション能力の習得

〈コンピュータサイエンスコース〉

- DP1 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、数理情報工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。
- DP2 国際的視点から、数理情報工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。
- DP3 数理情報工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。
- DP4 生産工学及び数理情報工学に関する視点から、新たな問題を発見し、解決策をデザインすることができる。
- DP5 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。
- DP6 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。
- DP7 チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。
- DP8 経験を主観的・客観的に振り返り、気づきを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

3 履修について

履修にあたっては、下図に示された各コースの主要な科目の位置付けと関係、数理情報工学科のホームページ等を参考にしてください。



主要科目とコースの関係

日本で唯一の生産工学科
日本大学生産工学部
世界で唯一の数理情報工学科

新着情報

学科

コース

大学院・数理情報工学専攻

70周年記念誌

校友会

シミュレーション・データサイエンス

Simulation Data Science

コース

Course

ホーム

コース

シミュレーション・データサイエンス

シミュレーション・データサイエンスコース（旧名：数理情報システムコース）

シミュレーション・データサイエンスコースでは、AI（人工知能）に代表されるIT（情報技術）と、それらを理解して活用するために必要な数理的能力を身につけます。日本と世界が目指す新しい情報化社会では、「シミュレーション」と「データサイエンス」が仮想空間と現実空間を繋ぐ大切な役割を果たします（左図）。本コースでは、これらの最先端技術を実践・開発・研究する上で必要な科目が、他コースや他大学に類を見ないほど充実しています。また、これらを学ぶための基礎となるプログラミングや数学を一から着実に学ぶことができます（右図）。

数理情報工学科 シミュレーション・データサイエンスコース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	選択	日本を考える	2								卒業要件外 ※3
	計									2	
教養科目	必修	体育	1							1	
	A群	芸術と文学 歴史学	2	科学基礎論	2					4	
			2	心理学 教養探求	2						
	B群	社会学 政治経済論	2	法学	2	比較文化論	2			4	
			2	総合科目	2	国際関係論	2				
	計									11以上	
	国際コミュニケーション科目	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1				4	
		選択	初習外国語	1	イングリッシュスキルC	1					
			日本語表現法	1	イングリッシュスキルD	1					
			日本の言葉	1							留学生のみ履修可
		プログラム履修者必修	英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									4以上	
	基盤科目	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学	2 2					4	
			選択	微分積分学Ⅱ	2	確率統計 微分方程式	2 2				
		物理系	必修	物理学Ⅰ	2					2	
			選択	物理学Ⅱ	2	物理学概論	2				
		化学・生物系	必修	化学	2					2	
			選択	応用化学	2	生物環境科学	2				
		実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1					4	
		科学系	選択	基礎科学演習 物理数学演習	1 1	計算科学基礎	2				
		情報系	必修	情報リテラシー	2					2	
		教職課程	選択		物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2			教職課程履修者のみ履修可
	計									14以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
		プログラム履修者必修	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
			技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
			ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
	計		つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									38以上	

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考		
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数				
生産工学系科目		必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 技術者倫理 データサイエンス	1 2 2	生産実習 プロジェクト演習 経営管理	4 1 2			16	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。		
		選択				生産工学特別講義 産業関連法規 SDコミュニケーション	2 2 2	安全工学 生産管理	2 2		4以上	全学科共通科目		
	計										20以上			
専門教育科目	学科共通	必修	プログラミング及び演習Ⅰ コンピュータ概論 離散数学	3 2 2	アルゴリズムとデータ構造	2					9			
		選択	プログラミング及び演習Ⅱ	3	確率統計解析 メディア信号処理 線形空間論 応用解析学 オブジェクト指向及び演習 情報化社会と情報倫理 ソフトウェア構築及び演習 コンピュータアーキテクチャー オートマトン 数理プログラミング ソフトウェア工学概論 オペレーティングシステム データベースシステム	2 2 2 2 3 2 3 2 2 2 2 2	情報ネットワーク 人工知能 情報理論 計算論 コンパイラ	2 2 2 2 2	情報セキュリティ	2	23以上			
	コース	必修			モデリング&デザイン 数理計画法	2 2	数値シミュレーション 機械学習	2 2			8			
		選択			複雑系と創発 システム解析 ダイナミックス	2 2 2	組合せ最適化 幾何学 カオスと情報処理 計測と制御 多変量データ解析	2 2 2 2 2	コンピュータグラフィックス	2	10以上			
	実技科目	必修					ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ	1 1 1 1	卒業研究 1 卒業研究 2	3 3	10			
		選択			アルゴリズムとデータ構造演習 UNIX 演習	1 1					1以上			
		コース 必修			数理情報システム実験	1					1			
	計			上記、専門教育科目（選択）から指定された単位数の他に6単位以上修得すること。									6以上	※ 2
	合 計												128以上	

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上

卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上

上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※1 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

※2 他学科・他コースの専門教育科目で修得した単位（科目担当者に許可を得たうえで履修登録した科目）を最大 6 単位まで専門教育科目の 68 単位内に算入できる。

また、あらかじめ認められた他学部の科目（相互履修科目）等でも、教養基盤科目又は専門教育科目に算入できることがある（詳細は年度初めのガイダンス時に配布する資料を参照）。

※3 「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

数理情報工学科 メディアデザインコース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	選択	日本を考える	2								卒業要件外 ※3
	計									2	
教養科目	必修	体育	1							1	
	A群	芸術と文学 歴史学	2	科学基礎論	2					4	
			2	心理学 教養探求	2						
	B群	社会学 政治経済論	2	法学	2	比較文化論	2			4	
			2	総合科目	2	国際関係論	2				
	計									11以上	
	国際コミュニケーション科目	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1				4	
		選択	初習外国語	1	イングリッシュスキルC	1					
			日本語表現法	1	イングリッシュスキルD	1					
			日本の言葉	1							留学生のみ履修可
		プログラム履修者必修	英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									4以上	
	基盤科目	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学	2 2					4	
			選択	微分積分学Ⅱ	2	確率統計 微分方程式	2 2				
		物理系	必修	物理学Ⅰ	2					2	
			選択	物理学Ⅱ	2	物理学概論	2				
		化学・生物系	必修	化学	2					2	
			選択	応用化学	2	生物環境科学	2				
		実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1					4	
			選択	基礎科学演習 物理数学演習	1 1	計算科学基礎	2				
		情報系	必修	情報リテラシー	2					2	
		教職課程	選択		物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2			教職課程履修者のみ履修可
		計								14以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
			グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
			技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
		プログラム履修者必修	ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
			つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									38以上	

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
生産工学系科目		必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 技術者倫理 データサイエンス	1 2 2	生産実習 プロジェクト演習 経営管理	4 1 2			16	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。
		選択					生産工学特別講義 産業関連法規 SDコミュニケーション	2 2 2	安全工学 生産管理	2 2	4以上	全学科共通科目
	計										20以上	
専門教育科目	学科共通	必修	プログラミング及び演習Ⅰ コンピュータ概論 離散数学	3 2 2	アルゴリズムとデータ構造	2					9	
		選択	プログラミング及び演習Ⅱ	3	確率統計解析 メディア信号処理 線形空間論 応用解析学 オブジェクト指向及び演習 情報化社会と情報倫理 ソフトウェア構築及び演習 コンピュータアーキテクチャー オートマトン 数値プログラミング ソフトウェア工学概論 オペレーティングシステム データベースシステム	2 2 2 2 3 2 3 2 2 2 2 2 2	情報ネットワーク 人工知能 情報理論 計算論 コンパイラ	2 2 2 2 2	情報セキュリティ	2	26以上	
	コース	必修			CGデザイン及び演習 ヒューマンインタフェース デジタル画像設計論	3 2 2	Webデザイン ゲームプログラミング及び演習	2 3			12	
		選択			コンピュータアニメーション	2	マルチメディアデータ論 メディアと社会 グラフィックス幾何学	2 2 2			4以上	
	実技科目	必修					ゼミナールⅠ ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ	1 1 1 1	卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3 3	10	
		選択			アルゴリズムとデータ構造演習 UNIX 演習	1 1					1以上	
	計		上記、専門教育科目（選択）から指定された単位数の他に6単位以上修得すること。									6以上 ※2
	計										68以上	
	合 計										128以上	

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上

卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上

上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※1 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

※2 他学科・他コースの専門教育科目で修得した単位（科目担当者に許可を得たうえで履修登録した科目）を最大 6 単位まで専門教育科目の 68 単位内に算入できる。

また、あらかじめ認められた他学部の科目（相互履修科目）等でも、教養基盤科目又は専門教育科目に算入できることがある（詳細は年度初めのガイダンス時に配布する資料を参照）。

※3 「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

数理情報工学科 コンピュータサイエンスコース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	計									2	
教養科目	必修	体育	1	科学基礎論	2					3	
	A群	芸術と文学	2	心理学	2					2	
		歴史学	2								
	B群	社会学	2	法学	2	比較文化論	2			4	
		政治経済論	2	総合科目	2	国際関係論	2				
	計									9以上	
	国際コミュニケーション科目	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1	イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1		6	
		選択	初習外国語 日本語表現法 日本の言葉	1 1 1							留學生のみ履修可
	計									6以上	
	基盤科目	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学 微分積分学Ⅱ	2 2 2	確率統計	2			8	
			選択			微分方程式	2				
		物理系	必修	物理学Ⅰ	2					2	
			選択	物理学Ⅱ	2	物理科学概論	2				
		化学・生物系	必修	化学	2	生物環境科学	2			4	
			選択	応用化学	2						
		実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1					4	
			選択	物理数学演習	1						
		情報系	必修	情報リテラシー	2					2	
	計									20以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
	計									38以上	
生産工学系科目	必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 技術者倫理 データサイエンス	1 2 2	生産実習 プロジェクト演習 産業関連法規 経営管理	4 1 2 2			18	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。
	選択					生産工学特別講義	2	安全工学 生産管理	2 2	2以上	
	計					SDコミュニケーション	2			20以上	全学科共通科目

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
専門 教育 科目	専門 工学科 目	必修	プログラミング及び演習Ⅰ	3	アルゴリズムとデータ構造	2	情報ネットワーク	2			28	
			プログラミング及び演習Ⅱ	3	ソフトウェア工学概論	2	情報セキュリティ	2				
			コンピュータ概論	2	コンピュータアーキテクチャー	2						
	A 群	選択	離散数学	2	オブジェクト指向及び演習	3					22 以上	
					ソフトウェア構築及び演習	3						
実技 科目	必修			数値計画法	2							
				オートマトン	2	人工知能	2			2	6 以上	
				オペレーティングシステム	2	形式論理	2					
計					データベースシステム	2	情報理論	2				
					計算論	2	情報メディア	2				
合 計					ヒューマンインタフェース	2	プログラミング言語論	2				
						機械学習	2					
					線形空間論	2	コンパイラ	2				
					確率統計解析	2	数値シミュレーション	2	コンピュータグラフィックス	2		
					情報化社会と情報倫理	2	組合せ最適化	2				
						インターネットプログラミング	2					
							カオスと情報処理	2				
					アルゴリズムとデータ構造演習	1	ゼミナールⅠ	1	卒業研究 1	3	12	
					UNIX 演習	1	ゼミナールⅡ	1	卒業研究 2	3		
							ゼミナールⅢ	1				
							ゼミナールⅣ	1				

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上

卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数

128 単位以上

上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※ 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

3 卒業要件外科目

				1 年		2 年		3 年		4 年		単位数	備考
				科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
全学共通教育科目				選択	日本を考える	2							
教養 基盤 科目	基盤 科目	教職課程	選択			物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2				教職課程履修者のみ履修可
						英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1			3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
	横断 科目	横断科目	プログラム履修者必修			グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1			3	
						技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1			3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
						ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1	5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
						つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1			3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可

※「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

環境安全工学科

Department of Sustainable Engineering

1 環境安全工学科の特徴

この学科で学ぶこと

科学技術の発達による恩恵は計り知れないものがあります。科学技術は私たちの生活を便利にし、時に新しい価値観を生み出し私たちの生活を豊かにしてきました。しかし21世紀になり、人類全体でその恩恵を享受しようとしたとき、20世紀型の科学技術では継続した文明の発展が不可能であることが明らかになりました。科学技術の進歩には人々を幸福にする側面だけでなく、地球環境へ影響を与えたり、私たちが予測できない危険を持ち得るという側面があるからです。これからは従来の科学技術を“サステイナブル”の観点から再構築し、持続発展可能な技術に転換していく道筋が重要です。このためには、環境共生とエネルギーを基軸に捉えた幅広い分野を横断する知識と技術が求められます。環境安全工学科ではサステイナブルという観点から環境共生・エネルギーの基礎知識を経営工学に関する知識とともに横断的に学修します。また持続発展可能な社会の実現には協働が必須となります。技術者として必要な協働力は、実習を通して主体性とともに身につけます。同時に21世紀はグローバル化の時代です。日本には既に社会、産業、そして文化を含めて世界との交流なしには成り立ちません。このような観点から、環境安全工学科ではカリキュラムにおいてインターナショナルコミュニケーション能力の一層の向上を図っています。そして、サステイナブルな観点から世界で活躍し、新たな問題の解決に貢献できる国際技術者の養成を目指しています。このような技術者の養成とともに、環境共生とエネルギーの観点から地球環境を守る複合工学である環境安全工学を発展させ、持続発展可能な社会の実現に寄与することを目指しています。環境安全工学科では次の2コースを設けて、専門教育を行っています。

2 環境安全工学科の教育目標

環境安全工学科では、地球規模の視野を持ち、持続発展可能な社会の実現のために工学分野を複合的に学びます。そして、環境共生とエネルギーに関する知識と応用能力及び技術が社会と自然に及ぼす効果と影響について、サステイナブル（持続可能）な視点から考え行動できる総合能力を有する技術者を養成することを目的としています。このような人材の養成のために、環境安全工学科では以下の8つの教育方針を設けています。

環境安全コース（Environmental Safety Course）

私たちは地球環境の変化とそれに付随する様々な環境問題に直面しています。将来を見通すと、地球環境と生態系サービスを回復させながら、全ての人に必要な利益を提供し、将来世代に引き継ぐことが重要な課題といえます。この課題解決を図るため、技術者には自然との共生の実現のため、環境共生技術が求められています。環境安全コースでは、現在社会で用いられている知識に関して理解を深めるとともに、関連する法令や規格に関する知識も身につけます。また実技科目を通して分析・解析手法を身につけ、発展する科学技術に対する適応力と新たな課題に対する問題解決力を身につけます。

環境エネルギーコース（Sustainable Energy Course）

地球温暖化による気温上昇により、エネルギーの転換問題が引き起こされています。いま、持続可能な発展に向け、気温上昇抑制の取組みが国際的に広がっており、我が国でも温室効果ガス低減に向けた厳しい目標を定めています。技術者には、エネルギー利用の効率化、省エネ技術の促進、新規材料開発や製造方法改良といった、ネガティブエミッション技術が求められています。環境エネルギーコースでは、持続可能な社会に向けたエネルギーの創出と利用のために必要な基礎的な知識について理解を深め、総合的なエネルギーの管理について必要な知識を身につけます。また実技科目においてエネルギーの創出や利用に関する実習を行い、持続可能な社会の実現に向けた技術者としての主体性と協働力を身につけます。

なお、コースの配属は2年後期に行いますが、配属方法については「学習の手引」を参照してください。

- 豊かな教養と自然科学・社会科学に関する基礎知識に基づき、環境安全工学分野に関わる技術者としての倫理観を高めることができる。
- 国際的視点から、環境安全工学の観点に基づいて必要な情報を収集・分析し、自らの考えを説明することができる。
- 環境安全工学を体系的に理解して得られる情報に基づき、論理的な思考・批判的な思考をすることができる。
- 生産工学及び環境安全工学に関する視点から、新たな問題を

発見し、解決策をデザインすることができる。

- 生産工学の視点から、適切な目標と手段を見定め、新たなことにも挑戦し、やり抜くことができる。
- 多様な考えを受入れ、適切な手段で自らの考えを伝えて相互に理解することができる。

3 履修について

環境安全工学科で行う専門教育は広範ですが、俯瞰的な視野を持った技術者となれるよう幅広い科目を学修できるようになっています。また深い専門性を持つことができるように、特定の学問・技術分野を系統的に学修できるように配慮して専門科目を配置しています。このような本学科のカリキュラムの特徴を十二分に活かして、幅広い教養と深い専門知識とともに修得できるように履修計画を立ててください。具体的な履修計画については、学習の手引きを参考にする他、専門教員に相談するとよいでしょう。

初年次には教養科目及び基盤科目において社会人として必要な教養と、技術者として必要な基礎知識を学修します。これに加えて環境安全工学に関わる基礎知識を、専門科目を通じて学修します。2年次においては、幅広い専門科目群を学修することによって俯瞰的な視点に立って洞察するための基礎力を養います。2年次後期より、環境安全コース、環境エネルギーコースに分かれ、環境共生とカーボンニュートラルに関する専門科目を学修していきます。3年次になると、より専門性の高い科目群を学修します。将来の進路を見据えて、自身の専門を深められるように履修科目を選択してください。3年次よりゼミナールに配属され各教員に相談する機会も増えると思いますので、各教員に履修科目について指示を仰いでもよいでしょう。また、こ

- チームの一員として目的・目標を他者と共有し、達成に向けて働きかけながら、協働することができる。
- 経験を主観的・客観的に振り返り、気づきを学びに変えて継続的に自己を高めることができる。

これらの専門科目群に対応して2年次より、環境安全工学実験が設置されており、これらを通して学修した知識を主体的に用い、また他者との協働によって問題解決する能力を養います。また、これらの専門科目と並行して一貫した国際コミュニケーション科目が設置されています。持続発展可能な社会の実現のためには、国際的な視野を持ち世界で活躍する技術者が必要です。専門教育での英語科目を通して、国際社会で活躍するための基礎力と国際感覚の養成を目指します。

さらに1年次より設置されている生産工学系科目を通じて、社会における個人の役割や社会で求められる管理能力について学修します。3年次に設置されている生産実習を通じて社会人として必要な能力について学び、卒業後の自己像を確立していきます。上記の幅広い分野に関する専門知識と実践力、コミュニケーション能力を修得することに加え、技術者倫理など、技術者として自立するための能力を養う科目も設置されています。

4年次の卒業研究においては各研究室での先端研究の一端を担うことにより、環境共生・エネルギー分野で活躍できる生産工学の素養を持ち持続可能な社会を担う技術者の養成を目指します。

4 卒業研究

研究テーマ

- 水圏に形成される環境の定量評価と将来予測モデルの開発
- 美しく住みよい地域づくり、まちづくりに向けた土木デザイン、地域計画に関する研究
- 衛星データを用いた自然災害時の被害状況の把握手法の開発に関する研究
- 環境負荷を低減するコンクリートの製造技術に関する研究
- 社会インフラ維持管理及び長寿命化に関する研究
- 環境問題解決に立ち向かう持続可能なエコマテリアルの設計開発
- 反応性化学物質の危険性評価と安全管理技術に関する研究
- 水素生成と水質浄化に利用できる多角的触媒の創製
- バイオディーゼル燃料製造プロセスの開発
- 微生物を利用した環境浄化及びバイオ燃料生産
- レーザー点火、レーザー燃焼計測、すす粒子生成メカニズム解明
- 大気環境保全のためのエネルギー変換システムの改善に関する研究

- E-fuel（再エネから合成した液体燃料）の着火・燃焼特性評価、プラズマによるターコイズ水素生成などの新しい脱炭素技術開発
- カーボンニュートラル燃料の燃焼性・排ガス特性改善とその評価



環境安全工学科 環境安全コース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
全学共通 教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	選択	日本を考える	2								卒業要件外 ※3
	計									2	
教養科目	必修	体育	1							1	
	A 群	芸術と文学 歴史学	2 2	科学基礎論 心理学 教養探求	2 2 2					4	
		社会学 政治経済論	2 2	法学 総合科目	2 2	比較文化論 国際関係論	2 2			4	
	計									11 以上	
	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1					4	
	選択	初習外国語 日本語表現法	1 1	イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1						
		日本の言葉	1								留学生のみ履修可
	プログラム履修者必修	英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1					3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									4 以上	
	数学系	必修 微分積分学Ⅰ 線形代数学	2 2							4	
		選択 微分積分学Ⅱ	2	確率統計 微分方程式	2 2						
	物理学系	必修 物理学Ⅰ	2							2	
		選択 物理学Ⅱ	2	物理学概論	2						
	化学・生物系	必修 化学	2							2	
		選択 応用化学	2	生物環境科学	2						
	実技系	必修 科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1							4	
		科学系 選択 基礎科学演習 物理数学演習	1 1	計算科学基礎	2						
		情報系 必修 情報リテラシー	2							2	
		教職課程 選択		物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2				教職課程履修者のみ履修可
	計									14 以上	
	横断科目	選択 生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1								
		グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1					3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1					3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
		ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1			5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
		つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1					3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									38 以上	

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考		
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数				
生産工学系科目		必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 データサイエンス 技術者倫理	1 2 2	生産実習 プロジェクト演習 経営管理	4 1 2			16	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。		
		選択		安全工学	2	産業関連法規 生産工学特別講義 SDコミュニケーション	2 2 2	生産管理	2		4以上	全学科共通科目		
	計										20以上			
専門教育科目	学科共通	必修	サステナブルエンジニアリング概論 環境安全概論 環境エネルギー概論	2 2 2							6			
		A 群		構造力学および演習 物理化学および演習 有機化学および演習 流体力学および演習	3 3 3 3					6以上				
			B 群	選択	図学および製図 メカトロニクス 景観まちづくり工学 分析化学 環境無機化学 エネルギー資源工学	2 2 2 2 2 2	ライフサイクルアセスメント ランドサーベイ 環境分析学 環境バイオ科学 材料化学 物質安全工学 環境材料工学 材料力学 設計工学	2 2 2 2 2 2 2 2 2	環境物質マネジメント	2	16以上			
				コース	必修		環境生態工学 コンストラクションマネジメント	2 2					4	
	選択						環境マネジメント 水圏環境工学 環境衛生工学 地盤力学 防災工学 環境アセスメント 地域デザイン 国土情報学	2 2 2 2 2 2 2 2	アセットマネジメント	2	10以上			
	実技科目	学科共通	必修		環境安全工学実験Ⅰ 環境安全工学実験Ⅱ 国際ナショナルコミュニケーション] ゼミナールⅠ	2 2 1 1	ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ	1 1 1	卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3 3	15			
		選択	サステナブルハイレベルゼミナール	1		国際ナショナルコミュニケーションⅡ	1							
	計			上記、専門教育科目（選択）から指定された単位数の他に11単位以上修得すること。									11以上	※2
	合 計												68以上	
合 計												128以上		

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上
卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上
上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※1 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

※2 他学科・他コースの専門教育科目で修得した単位（科目担当者に許可を得たうえで履修登録した科目）を最大 6 単位まで専門教育科目の 68 単位内に算入できる。

また、あらかじめ認められた他学部の科目（相互履修科目）等でも、教養基盤科目又は専門教育科目に算入できることがある（詳細は年度初めのガイダンス時に配布する資料を参照）。

※3 「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

環境安全工学科 環境エネルギーコース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
全学共通 教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	選択	日本を考える	2								卒業要件外 ※3
	計									2	
教養科目	必修	体育	1							1	
	A群 選択	芸術と文学 歴史学	2 2	科学基礎論 心理学 教養探求	2 2 2					4	
		B群 選択	社会学 政治経済論	2 2	法学 総合科目	2 2	比較文化論 国際関係論	2 2		4	
	計									11 以上	
	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1					4	
	選択	初習外国語 日本語表現法	1 1	イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1						
		日本の言葉	1								留学生のみ履修可
	プログラム 履修者必修	英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1					3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									4 以上	
	数学系 選択	微分積分学Ⅰ 線形代数学	2 2							4	
		微分積分学Ⅱ	2	確率統計 微分方程式	2 2						
	物理学系 選択	物理学Ⅰ	2							2	
		物理学Ⅱ	2	物理学概論	2						
	化学・ 生物系 選択	化学	2							2	
		応用化学	2	生物環境科学	2						
	実技系 必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1							4	
		科学系 選択	基礎科学演習 物理数学演習	1 1	計算科学基礎	2					
		情報系 必修	情報リテラシー	2						2	
		教職課程 選択		物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2				教職課程履修者のみ履修可
	計									14 以上	
	横断科目 プログラム 履修者必修	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
			グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
			技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
			ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
			つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									38 以上	

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
生産工学系科目		必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 データサイエンス 技術者倫理	1 2 2	生産実習 プロジェクト演習 経営管理	4 1 2			16	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。
		選択			安全工学	2	産業関連法規 生産工学特別講義 SDコミュニケーション	2 2 2	生産管理	2	4以上	全学科共通科目
		計									20以上	
専門教育科目	専門 教育 科目	学科共通	必修	サステイナブルエンジニアリング概論 環境安全概論 環境エネルギー概論	2 2 2						6	
			A 群		構造力学および演習 物理化学および演習 有機化学および演習 流体力学および演習	3 3 3 3					6以上	
			B 群		図学および製図 メカトロニクス 景観まちづくり工学 分析化学 環境無機化学 エネルギー資源工学	2 2 2 2 2 2	ライフサイクルアセスメント ランドサーベイ 環境分析学 環境バイオ科学 材料化学 設計工学 材料力学 物質安全工学 環境材料工学	2 2 2 2 2 2 2 2 2	環境物質マネジメント	2	16以上	
		コース	必修		電気エネルギー概論 熱エネルギー概論	2 2					4	
			選択				サステイナブルエネルギー工学 エネルギーキャリア 計測とデータ解析 エネルギー機器工学 エネルギー変換システム 制御とプログラム エネルギー利用科学 省エネルギー工学	2 2 2 2 2 2 2 2	エネルギーネットワーク	2	10以上	
			必修		環境安全工学実験Ⅰ 環境安全工学実験Ⅱ 国際ナショナルコミュニケーション ゼミナールⅠ	2 2 1 1	ゼミナールⅡ ゼミナールⅢ ゼミナールⅣ	1 1 1	卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3 3	15	
		実技科目	選択	サステイナブルハイレベルゼミナール	1		国際ナショナルコミュニケーションⅡ	1				
		計		上記、専門教育科目（選択）から指定された単位数の他に11単位以上修得すること。							11以上	※2
		合 計									128以上	

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上
卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上
上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

※1 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。

※2 他学科・他コースの専門教育科目で修得した単位（科目担当者に許可を得たうえで履修登録した科目）を最大 6 単位まで専門教育科目の 68 単位内に算入できる。

また、あらかじめ認められた他学部の科目（相互履修科目）等でも、教養基盤科目又は専門教育科目に算入できることがある（詳細は年度初めのガイダンス時に配布する資料を参照）。

※3 「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

創生デザイン学科

Department of Conceptual Design

1 創生デザイン学科の特徴

社会が多様化し、細分化されたユーザーの要求に答えるために、メーカーやデベロッパーの開発担当者は初めからデザイナーと共に社会のニーズ、ユーザーの趣向を細かく分析し、一緒になって答えをみつけなければなりません。使いやすさなどのユーザビリティの問題を解決するためにも、ユーザー、すなわち「人間」や人間が営む「生活」を理解する必要があります。一方では材料や構造、IT技術など、工学的な要素を統合できる能力が必要となります。創生デザイン学科は「LIFE × TECHNOLOGY × DESIGN」をキーワードに、「デザイン思考」によって、「ヒトのこともわかって、モノのこともわかる」人材を育てます。

さらに学生の興味と将来の方向性に合わせて、二つのコースを用意しています。

プロダクトデザインコース

文具から家電にいたる工業製品はもちろん、ロボットなどメカニカルな技術を含む製品までを対象に、材料や構造、安全性をも考慮しつつ、社会のニーズや使い手の立場にたったものづくりを実現できるデザイナーやデザインエンジニアの育成を目指します。さらには、社会の変革をもたらすようなアイデアやコンセプトを創生できる人材の育成を目指します。

空間デザインコース

空間デザインから住まい、街づくりにいたる、人々の暮らしや生活をデザインするための技術や方法、考え方を学びます。また、快適かつ安心な生活の提供はもちろん、これからの社会を見据えた生活の提案ができるようなデザイナーやデザインエンジニアの育成を目指します。さらには、次世代のライフスタイルやライフコンセプトを創生できるような人材の育成を目指します。

2 教育理念と目標

創生デザイン学科では、日本大学教育憲章に則り、自ら学び、自ら考え、自ら道をひらく能力を有し、社会に貢献できる人材を育成します。

このため本学科では、高等学校課程までに修得した知識・教養・倫理観を基に示された生産工学部の「求める学生像」に加え、以下に示す本学科の「求める学生像」も理解し、意欲的に学修を進めていくことのできる者を求めています。

「求める学生像」

- 豊かな知識・教養を身につけて高い倫理観をもって社会（日本社会・国際社会）に貢献することを目標とし、その目標に

向かって自ら継続的に学修する意欲をもつ人。すなわち、社会や環境の動向に深い関心を持ち、工学知識や技術及び技法をもってこれに貢献する意欲がある人。

- ニーズ発見から問題解決までに必要な情報の収集と分析を通してさまざまな領域を関連付けて考え、自らの思考力をもって、自らの考えをまとめ、わかりやすく表現しようと努力する人。
- グループやチームをとおして自己を高め、さらに挑戦することや振り返ることの必要性を理解した上で、「人との」「人とこと」の理想的な関係を築くことに強い関心を持ち、この問題解決に向けた新しい提案を生み出そうとする人。

3 カリキュラムの特徴

学部共通の教養科目と基盤科目に加えて、創生デザイン学科の生産工学系科目、専門教育科目（専門工学科目、実技科目）を連携して学修することにより、「ヒトのこともわかって、モノのこともわかる」デザイナー、デザインエンジニアに必要な**基礎知識**、**態度・指向性**、**汎用能力**、そして**総合能力**を身につけます。

生産工学系科目

生産実習を中心に据える生産工学系科目の学修を通して、生産工学の基礎知識と経営管理を含む管理能力を修得し、デザイナー、デザインエンジニアに必要な**態度・指向性**を身につけます。

専門工学科目

デザイン領域に関する体系化されたカリキュラムにより、芸術と工学に関する**基礎知識**を修得し、知識や社会の全体像をつかみ、高付加価値を生み出すデザイン能力を身につけます。

●専門工学科目（学科共通）

低学年次に設置されている必修科目でデザイン基礎をマスターした上で、「人間」「生活」の理解を深めるとともに、「新しいこと」「コンセプト」をシステムティックに発想する能力を高めるための最新のデザイン技法や、ニーズ発見のための商品企画等について学びます。

●専門工学科目（プロダクトデザインコース選択科目）

基礎から最先端までの「ものづくり」に必要な幅広い専門知識や、製品デザイン手法を修得し、新しい視点から物事を

捉え、新しい意味付けを与えていく企画・マネジメント能力を身につけます。

●専門工学科目（空間デザインコース選択科目）

人々の暮らしや生活、人々が集う場などをデザイン・プロデュースするための考え方や技法について学び、新しい空間デザインを考えます。

実技科目（学科共通）

ティーチングアシスタント、ピアサポーター制度を活用し、デザイン演習科目等の実技科目を中心に柱に据えることにより、「デザイン思考」を体得的に経験し、**汎用能力**を身につけ、ゼミナール、卒業研究でデザイナー、デザインエンジニアに必要な**総合能力**を身につけます。

	知識を理解する	技術を身につける	社会との関係を身につける	総合力を身につける
基礎 1～2年	デザイン基礎理論 創生デザイン概論 社会デザイン理論 デザイン思想史	デザイン基礎技法 デザインコミュニケーション演習 インフォグラフィックス演習 プロトタイピング演習 デザイン基礎製図 CAD 演習 プログラミング基礎 問題解決および提案 デザイン思考演習	生産工学系科目Ⅰ キャリアデザイン キャリアデザイン演習 SD コミュニケーション データサイエンス	
発展 2～4年	デザイン理論 サステイナブルデザイン 商品企画とブランディング エンジニアリングデザイン デザイン材料 構造力学 コンピュータシミュレーション エンバイラメンタルデザイン インテリアデザイン ソーシャルデザイン ヒューマンファクター インタラクションデザイン 色彩・明視 感性工学 エルゴノミクスデザイン	調査・研究手法 デザイン実験 プログラミング応用 製図技法 デザイン製図Ⅰ デザイン製図Ⅱ 問題解決および提案 デザインスタジオⅠ デザインスタジオⅡ	生産工学系科目Ⅱ 生産実習 経営管理 技術者倫理 生産管理 生産工学特別講義 産業関連法規 安全工学 プロジェクト演習	ゼミナール・卒業研究 ゼミナールA ゼミナールB 創生プロジェクト演習 卒業研究Ⅰ・Ⅱ
	専門選択科目（プロダクトデザインコース） 製品設計 製品生産 専門選択科目（空間デザインコース） 空間構法 空間設計			緑色：領域名称 太字：必修科目 橙色：実技系科目 細字：選択科目



デザインスタジオ



プロトタイピング演習

創生デザイン学科 プロダクトデザインコース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
全学共通 教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	選択	日本を考える	2								卒業要件外 ※3
	計									2	
教養科目	必修	体育	1							1	
	A群 選択	芸術と文学 歴史学	2 2	科学基礎論 心理学 教養探求	2 2 2					4	
		B群 選択	社会学 政治経済論	2 2	法学 総合科目	2 2	比較文化論 国際関係論	2 2		4	
	計									11以上	
	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1					4	
	選択	初習外国語 日本語表現法	1 1	イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1						
		日本の言葉	1								留学生のみ履修可
	プログラム 履修者必修	英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1					3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									4以上	
	数学系 選択	微分積分学Ⅰ 線形代数学	2 2							4	
		微分積分学Ⅱ	2	確率統計 微分方程式	2 2						
	物理学系 選択	物理学Ⅰ	2							2	
		物理学Ⅱ	2	物理学概論	2						
	化学・ 生物系 選択	化学	2							2	
		応用化学	2	生物環境科学	2						
	実技系 必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1							4	
		科学系 選択	基礎科学演習 物理数学演習	1 1	計算科学基礎	2					
		情報系 必修	情報リテラシー	2						2	
		教職課程 選択		物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2				教職課程履修者のみ履修可
	計									14以上	
	横断科目 プログラム 履修者必修	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
			グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
			技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
			ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
			つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									38以上	

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考	
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数			
生産工学系科目		必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 データサイエンス	1 2	生産実習 プロジェクト演習	4 1	経営管理 技術者倫理	2 2	16	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。	
		選択		安全工学	2	生産工学特別講義 SDコミュニケーション	2 2	生産管理 産業関連法規	2 2	4以上	全学科共通科目		
	計										20以上		
専門教育科目	専門工学科目	学科共通	必修	創生デザイン概論 インタラクションデザイン デザイン思想史	2 2 2	色彩・明視 デザイン材料 人間工学 図学 プログラミング基礎	2 2 2 2 2				16		
			選択		デザイン心理 プログラミング応用 デザイン実験	2 2 2	材料力学演習 サステイナブルデザイン 商品企画とブランディング 感性工学 データアナリシス ユニバーサルデザイン ソーシャルデザイン エルゴノミクスデザイン コンピューショナルデザイン インテリアデザイン 照明デザイン 構造力学 C A E サウンドスケープ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		20以上			
		コース	選択		製品工学	2	製品設計 製品生産	2 2					
	実技科目	学科共通	必修	デザインコミュニケーション演習 デザイン思考演習	2 2	プロトタイピング演習 デザイン基礎製図 デザイン製図Ⅰ C A D 演習 インフォグラフィックス演習	2 2 2 2 2	デザイン製図Ⅱ デザインスタジオⅠ デザインスタジオⅡ	2 2 2	卒業研究Ⅰ 卒業研究Ⅱ	3 3	26	
			選択				創生プロジェクト演習 ゼミナール A ゼミナール B	1 1 1					
				上記、専門教育科目（選択）から指定された単位数の他に 6 単位以上修得すること。								6以上	※ 2
	計											68以上	
合 計											128以上		

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上
卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上
上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

- ※1 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。
- ※2 他学科・他コースの専門教育科目で修得した単位（科目担当者に許可を得たうえで履修登録した科目）を最大 6 単位まで専門教育科目の 68 単位内に算入できる。
また、あらかじめ認められた他学部の科目（相互履修科目）等でも、教養基盤科目又は専門教育科目に算入できることがある（詳細は年度初めのガイダンス時に配布する資料を参照）。
- ※3 「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

創生デザイン学科 空間デザインコース

		1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考
		科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数		
教育科目	必修	自主創造の基礎	2							2	
	選択	日本を考える	2								卒業要件外 ※3
	計									2	
教養科目	必修	体育	1							1	
	A群	芸術と文学	2	科学基礎論	2					4	
		歴史学	2	心理学	2						
	B群	社会学	2	法学	2	比較文化論	2			4	
		政治経済論	2	総合科目	2	国際関係論	2				
	計									11 以上	
	国際コミュニケーション科目	必修	英語Ⅰ 英語Ⅱ	1 1	イングリッシュスキルA イングリッシュスキルB	1 1				4	
		選択	初習外国語 日本語表現法 日本の言葉	1 1 1	イングリッシュスキルC イングリッシュスキルD	1 1					留学生のみ履修可
		プログラム履修者必修	英語コミュニケーション基礎	1	英語コミュニケーション応用Ⅰ 英語コミュニケーション応用Ⅱ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									4 以上	
	基盤科目	数学系	必修	微分積分学Ⅰ 線形代数学	2 2					4	
			選択	微分積分学Ⅱ	2	確率統計 微分方程式	2 2				
		物理学系	必修	物理学Ⅰ	2					2	
			選択	物理学Ⅱ	2	物理学概論	2				
		化学・生物系	必修	化学	2					2	
			選択	応用化学	2	生物環境科学	2				
		実技系	必修	科学基礎実験A 科学基礎実験B 工学基盤実験A 工学基盤実験B	1 1 1 1					4	
			選択	基礎科学演習 物理数学演習	1 1	計算科学基礎	2				
	情報系	必修	情報リテラシー	2						2	
		選択			物理学実験(コンピュータ活用を含む) 化学実験(コンピュータ活用を含む) 生物学実験(コンピュータ活用を含む) 地学実験(コンピュータ活用を含む)	2 2 2 2	情報と職業	2			教職課程履修者のみ履修可
	計									14 以上	
	横断科目	選択	生産工学とSDGs エンジニアリングスキル 工学基盤演習	2 2 1							
			グローバル・ビジネスエンジニアリングⅠ	1	グローバル・ビジネスエンジニアリングⅡ グローバル・ビジネスエンジニアリングⅢ	1 1				3	グローバル人材育成プログラム履修者のみ履修可
		プログラム履修者必修	技術と経営	1	事業継承者・企業家の実務Ⅰ 事業継承者・企業家の実務Ⅱ	1 1				3	事業継承者・企業家育成プログラム履修者のみ履修可
			ロボットデザイン入門	1	ロボットデザイン基礎Ⅰ ロボットデザイン基礎Ⅱ	1 1	ロボットデザイン実践Ⅰ ロボットデザイン実践Ⅱ	1 1		5	ロボットエンジニア育成実践プログラム履修者のみ履修可
			つくりかたマップ	1	なんでも作るジム チャレンジ・ハッカソン	1 1				3	モノづくり人材育成プログラム履修者のみ履修可
	計									38 以上	

			1 年		2 年		3 年		4 年		卒業要件 (単位数)	備考		
			科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数	科目名	単位数				
生産工学系科目		必修	生産工学の基礎 キャリアデザイン	2 2	キャリアデザイン演習 データサイエンス	1 2	生産実習 プロジェクト演習	4 1	経営管理 技術者倫理	2 2	16	在籍する学科・コースに設置された科目を履修しなければならない。		
		選択		安全工学	2	生産工学特別講義 SDコミュニケーション	2 2	生産管理 産業関連法規	2 2	4以上	全学科共通科目			
	計										20以上			
専門教育科目	専門工学科目	学科共通	必修	創生デザイン概論 インタクションデザイン デザイン思想史	2 2 2	色彩・明視 デザイン材料 人間工学 図学 プログラミング基礎	2 2 2 2 2				16			
			選択		デザイン心理 プログラミング応用 デザイン実験	2 2 2	材料力学演習 サステイナブルデザイン 商品企画とブランディング 感性工学 データアナリシス ユニバーサルデザイン ソーシャルデザイン エルゴノミクスデザイン コンピューショナルデザイン インテリアデザイン 照明デザイン 構造力学 C A E サウンドスケープ	2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2 2		20以上				
		コース	選択		空間計画	2	空間設計 空間構法	2 2						
		実技科目	学科共通	必修	デザインコミュニケーション演習 デザイン思考演習	2 2	プロトタイピング演習 デザイン基礎製図 デザイン製図Ⅰ C A D 演習 インフォグラフィックス演習	2 2 2 2 2	デザイン製図Ⅱ デザインスタジオⅠ デザインスタジオⅡ	2 2 2	卒業研究 1 卒業研究 2	3 3	26	
				選択				創生プロジェクト演習 ゼミナール A ゼミナール B	1 1 1					
			上記、専門教育科目（選択）から指定された単位数の他に 6 単位以上修得すること。									6以上	※ 2	
	計										68以上			
	合 計										128以上			

1 卒業研究着手条件

卒業要件に係る単位から 104 単位以上
卒業に必要な単位数〔128 単位〕のうち未修得が 24 単位以下（22 ページ参照）。

2 卒業要件

総修得単位数 128 単位以上
上記の授業科目表の卒業要件を満たしたうえで合計で 128 単位以上修得すること。

- ※1 設置学期については、当該年度の時間割を参照してください。
- ※2 他学科・他コースの専門教育科目で修得した単位（科目担当者に許可を得たうえで履修登録した科目）を最大 6 単位まで専門教育科目の 68 単位内に算入できる。
また、あらかじめ認められた他学部の科目（相互履修科目）等でも、教養基盤科目又は専門教育科目に算入できることがある（詳細は年度初めのガイダンス時に配布する資料を参照）。
- ※3 「日本を考える」は卒業要件外科目ですが、履修上限に算入されます。また、GPA の値にも算入されます。

大学院

進学のおすすめ ～大学から大学院へ～

近年の研究開発や、その商業化のスピードは著しく速く、その技術革新による産業のハイテクノロジー化が進んでいます。社会が技術者に求める素養・能力はますます多様化・高度化し、基礎工学から先端技術工学までの知識と技術、幅広い視野と応用能力が技術者に要求されています。

また技術者として日進月歩する技術の展開に対応し、さらに新しい技術を開発する能力を身につけるためには、学部における4年間の教育だけでは難しくなっているのが現状です。

そのため、最前線で活躍する技術者となるには、大学院へ進学し、経験豊富な研究開発者の教育指導のもとでより高度な知識を得て、最先端の研究・実験を多く経験する必要性が、年々高まっています。

大学院生産工学研究科では、特に学部から大学院への“継続教育”により、学部での学習の中で修得した知識や技術・能力をより効率的に高めていくことができるようになっています。

大学院は、学部における教育を基盤とし、より高度な学問・研究を教授し、専攻分野における創造的な能力を育成するために設置されています。その構成は博士前期課程(修士課程)2年と、その後の博士後期課程(博士課程)3年とからなっています。

生産工学研究科について

大学院生産工学研究科は、機械工学専攻、電気電子工学専攻、土木工学専攻、建築工学専攻、応用分子化学専攻、マネジメント工学専攻、数理情報工学専攻の7専攻から構成されています。それぞれの専攻は、責任を持って学生の教育・研究活動を指導しています。

入学試験は博士前期課程・博士後期課程とも推薦入試と一般入試の2つの方式があります。博士前期課程の一般入試は、英語と専門科目の筆記試験、面接で行われます。

また、博士前期課程の推薦入試は、学内推薦と学内特別推薦入試が行われます。これらの入試は口述試験だけで行われますが、学内推薦はそれまでの大学の成績が上位1/3以内の学生に対して受験資格が与えられ、学内特別推薦は学部プログラム修了など募集要項に記載された条件の内一つを満たし、かつ、学科から推薦された学生に対して受験資格が与えられます。従って、普段からしっかり勉強しておくことが大切です。一人でも多くの方が大学院進学を志し、充実した学習・研究活動を行うよう期待しています。(※入学試験の日程、選考方法等は変更になる場合があります)

大学院在学中の経済的援助としては、各種奨学金制度の他にTA (Teaching Assistant) 制度があります。

TAは、学部の実験・実習などの教育現場で、担当教員の教育補助者として学部学生の指導をサポートする役割を担っています。TAとなった学生は大学院生活の経済面での一助を得るばかりでなく、後輩学生を教えるという体験を通して、自分がそれまでに学んだことを、より自分自身のものとして高めていくことにもなります。

大学院生産工学研究科の内容を詳しく示したのとして、「日

大学院生は、学部より高度な授業を受けることはもとより、指導教員と一緒に研究開発活動に励み、その成果を学会などで発表しながら、論文としてまとめていきます。

今日の産業界は、高度な専門的知識と創造的能力を兼ね備えた人材を多数必要としています。そのため、社会は大学院で学んだ学生に大きな期待を寄せています。実際に、産業界の第一線で研究開発に従事する研究者・技術者の多くは、大学院修了者で占められています。その傾向は今後、ますます強くなっていく一方、大学院教育の質的な改善も重要視されています。

これらの社会的動向を踏まえて、大学院生産工学研究科では専門科目に加えて各専攻の共通科目として生産工学系科目(横断科目、基盤科目、実習科目)を設置し、柔軟で俯瞰的な思考を養い革新的な生産技術を身に付けた実践的技術者の育成を目指しています。

社会で研究者・開発者として最前線で活躍することを希望する方は、大学生活の中で大学院へ進学することも視野に入れて、社会が期待する技術者像をしっかりと認識し、指導教授陣とよく相談しながら、一步一步着実に自分自身の実力を伸ばしてください。

本大学大学院生産工学研究科入学案内」が毎年4月に発行されています。これには、各専攻の教育内容や、指導教授の主要研究テーマなどが記載されています。また生産工学部ホームページの中にも、各専攻の最新情報が記載されています。特に、本研究科では令和4年度より、2専攻以上の教員が協働する研究プロジェクトを設け、このプロジェクトに所属し学部4年生から先行して博士前期課程の教育・研究を行う横断プログラムを開発していますので確認してみてください。

こうした資料をもとに、興味・関心のある研究室に実際に足を運んでみてください。先生や先輩方はいつでも歓迎してくれるはずです。そうして先生や先輩方と会話する中で、新しい夢や目標が見い出せるはずです。また、その好奇心と行動力こそが、優れた技術者・研究者としての第一歩になるのです。

大学院生産工学研究科学生数(令和5年5月1日現在)

専攻	博士前期課程		博士後期課程		
	1年	2年	1年	2年	3年
機械工学専攻	42	33	1	0	1
電気電子工学専攻	23	21	1	0	1
土木工学専攻	16	14	2	2	1
建築工学専攻	34	44	1	0	0
応用分子化学専攻	36	22	2	0	0
マネジメント工学専攻	6	19	0	4	2
数理情報工学専攻	12	9	2	0	1
合計	169	162	9	6	6

7つの専攻の教育・研究の目的

大学院生産工学研究科には、博士前期課程（2年）と博士後期課程（3年）があります。博士前期課程の各専攻の教育・研究の目的は以下のとおりです。

●機械工学専攻

他分野の技術との融合により急速に進歩する機械工学の技術者養成のために、専門的な研究指導と学際的な教育を合わせて行う。特に、飛躍的に発展を遂げつつある科学技術に対応できる柔軟で斬新な発想力、創造性豊かな能力及び協調性を身につけた高度の技術者・研究者を養成する。

●電気電子工学専攻

さらに一歩進んだ電気・電子・情報通信工学に係る学問を探究できる広い視野と深い学識を備え、論理的思考と創造力を基礎として新しい技術的領域に寄与できる技術者と研究者を養成する。

●土木工学専攻

土木技術をはじめ地球環境や生態系の保存、安心・安全な地域社会や市民生活などについて高度な専門的知識を教授する。そしてこれらの学識と、教員の個別指導による研究活動を通じて、国際的視野に立ち、企業等において技術的課題に挑戦できる指導的技術者を養成するとともに、研究者として自立できる人材開発をする。

●建築工学専攻

実学教育の理念に根ざし、建築工学に関わる専門的基礎知識、及び一般教養を基にして、社会の要請に十分応え得る建築技術者・デザイナーを養成するために、優れた総合能力と高度な実学的専門知識を、建築分野の各領域の研究を通し習得する。

●応用分子化学専攻

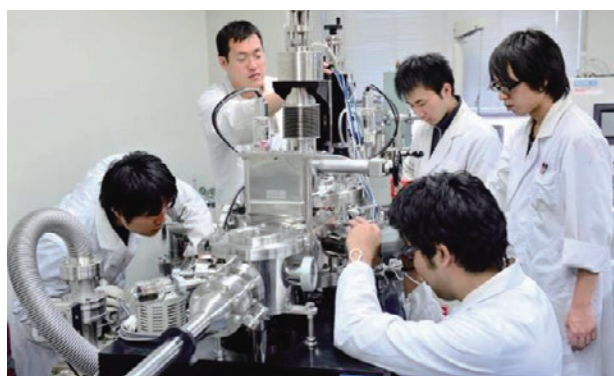
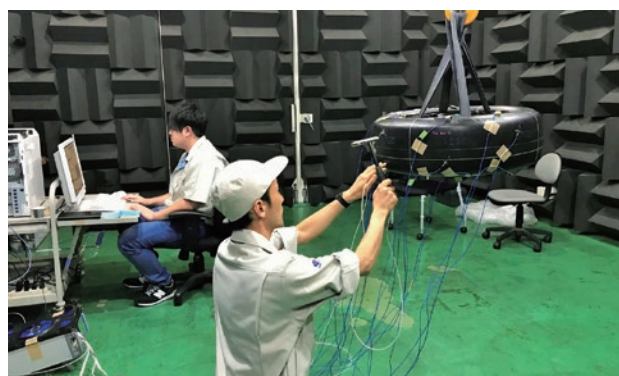
化学の専門知識を体系的に身につけるとともに、物質の物理化学的性質及び化学反応を分子論に基づいて理解し、グリーンケミストリーを基礎とした機能性材料の創出、化学プロセス及び化学計測システムの開発に携わることのできる研究者・技術者を養成する。また化学及びその関連領域における諸問題の解決に積極的に取り組み、産業界等で活躍することのできる上級化学技術者として必要な社会性・国際性を養う。

●マネジメント工学専攻

高品質の製品やサービスを効率よく生産・提供する方法を研究し、開発から生産、流通、廃棄に至る一貫した管理技術を修得させる。また品質や生産の管理だけでなく、組織の意思決定のプロセスにおける最適化や情報獲得の技術も教育する。企業や組織、社会システムや地球環境も含め、人が関わるあらゆるシステムを最適にマネージするための技術を研究・教育し、新しい産業社会に対応できる管理能力を備えた技術者・研究者を養成する。

●数理情報工学専攻

情報化時代に適応する数理情報工学の先進的教育・研究を通して、様々な問題に共通する数理的な構造を解明し、さらに問題解決のための数理的な手法と情報工学の活用について学ぶ。これによって、情報化社会における生産に関連したあらゆる場面で、高度に進化したシステムを扱うことのできる新しいタイプの実践的な能力を備えた技術者、教育者を養成する。



教職課程

教職課程とは

教職課程とは、「教育職員免許法」に基づいて中学校・高等学校の教員免許状を取得するために必要な授業科目を履修し、単位を修得できるように設置された課程です。

教職課程を修めようとする者は、本学部を設置された教養基盤科目及び各学科で専門教育科目として定める単位の他に、必要な教職課程科目をすべて履修し、単位を修得しなければなりません。

教職課程科目は、1年次から設置されていますが、将来、教員として活躍するには、今から幅広い教養を身につけておく必要があります。したがって、1年次に設置されている教養基盤科目も偏りなく履修しておくことが必要です。教職課程科目の履修希望者には、教員としての適格性、教職課程科目の単位を十分に修得できる能力、将来教職に就こうとする強い意志が要求されるので、軽い気持ちで教職課程を履修してはいけません。

教養基盤科目及び各専門教育科目と併せて教職課程科目を履修しなければならないので、1年次のうちから綿密な履修計画を立て、教職課程科目を履修するための負担が他におよばないように注意することが必要です。

教職課程の履修希望者に対しては、1年次最初のガイダンス期間中に行われる「教職課程ガイダンス」において、また後期ガイダンス期間中に行われる「教職課程ガイダンス」において「教職課程履修ガイド」を配布して、それぞれ詳しい説明を行います。教職課程の履修希望者は必ず出席し、教職課程の仕組みについてよく理解した上で計画的に履修してください。

また教職課程科目については、別途受講料が必要（1単位500円・その他、実験費・介護等体験費・免許状取得費等）です。受講料の詳細については「教職課程履修ガイド」を参照してください。

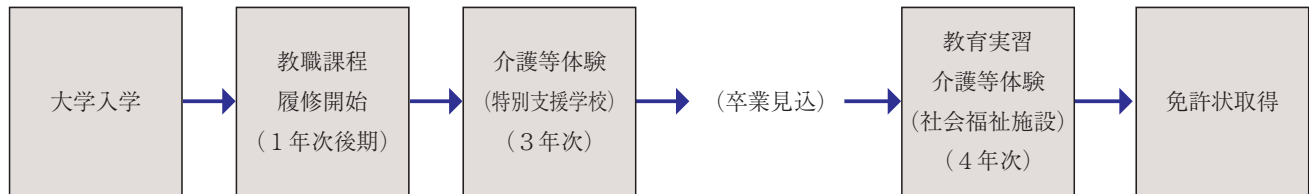
取得できる免許状

卒業及び修了に必要な単位の修得のほかに、教育職員免許法に定める科目を修得することにより、次の教育職員免許状が授与されます。

基礎資格	免許状の種類	免許の教科別	当該学科及び専攻
学部卒業	中学校教諭1種免許状	数学	数理情報工学科
		理科	機械工学科、電気電子工学科、土木工学科、建築工学科、応用分子化学科、環境安全工学科、創生デザイン学科
	高等学校教諭1種免許状	数学	数理情報工学科
		理科	機械工学科、電気電子工学科、土木工学科、建築工学科、応用分子化学科、環境安全工学科、創生デザイン学科
		情報	数理情報工学科
		工業	機械工学科、電気電子工学科、土木工学科、建築工学科、応用分子化学科、マネジメント工学科、環境安全工学科、創生デザイン学科
大学院修了	中学校教諭専修免許状	数学	数理情報工学専攻
		理科	機械工学専攻、電気電子工学専攻、応用分子化学専攻
	高等学校教諭専修免許状	数学	数理情報工学専攻
		理科	機械工学専攻、電気電子工学専攻、応用分子化学専攻
		工業	土木工学専攻、建築工学専攻、マネジメント工学専攻

大学入学から免許状取得まで

大学入学から教員免許状取得までの手順は下図のとおりです。



学年別予定表

年次 月		1年	2年	3年	4年
4月	上旬	教養基盤科目 } 履修開始 専門教育科目 }	教職課程ガイダンス 教職課程科目履修登録 (前期)	教職課程ガイダンス 教職課程科目履修登録 (前期) 教育実習受け入れ可否 打診・申込み 介護等体験 (特別支援学校) 申込み	教職課程ガイダンス 教職課程科目履修登録 (前期)
	下旬			教育実習事前・事後指導履修開始	教育実習関係書類配布
5月	中旬				教育実習(5～6月)
6月		教職課程ガイダンス		介護等体験事前講習 介護等体験 (特別支援学校) 開始	介護等体験 (社会福祉施設) 開始
9月		教職課程ガイダンス 教職課程科目履修登録 教職課程科目履修開始	教職課程ガイダンス 教職課程科目履修登録 (後期)	教職課程ガイダンス 教職課程科目履修登録 (後期)	教職課程ガイダンス 教職課程科目履修登録 (後期) 教育実習(9～11月)
10月					教育職員免許状一括申請 者出願名簿情報提出
11月	下旬				教育職員免許状一括申請 関係書類配付・確認
3月				介護等体験 (社会福祉施設) 申込み	教育職員免許状交付 (3月25日)

集中講義（物理学実験、化学実験、生物学実験、地学実験）及び教育実習事前・事後指導、介護等体験事前・事後指導やガイダンス及び諸手続きの日程については別途、ポータルシステムでお知らせします。

教職科目の履修開始は1年次の後期からになります。

集中講義の科目は、年度ごとに変更となる場合があります。

海外留学・国際交流

海外提携校への交換・派遣留学制度

生産工学部は、グローバル化社会に対応するために1998年12月に海外学部提携校選定委員会を設立し、検討の結果、本学部と研究・教育の面で同等レベルであり、所在地の町（人口約30,000人の小さな町で人口の約半分が学生）の治安が十分に良いことなどを理由に、オハイオ州ケント州立大学（KSU）と、1999年の6月に覚書の調印が行われました。

その後、2011年には韓国・全南大学校工科大学、台湾・中國科技大學、2016年には米国・ミシシッピ州立大学（MSU）と覚書の調印を行い、研究交流や学術交流を行ってきました。また、2016年1月には台湾・中國科技大學と交換留学についての制度を取決め、交流を深めています。

生産工学部交換留学

（台湾・中國科技大學／中国語圏）

2016年9月から、台湾の中國科技大學への交換留学が始まりました。9月から半年又は1年間の交換留学制度です。修得した単位は生産工学部の単位として認められる場合があります。

海外学部提携校

生産工学部では、教員の学術・研究交流を図り大学院生の研究交流や学部生の交流等をすすめるために、次のとおり学術交流の覚書の調印を行いました。大学院・学部学生の交流を行う際には、掲示等によりお知らせいたします。



中國科技大學は、台北及び新竹にキャンパスがあり、新竹キャンパスには、学生寮もあります。

生産工学部派遣留学

（米国・ケント州立大学／英語圏）

3月から12月までの10カ月間留学する派遣留学制度です。これまでに20年以上に亘って行っており、修得した単位は生産工学部の単位として認められる場合があります。

ケント州立大学は、オハイオ州クリーブランド市から南に車で約1時間のところにあります。キャンパス内に学生寮があります。

認定留学

2015年度から開始した留学制度です。日本大学または本学部の海外提携校ではない海外の大学等へ、日本大学生産工学部の許可を得て留学することができる制度です。修得した単位は生産工学部の単位として認められる場合があります。詳細は、教務課にお問い合わせください。

1999年6月	米国	ケント州立大学
2011年9月	韓国	全南大学校工科大学
2012年3月	台湾	中國科技大學管理學院、規劃與設計學院
2013年3月	台湾	中國科技大學資訊學院
2015年6月	米国	ミシシッピ州立大学
2019年4月	タイ王国	ランシット大学工学部
2019年8月	パラグアイ共和国	アスンシオン国立大学工学部

主な海外学術交流提携校等

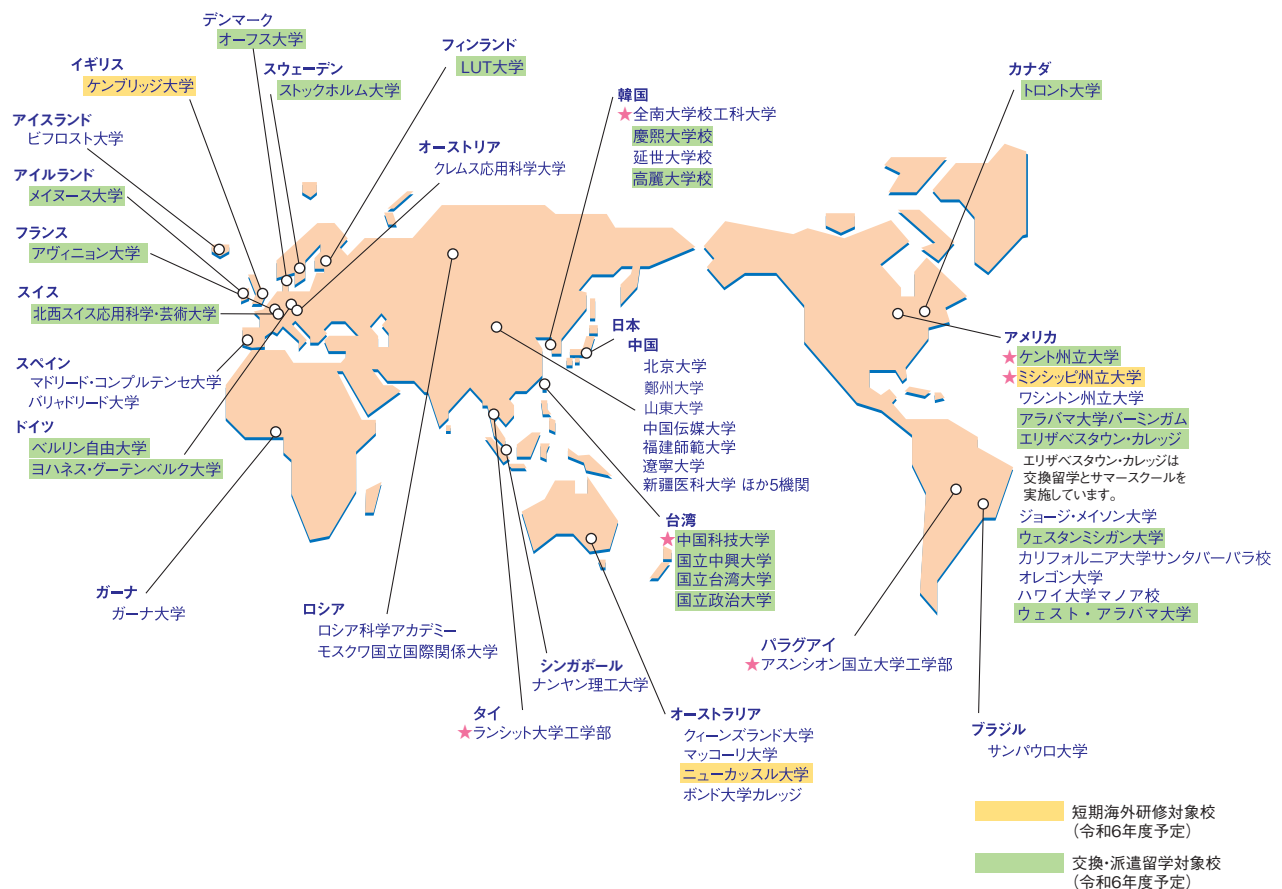
日本大学では、諸外国の大学等と学術交流協定を結び、積極的に国際交流を展開しています。協定校は、アメリカ、カナダ、イギリス、韓国、中国など33か国1地域129大学等におよび、教職員・留学生の派遣・受け入れ、共同研究、学生の短期研修、学術情報の交換などを行っています。(別掲の図参照)

日本大学本部が主催する交換留学プログラムでは、アジア、北米、欧州の協定校に毎年学生が留学しています。

また夏季・春季休暇などを利用した大学主催によるケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジでのサマースクールやオーストラリア・ニューカッスル大学でのスプリングスクールをはじめ学部・学科ごとの海外研修等活発な国際交流を実施しています。

詳細については、教務課に問い合わせてください。

★本学部提携校等



生 活 編



学生生活をはじめるにあたって

知っておいて欲しいこと

生産工学部は実習キャンパスと 津田沼キャンパスの2つで構成されています

主に1年生が学ぶ実習キャンパスには、教室棟・物理棟・化学棟をはじめグラウンドなどがあります。このキャンパスは、1年生の授業時間割表に記載されている教養基盤科目を中心に授業が行われます。

主に2年生以上が学ぶ津田沼キャンパスには、各専門学科棟、研究センター、図書館及び体育館などがあります。このキャンパスは、2～4年生の授業時間割表に記載されている全ての科目の授業が行われます。

伝達事項について

皆さんへの告知、通達その他の伝達事項は、すべてポータルシステム・ホームページ・掲示板によりお知らせいたします。

ポータルシステムURL <https://portal.cit.nihon-u.ac.jp/>



伝達事項の見落としがないように、毎日ポータルシステム・ホームページを確認する、更に掲示板を確認する習慣をつけてください。

ポータルシステム・ホームページ・掲示板の確認を怠り、不都合が生じてても大学は責任を負いません。

伝達事項は、次の場所にそれぞれ掲載・掲示いたします。

事項	掲示場所	取扱課
休講・補講・時間割の変更等授業に関する事項	*ポータルシステム・ホームページ	教 務 課 実習校舎事務課
試験に関する事項	*実習キャンパス 2号館(教室棟I)前 又は2階の掲示板	
教職課程に関する連絡事項		
学生生活全般に関する事項 課外活動・奨学金・その他	*ポータルシステム・ホームページ *津田沼キャンパス 学生課前・図書館前 掲示板 *実習キャンパス 2号館(教室棟I)前 又は2階の掲示板	学 生 課 実習校舎事務課
図書館利用に関する事項	*津田沼キャンパス 図書館内	図書館事務課
就職に関する事項	*津田沼キャンパス 37号館前 24号館1階 就職指導課前	就職指導課
学術講演会に関する事項	*津田沼キャンパス 37号館前	研究事務課
学科に関する事項	各学科の掲示板	各 学 科

学生証について

学生証は皆さんのID(身分証明書)ですので、常に携帯してください。また、学生証は学生証と有効期限を明示した「学生証裏面学籍シール」からなり、学生証の裏面に当年度の「学生証裏面学籍シール」が貼付されていない場合は無効です。

キャンパス内では学生証提示用名札ケース・ネックストラップを必ず着用してください。

- ① 学生証は大学が皆さんに貸与するものです。他人に貸与又は譲渡することはできません。本学を卒業する際は返還していただきます。また、退学・除籍の場合も返還していただきます。
- ② 試験時に学生証を不携帯の場合は受験できません。また、出席管理、各種証明書の発行、図書館、体育施設などの諸施設の利用の際に必要です。
- ③ 学内外で教職員に求められた場合は速やかに学生証を提示してください。
- ④ 他の学生の学生証を使用した場合や故意に汚損・破損した場合は、処分等の対象となります。

学生証裏面学籍シールについて

- ① 「学生証裏面学籍シール」は毎年前期ガイダンスで交付を受けてください。学生証は、毎年「学生証裏面学籍シール」を貼り替えることにより有効となります。
- ② 「学生証裏面学籍シール」の交付を受けたら直ちに氏名、学年、学生番号、現住所を確認してください。
- ③ 学生証は在学期間を通して使用しますが、「学生証裏面学籍シール」の有効期限は1年間です。
- ④ 現住所を変更した場合は、「学生証裏面学籍シール」の交換が必要になります。変更届を提出後、直ちに学生課で、新たな「学生証裏面学籍シール」の交付を受けてください。

NIHON UNIVERSITY

日本大学
学生証



生産工学部機械工学科
学生番号 00000000
氏 名 日本 花子
生年月日 平成△△年 7月31日
発行年月日 令和 △年 4月 1日
有効期限 20XX/03/31
日本大学
有効期限裏面に記載

氏 名	〇〇 〇〇	学年	1	学生番号	〇〇〇〇〇〇〇〇	
通学校舎所在地	千葉県習志野市新栄2-11-1					
現住所	千葉県習志野市泉町1丁目2-1					
通学区間	～ (經由) ～ (經由)					
通学定期乗車券発行控	発行年月日	通用	発行駅	発行年月日	通用	発行駅
備考						

学生証の汚損・破損又は紛失等による再発行について
117 ページを参照。

休講・補講について
24 ページを参照。

試験について
24 ページを参照。

呼び出し、連絡、照会について

家族・知人などから大学へ、電話による学生の呼び出しを依頼されることがありますが、大学では、学生の居場所については明確に把握しかねますので、呼び出しには応じていません。あらかじめ承知しておいてください。

また、電話による学生の住所、成績などの問い合わせにも個人情報保護法の都合上、一切応じません。

守らなければならないこと

喫煙のマナーを守ろう

喫煙は本人だけでなく、周囲の人々もタバコの煙によって害を受けます。大学生になっても「未成年者喫煙禁止法」で **20 歳までは喫煙が禁止されています**。20 歳になれば、タバコを吸うのは自己責任ですが、健康に影響が出るのはもちろん、女性の場合は妊娠・出産時の胎児への害も危惧されます。

生産工学部では、学生の皆さんの健康への配慮はもちろんのこと、キャンパス内及び周辺地域の美化のため下記事項を徹底しています。

- ① 歩きタバコの禁止
- ② 吸殻のポイ捨て禁止
- ③ 所定の場所以外での喫煙禁止
- ④ 実初キャンパスは全面禁煙

タバコを吸わない人たちが周辺住民の方々とのトラブルに発展しかねませんので、吸わない人への心配りを持って、キャンパス内に限らず駅や商店街・路上等でも喫煙マナーを守りましょう。

自動車通学は一切禁止です

本学部では自動車による通学は一切禁止しています。サークル活動または課外活動や個人的な活動も含みます。

理由は、以下のとおりです。

- ① 交通事故の防止（年に数件の死傷事故が発生しています。）
- ② 駐車場が確保できない（違法駐車で、近隣住民とのトラブルの原因になります。）

自転車保険加入・及び自転車ヘルメットの着用について

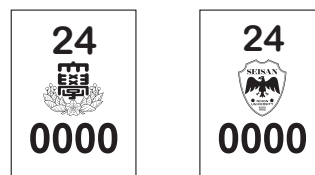
全国の自治体で自転車保険の加入が義務化になっています。（令和 5 年 4 月 1 日現在 32 都道府県）

通学等で自転車を利用する場合は、自転車保険に加入しましょう。居住にかかわらず、千葉県内で自転車に乗る場合は、保険加入の義務が発生します。

改正道路交通法の施行により、すべての自転車利用者のヘルメット着用が努力義務となっています。

バイク・自転車登録手続き及び駐輪等注意事項について

バイク・自転車で通学（自宅から最寄り駅までの使用者を含む）する学生は、毎年 4 月に実初校舎事務課又は津田沼キャンパス学生課で、必ずバイク・自転車登録をしてください。登録ステッカーを渡しますので指定箇所に貼り付けて、駐輪場に止めてください。バイク・自転車は駐輪場内であっても放置しないでください。有効期限は当該年度の 3/31 までですので、必ず毎年 4 月に登録手続きを行ってください。



（見本 バイク・自転車登録ステッカー）

毎年ステッカーの色は更新されますので、登録手続きの後は、必ずステッカーを貼り替えてください。

また、車種変更の場合も再登録が必要です。登録車両以外は無許可駐輪として、撤去等の処置をします。キャンパス内への乗入れも禁止です。最近バイク・自転車の盗難が頻発していますので、駐輪の際には忘れずにチェーンロックなどで二重に施錠してください。駐輪場・バイク置き場内では、接触等トラブルがないよう心がけてください。なお、キャンパス内でのバイクのトラブルに関しては、大学は責任を負いかねます。

※バイク・自転車のキャンパス内での注意事項

- ・入構時：門外で降車し押して移動。
- ・退構時：キャンパス内は押して移動し、門外で乗車。（キャンパス内でバイクのエンジンは停止してください。）

通学中のマナーを守ろう

商店街や駅周辺の人混みの多い場所では、周囲に迷惑をかけることがないように注意してください。

道幅いっぱいの集団歩行、歩きスマホは、自身の事故にもつながります。危険ですのでやめましょう。ヘッドホンやイヤホンは、周囲の状況がわかる音量にしましょう。

バイク通学者の注意事項について

バイクの運転には危険が伴いますが、電車・バスを利用するよりも通学時間を大幅に短縮できる場合には、バイク通学を認めています。バイク通学者は十分に注意を払って安全運転を心がけてください。

ソフトウェアの不正コピーについて

IT文化の便利さを享受できるのは、コンピュータのおかげです。ただし、そのコンピュータもソフトウェアあってこそ。ソフトウェアの不正コピーは開発への正当な対価を損なわせて健全な IT文化の発展を阻害します。不正コピーは犯罪です。許可のない楽曲や画像、映像のコピーなども著作権侵害で、多額の賠償請求や刑事罰を科せられることがあります。未来のために、自分のために、著作権法を守りましょう。

キャンパス内での遊具の使用, 球技, ドローン等飛行の禁止について

本学部では、キャンパス内でのスケートボード等の遊具の使用や所定の場所以外でのキャッチボール等の球技については、騒音や他者との接触によるケガの危険性が高いことなどから禁止しています。

また、ドローン等についても同様の理由で飛行を禁止しています。

なお、これらについては、学外であっても許可されている時間や場所を確認し、ルールやマナーを守ってください。

※体育館等学内施設の利用を希望する場合は、学生課にご相談ください。

危険物等の持ち込みについて

キャンパス内への危険物の持ち込みを禁止しています。また火気の使用、施設や器物の汚損や周囲に危険・迷惑を及ぼす行為並びに教職員・警備員の指示に従わない行為も禁止しています。

ゴミの分別について

ゴミは燃えるゴミ・カン・ビン・ペットボトルなどに分別して捨ててください。

また、ゴミの不法投棄は禁止しています。

携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル機器について

授業中は、携帯電話・スマートフォン・ウェアラブル機器の電源を切ってください。また、試験中は監督者の指示に従ってください。

学生食堂について

- ① セルフサービス方式ですので、食べ終わった食器は必ず自分で指定の場所に片付けてください。
- ② 空き缶・カップラーメンの容器等のゴミは、分別してゴミ箱に捨ててください。
- ③ カップラーメン等の汁は、食堂内の所定の場所に捨ててください。(手洗場等には、絶対に捨てないでください)

「掲示」「印刷物の配布」について

サークル勧誘等、学内でのポスターの掲示や印刷物の配布は、許可が必要です。必ず事前に学生課に相談してください。

現住所(本人・保証人)・保証人氏名・電話番号(本人・保証人)・通学経路の変更について

次の事項に変更が生じたときは、速やかに学生課又は実習校舎事務課へ届け出てください。変更届の提出を怠っていると、大学からの事務連絡や緊急時の連絡が伝わらず、不利益をこうむることになります。

- ・本人の現住所が変わった場合
 - ・改姓など戸籍上の変更があった場合
 - ・保証人の現住所が変わった場合
 - ・保証人の氏名が変わった場合
 - ・本人又は保証人の電話番号(携帯電話を含む)が変わった場合
- ※変更届を出さなかったため不都合が生じてても大学は責任を負いません。

大地震時 緊急対応カードについて

緊急時の個人情報記入のうえ、学生証呈示用名札ケースに入れて、常に携帯してください。



気をつけて欲しいこと

落し物・忘れ物について

キャンパス内での落し物や忘れ物が多くあります。拾得物は津田沼キャンパスでは学生課、実習キャンパスでは実習校舎事務課で取り扱っています。落とし物の保管期限は原則3か月です。

盗難について

キャンパス内で現金など貴重品の盗難が少なからず発生しています。教室や図書館では荷物を置いたまま席を離れないようにし、財布・貴重品は必ず携帯するよう心がけてください。万が一被害に遭ってしまった場合は、速やかに津田沼キャンパスでは学生課、実習キャンパスでは実習校舎事務課に申し出ると

共にキャッシュカード等の発行元に連絡を入れてください。

悪徳商法について

路上で「アンケートに協力して」といって声を掛けられたことはありませんか。それがキャッチセールスで、金銭トラブルの多い商法です。また、英会話DVDなど学習用教材の割賦販売のなかにもトラブルが多発しています。これらは、「海外留学の特典がある」などの甘い誘いと、「すばやい契約」がつきもので「解約に応じてくれない」「多額の違約金を請求された」などのトラブルが多いようです。

いずれも安易な契約がトラブルの原因ですので、契約に際しては、その内容について時間をかけて十分に検討したうえで判

断してください。そして、甘い誘いにはのらず「断る勇気」を持ちましょう。

なお、解約に関しては無条件で解約できる「クーリング・オフ制度」があることも知っておいてください。

このほか悪徳商法には次のようなものがありますので、おかしいと思ったら、まずはっきりと断ってください。

クーリング・オフについて

クーリング・オフとは訪問販売や割賦販売などの契約と一定の期間内なら無条件で解約できる制度のことです。

- ・ 訪問販売に関する契約は8日間
- ・ マルチ商法に関する契約は20日間

通知の方法は、口頭ではなく文書を内容証明郵便又は簡易書留郵便で送付してください。

マルチ（連鎖販売取引）商法について

「販売員を増やせば多額の手数料が入ります」などの触れこみでネズミ算式に販売組織を広げる商法です。ノルマ達成のため詐欺的・強迫的な勧誘に奔走せざるをえない末路となりますので、こうした商法に関与しないよう十分注意してください。

振り込め詐欺について

「おれだよ、おれ」と息子や孫、親族をかたって電話を掛け、電話に出た者に対し、「事故に遭ってお金が必要になった。すぐにお金を振り込んでくれ」などと話し、指定した口座に現金を振り込ませる詐欺事件です。

最近では警察官や弁護士、保険会社を名乗って仲介を装い、示談金を請求するなど、手口が巧妙化しています。

このような被害に遭わないために、事実関係を必ず確認すること、警察、消費者センターに相談するなど、焦らず冷静な対応をするよう心がけてください。

アポイントメント商法について

「あなたが選ばれました」という電話や手紙で勧誘され、商品を買わされる商法です。粗悪品と多額の請求書が送られてきます。十分注意してください。

資格取得商法について

講座を受けるだけで「〇〇資格が取れます」という手紙で勧誘されて、多額の受講料を払わせる商法です。十分注意してください。

「金融ローン」の利用について

「学生証だけで低利融資します」というこれらのローンは、利用手続きの簡便さが特徴です。しかし、実際には高金利の利息を支払うことになり、わずかな借金でも、利息が利息を生み、その返済で学業に支障をきたすばかりでなく、周囲にまで迷惑を及ぼす結果となります。どうしてもお金が必要なときは、両親などによく相談してください。

薬物乱用の防止について

大麻の売買や吸引で大学生が逮捕・起訴される事件が相次いでいます。覚せい剤、大麻などの薬物は「やせられる」「かっこいい」「楽しい」といったイメージを持っている人もいますが、大きな間違いです。一度だけの使用でも死に至ることもある非常に危険な薬物です。また、違法薬物の所持や使用は犯罪です。所持するだけでも覚せい剤は10年以下の懲役、大麻は5年以下の懲役に科せられます。万が一誘われてもあなた自身の強い意志で断ってください。困ったことがあったら学生課に相談してください。

飲酒（イッキ飲み等）について

新入生歓迎行事等で飲酒の機会が多くなる時期に、「イッキ飲み」での急性アルコール中毒による事故が多くなっています。節度ある飲酒を心がけるようにしてください。また、20歳未満の飲酒は法律で禁止されていますので、十分に留意してください。

カルト的宗教団体の勧誘について

大学のキャンパスや通学路周辺で勧誘を行う宗教団体があります。これらの団体は最初は自分たちの本心を隠し、サークル活動やボランティア活動等を装い巧みに誘い、ある程度の信頼関係・人間関係ができてから宗教の勧誘を行います。そして、あたかも自分の意思決定による行動といったように断れない雰囲気の中で入信を強要してきます。被害にあわないためには、氏名・住所・メールアドレス等の個人情報をむやみに教えないこと。団体の施設には決して行かないこと。そして、勇気を持って毅然とした態度で断ることが大切です。もし、カルト的宗教団体の被害に遭ったときは学生課に相談してください。また、学内でカルト的宗教団体の勧誘を受けたり、見かけた場合も学生課に連絡してください。

SNS等上での書き込みについて

SNS等に、明確な根拠もなく一方的に他者の中傷するような内容や、「飲酒運転をした」など事実と異なる虚偽の内容を書き込み、名誉毀損や違法行為に当たるとして大学に厳しい批判の声が寄せられるケースが目立っています。SNS等は不特定多数が閲覧可能であり、他者の中傷するような内容や安易な私的情報の書き込みが予想外の誤解を与え、相手に多大な精神的苦痛を与えるとともに、本人はもちろん周囲にも迷惑をかけたり、トラブルになる可能性があります。皆さんは学生としての社会的責任を自覚し、SNS等上には軽率な書き込みをしないよう十分に注意してください。

犯罪に対する情報について

様々な犯罪から身を守るため、普段から新聞・テレビ・ラジオなどの犯罪情報に耳を傾けましょう。

また、インターネットでも情報を入手できます。下記のホームページにアクセスしてください。

千葉県警ホームページ www.police.pref.chiba.jp

警視庁ホームページ www.keishicho.metro.tokyo.lg.jp

千葉県消費者センターホームページ

www.pref.chiba.lg.jp/customer

学費について

授業料等の学費は、次のように定められています。それぞれの期日までに納入してください。

納入期日：前期 4月末日 後期 9月末日

2024 年度入学者の学費

項目	1 年 次		2 年 次		3 年 次		4 年 次	
	入学時	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期	前 期	後 期
入 学 金	260,000							
授 業 料	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000	550,000
実 験 実 習 料	40,000	40,000	45,000	45,000	50,000	50,000	50,000	50,000
施 設 設 備 資 金	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000	110,000
維 持 会 費	30,000		30,000		30,000		30,000	
校 友 会 費 (準 会 員)	10,000		10,000		10,000		10,000	
合 計	1,000,000	700,000	745,000	705,000	750,000	710,000	750,000	710,000

※卒業年度の後期に校友会費（正会員）初年度分を1万円納入。

※一括納入が困難な方は、会計課までお問い合わせください。

学生生活について

学籍

修業年限

修業年限とは、本大学の教育課程を修了するために必要な期間のことです。卒業までの修業年限は最低4年（2年次編入学生は最低3年，3年次編入学生は最低2年）です。

在学年限

在学年限とは、本大学において学生の身分を有することができる期間のことです。大学に在籍することのできる在学年限は8年（2年次編入学生は7年，3年次編入学生は6年）を超えることができません。

休学

病気その他やむを得ない事由により、引き続き3か月以上修学することのできない者は、クラス担任と相談の上、学生証とその事実を証明する書類を添え、保証人連署で教務課に届け出てください。原則として入学年度を除き、休学することができます。ただし、入学年度の後学期については、修学困難な事由*による場合は認めることがあります。

*修学困難な事由

病気、大規模災害被災及び留学生の兵役等、本大学の教育課程において一定期間学修することが実質的に困難な場合

休学の願い出について（2年次以降）

下記の期限までに「休学願」を提出した場合、学費は徴収されずに休学在籍料等が徴収されます。学費を全額納入後に休学を許可された場合は、休学在籍料等との差額が返還されます。

また、下記の期限を過ぎて願い出た場合は、所定の学費全額の納入が必要です。（学費についての詳細は会計課へ）

・前期・通年の休学を願い出る場合……5月31日まで

・後期の休学を願い出る場合………11月30日まで

休学期間は1学期又は1年ですが、通算して在学年限の半数を超えることは出来ません。

なお、休学期間是在学年数には含まれ8年を超えて在学することはできませんので、注意してください。

復学

休学期間満了の際、復学を願い出ていただきます。学期末に案内する復学の案内にて手続きいただいた後、学期の始めから復学となります。

休学・復学に関する詳細については、教務課で相談してください。

除籍

理由なく学費の納入を怠った場合、理由なく欠席が長期にわたる場合、あるいは在学年限を超えた場合は除籍になることがあります。

除籍については、教務課で相談してください。

退学

病気その他やむをえない理由により、退学しようとする場合は、クラス担任に相談の上、学生証とその事実を証明する書類を添えて、保証人連署の上、教務課に届け出てください。

ただし、退学後、再入学することは難しいので、慎重に考えてください。病気その他やむをえない理由により退学した者がその事由が解消し、再入学を希望した場合、学則第29条により選考のうえ許可されることがありますが、既修得授業科目の全部又は一部の再履修を命ずることがあります。学費を全額納入後に退学が許可された場合、既に納入分の学費は返還されません。退学・再入学に関する詳細・条件については、教務課で相談してください。

転部

日本大学内の他学部への転部についての詳細は、各学部へお問い合わせください。

また、生産工学部では、他学科へ転科を希望する者に対して転科制度（2年次転科）が設けられており、転科試験が実施されます。詳細については、クラス担任又は教務課にお問い合わせください。

転科

窓口受付時間・電話番号案内

		津 田 沼 キ ャ ン パ ス	実 叡 キ ャ ン パ ス
各 課 事 務 局 学 科 ・ 系 事 務 室	平 日	※ 9 時～ 18 時	※ 9 時～ 18 時
	土 曜 日	9 時～ 13 時	9 時～ 13 時
	電 話	教 務 課 ☎ 047-474-2225 会 計 課 ☎ 047-474-2233 学 生 課 ☎ 047-474-2243 就職指導課 ☎ 047-474-2271 機械工学科 ☎ 047-474-2310 電気電子工学科 ☎ 047-474-2370 土木工学科 ☎ 047-474-2420 建築工学科 ☎ 047-474-2480 応用分子化学科 ☎ 047-474-2550 マネジメント工学科 ☎ 047-474-2600 数理情報工学科 ☎ 047-474-2650 環境安全工学科 ☎ 047-474-2360 創生デザイン学科 ☎ 047-474-9780	実叡校舎事務課 ☎ 047-474-2801・2897(奨学金) 教養・基礎科学系 ☎ 047-474-2895
		9 時 ～ 17 時	
図 書 館	平 日	9 時～ 20 時	9 時～ 18 時
	土 曜 日	9 時～ 17 時	9 時～ 13 時
	電 話	☎ 047-474-2265	☎ 047-474-2837
学 生 支 援 室	平 日	開室時間 9 時～ 17 時 ☎ 047-474-2229 日本大学学生支援センター ☎ 03-5275-8238	
カ ウ ン セ ラ ー 室	平 日	月～金曜日 開室時間 10 時 30 分～ 16 時 30 分 (最終受付 16 時 00 分) ☎ 047-474-2245	火曜日 開室時間 10 時 30 分～ 16 時 30 分 (最終受付 16 時 00 分) ☎ 047-474-2812
保 健 室	平 日	10 時～ 18 時	9 時～ 17 時
	土 曜 日	9 時～ 13 時	
	電 話	☎ 047-474-2244	☎ 047-474-2865
ア カ デ ミ ッ ク ア ド バ イ ザ ー ル ル ーム	平 日		12 時～ 18 時
	土 曜 日		
	電 話		☎ 047-474-2931
I T セ ン タ ー	平 日	9 時～ 18 時	9 時～ 18 時
	土 曜 日	9 時～ 13 時	
	電 話	IT センター ☎ 047-474-2282	☎ 047-474-2838
学 生 食 堂	平 日	8 時 15 分～ 17 時	P123 参照
購 買 部	平 日	8 時 45 分～ 18 時	8 時 45 分～ 19 時
	土 曜 日		9 時～ 16 時
	電 話	☎ 047-472-5011	☎ 047-477-0181

注) ※印の時間は、教務課・学生課・会計課・庶務課・就職指導課・実叡校舎事務課の窓口受付時間であり、その他の窓口については 9 時～ 17 時となります。
時間変更、長期休暇中等は、その都度ホームページ等でお知らせします。

証明書 の 交付 について

各種証明書等の交付一覧

項 目		手数料 (円)	概 要		取扱窓口
			津田沼キャンパス	実叡キャンパス	
在 学 証 明 書		100	即日発行 (証明書自動発行機)	即日発行 (実叡校舎事務課窓口)	教 務 課 実叡校舎事務課
成 績 証 明 書		200			
卒 業 見 込 証 明 書 (4 年 次 の み)		100	即日発行 (証明書自動発行機) ※ 3 年次終了時点で卒業研究着手条件を (P22 参照) 満たした学生。		教 務 課
単 位 修 得 証 明 書		200	証明書自動発行機で申込書を購入し,教務課窓口に提出してください。 ※証明書の種類によって,発行日数が異なります。詳細については,教務課窓口にてご確認ください。		
教 職 免 許 状 取 得 見 込 証 明 書		100			
調 査 書 (大 学 院 受 験 用)		300			
人 物 考 査 書		200			
各 種 英 文 証 明 書		600			
学生証再発行	紛失	1,000	教務課窓口に申し出てください。(P117 参照)		教 務 課
	汚損・破損・磁気不良	無料	学生証を持参のうえ,教務課窓口に申し出てください。(P117 参照)		
健 康 診 断 証 明 書		100	※用紙指定のない場合 即日発行 (証明書自動発行機)	※用紙指定のない場合 即日発行 (実叡校舎事務課窓口)	学 生 課 保 健 室 実叡校舎事務課
			※用紙が指定されている場合 (証明書自動発行機で申請書を購入し,保健室へ申し込んでください。)		
学 生 旅 客 運 賃 割 引 証 (学 割 証)		無料	即日発行 (証明書自動発行機)	即日発行 (実叡校舎事務課窓口)	学 生 課 実叡校舎事務課
通 学 証 明 書		無料	通学定期乗車券発行控に必要事項を記入し,学生課及び実叡校舎事務課窓口で申し込んでください。		学 生 課 実叡校舎事務課

証明書自動発行機取扱い時間

平 日	9時～18時	授業実施期間中
土曜日	9時～13時	
夏季休暇期間	10時～17時	
日曜・祝日・夏季休暇期間の土曜日	取扱い中止	
冬季休暇期間	取扱い中止	年末及び年始

その他の取扱い時間・中止期間は,その都度,ポータルシステム・ホームページ等で確認してください。

成績証明書の発行について

●前学期 4月1日から9月30日まで

●後学期 10月1日から3月31日まで

学 期	証明書発行時期
第1クォーター	10月1日以降
第2クォーター	
前学期	
第3クォーター	4月1日以降
第4クォーター	
後学期	
通 年	

※第1クォーター・第3クォーターの成績についても、それぞれの学期終了まで在籍した場合のみ証明する。

学生証の汚損・破損又は紛失等による再発行について**●汚損・破損・磁気不良等の場合**

- ① 汚損・破損（例：記載内容が不鮮明、カードが割れた等）した場合は、新しい学生証と交換いたします。
- ② 学生証の磁気やIC部分が反応しなくなった場合は、教務課窓口にて確認後、新しい学生証と交換いたします。
- ③ 故意に汚損・破損等をさせたと判断された場合は、再発行手数料（1,000円）が必要となります。

●紛失の場合

- ① 紛失した日から**1週間程度**は必ず学生証を探してください。
※紛失した日に再発行の手続きを取ることはできません。
- ② 最寄りの警察署又は交番等に遺失物の届出をしてください。
- ③ 手続きには、学生証紛失届（再発行申請書・誓約書）が必要となります。（誓約書には**押印**が必要となります）
- ④ 再発行手数料は1,000円となります。
- ⑤ 再発行後に紛失した学生証が見つかった場合は、速やかに古い学生証を返還してください。

※学生証の交換又は再発行の手続きは、教務課（津田沼キャンパス）で行ってください。

健康診断証明書

定期健康診断の記録は保健室に保管されています。健康診断証明書が必要なときは、証明書自動発行機（実習キャンパスは事務課窓口）にて即時発行できます。ただし、用紙が指定されている場合は、証明書自動発行機にて申込書（兼納付証）を購入の上、保健室へ申し込んでください。発行には3～4日を要します。

なお、当年度学内で受診した健康診断の結果のみが発行されます。

学生旅客運賃割引証（学割証）

学生旅客運賃割引証（通称「学割証」）は、学生証を使って自動発行機（実習キャンパスは事務課窓口）で交付されます。学割証の交付は1回の申請につき1枚で、年間10枚を限度としますが、やむをえない場合には学生課で事情を説明し、所定用紙に記入をしていただきます。適当と認められたときはそのつど交付されます。有効期限は発行日より原則3か月です。

通学証明書（学生証裏面の経路確認印）

通学定期乗車券を購入する際に必要となります。購入希望者は学生証裏面学籍シールと通学定期乗車券発行控に必要事項を記入し、学生課（1年生は実習校舎事務課）で学生証裏面学籍シールに経路確認印を押してもらってください。

通学区間の記入は学校最寄りの駅と居住地最寄り駅との最も経済的かつ合理的の経路とします。現住所が変更になり、通学手段・経路が変更になった場合は、学生課で手続きをしてください。

団体旅行割引

研究室やサークル等の団体が専任教職員の引率で合宿や旅行をする際に利用できます。取扱い窓口（JR 他各鉄道・旅行代理店等）で所定用紙を受取り、必要事項を記入の上、学生課で公印を押印後、先方窓口へ提出してください。

ただし、必ず「行事届・参加者名簿」を前もって提出してください（118ページ参照）。

これらの証明書を紛失したときは、速やかに学生課及び駅に届け出てください。紛失者が無届けで拾得者に使用された場合、紛失者がその責任を問われます。他人に譲渡した場合も同様です。

各種の届・願い出

項 目	摘 要	取 扱 窓 口	参照頁
休学したいとき	病気その他の理由により休学を希望するときは、クラス担任に事前に相談の上、「休学願」を提出してください。（病気、ケガなどの場合は医師の診断書が必要です） 【教務課指定用紙】	教 務 課	114
復学したいとき	休学者に対し学期末に教務課より「復学願」用紙が送付されます。復学を希望するときは「復学願」を提出してください。【教務課指定用紙】		114
退学したいとき	クラス担任に相談の上「退学願」を提出してください。 【教務課指定用紙】		114
欠席したいとき	「欠席届」を提出してください。【教務課指定用紙】		23
授業内実施の試験を欠席したとき	「追試験受験願」及び「欠席届」を提出してください。 【教務課指定用紙】		25
本人・保証人・緊急連絡先の住所又は電話番号に変更のあったとき 改姓など戸籍上に変更のあったとき	〔現住所・改姓・保証人・電話〕 変更届を速やかに提出してください。	学 生 課 実務校舎事務課	112
保証人の変更があったとき			
バイク・自転車で通学したいとき	窓口申し出て、登録ステッカーを受け取ってください。 （毎年更新）		111
通学定期乗車券を購入したいとき	有効期限内の学生証裏面学籍シールを貼りつけた学生証と通学定期乗車券発行控を提出し承認を受けてください。		117
電車通学経路等に変更が生じた場合	窓口にて変更理由を伝え、手続きをしてください。		117
傷害・事故等で治療費等の給付を受けたいとき	傷害・事故等が発生した場合、授業担当教員、指導教員、クラス担任、サークル顧問等にすみやかに連絡し「傷害事故報告書」「事故受付票」等を学生課に提出してください。（事故等が発生してから3週間以内）	学 生 課	128
海外での研修・研究などのために渡航するとき	学科・研究室・学生団体（公認サークル）等で海外に渡航する場合には、海外渡航届、渡航計画書、参加者名簿、誓約書、引率教職員名簿等を担当教員（顧問）を通じて学生課宛提出してください。個人の場合も海外渡航届を提出してください。		—
新しく学生団体（サークル）を設立したいとき	学生課の窓口で相談してください。		—
学生団体（サークル）を継続したいとき	毎年度はじめに「学生団体登録届」を提出し、承認を受けてください。		—
学生団体（サークル）で学外活動や、学内・学外で行事を行うとき	学生団体（公認サークル）で、合宿・旅行・試合・練習など学外で活動する場合や、学内・学外を問わず、各種催し物を行う場合は7日前までに「サークル行事届・参加者名簿」を提出してください。		—

施設・備品などの利用の願い出

項 目	摘 要	取 扱 窓 口	参照頁
図書館を利用したいとき	詳しくは130ページをご確認ください。	図 書 館	130
未来工房を利用したいとき	詳しくは137ページをご確認ください。	庶 務 課	137
37号館教室・演奏室を利用したいとき	使用願を提出し許可を受けてください。 (公認サークルのみ利用可能)	学 生 課	134
厚生施設を利用したいとき	「使用願」と「使用者名簿」を提出し許可を受けてください。 (厚生施設案内参照)		136
学内の体育施設を利用したいとき	各体育施設の案内を参照してください。		138
備品を借用したいとき(マイクなど)	備品を借用したいときは「施設教室使用願」の付帯設備欄に記入してください。		—
上記以外の諸施設を利用したいとき	「使用願」を提出し、許可を受けてください。		—

各種相談

生活相談

項 目	摘 要	取 扱 窓 口	参照頁
不安や悩みがあるとき	不安や悩みがあれば、気軽に相談してください。 問題解決のために協力し、助言します。	学 生 支 援 室 ク ラ ス 担 任 室 保 健 室	120
学内で急病やケガをしたとき	速やかに応急処置を受けてください。	保 健 室	122
健康相談を受けたいとき	校医が健康相談に応じています。		122
アパートの情報を得たいとき	生産工学部ホームページの学生生活を確認してください。	ホ ー ム ペ ー ジ	

修学相談

項 目	摘 要	取 扱 窓 口	参照頁
修学に関すること	疑問が生じたときは、自分で判断しないで相談してください。	教 務 課 学 生 支 援 室 ク ラ ス 担 任	120
教職課程に関すること	104ページの「教職課程」及び教職課程ガイダンスで配布される「教職課程履修ガイド」を参照してください。	教 務 課	104
障がい等に関すること	障がい等の相談に応じています。	学 生 支 援 室	120

進路相談

項 目	摘 要	取 扱 窓 口	参照頁
留学に関すること	進学に関する資料の閲覧と相談に応じています。	教 務 課 ク ラ ス 担 任	106
大学院に関すること			102
就職に関すること	企業・求人の資料閲覧と相談に応じています。	就 職 指 導 課 各 学 科 事 務 室	140

経済的な相談

項 目	摘 要	取 扱 窓 口	参照頁
学費を一括納入できないとき	納入期限内に窓口・電話で相談してください。	会 計 課	115
奨学金を受けたいとき	奨学金を受けたいときは相談してください。 奨学金の案内はポータルシステム又は、掲示板に掲示されます。	学 生 課 実 務 校 舎 事 務 課	144

学生相談

クラス担任制

本学部では学生指導の立場から全学年を通して、クラス担任を置いています。

クラス担任はクラスのアドバイザーとして学習上の問題や各種手続事項に関する連絡のほかクラス行事を行う場合など、いろいろな相談に応じます。

障がい学生支援

障害者差別解消法の施行に伴い、日本大学では基本方針及びガイドラインを制定し、学生支援室を中心に教務課、学生課、教員等が連携して、障がい等のある学生が他の学生と等しい条件のもと学生生活が送れるように様々な支援を行っています。

支援の詳細は、学生支援室にお問い合わせください。

障がい学生支援（特別配慮支援）の URL
及び QR コード

(https://www.nihon-u.ac.jp/campuslife/disability_support/student_support/)



日本大学本部 学生支援センター

生産工学部の学生支援室の他に日本大学学生支援センターでも相談やカウンセラーによるカウンセリングを受けることができます。

詳しいご案内は下記の URL 又は QR コードより見る事が出来ます。

日本大学本部学生支援センターの URL
及び QR コード

(https://www.nihon-u.ac.jp/campuslife/counseling/counseling_center/)

所在地

〒102-8275 東京都千代田区九段南 48-24 日本大学会館 3 階
TEL: 03-5275-8238（相談専用）



学生支援室

大学生活が始まると今まで過ごしてきた生活に大きな変化がもたらされます。

授業の形態、勉強する内容、生活環境など多くの変化が皆さんに新たな気分や希望を与える反面、それらの変化によって戸惑いや不安の気持ちが起きるかもしれません。

また、在学中には勉強のこと、経済的なこと、人間関係のこと、自分の性格や能力のこと、将来のことなどいろいろな悩みに出会うことがあると思います。

それらの不安や悩みは誰もが持つ可能性のあるもので、うまく解決する場合もあれば、なかなか解消せずにとらわれてしまうこともあるでしょう。

そのような時に相談できる場所が本学部に設けられています。

誰にも相談できずに悩んでいることも、誰に相談したらよいかわからない内容でも、どんなことでも気軽に相談できる窓口として学生支援室があります。うまく話せなくて

も大丈夫です。学生支援室には専任のコーディネーターが在室しており皆さんの話を丁寧に聴きます。そして、悩みや相談内容に合わせて適切な部署への橋渡しや関係部署の協力を得るなどの支援も行っています。

また、ゆっくりと落ち着いて相談したい時にはカウンセラー室もあります。専門のカウンセラーが待機しており皆さんの話を伺います。カウンセリングは悩みの解決を目指すだけでなく、自己成長を支援する一つの手段です。困ったことがある時はもちろん、なくても自分自身を見つめなおしさらに成長したいと思うことなどがあれば遠慮なくご相談ください。カウンセラーに相談したい時は学生支援室でも予約を受け付けます。

受付時間・電話番号

学生支援室：平日 9:00 ~ 17:00 047-474-2229

カウンセラー室（津田沼）：

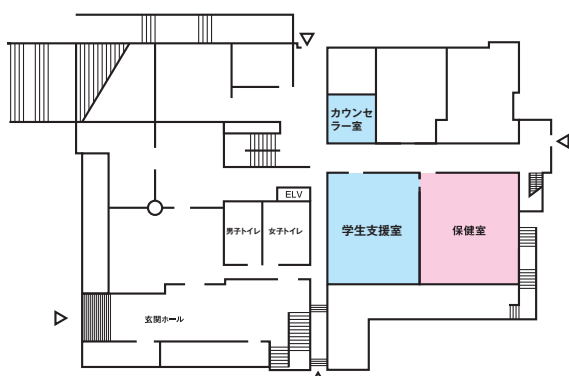
月～金曜日 10:30 ~ 16:30（最終受付 16:00）

047-474-2245

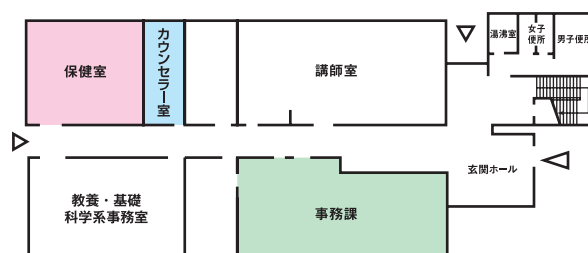
カウンセラー室（実硯）：

火曜日 10:30 ~ 16:30（最終受付 16:00）

047-474-2812



津田沼キャンパス 1号館（事務棟）1階



実硯キャンパス 1号館（事務・研究棟）1階

学習支援活動 — 少しだけの勇気と努力を —

高校までの勉強のやり方と大学での勉強のやり方の違いにとまどっている人、自分では頑張れると思って大学に入ってきたのに、なかなかうまくいかなくて悩んでいる人、これから海外にどんどん出かけたいと思っている人、以下のサポートのなかでやってみたいもの、受けたいものがあったら、ぜひ実践してみてください。やってみるときには、**少しだけの勇気と努力**がいるかもしれません。

これらの講座等は単位にはまったく関係ありません。

自分で積極的に行動しなければ支援活動も受けられません。できそうなところからトライしてみましょう。

《基礎学力充実のために》

アカデミックアドバイザー

どのように勉強していけばいいのか、何が分からないのか分からないなど、学習で困ったときには、まずアカデミックアドバイザーに相談してみましょう。特に、数学、物理は親切に指導してもらえます。

アカデミックアドバイザールームは、実習キャンパスの5号館（教室棟Ⅱ）1階102室です。授業期間の月～金曜日の詳細につきましては、ポータルシステム等に掲載いたします。

《自己啓発のために》

English Café

英会話に親しめる「English Café」を津田沼キャンパスで開催いたします。

詳細につきましては、ポータルシステム等に掲載いたします。

TOEIC IP

英語によるコミュニケーション能力を測るテストを受験する機会を提供しています。会場は生産工学部です。詳細につきましては、ポータルシステム等に掲載いたします。

《学習の進め方のヒント》

大学で学んでいくためのアイデアをまとめたものに、名古屋大学が作成した「ティップス先生からの7つの提案」というものがあります。以下にその抜粋を記載しましたので、これからの学習の参考にしてください。

☆教員と接する機会を増やす

意識して教員と接する機会をつくってみよう!!

- ・知っている教員に会ったらあいさつする
- ・授業中はできるだけ前の方に座る
- ・授業以外のことについても相談できる教員を見つける

☆他の学生と協力して学習する

クラスメイトと積極的に交流しよう!!

大学時代のかげがえのない友人に出会えるかも……。

- ・他の学生の名前や顔を覚える
- ・大学での学習方法について、相談できる仲間を作る

☆主体的に学習を進める

漠然と講義を聴くのではなく、主体的に学習する姿勢を身につけよう!!

- ・十分な予習をして授業にのぞむ
- ・授業中に積極的に発言・質問する
- ・本や新聞、雑誌などの活字媒体を読む習慣をつける



☆学習の進み具合をふりかえる

自分の理解度を把握しよう!!

- ・授業の内容が理解できないときは教員に伝える
- ・課題や小テストにはすべて取り組み、きちんと提出する

☆学習に要する時間を大切にする

学習時間の管理方法を身につけ、大学生活を有意義に過ごそう!!

- ・授業には遅刻をせず毎回出席する
- ・授業中は授業内容に集中する
- ・私語で他の学生の学習時間を奪わない
- ・授業についていけないかどうか不安になった時は、早めに教員に相談する

☆意欲的な目標に挑戦する

高い学習意欲をもち、学内の人的・物的資源を有効活用しよう!!

- ・自分なりの意欲的な学習目標を立てる
- ・大学時代全体の目標を立ててみる
- ・大学卒業後の将来設計について考えてみる

☆異なる考え方や背景を尊重する

いろいろな学生と交流し、視野を広げよう!!

- ・友人の姿勢、態度の中から優れた部分を自分に取り入れる
- ・ネット上で書き込む際のエチケットを守る

出典：名古屋大学高等教育研究センター HP

もっと詳細が知りたい方は、以下へアクセスしてみてください。

<http://www.cshe.nagoya-u.ac.jp/seven/>

健康管理

前向きで明るく楽しい学生生活を送るためには、自分自身の健康管理が大切です。

皆さんは、以前より活動範囲や活動時間が拡大し、不規則な生活リズムになりがちかもしれません。一方、親元を離れ一人暮らしを始めたり自立することで生活習慣をコントロールできる時期もあります。自らの健康に目を向け、健康的な生活習慣を身につけることは、大学生活だけでなく社会生活を通じて皆さん自身を守ることに繋がります。つまり、「今」の生活が未来の自分に影響を与えていくのです。

世界保健機関（WHO）では、健康を以下のように定義しています。「健康とは、病気でないとか、弱っていないということではなく、肉体的にも、精神的にも、そして社会的にも、すべてが満たされた状態にあることをいいます。（日本 WHO 訳）」要するに、健康であるということは、『いま病気でない』と言うだけでなく、皆さんが持てる力を十分に発揮して学生生活を送ることが出来ることを言います。そのためには、まずは「予防」を心がけましょう。日々の体温測定や健康管理のほか、毎年の健康診断も積極的に受けてください。体調不良がある場合には、早めに医療機関を受診することをお勧めします。また、環境が変わったことで身体と心のバランスが崩れることもあります。健康に関して心配ごとがある場合は保健室にご相談ください。保健室では、学生支援室と連携し皆さんが健やかな学生生活を送れるようバックアップいたします。

健康診断

毎年4月に実施される定期健康診断は、疾病の早期発見、治療、健康管理のため、学校保健安全法により全員が受けなくてはなりません。就職・サークル活動や学内行事などで健康診断証明書が必要になった場合、定期健康診断を受診していなければ発行できませんので必ず受診してください。

また、精密検査等病院受診や再検査の指導があった場合は、すみやかに受診・再検査を行ってください。

学校感染症について

学校保健安全法に定められた感染症等になった場合
学生課又は保健室に電話で報告し、指示に従ってください。
【047-474-2242（学生課）・047-474-2244（保健室）】
※ホームページの学生向け資料掲載サイトを参照してください。

※ 学校保健安全法で定められている感染症（参考）

分 類	対象疾病
第1種	エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱、急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、中東呼吸器症候群、鳥インフルエンザ
第2種	インフルエンザ、百日咳、麻疹、流行性耳下腺炎、風疹、水痘、咽頭結膜熱、結核、髄膜炎菌性髄膜炎、新型コロナウイルス感染症
第3種	コレラ、細菌性赤痢、腸管出血性大腸菌感染症、腸チフス、パラチフス、流行性角結膜炎、急性出血性結膜炎、その他の感染症

保健室

保健室では風邪をひいたり、胃腸の調子が悪い、けがをしたなどの日常の疾病に対して応急処置や各種医療機関を紹介しています。常用している薬は自分で持参してください。また、健康相談にも応じています。

実習キャンパス保健室

場所 1号館（事務・研究棟）1階〔120ページの略図参照〕
開室時間 （平日）9：00～17：00

津田沼キャンパス保健室

場所 1号館（事務棟）1階〔120ページの略図参照〕
開室時間 （平日）10：00～18：00
（土曜日）9：00～13：00

なお、校医が週に1日来校しています。

来校場所 津田沼キャンパス1号館保健室

※面談等希望する場合は事前に保健室にお問い合わせください。

学生食堂

学生生活において、毎日の食事は重要な要素をしています。入学後、アパート等での一人暮らしを初めて経験される皆さんも多く、食生活がとかく不規則、おろそかになりがちです。勉強や課外活動でのエネルギーの消費に備え、食生活に十分注意をはらわなければなりません。

本学部では実叻・津田沼両キャンパスにそれぞれ学生食堂があります。営業は業者に委託し運営していますが、価格・質・量などは常に学生生活委員会が指導を行っています。

授業期間内は、50円朝食を実施しています。(8:15～)

営業時間

実叻キャンパス

学生食堂

月曜日～金曜日▶食堂棟Ⅰ 8:00～9:00
11:30～13:30
食堂棟Ⅱ 10:00～15:00

売店

月曜日～金曜日▶食堂棟Ⅱ 10:00～15:00

津田沼キャンパス

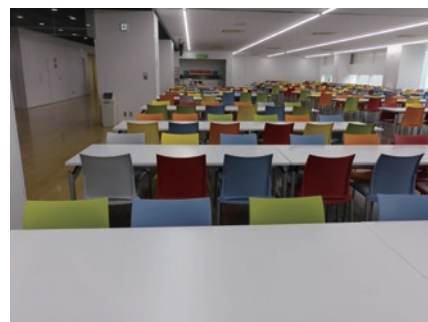
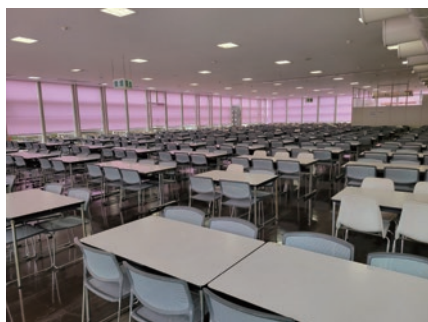
学生食堂

月曜日～金曜日▶8:15～17:00

売店

月曜日～金曜日▶10:00～16:00

※ 営業時間等に変更がある場合があります。詳細は食堂で確認してください。



キッチンカー



生産工学部キャンパス内にて、食堂での混雑緩和を目的としたキッチンカーを出店しております。

キャンパス内で見かけたら、是非ご利用ください。

※営業時間等については、学内の掲示板等で確認してください。

購買部

日常の学用品などを販売する購買部は、実叻・津田沼両キャンパス共に、営業は業者に委託していますが、市価より安価に販売するよう指導しています。種々の要望等ありましたら学生課に寄せてください。

営業時間は下記のとおりです。

営業時間

実叻キャンパス

月曜日～金曜日▶8:45～19:00
土曜日▶9:00～16:00

津田沼キャンパス

月曜日～金曜日▶8:45～18:00

※ 営業時間等に変更がある場合があります。詳細は購買部で確認してください。

大学・学部行事

大学で行われる行事には、全学的に行われる行事と学部単位で行われる行事があります。

特別講義

特別講義は、学科及び専攻などの教育課程を越えた幅広い教育・研究に資するために行われるスペシャルレクチャーです。各学科・専攻で企画・実施され、国内外の学界・産業界から著名な方々を招いて行われます。

毎年15件から20件の特別講義が行われます。内容、開催時期についてはそのつと掲示されます。

生産工学部学術講演会

生産工学部学術講演会は、生産工学部及び大学院生産工学研究科における教育の向上と研究の発展に寄与することを目的に毎年度1回開催されています。

令和5年度（第56回）学術講演会は、12月9日（土）に開催されました。専門分野別の研究発表（口頭発表、ポスター発表）及びオーガナイズドセッションにより構成され、300余件の発表がありました。

学術講演会は、本学部で行っている研究の現状を知るための貴重な機会であるとともに、ゼミナールや卒業研究のテーマの選択に大いに役立つものと思われますので、1～4年生も積極的に聴講されることを勧めます。

専門分野（令和5年度）

構造・強度、計測・制御・情報、環境・エネルギー、材料・物性、デザイン・マネジメント、人間・自然科学、人文・社会・教育、医療・健康・福祉、異分野融合イノベーション

公開講座

公開講座は開かれた大学を目指し、一般市民の皆様を対象に開催しており、企業活動の交流の場や生涯教育の一助にもなっています。

日本大学体育大会

日本大学体育大会は、体育を通じて学生が相互に交流し、親睦を深め、総合大学としての連帯意識の高揚を図ることを目的として実施されるものです。



生産工学部スポーツ大会

令和5年度は、6月17日（土）に実籾キャンパスグラウンドで行いました。

生産工学部では、学生と教職員が一体となり、スポーツを通じて交流と親睦を深める目的で毎年実施しております。

令和5年度実施した種目については、以下のとおりです。

学科対抗競技種目

二人三脚レース、大玉ころがし、4×100m リレー、障害物競争、綱引き、大縄跳び

オープン競技種目

フットサル、ソフトボール、バレーボール、テニス、バスケットボール、ゴルフ



写真は令和5年度のスポーツ大会のもの

桜泉祭

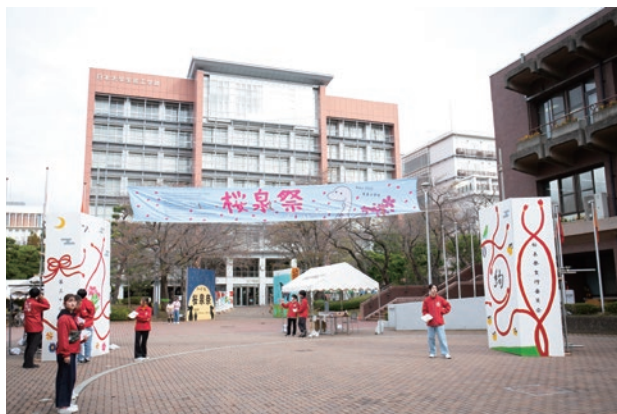
桜泉祭とは学部祭の通称で、日本大学の校章のマークである桜と習志野市泉町にちなんで呼ばれているものです。

例年、桜泉祭実行委員会が組織され、学生の運営によって行われる学部最大の行事です。

期間中は学術、文化系サークル等による展示・発表を中心に、

パレードや模擬店などで祭を盛り上げます。また、著名人による公演や学生によるバンド演奏、展示発表など盛り沢山の催し物が行われます。

大学生活における課外活動などを生かし有意義な青春を送って欲しいと思います。



写真は令和5年度の桜泉祭のもの

課外活動

大学が、社会から期待されるのは、そこに学ぶ者への次代を担う一員としての大きな期待があるからです。現に年齢が若いというだけをとっても多くの可能性をもっています。一つの目標を定め、困難を克服していく姿は、美しいものです。そして、その努力の結果は有形、無形の財産として身につき、後の人生を豊かなものに導く自信へとつながることでしょう。

人間性の尊重が、改めて問われている現在、豊かな自己の確立は重要な課題です。大学では正課授業の他に、課外活動として自由で活発な活動を期待しているのは、個性豊かな人格形成を目指して、趣味やスポーツを共通とした人間的なつながりが、

生涯の友を作り、精神的な修養や人間的なマナーやエチケットを身につけ、講義では得られない修養の場としても見逃せないからです。

勉強以外の時間をどのように自己の中に生かし、有意義なものとするかは、学生一人ひとりの考えにゆだねられています。幸い本学部には、多くのサークルがあります。

みなさんの有意義な学生生活のためにもサークルへの積極的な参加を期待しています。

(127 ページのサークル一覧を参照)



日本大学生産工学部サークル一覧

学術系

団 体 名
建築研究会
自動車生産研究会
フォーミュラJSAE
土質研究会
津田沼航空研究会
建築生産研究会
鋳物研究会
ソフトウェア研究会
エレクトロニクス研究会
鉄道研究会
情報処理研究会
新建築会
CIT-宇宙技術研究会
CIT ロボティクス研究会
経営戦略研究会

15 団体

文化系

団 体 名
写真部
英会話研究会
軽音楽部
アメリカ民謡研究会
漫画研究会
古都研究会
大久保フォーク村
天文研究会
ボランティア研究会
現代文学研究会
ストリートダンス研究会 Mild Heaven
da.Vinci
落語研究会
テーブルゲーム研究会
将棋部
ポータブルゲーム研究会
陶芸研究会
CIT-クイズ研究会
生産工学部 eスポーツ研究会
国際交流会

20 団体

体育系

団 体 名
桜球ソフトボール部
日本大学桜工剣道部
ソフトテニス部
自動車部
柔道部
バレーボール部
サッカー部
バスケットボール部
アーチェリー部
卓球部
合気道部
ゴルフ部
硬式庭球部
硬式野球部
スキー部
日本大学理工系ヨット部
サーフィン部
櫻工ラグビー部
フットサル部
陸上競技部
アメリカンフットボール部
軟式野球部
サイクリング部
弓道部
バドミントン部
フランス・アルペン・スキークラブ
日本大学桜魂空手部
水泳部
ハンドボール部
日本大学水上スキー部
CIT サバイバルゲーム
生産工日本拳法倶楽部
ボディビルディングサークル

33 団体

このほか、学部の枠を超えて集まった大学本部学生部に所属する学生団体があります。

日本大学文化団体連合会

吹奏楽研究会 軽音楽部フラワーレイ マンドリンクラブ 管弦楽団 合唱団 将棋研究会 学生赤十字奉仕団 スカウト研究会 探検部 韓国人留学生会

日本大学体育団体連合会

ソフトテニス部 自動車部 山岳部 グライダー部 キックボクシング部 少林寺拳法部 ラクロス部

※詳細は、学生課までお問い合わせください。

保険制度

正課・課外教育中又は課外活動中等に傷害・事故等により死亡、負傷した場合には「日本大学学生の傷害及び死亡事故等に関する給付金規程」、「日本大学生産工学部学生見舞金制度」が適用され、治療費等が一部給付されます。

対象は以下のとおりです。

- ① 正課教育中の事故
- ② 大学が主催する行事実施中の事故
- ③ 学科、クラス、ゼミナール等が、あらかじめ所定の手続により届出をして行った課外教育中の事故
- ④ サークルが、あらかじめ所定の手続・届出（行事届等）をして行った、課外活動中に発生した事故（学校にサークルの部員として登録されている学生が対象です）
- ⑤ その他前各号に準ずる事故

ただし、事故発生原因が故意又は重大な過失による場合又は法令若しくは本大学の学則、諸規程等に違反した行為による場合はこの限りではありません。

通学利用の自転車、バイクの事故は、学校に登録していない場合は対象外となります。

学校に乗り入れるだけでなく、自宅から最寄り駅までの自転車・バイクの利用も登録が必要です。

万が一傷害・事故等が発生した場合には、授業担当教員、指導教員、クラス担任、サークル顧問等に速やかに連絡し、「傷害事故報告書」「事故受付票」等を学生課に提出してください（事故等が発生してから3週間以内に学生課に提出がない場合には治療費等が給付されない場合があります）。

各種施設の利用

図書館

情報システム

コンピュータ・ネットワーク

教育用情報関係施設

教室, 演奏室

厚生施設

未来工房

体育施設

図書館

図書館は、本学部の高度な教育・研究活動の維持発展に貢献することを目的として利用者のみなさんに開かれた場として存在しています。

自主的な学習・研究に図書館施設、機能及び資料を存分に活用してください。

図書館案内

図書館は、津田沼キャンパスに本館と実硯キャンパスに分室があります。

本館は8階建てで、各階の開架式書架を中心に閲覧室、自習室、ラウンジ、グループ学習室、学祖コーナー、学部史コーナー、AVブース等があります。(館内配置図参照)

分室は実硯キャンパス教室棟Ⅰ(2号館)1階にあり、主に教養・基礎科学系の資料を中心に所蔵しています。(分室の配置図はホームページ参照)

蔵書数は図書が約22万冊、国内外の学術雑誌を約1,400タイトル所蔵し、最新学術情報については国内の私立大学図書館でも屈指の規模を誇る約9万タイトルの電子ジャーナルや電子ブックにアクセスすることができます。

開館時間及び休館日

開館時間

本館 平日9:00～20:00
土曜9:00～17:00
実硯分室 平日9:00～18:00
土曜9:00～13:00

休館日

日曜日・祝日
本学の創立記念日(10月4日)
夏季・冬季休暇中の一定期間
その他、図書館が必要と認めるとき

*臨時休館あるいはやむを得ず開館時間を変更する場合は、図書館ホームページへ掲載及び館内に掲示します。

利用方法

書架は資料を自由に閲覧できる開架方式です。日本十進分類法により分類・配架されています。

図書・雑誌等の配架場所は館内配置図を参照してください。
利用した図書は、返本台に戻してください。

図書の貸出

図書を借りるときは、図書に学生証を添えて、受付カウンターで手続きをしてください。

貸出冊数及び貸出期間は次のとおりです。

区 分	利用者区分	冊 数	期 間
貸 出	学 部 生	10 冊	15 日
	大 学 院 生	10 冊	30 日
一 夜 貸 出	学部生・大学院生	10 冊	1 日

*一夜貸出の対象図書は、製本された雑誌、新聞の縮刷版に限ります。また、次の図書は貸出しできません。

CD・DVD、未製本雑誌、JIS規格、住宅地図、修士・博士論文、未製本の学内刊行物、貴重書、新聞、研究室配備図書、その他禁帯出図書

なお、本館あるいは分室所蔵の資料を相互に取寄せることができます。資料名と請求記号を調べ受付カウンターで手続きをしてください。

貸出の延長

他に予約者がいない場合は、再貸出しできます。貸出期間内に延長したい図書と学生証を添えて受付カウンターで手続きをしてください。

図書の返却

借りた図書は貸出期間内に、受付カウンターで返却手続きをしてください。

本館・分室どちらでも返却ができます。

また、図書館が閉館しているときはブックポストへ本を返却してください。

		8F	洋 書	館内配置図(本館)
		7F	洋雑誌(製本) 修士・博士論文	
		6F	洋雑誌(製本)	
		5F	和雑誌(製本)	
		4F	和雑誌(製本) 新聞(縮刷版)	
3F	学内、他学部刊行物 一般雑誌、参考図書コーナー 自然科学・数学 検索用端末機 コピー機	閲覧室	百科事典、哲学・宗教・歴史・ 地理・商業・美術・スポーツ・ 語学・文学・言語・ 物性物理学・原子物理学	特別研究室・AV室 グループ学習室 図書館ラウンジ
2F	社会・経済・経営・教育・ 白書・年鑑・統計書・法令集・ 加除式図書 検索用端末機	館長室 学術情報センター M2F	入口 受付カウンター 新聞コーナー 新着図書コーナー 学祖コーナー 学部史コーナー 貴重書展示コーナー AV コーナー 事務室	自習室
1F	機械・電気・金属・化学工業 コンピュータ関係・地図 検索用端末機 コピー機	閲覧室	物理、化学・生物・技術工学・ JIS/FE/PE AV ブース	閲覧室 土木工学・建築工学 新着学術雑誌(和・洋) 就職活動・資格試験 ガイドブック・道路地図 検索用端末機

なお、貸出期間を超過して返却した場合は、延滞日数分が貸出停止となります。

貸出期間内に返却してください。

AV 資料の利用

DVD 等を館内で視聴するための専用のブースがあり、学術分野以外にも語学関係、各種映画等豊富なソフトを所蔵しています。

利用者は、AV 資料に学生証を添えて受付カウンターで手続きをしてください。

文献複写

図書資料は館内のコイン式コピー機でコピーすることができます。ただし、著作権法で許可された範囲に限定されます。

また、ノート等私物のコピーはできません。

資料の探し方（図書検索端末）

本館・分室の閲覧室に設置された OPAC 用端末機、及びインターネットに接続された PC 等から図書情報の検索ができます。

検索対象資料は本学部図書館が所蔵する資料の所蔵目録データベースです。

検索方法は書名、著者名等利用者が検索したい対象項目に検索語を入力します。例えば書名で検索する場合、書名の一部でもかまいません。

なお、詳細はホームページ利用案内をご覧ください。

各種サービス

1 レファレンス・サービス

図書館の利用方法等で困ったときは受付カウンターに相談してください。必要な資料の紹介や書誌・所蔵情報の提供などを行っています。

- ・資料の探し方や資料の使い方がわからないとき
- ・雑誌等に記載されている論文を探したいとき
- ・読みたい資料、文献の所蔵館を知りたいとき

2 相互利用

当館に所蔵していない資料については、他の図書館から図書の借用や論文のコピーを有料で取り寄せることができます。

受付カウンターで手続きしてください。

3 他の図書館の利用

当館に所蔵していない資料の閲覧を希望する場合は、他大学・各種機関図書館への問合せ及び紹介をいたします。受付カウンターまで申し込んでください。

なお、日本大学の他学部図書館、東邦大学習志野メディアセンター、千葉工業大学付属図書館は学生証を持参することで図書の貸出しが可能です。

4 図書購入希望

必要な資料が図書館にない場合、購入希望の申請を行うことができます。資料購入申込書に必要事項を記入の上、受付カウンターに申し込んでください。検討の後、購入の可否を連絡します。

なお、図書館利用に関する詳細はホームページをご覧ください。



情報システム

本学部のカリキュラムにおいて、コンピュータは欠くことのできない設備であり、基礎教育から専門教育、さらに研究分野まで幅広く利用されています。学内には次のような情報関係施設又は電子メール・ポータルシステム・Web ページ等の情報サービスがあり、授業や研究活動等に利用されています。

利用方法

情報システムを利用するには、ユーザ ID とパスワードが必要です。ユーザ ID とパスワードは 1 年次に全員登録され、ガイダンス時にお知らせします。案内に従って利用してください。

利用上の注意

- ① コンピュータ施設内は全て禁煙です。また、飲食物の持ち込みも禁止です。
- ② 授業で施設を使用しているとき、授業以外の学生の利用はできません。
- ③ 室内の整理整頓や清掃に協力してください。
- ④ 機器の操作は、丁寧に行ってください。また、機器の不具合に気づいた場合は、速やかに係員に連絡してください。
- ⑤ ユーザ ID・パスワードは、各自責任を持って管理してください。
- ⑥ その他、ネットワークを含む施設利用全般について、他人に迷惑をかけないようにエチケットを守りましょう。
上記の注意が守られない場合、利用制限等の措置をとることがあります。

コンピュータ・ネットワーク

生産工学部では、津田沼キャンパスと実籾キャンパスを一体化したコンピュータ・ネットワークを構築し、インターネットに接続しています。したがって、各施設から学内をはじめ、日本中、世界中の多くの人々と情報の交換（電子メールなど）や情報の検索・提供・収集を行うことができます。

ネットワークを利用する場合には、情報倫理や危機管理について理解しておかなければなりません。また、ネチケット（ネットワーク上でのエチケット）やマナーを必ず守りましょう。コンピュータ・ネットワークは、正しく使えば、便利な道具です。ルールを守って安全なネットワーク運用に協力し、積極的に活用しましょう。

利用方法

学内からは各施設のパソコンを使用して、又は自身のノートパソコンや携帯情報端末を Wi-Fi（無線 LAN）や情報コンセントに接続して利用してください。学外からもインターネットプロバイダーを経由してポータルシステム等の情報サービスを利用できます。

<http://itc.cit.nihon-u-ac.jp/itc/>

利用時間

システムの保守作業時間等を除き、24 時間利用できます。

利用上の注意

1 セキュリティの確保に努めること

ユーザ ID とパスワードの管理は厳重にし、初期パスワードは必ず変更しておくこと。自身のノートパソコンには本学で無償配布しているウイルス対策ソフトウェアをインストールし、基本ソフトウェア等を最新の状態に維持すること。また、著作権侵害につながるファイル交換ソフトを使用しないこと。

2 必要以上の個人情報とは公開しないこと

住所、電話・メールアドレスなどの記載に注意すること。

3 ルールに従いネチケットを守ること

ネットワークを利用する場合には、「生産工学部ネットワーク利用に関する要項」に従うこと。電子メールや SNS を利用する場合には、ネチケットを守ること。

禁止事項

1 法律に反する行為

他人の名誉毀損、プライバシー侵害、著作権侵害、教育上好ましくない情報（公序良俗に反するもの）の収集や提供をしないこと。

2 不正使用する行為

他人の ID・パスワードで不正にアクセスをしないこと。

3 システムの破壊につながる行為

個人が持参したり、ダウンロードしたファイルをむやみに実行しないこと（利用者が気づかぬうちにウイルスに汚染され、コンピュータに高負担をかけたり、システムを破壊したりすることがある）。

教育用情報関係施設

教育用情報関係施設は、授業などの教育目的に使用される情報関係施設で、利用時間内には自由に利用することができますが、授業のために使用している場合は授業優先となります。また、システム保守作業のため利用できない時間帯や、学部行事、夏季・冬季休暇などのため利用できない日がありますので、ポータルシステム・掲示などに注意してください。

ポータルシステムURL

<https://portal.cit.nihon-u.ac.jp/>



お問合せ先 教務課

cit.kyoumu_2@nihon-u.ac.jp

情報処理演習室A・B (津田沼キャンパス24号館401・402室)

情報処理演習室は、多くの授業による利用に供しています。室内のパソコンは教室内ネットワークに接続されて、統合的なシステムとして運用されており、効率的な授業環境を提供しています。

また、持ち込みパソコンでも Wi-Fi（無線 LAN）の利用が可能です。

利用時間

月曜日～金曜日 9:00～20:00

土曜日 9:00～13:00

利用できる機器・主なソフトウェア

- ・パソコン：162台
- ・アプリケーションソフトウェア：
 - Mathematica, MS-Office, Matlab, Visual Studio,
 - Solid Works (CAD), Scigress, AutoCAD,
 - ArcGIS, Adobe CC

情報処理演習室C (津田沼キャンパス24号館301室)

情報処理演習室A・Bと同様に使用することができます。

利用時間

月曜日～金曜日 9:00～18:00

土曜日 9:00～13:00

利用できる機器・主なソフトウェア

- ・パソコン：110台
- ・アプリケーションソフトウェア：
 - Mathematica, MS-Office, Matlab, Visual Studio,
 - Solid Works (CAD), Scigress, AutoCAD,
 - ArcGIS, Adobe CC

e-Space (津田沼キャンパス24号館305室)

ここでは、持参したパソコンを使うための Wi-Fi（無線 LAN）・情報コンセント・電源・ネットワークプリンター等が敷設されており、学内 LAN やインターネットに接続することができます。

利用時間

月曜日～金曜日 9:00～18:00
土曜日 9:00～13:00

利用できる機器

- ・情報コンセント：15口
- ・Wi-Fi（無線 LAN）
- ・ネットワークプリンター
- ・A3 対応スキャナー

各種印刷スペース（津田沼キャンパス）

持参したパソコンを Wi-Fi（無線 LAN）から敷設されているネットワークプリンターにて印刷することができます。

利用できる場所

- ・37号館2階 ホワイエ
- ・39号館1階 ギャラリー
- ・図書館入口横

利用できる機器

- ・Wi-Fi（無線 LAN）
- ・ネットワークプリンター

実習キャンパス教育用コンピュータ実習室A・B・C・D (実習キャンパス52号館401・402・404・405 教室)

ここでは、持参したパソコンを使うための Wi-Fi（無線 LAN）・電源等が敷設されており、学内 LAN やインターネットに接続することができます。

1年生の「情報リテラシー」の授業で使用されています。

利用時間

月曜日～金曜日 9:00～18:00
土曜日 閉室

利用できる機器

- ・Wi-Fi（無線 LAN）
- ・ネットワークプリンター

教室, 演奏室

教室は、研究室・ゼミや課外活動での使用を認めています。
利用を希望する場合は、次の窓口へ申し込んでください。

利用申し込み窓口

津田沼キャンパス 37号館教室及び演奏室
実習キャンパス教室

学 生 課
実習校舎事務課

学生ラウンジ

各学科には学生ラウンジがあります。学生ラウンジでは、教員や学生と談話したり、自習したり、ピアサポーターの活動場所として開放しています。

また、学生食堂には、学生が自由に利用できるオープンスペースがあります。昼食後や授業の合間にゆったりくつろぐことができます。



厚生施設

施設名	所在地	料金	収容定員	設備・備品等
(本部) 軽井沢研修所	長野県北佐久郡軽井沢町 軽井沢 1052-1 ☎ 0267-42-2401	1泊2食付 4,200円	256名	ソフトボール場、総合グラウンド、 多目的コート、テニス専用コート、 講義室、多目的ホールなど
(理工学部) 八海山セミナーハウス	新潟県南魚沼市山口 1666 ☎ 025-775-3701	1泊2食付 3,500円	98名	天体観測室、談話室、 研修室、リソースセンターなど

注) 1 記載されている宿泊費等は、予告なく変更されることがありますのでご了承ください。

2 「収容定員」については、学生を対象としたものです。

厚生施設の利用方法

軽井沢研修所（本部）

①予約について

予約は使用日の1か月前の月初めから、学生課で受け付けます。

夏季休暇期間中（7～9月）の使用は、別途期日を指定して一斉に予約を受け付けます。

②使用手続きについて

使用希望日の10日前までに申込票に必要事項を記入して、学生課に申し込んでください。予約がとれれば、厚生施設使用申請書と使用者名簿をお渡しします。

学生課で申請書及び名簿に受付印押印後、宿泊日の7日前までに会計課窓口で使用料金を支払ってください。

他学部の厚生施設

他学部の厚生施設を利用するときは、あらかじめ学生課に申し出てください。予約は、使用日の1か月前の月初めから受け付けます。

使用料金は厚生施設案内に伴い、使用日の10日前までに支払ってください。

☆セミナーハウス・厚生施設共通の留意事項

1 全ての厚生施設の使用期間は、3泊4日を限度とします。

2 手続き完了後の期間・人数の変更及び返金は、原則としてできません。

未来工房

生産工学部創設 60 周年を記念して学生の自由な創作活動のペースが誕生しました。

未来工房の利用については、安全を確保し、楽しく創作活動ができるようライセンス制度（C 級～S 級）を導入しています。

まず未来工房で実施する安全教育講習会を受講し、ライセンス登録（C 級）を行います。また、各設備については B 級ライセンスを取得することにより使用できるようになります。

利用方法等の詳細については未来工房へ直接お問い合わせください。



【利用時間】

月～金曜日 10:00～19:00

土曜日 10:00～14:00

※利用時間は変更になる場合があるため、工房で直接確認してください。

※（休館日） 日曜・祝日、創立記念日、年末年始、
夏季休暇の一定期間

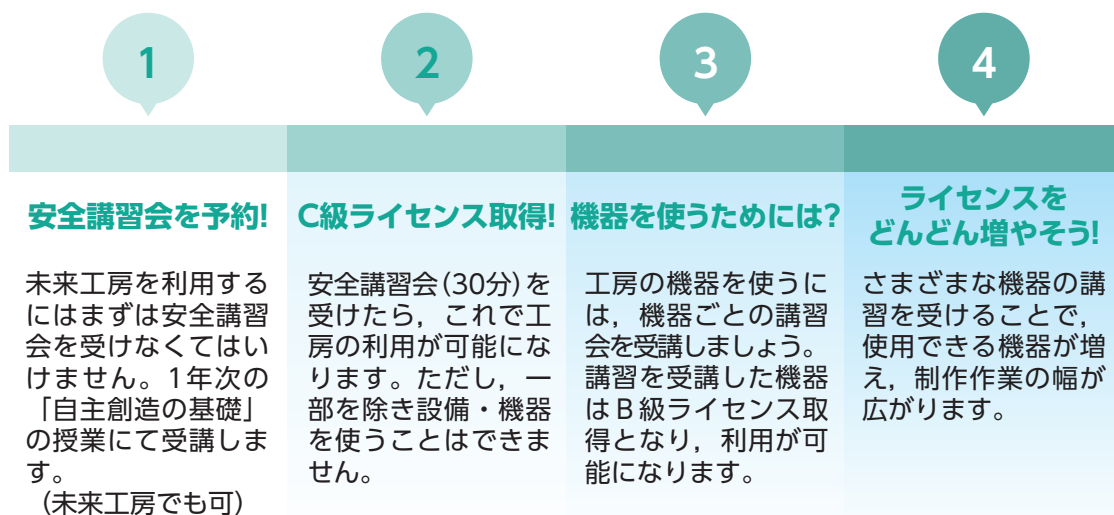
【設 備】

- **金工** 小型卓上旋盤、小型卓上フライス盤、卓上ボール盤、斬鉄帯鋸盤、交流アーク溶接機、板金折り曲げ機、アクリル板曲げ機、卓上グラインダ、高速切断機、エアープラズマ切断機、丸鋸盤（アルミ・アクリル盤切断用）
- **木工** 卓上フライス盤、卓上ボール盤、小型自動かな盤、丸鋸盤、糸鋸盤、バンドソー、ベルトジスクサンダ、丸のこ、テーブル丸鋸盤
- **塗装** 塗装ブース（含むペビコンプレッサー）
- **陶芸** 電動ろくろ
- **電動工具** 電気かな、ハンドドリル、電動ドライバー、スリムディスクグラインダ、ジグソー
- **その他** サンドブラスト、T シャツプリンタ、マグカップ印刷他、手工具・測定具類、STiKA カuttingマシン、大型インクジェットプリンタ、3D プリンタ、小型電気炉、レーザー加工機、刺しゅう付きコンピューターマシン

【備 考】

学部行事、点検作業等により利用できない日時・設備がありますので、掲示などに注意してください。

利用までの流れ



体育施設

	施設名	利用案内	申し込み窓口
実 初 キ ャ ン パ ス	グラウンド (陸上競技場兼球技場)	原則として、正課授業と課外活動以外での使用は認めていません。	学 生 課
	第二球場		
	テニスコート (5面)		
	ゴルフ練習場		
	弓道場	使用するときは、右記窓口に申し込み、許可を得てください。	
	多目的コート (バスケットボール、バレーボール、テニス、フットサル)		
	シャワー棟 1階 ロッカー室、シャワー室	使用するときは、右記窓口に申し込み、許可を得てください。	実初校舎事務課

津 田 沼 キ ャ ン パ ス	体育館 (25号館 2階)	使用するときは、右記窓口に申し込み、許可を得てください。	学 生 課
	屋内プール (25号館地下)	5月～12月の週2日間(17:00～19:00)開放しています。(8月は除く) 開放日・時間は掲示にて確認してください。	
	トレーニングルーム (25号館 2階)	トレーニングルームの利用を希望する方は、トレーニングルーム講習会を必ず受講してください。時期等の詳細はポータルシステムでお知らせします。	
	津田沼多目的コート	原則として、正課授業と課外活動以外での使用は認めていません。	

※使用時間：16:30～20:00

どの体育施設も飲食・喫煙禁止となります。また、用具の貸出も行っておりません。

使用時間等に変更がある場合があります。詳細は学生課で確認してください。



津田沼キャンパス講堂・体育館(25号館)の外観

将来の道しるべ

就職

奨学金制度・特待生制度

各種資格について

就職

将来の人生設計を見据えた大学生活を

大学生活を送るなかで大事なことは、「有意義な生活をおくること」にあります。

これは、やがて訪れる『就職』というステージで大きな意味を持ってきます。

学業はもちろんのこと、大学生活（サークル、アルバイト、ボランティア etc…）から得たものを、自信をもって語れることが大事になります。それらの経験からどんな成果をあげたのか、また自分が得たものが何なのかを語れることが大きな力になります。

問われる社会人基礎力

現在、多くの企業は従来の書類選考、筆記試験、面接だけでなく、エントリーシートや性格診断テスト、グループディスカッションといった多様な方法で学生の資質を見ようになっています。理系の場合は専攻の知識や研究はもちろんですが、社会人として働くために必要な基本的な人間性も問われます。専攻の知識や学業だけではなく、「社会人基礎力」と呼ばれる、前に踏み出す力、考え抜く力、チームで働くといった点も含めて総合的に判断されます。

就職活動時期

採用情報の解禁や会社説明会開始は学部3年生の3月に、倫理憲章に同意している大手企業の採用選考の開始は4年生の6月に始まりますが、この枠にとらわれない採用活動をする企業もあります。また、4年生は就職活動を含め、卒業研究や卒業に向けての準備等スケジュールが過密になります。

そのため、「いつのまにか志望企業の採用活動が終わっていた」ということがないよう、情報収集に努め自己分析等対策で準備を整え、3年生3月の情報解禁と共にスタートすることが大切です。

就職指導課では、3年生の後期から企業研究やエントリーシート作成、SPI試験等の対策講座を順次開催します。就職支援講座を活用し、2月末までには志望企業を検討しておきましょう。

学内では同級生、先輩後輩、教職員などみなさんを取り巻く人たちがいます。また、幸い本学は多くの卒業生が社会の様々な分野で活躍しており、就職活動ばかりでなく、社会に出てからも皆さんの後押しをしてくれるでしょう。

3年後、よりよい人生選択ができるよう、目的意識を持った有意義な学生生活を送ってください。

就職資料の閲覧と支援

1 就職指導課

学科・学年に関係なく就職に関する相談や先輩の就職先のデータや企業の情報の収集ができます。「履歴書の書き方がわからない」、「採用試験の動向を教えてください」、「大学に来ている募集はあるか」など、気軽にお尋ねください。求人票、就職関連書籍、企業パンフレット、U・Iターン情報、公務員の募集要項なども閲覧できます。

また、本学に特化した就職支援システム「NU就職ナビ」は、いつでもどこからでも利用可能なWebシステムで、企業情報（16万件）、求人情報（1万件）、就職活動報告書、OB・OG情報（33万件）、就職行事情報等、多彩な情報が検索・利用できます。

就職に関係する各種届出もNU就職ナビを利用して提出します。本格的には3年生から活用しますが、低学年から登録し利用することも可能です。みなさんも一度ログインしましょう。

2 学科事務室

学科の特色に合わせた求人票や企業パンフレット、推薦に関する情報が得られます。また、各学科に2名の就職指導委員の教員がおり、学科事務室と連携して就職支援にあたっています。

就職指導課・学科事務室

就 職 指 導 課	24号館1階	047-474-2271
	利用時間	平日 9:00～18:00 土曜 9:00～13:00
機 械 工 学 科 事 務 室	12号館2階201号室	047-474-2311
電 気 電 子 工 学 科 事 務 室	31号館2階209号室	047-474-2371
土 木 工 学 科 事 務 室	14号館1階104号室	047-474-2421
建 築 工 学 科 事 務 室	4号館1階101号室	047-474-2481
応 用 分 子 化 学 科 事 務 室	29号館6階621号室	047-474-2551
マ ネ ジ メ ン ト 工 学 科 事 務 室	30号館4階411号室	047-474-2601
数 理 情 報 工 学 科 事 務 室	23号館3階302号室	047-474-2651
環 境 安 全 工 学 科 事 務 室	40号館2階202号室 (2学科共通)	047-474-2361
創 生 デ ザ イ ン 学 科 事 務 室		047-474-9781

主な就職行事

就職関係の主な行事を以下に掲載します。この他に、学科ごとに行事を開催する場合があります。

学科就職ガイダンス 3年生9月

就職支援プログラムの第一歩となるガイダンスです。業界の研究、企業の探し方、応募手続の方法等を説明します。さらには内定者による就活体験談を実施します。

SPI アセスメント 3年生9月

就職活動で多く使われている試験『SPI3』の模擬試験を実施します。

採点結果を瞬時に判定し通知しますので、現在の言語力・非言語力を把握できます。

自己分析ガイダンス 3年生10月

自己分析の必要性や手順を学び、その結果をどのように「自己PR」や「志望動機」に結び付けていくかを学んでいきます。



就職支援プログラム

近年、厳選採用が一般化し、企業が学生に求めるスキルは高く、選考方法も多様化しています。この講座を通じて、しっかり準備しましょう。

【SPI 対策講座】 3年生10月～12月

本番の試験で出題率の高い問題、推論・表の読み取りなど思考分野の単元を中心にWEB演習を通して問題の解き方を学習します。そして、より実践力を身につけるために、最後のWEBテスト演習を組み込んでいます。

【エントリーシート・企業研究対策講座】 3年生11月

就職活動時に、書類選考の材料や面接資料として活用されるエントリーシートの重要性和記入方法を解説します。

自分にあった企業・仕事を探し出すため企業・職種研究はしっかりとやっておきましょう。

様々な視点から業界・企業・職種研究をすることにより、エントリーシートや面接において、自分独自の志望動機をしっかりと築き上げておきましょう。

【面接対策講座】 3年生12月

どの企業でも必ず行われる面接試験。心構えやマナー、熱意を含め、人間性が問われます。企業がどのような視点で学生を評価しているのかを解説します。



【就活直前対策講座】 3年生2月・3月

Google-Classroomでのオンライン・オンデマンド講座です。

3月1日の就活解禁を控え、就職活動準備の総仕上げとして、緊急度の高い3科目（「SPI 講座」、「ES 講座」、「面接講座」）に絞り集中実施します。

生産工学部企業研究会 3年生2月中旬

会場として39号館を使用し、3日間で約350社の企業が集結します。テーブルを挟み、企業人事担当者と学生が直接面談できる行事です。直接話をするのは緊張すると思いますが、本学部の学生に対する各企業の採用意欲が高いため、積極的に活用すれば内定獲得への近道になります。



生産工学部就職セミナー ※2019年3月実施時

日本大学合同企業研究会・就職セミナー 3年生3月上旬

日本大学全体で行うセミナーです。例年200社以上の企業が参加して開催されます。

公務員試験対策

経済変動の影響や社会構造の急激な変化等に直面し、公務員の果たすべき役割は一層重要で大きなものになりつつあるといわれています。求められる人材は、言われた仕事を受動的に処理するのではなく、自ら主体的に立案・計画する能力を備える人です。

日本大学の教育理念・目的の「自主創造」とは、知的好奇心をもって自らが課題に取り組み、新しい道を切り開いていくことです。日本大学の学生は、この「創造力」が国公立を含む他大学の学生よりも優れていると言われています。公務員を目指す皆さんは是非とも夢を実現し、希望ある社会作りに貢献して欲しいと思います。

生産工学部主催公務員試験対策講座

国家公務員採用総合職、一般職及び地方上級公務員採用試験などを旨とする公務員志望者の支援として、生産工学部では「対策講座」を設けています。

費用負担は、教材費・模擬試験受験料のみ。サポート体制も充実しています。

- ・講師による「公務員メール相談」の開設
- ・一次試験に合格した受講生は、個別面接指導が受けられます。最終合格・採用内定の獲得に必要な面接テクニックを、豊富な指導経験のある講師がフォローします。
- ・使用教材は、実際に出题された公務員試験の過去問から、「より出題可能性の高い問題」、「確実にとらなければならない問題」を編集。
技術職希望の場合、研究にも時間をとられがちです。効率よく試験前の一年間を過ごしましょう。

「公務員試験対策講座ガイダンス」

7月実践講座、1月直前講座

「公務員模擬試験」2月

学習進度を知るための力試し受験。試験後に問題解説講座を実施します。

「実践講座」9月～12月

基礎知識の定着を図ります。要点整理を行い、確実に実力を鍛えます。

- ①公務員試験の重点科目である「数的処理・文章理解」については、過去問題を使った実践的なインプット講義により、実践感覚と同時に基礎知識を身につけます。
- ②理系の学生が苦手とし、手薄になりやすい「社会科学」について、分かりやすい講座内容で基礎知識のインプットをします。

「直前講座」2月

教養科目工学基礎をとおり弱点科目を補強します。時事や面接や論文の指導を行います。直前の総まとめとして合格レベルまで実力を身につけ合格点突破を目指します。

- ①国家一般・地方上級・市役所・警察・消防官試験をメインターゲットに、しっかりサポートします。
- ②数的処理・文章理解は演習講義中心。人文科学・自然科学は出題頻度の高いものに絞って学習します。
- ③理工系専門必須科目である「工学基礎」についても対策を行います。

「個別面談・論文指導」5月又は6月

- ①1次試験受験実績に応じて「面接・論文」指導を実施します。

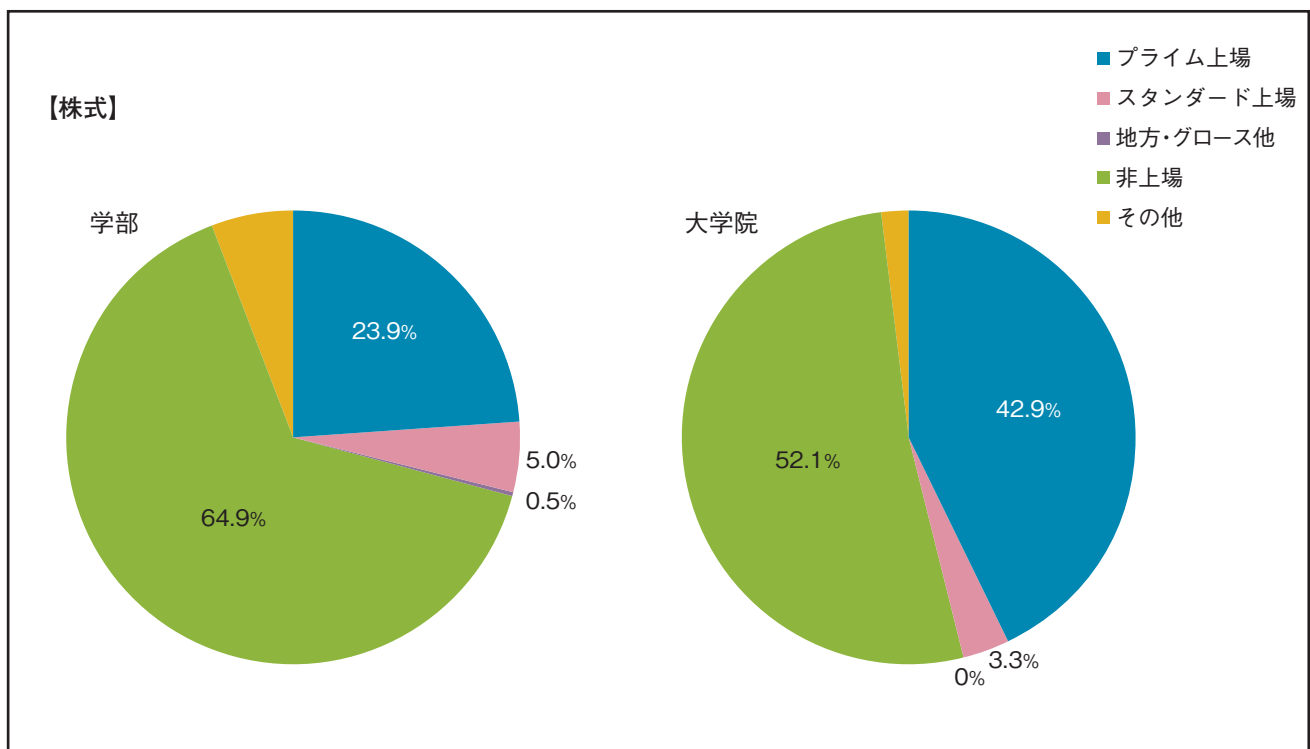
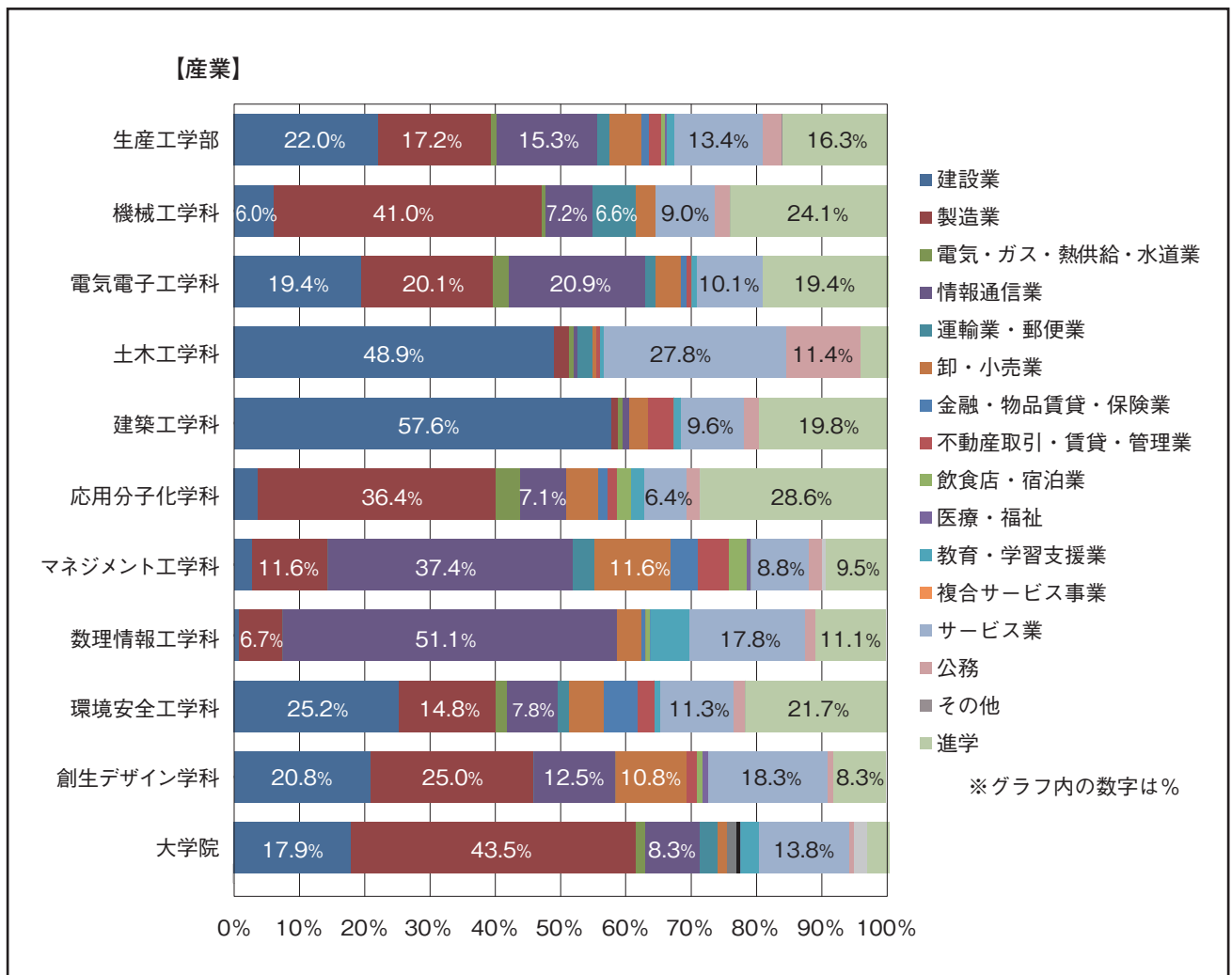
また、日本大学本部には「公務員試験支援センター」が設置されており、日本大学の在校生・卒業生で公務員を志望する方へ統一的な支援を行っています。1年生より受講可能な公務員試験準備講座をはじめとする各種講座、模擬試験、公務員合宿、特別セミナー等各種プログラムを用意して、国家総合職・一般職・地方上級・市役所・警察・消防等あらゆる公務員志望者をサポートしています。

奨励金制度

難関試験である国家公務員採用総合職試験（相当職含む）に最終合格した本学在学中の学生若しくは卒業生（大学院修了者を含む）に対し、公務員試験支援センターより奨励金を支給しています。

産業分類別の就職(進路)状況

先輩の就職した業界を、学科毎にグラフで表したものです。



奨学金制度・特待生制度

特待生

日本大学には、学業成績、人物共に優秀な学生に対して奨学金を給付する特待生制度があります。選考は2年生以上を対象とし、特に成績優秀な学生に給付する甲種と、優秀な学生に給付する乙種があります。甲種特待生は授業料1年分相当額の半額及び図書費12万円を給付、また乙種特待生は授業料1年分相当額の半額を給付します。

なお、特待生が休学、退学又は特待生を取り消された場合には、当該年度の奨学金の全部又は一部を返還することになります。

奨学金

日本大学全学部を対象とする奨学金、生産工学部独自の奨学金制度があります。また学外には日本学生支援機構や地方公共

団体・民間育英団体などの奨学金制度もあります。詳しくは、学生課の掲示板をご覧ください。

令和5年度特待生受給状況

2 年 生	甲種 0 名 乙種 8 名
3 年 生	甲種 0 名 乙種 8 名
4 年 生	甲種 5 名 乙種 9 名

独立行政法人 日本学生支援機構奨学金

優秀で経済的理由により修学困難な学生のうち、大学から推薦された学生について、日本学生支援機構で選考の上、次の奨学金が貸与又は給付されます。

令和4年度採用 日本学生支援機構奨学金

種 別	区 分	種 類	月 額	期 間	備 考
貸 与	大 学	第一種 (無利子)	自 宅 2万, 3万, 4万 又は 5.4万円 自宅外 2万, 3万, 4万, 5万 又は 6.4万円	奨学生に採用された月から卒業又は修了予定の最短修業年限まで	[在学採用] ・毎年4月 [緊急採用・応急採用] ・随時 災害等により家計が急変した場合に限る
		第二種 (有利子)	2万から12万円のうち1万円単位で選択		
	大学院	第一種 (無利子)	博士前期 5万 又は 8.8万円 博士後期 8万 又は 12.2万円		
		第二種 (有利子)	博士前期 5万 8万 10万 13万 15万円から 博士後期 本人の希望による選択		
給 付	大 学		自 宅 【第Ⅰ区分】 38,300 円 【第Ⅱ区分】 25,600 円 【第Ⅲ区分】 12,800 円 自宅外 【第Ⅰ区分】 75,800 円 【第Ⅱ区分】 50,600 円 【第Ⅲ区分】 25,300 円		・日本学生支援機構の審査により 【第Ⅰ区分】 【第Ⅱ区分】 【第Ⅲ区分】 等が決定 ・給付型奨学金の給付を受けた場合 貸与型奨学金第一種の貸与月額の上 限が制限されます。(併給調整)

注) ①申請手続きにあたっての注意事項

申請手続きについては、ポータルシステム等にてお知らせしています。募集の機会を逃すと申請ができません。希望者は見落とすことのないよう十分注意してください。

提出書類は丁寧に記入し、提出期限に遅れることのないようにしてください。申請手続きには提出書類の他に添付書類として所得に関する証明書等が必要となります。これらの入手には時間がかかる場合がありますので、余裕をもって準備してください。

家計の急変や災害等により被害を受けた場合は、学生課窓口にご相談ください。日本学生支援機構奨学金で採用となる場合があります。

②採用にあたっての注意事項

採用説明会の参加、各種手続きが必要です。これらは全てポータルシステム等にてお知らせします。見落としにより手続きをしなかった場合の不利益は全て自分の責任となり、受給停止等に至る場合もありますので、ポータルシステムを見る習慣をつけるよう心がけてください。

タルシステムを見る習慣をつけるよう心がけてください。

③進学届の提出

高校で大学奨学生に係る採用候補者として採用通知を受け取っている学生は、「進学届」を決められた期日(4月上旬)までに実務校舎事務課へ提出してください。提出されない場合は、採用取り消しになりますので注意してください。なお詳細については、ポータルシステムにてお知らせします。

④在学届の提出

入学以前に日本学生支援機構の奨学生であった学生は、在学届を決められた期日(4月)までに学生課へ提出してください。大学在学期間中の返還が猶予されます。なお詳細については、ポータルシステムにてお知らせします。

日本大学及び生産工学部が設けている奨学金

奨 学 金 の 名 称	対 象	選 考 基 準	奨 学 金 額	種 別	令和4年度実績
古 田 奨 学 金 (日 本 大 学)	全 大 学 院 学 生	学 業 成 績 人 体 康 復	20 万 円	給 付	全学 19 名
ロバート・F・ケネディ奨学金 (日 本 大 学)	全 大 学 院 学 生	学 業 成 績 人 体 康 復	20 万 円	給 付	全学 19 名
オリジナル設計奨学金 (日 本 大 学)	理 工・生 産 工・ 工 の 全 学 部 学 生	学 業 成 績 人 体 康 復 国家公務員採用総合職試験の 受 験 を 志 す 者	20 万 円	給 付	3 名
日 本 大 学 創 立 130 周 年 記 念 奨 学 金 第 2 種 (日 本 大 学)	学 部 学 生	学 業 成 績 人 体 康 復	30 万 円	給 付	全学 333 名

奨学金の名称	対象	選考基準	奨学金額	種別	令和4年度実績
日本大学創立100周年記念 外国人留学生奨学金 (日本大学)	外国人留学生のみ 大学院学生 学部学生 短期大学部学生	学業成績 学人健康	授業料1年分 相当額の半額	給付	全学部・短大 30名 全大学院12名
第一種奨学金 (生産工学部)	大学院学生 学部学生	学業成績 学人健康	50万円	給付	学部3名 大学院6名
第二種奨学金 (生産工学部)	大学院学生 学部学生	学業成績 学人健康	30万円	給付	学部・大学院 合わせて2名
第三種奨学金 (生産工学部)	外国人留学生のみ 大学院学生 学部学生	学業成績 学人健康	50万円	給付	学部2名
校友会奨学金 (生産工学部)	大学院学生 学部学生	学業成績 学人健康	30万円, 20万円, 10万円のいずれか	給付	学部・大学院 合わせて4名
博士後期課程への 進学者に対する奨学金 (大学院生産工学研究科)	博士後期課程学生	学業成績 学人健康	20万円, 50万円, 60万円	給付	12名

※応募資格や金額等について変更になる場合があります。

地方公共団体奨学金一覧（募集時期は目安です）

	奨学金名	種別	募集時期	形態	学部生 月額	大学院生 月額	応募資格等
1	いわき市奨学金奨学生	地方	3月	貸与	40,000円		いわき市に引き続き1年以上住所を有している方・学校に入学するまでに引き続き1年以上いわき市に住所を有していた方。
2	宮崎県育英資金	地方	2月	貸与	63,000円 48,000円 32,000円		貸与を申し込む学生の生計を主として維持する者が宮崎県内に居住していること。
3	滑川市奨学資金	地方	6月	給付・貸与	40,000円		滑川市に住所を通ずる世帯に属する方。
4	公益財団法人 常磐奨学会	地方	4月	貸与	35,000円		福島県いわき市・茨城県北茨城市及びその周辺地域居住者の子弟。
5	上越学生寮奨学生	地方	4月	貸与	70,000円	100,000円	上越・妙高・糸魚川いずれかに3年以上住所を有した方。
6	石川県奨学生	地方	4月	貸与	44,000円		学部生で保護者が石川県内に現に引き続き3年以上居住していること。日本学生支援機構との併願可、併用貸与不可。
7	公益財団法人 山口県 ひとづくり財団	地方	4月	貸与	52,000円		保護者が山口県内に住所を有する学部生。
8	福島県奨学生	地方	5月	貸与	40,000円		福島県内の高校を卒業した者。入学する目的を持って住所を移転するまで、福島県内に引き続き6か月以上住所を有すること。
9	茨城県奨学生（月額貸与）	地方	5月	貸与	自宅通学 36,000円 自宅外通学 40,000円		①茨城県内に居住する者の子弟。 ②日本学生支援機構の貸与を受けていないこと。
10	茨城県奨学生 入学一時金	地方	4月	貸与	(年額) 240,000円		①茨城県内に居住する者の子弟。 ②令和5年度に大学進学者。
11	川崎市大学奨学生	地方	5月	貸与	38,000円		学部1年生。保護者が1年以上川崎に居住している方。
12	大田区奨学生	地方	6月	貸与	44,000円		貸与開始の1年前から引き続き保護者が大田区に居住している方。学部生。
13	香川県 日本学生支援機構 第一種奨学金返還支援	地方	1月	返還支援	第一種奨学金の貸与月数 × 15,000円		香川県出身者で次のいずれかに当てはまる方。 ①令和6年4月に第一種奨学金を受ける予定の方。 ②在学者で新たに第一種奨学金を受ける方（貸与期間1年以上） ③在学者ですでに第一種奨学金の貸与を受けている、残与期間が1年以上の方。
14	やまがた就職促進奨学金	地方	5～9月	返還支援	最大1,248,000円		山形県内に居住しながら、山形県内の高校を卒業した方。
15	鹿児島県大学等奨学金 返還支援候補者	地方	11月	返還支援	大学在学中に借りた機構 奨学金または育英財団の 奨学金。		令和7年3月に大学・大学院を卒業予定の方。卒業後は鹿児島県に居住し、県内企業に就職を希望する方。
16	西東京市学生等金 応援特別給付金	地方	1月末まで	給付	50,000円	50,000円	西東京市に住民票がある19～29歳で次の条件のいずれかを満たす学生。 ①日本学生支援機構の給付利用者 ②世帯全員が住民税均等割非課税で課税者の扶養になっていない方。
17	出雲市奨学生及び 高野令一育英会奨学生	地方	10月	貸与	出雲市奨学金 50,000円 高野令一育英会奨学生 60,000円		奨学金を受けようとする人またはその保護者が申込みの時点で3年以上出雲市内に住所のある方。
18	三重県地域と若者の 未来を拓く学生奨学金 返還支援事業	地方	1月	返還支援	借受奨学金の1/4 (上限1,000,000円)	借受奨学金の1/4 (上限1,000,000円)	大学院修士・博士1年以上、学部3年以上。三重県への定住を希望すること。日本学生支援機構第一種奨学金またはこれに準ずる借入が対象。
19	宮崎県奨学会奨学生	地方	9月	貸与	25,000円		宮崎県に本籍がある、または生計維持者がいる1年生。

民間団体奨学金一覧（募集時期は目安です）

	奨学金名	種別	募集時期	形態	学部生月額	大学院生月額	応募資格等
1	公益財団法人 昭歴記念財団	民間	3月	給付	25,000 円	25,000 円	学部2年生以上及び大学院生。
2	公益財団法人 キーエンス財団	民間	4月	給付	100,000 円		新1年生。（留学生応募不可。）
3	公益財団法人 キーエンス財団 がんばれ！日本の大学生	民間	4月	給付	1 回のみ 300,000 円		新2～4年生。
4	公益財団法人 JPC 奨学財団	民間	4月	給付	35,000 円	35,000 円	日本国籍を有する学部1年生・大学院1年生。
5	公益財団法人 同盟育成会	民間	4月	給付	40,000 円	60,000 円	2023年度の大学3年生、大学院1年生。ジャーナリスト関係を目指す方。
6	公益財団法人 安田奨学財団奨学生 (スポーツ枠)	民間	3月	給付	100,000 円		私費外国人留学生で ①大学公認の運動部所属 ②新入生及び在学中の1～3年生。 ①②両方に当てはまる方。
7	公益財団法人 吉田育英会奨学生 ドクター21	民間	3月	給付		200,000 円	令和5年度に修士課程2年次在学の方。
8	公益財団法人 吉田育英会奨学生 マスター21	民間	4月	給付		80,000 円	令和5年4月から学部4年次在学中で令和5年秋季または令和6年春季に大学院修士課程に入学を希望する方。
9	公益財団法人 日本証券奨学財団奨学生	民間	3月	給付	自宅通学者 45,000 円 自宅通学者 55,000 円	自宅通学者 45,000 円 自宅通学者 55,000 円	大学2年生・大学院博士前期課程1年または博士課程1年生
10	公益財団法人 芸術協会	民間	4～6月	貸与	20,000 円		広島県内の高等学校もしくは中学校を卒業した方。
11	公益信託 池田育英会トラスト奨学生	民間	5月	給付	17,000 円	17,000 円	愛媛県内の高等学校を卒業または、保護者が愛媛県内に居住する方で学部2年生以上・大学院生。
12	公益財団法人 COSINA 奨学会	民間	4月	給付	30,000 円	30,000 円	長野県内の高等学校を卒業した方。 令和5年度の大学院1年生・学部3年生の方。
13	公益財団法人 樫山奨学財団	民間	4月	給付	60,000 円		大学1年在学者。
14	一般財団法人 上田記念財団奨学生	民間	4月	給付	50,000 円	50,000 円	土木系の学部3年生または修士1年生。
15	一般財団法人 一玉野教育基金奨学生	民間	4月	給付	35,000 円		2023年4月に学部1年生の方。
16	一般財団法人 ホリプロ文化芸能財団	民間	3月	給付	30,000 円		大学2・3年生。卒業後はエンターテインメントに携わる職業を志す者。
17	公益財団法人エフテック奨学財団	民間	3月	給付	30,000 円	30,000 円	大学2年以上・大学院1年に在籍。私費外国人留学生も応募可。
18	一般財団法人 鷹野学術振興財団	民間	4月	給付	(年額) 600,000 円	(年額) 600,000 円	大学の1～3年・大学院修士1年に在籍している方。 卒業後は製造業への就職希望の方。
19	公益財団法人 志・建設技術人材育成財団	民間	5月	給付	(年額) 500,000 円		兵庫県出身者で建築・土木で学ぶ1年生。
20	公益財団法人 高山国際教育財団	民間	4月	給付	170,000 円		アジア諸国出身の私費留学生の学部1年生。
21	公益財団法人 ナガワひまわり財団奨学生	民間	5月	給付	30,000 円	30,000 円	2～4年生。大学院修士課程の方。
22	公益財団法人 大塚敏英育英奨学財団	民間	4月	給付	(年額) 200 万・150 万・ 100 万のいずれか	(年額) 200 万・150 万・ 100 万のいずれか	私費外国人留学生。健康に深くかわかる分野を専攻している方。
23	公益財団法人 戸部眞紀財団	民間	4月	給付	50,000 円	50,000 円	学部3年生以上・大学院生。私費外国人留学生も応募可。
24	公益財団法人 公和佐見丸和財団奨学生	民間	6月	給付	50,000 円		物流並びに流通経済を学ぶ大学2年生。
25	公益財団法人 いであ環境・文化財団	民間	4月	給付	(年額) 200,000 円	(年額) 200,000 円	大学院博士課程までの学部2年生以上。
26	公益財団法人 岡本教育財団 岡本育英奨学金	民間	4～5月	給付	(年額) 480,000 円		経済系学部の3年生。
27	公益財団法人 サカタ財団第5期	民間	5月	給付	70,000 円	70,000 円	学部2年生、修士1年生。
28	公益財団法人 クリハラント記念財団	民間	4月	給付	60,000 円		理工系学部生。
29	公益財団法人 東洋合成記念財団	民間	4月	給付		(年額) 400,000 円	応用分子化学専攻の大学院生。
30	一般財団法人 北野財団奨学生	民間	4月	給付	30,000 円	30,000 円	学部2～4年生・大学院修士課程の方。
31	公益財団法人 アキレス育英会奨学生	民間	5月	給付	自宅通学者 30,000 円 自宅外通学者 40,000 円		学部1年生。
32	公益財団法人 朝鮮奨学会 大学・大学院奨学生	民間	4月	給付	25,000 円	修士課程 40,000 円 博士課程 70,000 円	韓国籍・朝鮮籍の学生。
33	一般財団法人 松原奨学財団	民間	4月	給付	30,000 円		学部2・3年の日本国籍の方。
34	公益信託 松栄奨学基金奨学生	民間	3月	給付	50,000 円		令和4年度の大学2年生で、電気電子・経営・経営情報学・数学関係の分野を専攻する学生。
35	公益財団法人 米濱・リンガーハット財団奨学生	民間	5月	給付	20,000 円		鳥取県、長崎県内の高校を卒業した、大学2～4年生。
36	公益財団法人 寿奨学金	民間	5月	給付	40,000 円		学部3年生で日本国籍の方。
37	トヨタ女性技術者育成基金 奨学支援プログラム	民間	5月	貸与	(年額) 600,000 円	(年額) 600,000 円	学部1～3年・大学院1年の女子。就職先による免除申請あり。
38	公益財団法人 オークネット財団奨学金	民間	5月	給付	(年額) 480,000 円		経済・経営系学部。日本国籍で3年生の方。
39	公益財団法人 ダイオース記念財団奨学生	民間	5月	給付	30,000 円	30,000 円	学部2年生以上・大学院生。
40	一般財団法人 守谷育英会奨学金	民間	4月	給付	120,000 円	120,000 円	学部生・大学院生。留学生も応募可。
41	公益財団法人 マース奨学財団奨学生	民間	4月	給付	50,000 円		日本国籍で学部生の方。
42	公益財団法人 オーディオテクニカ奨学会	民間	4月	給付	20,000 円	20,000 円	学部2年生以上・修士1年生以上。
43	一般財団法人 岡部享和奨学財団	民間	4月	給付	30,000 円	30,000 円	学部2年生以上・修士課程の方。
44	公益信託 岩井久雄記念 東京奨学育英基金奨学生	民間	5月	給付	100,000 円	120,000 円	学部3年生・修士、博士1年の方。日本国籍を有する方。
45	公益財団法人 東京 YWCA 「留学生の母親」運動奨学金	民間	4月	給付	30,000 円		私費留学生で学部1・2年生。
46	一般財団法人 小貫基金貸与奨学生	民間	4月	貸与	50,000 円	60,000 円	学部生・修士課程の方。
47	公益財団法人 国土育英会奨学生	民間	4月	給付	18,000 円	18,000 円	学部・大学院生で日本国籍の方。
48	実践桜会 国際交流基金給付奨学生	民間	5月	給付	(年額) 600,000 円	(年額) 600,000 円	大学3・4年、大学院に在籍するアジア諸国出身の女子留学生。
49	一般財団法人 PIF 奨学生	民間	5月	給付	(年額) 400,000 円		学部1年生。
50	公益財団法人 長坂国際奨学財団	民間	4月	給付	50,000 円		ASEAN 諸国の国籍を有する留学生で学部2～4年生。
51	公益財団法人 国土育英 会奨学生（外国人留学生）	民間	4月	給付	100,000 円	100,000 円	大学・大学院に所属する留学生。
52	公益財団法人 関通物流 技術振興財団奨学生	民間	5月	給付	(年額) 480,000 円		日本国籍の学部3年生。

	奨学金名	種別	募集時期	形態	学部生 月 額	大学院生 月 額	応募資格等
53	公益財団法人 似鳥国際奨学財団	民間	5月	給付	50,000 円		学部生。
54	公益財団法人 住本育英会奨学生	民間	4月	給付	20,000 円		学部1年生。
55	公益財団法人 ツツミ奨学財団	民間	4月	給付	45,000 円		埼玉県の高校を卒業した、学部1年生。
56	公益財団法人 前澤育英財団	民間	4月	給付	40,000 円		東京都に在住、もしくは東京都民の子弟で学部1年生の方。
57	公益財団法人 春秋育英会	民間	4月	給付	30,000 円		日本に在住する保証人が得られる方。
58	一般社団法人 唐神基金奨学生	民間	6月	給付	(年額) 240,000 円		学部2～4年生。
59	公益財団法人 中村積善会奨学生	民間	5月	給付	50,000 円	50,000 円	学部生・大学院生(留学生も可)
60	公益財団法人 木原育英奨学金	民間	4月	給付	(年額) 480,000 円		学部3年生。日本国籍の方。
61	公益財団法人 交通遺児育英会奨学生	民間	10月	貸与	40,000 円～60,000 円	50,000 円～100,000 円	保護者が交通事故で死亡・重度後遺障害となった方。
62	一般財団法人 あしなが育英会	民間	5月	貸与	一般 40,000 円 特別 50,000 円		保護者が病気・災害・自死等で死亡または障がい認定を受けている方。
63	一般財団法人 関育英会	民間	5月	貸与	30,000 円		学部2～4年生。
64	公益財団法人 日揮・実吉奨学会	民間	5月	給付	(年額) 400,000 円	(年額) 400,000 円	日本国籍の方。
65	公益財団法人 山村章育英奨学金	民間	4月	給付	(年額) 480,000 円		日本国籍の方。学部3年生。
66	一般財団法人 大森昌三記念財団奨学生	民間	5月	給付	30,000 円	30,000 円	学部2年生以上と、大学院生。
67	公益財団法人原・フルタイムシステム科学技術振興財団 原・フルタイムシステム工学育英会奨学生	民間	5月	給付	40,000 円	40,000 円	日本国籍で学部3年生・修士課程1年生。
68	公益財団法人 新日育英奨学会	民間	5月	給付	50,000 円		学部1年生。
69	公益財団法人 埼玉学生誘掖会	民間	6月	給付	(年額) 250,000 円		埼玉県出身者の子弟で学部1年生。
70	JEES 留 学 生 奨 学 金	民間	5月	給付	40,000 円	40,000 円	留学生で、学部2年生以上もしくは大学院生。
71	公益財団法人 重田教育財団 海外留学奨学金	民間	6月	給付	200,000 円		学位取得の目的で海外の大学・大学院に入学が決まっている者。 (短期・語学留学不可。)
72	JEES 日本語修学支援奨学金	民間	5月	給付	50,000 円	50,000 円	日本語理解に励む私費外国人留学生。
73	公益財団法人 富山文化財団奨学生	民間	7月	給付	30,000 円	30,000 円	関東地方に所在の学生。楽しく豊かな遊び文化・子供の悠育と健やかな成長・日本の物づくりのいずれかに興味を持ち、学業に取り組んでいる方。
74	公益財団法人 安田奨学財団	民間	6月	給付	50,000 円		大学2年で日本国籍の方。外国籍であっても指定の条件を満たす方。
75	公益財団法人 ユニオン奨学財団	民間	6月	給付	30,000 円		2023年度4月入学の1年生。
76	公益財団法人 松下幸之助記念志財団	民間	7月	給付	200,000 円	200,000 円	応募時と助成期間中は日本の大学・大学院に在籍する者。
77	大学女性協会2023年度国内奨学生	民間	8月	給付	社会福祉奨学生 (1度のみ) 100,000 円	一般奨学生 (1度のみ) 200,000 円 社会福祉奨学生 (1度のみ) 200,000 円	一般奨学生…大学院2年生以上の女子 社会福祉奨学生…学部2年・大学院2年以上の身体に障がいのある方。
78	公益財団法人 中島記念国際交流財団 日本人海外留学奨学生	民間	7月	給付	300,000 円、 支度金 500,000 円 (1度のみ)	300,000 円、 支度金 500,000 円 (1度のみ)	海外の大学の修士号または博士号取得のために留学する方。 令和6年度中に留学開始する方。
79	菊地久治勉学奨励金奨学生	民間	7月	給付	1,500,000 円を上限とする 実費支給。		国の修学支援制度を利用・申請中の方。佐倉市在住の方。
80	公益財団法人 日揮・実吉奨学会 留学生給与奨学金	民間	9月	給付	(年額) 300,000 円	(年額) 300,000 円	私費外国人留学生。
81	公益財団法人 渥美国際交流財団	民間	9月	給付		250,000 円	博士後期課程在学者。
82	公益財団法人 ロータリー米山記念奨学会	民間	9月	給付	100,000 円	140,000 円	外国人留学生で学部1～3年、大学院1年生の方。
83	第39回江戸川区スポーツ栄誉賞	民間	9月		スポーツ特別栄誉賞 の顕彰。	スポーツ特別栄誉賞 の顕彰。	江戸川区在住のスポーツで優秀な成績を収めた方。
84	公益財団法人 平和中島財団外国人留学生奨学生	民間	9月	給付	120,000 円	150,000 円	在留資格「留学」の方。
85	社会福祉法人さばうと21坪井一郎・仁子学生支援プログラム	民間	10月	給付	(年額) 400,000 ～ 800,000 円	(年額) 600,000 ～ 1,000,000 円	大学3年以上もしくは大学院生の外国籍・元外国籍の方。 在留資格「留学」の方は対象外。
86	e-sports 連盟奨学金	民間	10月	給付	(1度のみ) 50,000 円	(1度のみ) 50,000 円	e-sports の発展に尽力した学生。
87	公益信託 川嶋章司記念スカラシップ基金	民間	11月	給付	120,000 円	120,000 円	2024年度に学部3・4年生または大学院修士・博士課程在籍予定の留学生。
88	公益財団法人 辻国際奨学財団	民間	11月	給付	150,000 円	150,000 円	2024年度に学部3・4年生または大学院修士・博士課程在籍予定の留学生。
89	公益財団法人 天野工業技術研究所 大学院後期博士課程奨学金	民間	11月	給付		(年額) 1,500,000 円	博士後期課程1年生。
90	一般財団法人 荒井芳男記念財団奨学生	民間	12月	給付	100,000 円		日本国籍・日本の永住権を有する方。
91	公益財団法人 岩谷直治記念財団 第50回岩谷国際留学生奨学助成	民間	12月	給付		150,000 円	東アジア・東南アジアからの私費外国人留学生。
92	公益財団法人 ヨネックススポーツ振興財団	民間	11月	給付	(年額) 600,000 円	(年額) 600,000 円	スポーツ競技において自他ともに認める力量のある方。
93	公益財団法人 似鳥国際奨学財団	民間	11月	給付	50,000 円	50,000 円	学部生・大学院生。(私費外国人留学生・永住者・定住者も可)
94	一般財団法人 TCS 奨学会	民間	12月	給付	50,000 円	50,000 円	日本国籍でR6年度に学部2年生以上もしくは大学院生の方。
95	一般財団法人 共立国際交流奨学財団	民間	12月	給付	共立国際交流 100,000 円 共立メンテナンス・ヤングスチール 60,000 円	共立国際交流 100,000 円	アジア諸国出身の私費留学生。
96	社会福祉法人さばうと21	民間	1月	給付	20,000 円		外国籍・元外国籍・永住者・定住者の方。
97	公益信託 久保田豊基金助成	民間	1月	給付	80,000 円以上 100,000 円以下		開発途上国の国籍を有する方。
98	公益財団法人 高山国際教育財団	民間	12月	給付	170,000 円		アジア諸国出身の令和6年度に学部3・4年になる方。 (4年生は大学院進学希望者)
99	公益財団法人 岡本国際奨学交流財団	民間	1月	給付	80,000 円		私費外国人留学生。

※これらの奨学金はほんの一例です。新規の分を含め、募集案内の来た奨学金については、随時学生課の掲示板にて周知します。募集時期や応募資格、金額等については、変更がある場合がありますので要項で確認してください。

国の教育ローン（日本政策金融公庫国民生活事業）

本学の入学者、在学者及びその保護者の方は、日本政策金融公庫国民生活事業「国の教育ローン」を利用することができます。「国の教育ローン」は、教育に必要な資金を融資する公的な制度で、これまで340万人を超える方々に利用されています。

【融 資 額】学生・生徒1人あたり350万円以内

【利 率】年2.25%（令和5年10月2日現在）

【返済期間】18年以内

【使いみち】入学金、授業料、教科書代、アパートの敷金・家賃など

【返済方法】毎月元利均等返済（ボーナス時増額返済も可能です）

【保 証】（公財）教育資金融資保証基金の保証又は連帯保証人1人以上

詳しくは、日本政策金融公庫国民生活事業の各支店、又は最寄りの金融機関（銀行、信用金庫、信用組合、労働金庫、農協、漁協）までお問い合わせください。

各種資格について

みなさんが卒業後、社会人として必要となると思われるものが「資格」です。個人の能力がより要求される現代では、この「資格」の有無が重要な意味を持ってきます。それゆえ公的な資格を可能な限り取得することをお勧めします。

学科共通

技術士補
P E / F E
情報処理技術者
ほか

機械工学科

自動車整備士
自家用飛行機操縦士
CAD 利用技術者
エネルギー管理士
溶接管理技術者
ボイラー技士
ほか

電気電子工学科

電気主任技術者
電気通信主任技術者
第一級陸上無線技術士
技術士
陸上特殊無線技士
海上特殊無線技士
航空特殊無線技士
電気工事士
エネルギー管理士
建築設備士
工事担任者（アナログ、デジタル）
IT パスポート試験
基礎情報処理技術者
ほか

土木工学科

技術士
測量士・測量士補
土木施工管理技士
宅地建物取引士
土地家屋調査士
土地区画整理士
コンクリート（主任）技士
コンクリート診断士
管工事施工管理技士
造園施工管理技士
R C C M
土木学会認定技術者
建設機械施工技士
火薬類（製造・取扱）保安責任者
ほか

建築工学科

技術士
技術士補
一級建築士
二級建築士
木造建築士
構造設計一級建築士
設備設計一級建築士
一級建築施工管理技士
二級建築施工管理技士
宅地建物取引士
ほか

応用分子化学科

技術士
甲種危険物取扱者
毒物劇物取扱責任者
有機溶剤作業主任者
特定化学物質作業主任者
火薬類（製造・取扱）保安責任者
公害防止管理者
環境計量士
一般計量士
消防設備士
エネルギー管理士
ほか

マネジメント工学科

品質管理検定（QC 検定）
社会保険労務士
ファイナンシャル・プランニング技能士
簿記
情報処理技術者（基本情報技術者試験、応用情報技術者試験）
データ分析（データサイエンティスト検定 統計検定）
ディープラーニング G 検定
Python3 エンジニア認定データ分析試験
ほか

数理情報工学科

情報処理技術者（ITパスポート試験・基本情報技術者・応用情報技術者）
CGエンジニア検定
CGクリエイター検定
Webデザイナー検定
画像処理エンジニア検定
計算力学技術者
統計検定（2級）
人工知能検定（G検定・E資格）
ほか

環境安全工学科

技術士
エネルギー管理士
危険物取扱者
管工事施工管理技士
造園施工管理技士
土木施工管理技士
建築施工管理技士
電気工事施工管理技士
消防設備士
毒物劇物取扱責任者
環境計量士・一般計量士
公害防止管理者
労働安全コンサルタント
ビオトープ管理士
ほか

創生デザイン学科

二級建築士
建築施工管理技士
色彩検定
環境社会検定
認定人間工学専門家
CG クリエイター検定
CAD 利用技術者
照明コンサルタント
福祉住環境コーディネーター
インテリアコーディネーター
GIS 上級技術者
ほか

（注）上記の資格には講習の受講、受験、一定年限の実務経験を必要とするものもあります。詳細については各団体のホームページや「学習の手引」を参照ください。

学則及び諸規程(抜粋)

日本大学学則

第1章 総則

第1節 目的及び使命

- 第1条 本大学は、日本精神にもとづき、道統をたつとび、憲章にしたがい、自主創造の気風をやしない、文化の進展をはかり、世界の平和と人類の福祉とに寄与することを目的とする。
- 第2条 本大学は、広く知識を世界にもとめて、深遠な学術を研究し、心身ともに健全な文化人を育成することを使命とする。

第2節 大学組織

- 第3条 本大学は、学部及び大学院をもって、これを組織する。

第5節 学年・学期及び休業日

- 第13条 学年は、毎年4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。
- 第14条 学期は、次のとおりとする。ただし、事情によって異なる場合がある。
- 前学期 4月1日から9月30日まで
- 後学期 10月1日から3月31日まで
- 第15条 休業日は、次のとおりとする。ただし、休業日でも特に授業又は試験を行うことがある。
- ① 日曜日
 - ② 国民の祝日に関する法律に規定する休日
 - ③ 本学創立記念日(10月4日)
 - ④ 春季休業 3月11日から3月31日まで
 - ⑤ 夏季休業 7月11日から9月10日まで
 - ⑥ 冬季休業 12月21日から翌年1月10日まで
- 2 休業日の変更及び臨時の休業日については、そのつどこれを定める。

第6節 入学・在学・転部・転科・転籍・休学・復学・留学・退学及び除籍

- 第16条 入学の時期は、学年の始め又は学期の始めとする。
- 第17条 学部に入學できる者は、次の各号のいずれかに該当する資格を持ち、本大学の選抜試験に合格した者とする。
- ① 高等学校又は中等教育学校を卒業した者
 - ② 通常の課程による12年の学校教育を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む)
 - ③ 外国において学校教育による12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定したもの
 - ④ 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
 - ⑤ 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他文部科学大臣が定める基準を満たすものに限り)で文部科学

大臣が別に指定するものを文部科学大臣が定める日以降に修了した者

- ⑥ 文部科学大臣の指定した者
 - ⑦ 高等学校卒業程度認定試験規則(平成17年文部科学省令第1号)による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(同規則附則第2条の規定による廃止前の大学入学資格検定規程(昭和26年文部省令第13号)による大学入学資格検定に合格した者を含む)
 - ⑧ 学校教育法第90条第2項の規定により大学に入学した者であって、本大学において、大学における教育を受けるにふさわしい学力があると認めたもの
 - ⑨ 本大学において、個別の入学資格審査により、高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で、18歳に達したもの
- 2 前項の規定にかかわらず、高等学校に文部科学大臣の定める年数以上在学した者(これに準ずる者として文部科学大臣が定める者を含む)であって、本大学の定める分野において特に優れた資質を有すると認めるものであり、かつ、本大学の選抜試験に合格した者を入学させることができる。
- 第18条 入学を志願する者は、各学部所定の手続によって願出するものとする。
- 第19条 入学の選抜試験に合格した者は、所定の期日までに入学手続を完了しなければならない。
- 第20条 修業年限とは、本大学の教育課程を修了するために必要な期間のことをいう。
- 2 在学年限とは、本大学において学生の身分を有することができる期間のことをいう。
- 3 修業年限は、最低4年とし、在学年限は、8年とする。
- 4 医学部・歯学部・松戸歯学部・生物資源科学部獣医学科及び薬学部の修業年限は、最低6年とし、在学年限は、12年とする。
- 5 前2項の規定にかかわらず、学生が職業を有している等の事情により、修業年限を超えて在学年限の期間にわたり計画的に教育課程を履修し卒業することを希望する旨を申し出たときは、その計画的な履修を認めることができる。
- 6 第3項の規定にかかわらず、文部科学大臣の定めるところにより、本大学に3年以上在学した者(これに準ずる文部科学大臣の定める者を含む)が、卒業の要件として定める単位を優秀な成績で修得したと認める場合には、その卒業を認めることができる。ただし、第21条第2項第1号から第4号の資格で編入学した場合は、この規定による卒業は認められない。
- 第21条 編入学とは、他の種類の学校を卒業した者が、教育課程の一部を省いて途中から履修すべく本大学に入学することをいう。ただし、大学を卒業した者又は大学に1年以上在学した者が、教育課程の一部を省いて途中から履修すべく本大

- 学に入学する場合も編入学とする。
- 2 学部編入学できる者は、次の各号のいずれかに該当する資格を持ち、本大学の編入学試験に合格した者とする。ただし、定員に余裕があり、かつ在学生の学修に支障がないと認めた場合に限り、選考の上編入学を許可することがある。
- ① 短期大学（専門職短期大学、外国の短期大学及び我が国における外国の短期大学相当として指定された学校（文部科学大臣指定外国大学（短期大学相当）日本校）を含む）を卒業した者
- ② 高等専門学校を卒業した者
- ③ 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の高等部の専攻科の課程で文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者
- ④ 専修学校の専門課程で文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者
- ⑤ 大学（専門職大学、外国の大学及び我が国における外国の大学相当として指定された学校（文部科学大臣指定外国大学（大学相当）日本校）を含む）を卒業した者
- ⑥ 大学（専門職大学、外国の大学及び我が国における外国の大学相当として指定された学校（文部科学大臣指定外国大学（大学相当）日本校）を含む）に1年以上在学し、編入学できる学部等が定める単位数を修得している者
- 3 編入学を願い出た者については、学部等の所定の手続によって願い出るものとする。
- 4 編入学の選抜試験に合格した者は、学部等の所定の期日までに手続を完了しなければならない。
- 5 編入学の時期は、学年の始め又は学期の始めとする。
- 6 編入学の年次は、2年次又は3年次とする。
- 7 編入学者の在学年限は、許可された編入学年次に応じ、第20条第3項又は第4項に定める在学年限から編入学年次数を控除し、それに1を加えて得た年数とする。
- 8 編入学者は、編入学年次の教育課程によって履修するものとする。
- 9 編入学者の既修単位は、低年次配当科目を優先し、原則として2年次編入学者は、40単位、3年次編入学者は、70単位を基準とし、認定することができる。
- 10 通信教育部における編入学については、別に定める規程による。
- 第22条 転部とは、所属する学部とは異なる学部（通信教育部内を含む）へ異動することをいう。なお、法学部における第一部及び第二部間の異動についても転部とする。
- 2 転科とは、所属する学部の異なる学科へ異動することをいう。
- 3 転籍とは、通信教育課程を有する学部において、同一学部の通学課程と通信教育課程の間を異動することをいう。ただし、通学課程と通信教育課程の間で異なる学部への異動については、転部とする。
- 4 転部・転科及び転籍できる者は、次の各号に該当する資格を持つものとする。ただし、定員に余裕があり、かつ、在学生の学修に支障がないと認めた場合に限り、選考の上、許可することがある。

- ① 本大学に在学中の者で、転部・転科及び転籍できる学部等が定める単位数を修得しているもの
- ② 人物及び在学中の成績が妥当な者
- 5 転部・転科及び転籍を願い出た者については、学部等の所定の手続によって願い出るものとする。
- 6 転部・転科及び転籍の選考に合格した者は、学部等の所定の期日までに手続を完了しなければならない。
- 7 転部・転科及び転籍の時期は、学年の始め又は学期の始めとする。
- 8 転部・転科及び転籍の年次は、2年次又は3年次とする。ただし、4年次への転籍（同一学科間）は、許可することができる。
- 9 転部・転科及び転籍した者の在学年限は、許可された転部・転科及び転籍年次に応じ、第20条第3項又は第4項に定める在学年限から転部・転科及び転籍が許可された年次数を控除し、それに1を加えて得た年数とする。
- 10 転部・転科及び転籍した者は、転部・転科及び転籍が許可された年次の教育課程によって履修するものとする。
- 11 転部・転科及び転籍した場合、既修の授業科目は、異動した課程の定める基準の範囲内において認定することができる。
- 12 通信教育部における転部・転科及び転籍については、別に定める規程による。
- 第23条 （削除）
- 第24条 （削除）
- 第25条 休学とは、病気その他やむを得ない事由により、3か月以上修学できない状態のことをいう。
- 2 復学とは、休学期間満了によって、再び修学することをいう。
- 3 休学しようとする者は、その事実を証明する書類を添え、保証人連署で願い出て、その許可を得て原則として入学年度を除き、休学することができる。ただし、入学年度の後学期については、修学困難な事由の場合は認めることがある。
- 4 休学期間は、1学期又は1年とし、通算して在学年限の半数を超えることができない。
- 5 休学者は、その事由が解消された場合、保証人連署で願い出て、許可を得て復学することができる。
- 6 休学者は、学期の始めでなければ復学することができない。
- 7 休学期間は、在学年数に算入する。
- 第26条 （削除）
- 第27条 留学とは、本大学が教育上有益と認めたときは、休学することなく、外国の大学において、許可を得て一定期間修学することをいう。
- 2 留学の期間は、修業年数に算入する。
- 第28条 退学とは、在学中の途中において在籍関係を解除することをいう。退学には、その手続により、次のものがある。
- ① 病気その他やむを得ない事由による、学生の意志に基づく願い出によるもの。ただし、その事実を証明する書類を添え、保証人連署で退学願を提出して、許可を受けなければならない。
- ② 学生が死亡したことによる、保証人からの届出によるもの
- ③ 第30条に基づく除籍によるもの
- ④ 第76条及び第77条に基づく懲戒によるもの
- 2 第36条に基づく年度のGPAが1.50未満で、修学指導の結果、

改善が見込まれないと判断した場合は、退学勧告を行う。

第29条 再入学とは、病気その他やむを得ない事由によって退学した者が、当該学部等に再び入学することをいう。

2 病気その他やむを得ない事由によって退学した者が、その事由が解消し、当該学部等に再入学を志望したときは、退学前に在籍していた学科の定員に余裕があり、かつ在学生の学修に支障がないと認めた場合に限り、選考の上再入学を許可することがある。この場合には、既修の授業科目の全部又は一部の再履修を命ずることがある。

3 再入学できる者は、次の各号に該当するものとする。

- ① 本大学に原則として1年以上在学し、再入学しようとする学部等が定める単位数を修得している者
- ② 病気その他やむを得ない事由で退学した者
- ③ 人物及び在学中の成績が妥当な者

4 除籍によって退学になった者については、事情勘案の上、前項に準じて再入学を認めることができる。

5 再入学の学科については、原則として退学時の学科とする。

6 再入学を願った者については、学部等の所定の手続によって願い出るものとする。

7 再入学の選考に合格した者は、学部等の所定の期日までに手続を完了しなければならない。

8 再入学の時期は、学年の始め又は学期の始めとする。

9 再入学の年次は、退学時の学年次を原則とするが、修得単位数等の事情により年次を下げて許可することができる。また、学年末の退学者については、修得単位数等の事情により年次を上げて入学を許可することができる。

10 再入学者の在学年限は、許可された再入学年次に応じ、第20条第3項又は第4項に定める在学年限から再入学年次数を控除し、それに1を加えて得た年数とする。ただし、医学部・歯学部・松戸歯学部・生物資源科学部獣医学科及び薬学部においては、在学年限を定めることができる。

11 再入学者は、再入学年次の教育課程によって履修するものとする。ただし、学則変更等の事情により再入学前の入学年度の教育課程によることができる。

12 退学前の既修単位は認定する。ただし、教育課程等の変更により、退学前の既修単位が認定されないことがある。

13 通信教育部における再入学については、別に定める規程による。

第30条 除籍とは、学生の帰すべき事由により在籍関係を強制的に解除し、退学させることをいう。

2 次の各号のいずれかに該当する者は、除籍することができる。

- ① 故なくして学費の納付を怠った者
- ② 故なくして欠席が長期にわたる者
- ③ 在学年限を超えた者

第31条 (削除)

第7節 履修規程

第32条 各授業科目の単位数は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じ、当該授業による教育効果、授業時間外に必要な学修等を考慮して、次の基準により計算するものとする。また、教育上必要と認められる場合には、修得すべき単位の一部の修得に

ついて、これに相当する授業時間の履修をもって代えることができる。

- ① 講義及び演習については、15時間から30時間までの範囲で学部又は大学院研究科が定める時間の授業をもって1単位とする。
- ② 実験、実習及び実技については、30時間から45時間までの範囲で学部又は大学院研究科が定める時間の授業をもって1単位とする。ただし、芸術学部における個人指導による実技の授業については15時間の授業をもって1単位とする。
- ③ 講義、演習、実験、実習又は実技のうち二つ以上の方法の併用により授業を行う場合については、その組み合わせに応じ、前2号に規定する基準を考慮して学部又は大学院研究科が定める時間の授業をもって1単位とする。

2 前項の規定にかかわらず、卒業論文、卒業研究、卒業制作等の授業科目については、これらに必要な学修等を考慮して単位数を定めることができる。

第32条の2 前条に規定する講義、演習、実験、実習又は実技による授業は、文部科学大臣が別に定めるところによって、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

第33条 教育職員の免許状を得ようとする者は、別に定める規定によって教職課程を履修しなければならない。

第34条 学業成績は、授業科目ごとに行う試験によって、これを定める。ただし、授業科目によっては、その他の方法で査定することができる。

2 試験には、平常試験・定期試験・追試験及び再試験がある。

- ① 平常試験とは、当該授業科目履修者を対象に授業科目担当教員が学期の途中に適宜行う試験のことをいう。
- ② 定期試験とは、当該授業科目履修者を対象に大学の定めた試験期間中に行う試験のことをいう。定期試験は学期末又は学年末に行う。
- ③ 追試験とは、やむを得ない事由のため定期試験を受けることができなかった者のために行う試験のことをいう。
- ④ 再試験とは、受験の結果不合格となった者のために行う試験のことをいう。

3 追試験及び再試験は、当該学部において必要と認めるときに限り、これを行う。

第35条 修学についての所定の条件を備えていない者は、受験資格を失うことがある。

第36条 学業成績の判定は、S、A、B、C、D及びEの6種をもってこれを表し、S(100～90点)、A(89～80点)、B(79～70点)、C(69～60点)、D(59点以下)、E(履修登録したが成績を示さなかったもの)をもって表し、S、A、B、Cを合格、D、Eを不合格とする。合格した授業科目については、所定の単位数が与えられる。

2 第1項の学業成績の学修結果を総合的に判断する指標として、総合平均点(Grade Point Average、以下「GPA」という)を用いることができる。

3 前項に定めるGPAは、学業成績のうち、Sにつき4、Aにつき3、Bにつき2、Cにつき1、D及びEにつき0をそれぞれ評価点として与え、各授業科目の評価点にその単位数を乗じて得た積の合計を、総履修単位数(P又はNとして表示された科目を除く)で除

して算出する。GPA は、小数点以下第 3 位を四捨五入し、小数点以下第 2 位まで有効とする。

- 4 第 1 項の規定にかかわらず、履修登録後、所定の中止手続を取ったものは P、修得単位として認定になったものは N と表示する。
- 5 GPA 算出の対象科目は、卒業要件単位数に含まれる授業科目（単位認定科目として N と表示された科目を除く）とする。
- 6 GPA は、学期の GPA、年度の GPA 及び入学時からの累積の GPA とする。
- 7 通年科目は、学期の GPA 算出の際には、後学期の GPA に算入する。
- 8 授業科目を再履修した場合、累積の GPA 算出の際には、直近の履修による学業成績及び単位数のみを算入するものとし、以前の学業成績及び単位数は算入しない。
- 9 試験において不正行為を行った場合は、処分を受けた条件に基づき、評価を E、評価点はなしとして取り扱う。

第 37 条 各学部を卒業するために必要な最低単位数は、第 2 章教育課程及び履修方法に定めるところによる。

- 2 学生が許可を受けて在籍する学部以外の学部で履修した授業科目の単位については、当該学生が在籍する学部の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
 - 3 前項に定める授業科目の履修については、別に定める。
 - 4 学生が許可を受けて他の大学、専門職大学、短期大学又は専門職短期大学で履修した授業科目の単位については、当該学生が在籍する学部の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
 - 5 前項の規定は、学生が許可を受けて外国の大学又は短期大学に留学する場合、外国の大学又は短期大学が行う通信教育における授業科目を我が国において履修する場合及び外国の大学又は短期大学の教育課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該教育課程における授業科目を我が国において履修する場合について準用する。
 - 6 学生が許可を受けて行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が定める学修は、当該学生が在籍する学部の授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。
 - 7 学生が本大学に入学する前に大学、専門職大学、短期大学又は専門職短期大学において履修した授業科目について修得した単位については、当該学生が在籍する学部の授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。
 - 8 学生が本大学に入学する前に行った第 6 項に規定する学修は、当該学生が在籍する学部の授業科目の履修とみなし、学部の定めるところにより単位を与えることができる。
 - 9 第 2 項、第 4 項、第 5 項及び第 7 項により修得したものとみなす単位並びに第 6 項及び第 8 項により与えることのできる単位は、合わせて 60 単位を超えない範囲で、卒業するために必要な単位数に算入することができる。
- 第 37 条の 2 第 32 条の 2 に規定する授業によって修得した単位は、60 単位を超えない範囲で、卒業するために必要な単位数に算入することができる。

第 8 節 卒業及び学士の学位

第 38 条 第 20 条に定めた修業年限に達し、所定の授業科目及び単位を修得し、卒業した者に学士の学位を授与する。

第 39 条 前条の学位に付記する専攻分野の名称は次のとおりとする。

学部名	学科名	専攻分野の名称
生産工学部	機械工学 電気電子工学 土木工学 建築工学 応用分子化学 マシネン工学科 数理情報工学科 環境安全工学科 創生デザイン学科	工学

第 9 節 学費及び貸給費

第 40 条 授業料その他所定の学費は、別表 2 の定めるところにより納付するものとする。

2 編入学・再入学・転部・転科及び転籍の学費の取扱いについては、別に定める。

3 休学及び留学を許可された学生の休学及び留学期間中の学費の取扱いについては、別に定める。

第 41 条 授業料を分納しようとする者は、事由を述べた書面により、保証人連署で願い出るものとする。

第 42 条 証明手数料等については別表 3 の定めるところにより納付するものとする。

第 43 条 既納の学費は、いかなる理由があっても返還しない。

第 44 条 停学を命ぜられた学生は、停学期間中も授業料を納付しなければならない。

第 45 条 学業人物ともに優秀な学生であって、学費支弁の方法のない者には、学費を減免し、又は貸与・給付することがある。

2 減免・貸給費については、別に定める。

第 10 節 委託生及び外国人留学生

第 46 条 国又は公共団体から、一定の在学期間と履修科目とを定めて、入学を願い出た者に対しては、選考の上、委託生として入学を許可することがある。

第 47 条 委託生の入学資格については、第 18 条の規定を準用する。

第 48 条 委託生は、その履修した授業科目について試験を受けることができる。試験に合格した者には、願い出によって単位取得証明書を与えることができる。

第 49 条 委託生として 4 年以上在学し、所属学部における所定の単位を修得した者には、学士の学位を授与する。

第 50 条 委託生の授業料その他本大学に納付するために必要な学費は、委託者から納付するものとする。

第 51 条 外国人留学生の入学及び転・編入学については、第 6 節の規定を準用する。ただし、特別に選考を行い入学を許可することができる。

2 外国人留学生については、学修の必要に応じて第 2 章に掲げる授業科目の一部に代え又はこれに加えて日本語科目及び日本事情に関する科目（以下「日本語科目等」という）を開設することができる。

3 前項に定める日本語科目等の授業科目については、当該学部の

教授会がこれを定める。

4 帰国生についても第1項及び第2項の規定を準用することができる。

第52条 委託生、外国人留学生に関して、本節各条に規定しない事項については、学部学生に関する規定を準用する。

第11節 科目等履修生・聴講生・特別聴講学生及び研究生

第53条 学部の授業科目中の1科目又は数科目の履修を希望する者に対して、科目等履修生として入学を許可することがある。

2 科目等履修生の出願手続等については、別にこれを定める。

第54条 科目等履修生は、履修した授業科目について、試験を受けることができる。試験に合格した者には、所定の単位を与えることができる。

第55条 学部の授業科目中の1科目又は数科目の聴講を希望する者に対して、聴講生として入学を許可することがある。

2 聴講生の出願手続等については、別に定める。

第56条 国内又は国外の他の大学及び短期大学の学生が学部の授業科目の履修を希望するときは、特別聴講学生として入学を許可することがある。

2 特別聴講学生の出願手続等については、別に定める。

第57条 各学部において、特殊な事項に関する研究に従事しようとする者に対しては、研究生として入学を許可することがある。

2 研究生は、指導教員の個人指導を受けて研究に従事するものとする。

第58条 研究生として入学することができる者は、その学部において選考の上、適当と認められた者に限る。

第59条 研究生として入学を志願する者は、所定の出願書類に研究しようとする事項を記載して、学期の始めに願出するものとする。

第60条 研究生の在学年限は、1年とする。ただし、事情によって期間の延長を願出することができる。

第61条 研究生は、指導教員及び担任教員の承諾を経て、学部の講義・演習及び実験等に出席することができる。

第62条 研究生として、相当の成績を示したと認められる者には研究証明書を与える。

第63条 研究生に関して、本節各条に規定しない事項については、学部学生に関する規程を準用する。

第12節 教職課程

第64条 本大学に教職課程を置く。

2 中学校及び高等学校の教育職員の免許状を必要とする者は、教育職員免許法（昭和24年法律第147号）及び同法施行規則に基づき、本大学に設置する教職課程において、所定の単位を修得しなければならない。

第14節 賞 罰

第75条 人物及び学業成績が優秀な者には、授賞することがある。

2 授賞に関する規定は、別にこれを定める。

第76条 学生が本大学の規則・命令に背き若しくは大学の秩序を乱し、又は学生としての本分に反する行為があった場合にはその情状によって懲戒を行うことがある。

第77条 懲戒は、退学・停学及び訓告の3種とする。

2 前項の退学は次の各号の一に該当する者について行う。

① 性行不良で改善の見込みがないと認められる者

② 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者

③ 正当の理由がなくて出席常でない者

④ 大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

3 停学とは、一定期間、授業の受講及び施設設備の利用等を禁止し、その他の課外活動等についても禁止することをいう。

4 訓告とは、文書で戒めることをいう。

5 懲戒の手続に関する規定は、別に定める。

日本大学学生・生徒表彰規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、日本大学学則・日本大学短期大学部学則及び日本大学付属高等学校等学則の表彰規定に基づき、日本大学学生、生徒及び児童（以下「学生・生徒等」という）の表彰に関する必要事項について定める。

(表彰の種類)

第2条 表彰の種類は、次のとおりとする。

① 学長賞

② 優等賞・優秀賞

③ 奨励賞

④ 部科校長賞

2 前項に掲げる表彰は、学長賞、優等賞・優秀賞及び奨励賞（以下「学長賞等」という）は学長名で、部科校長賞については、

部科校長名で授与する。ただし、付属高等学校・中学校及び小学校の優等賞は、校長名で授与する。

(表彰部門)

第3条 表彰部門は次のとおりとする。

① 学業部門

② 学術・文化部門

③ スポーツ部門

④ 善行部門

⑤ その他

(表彰基準)

第4条 この規程の表彰基準は、別に定める。

(表 彰)

第5条 受賞者には賞状を授与し表彰する。ただし、表彰に当たって、賞状とともに記念品を授与することができる。

(表彰の時期)

第6条 学長賞、優等賞・優秀賞、部科校長賞は、学生・生徒等が卒業の際、卒業式等において表彰する。ただし、第3条第4号及び第5号に定める場合は、この限りでない。

2 奨励賞は、在学生に対し、適当な時期に行う。

(候補者の推薦)

第7条 学長名で授与する学長賞等の候補者（以下「候補者」という）の推薦は、次のとおりとする。

- ① 第3条第1号の候補者については、学部長は教授会の審議を経て、学校長は教職員会議の意見を聴いて、学長に推薦する。
- ② 第3条第2号から第5号までの候補者については、部科校長が申請した者を、学長賞候補者選考委員会が審査し、学長に推薦する。
- ③ 第3条第3号の候補者については、前号のほか副学長（競技スポーツ担当）が競技スポーツ運営委員会の議を経て申請した者を、学長賞候補者選考委員会が審査し、学長に推薦する。

(推薦の方法)

第8条 前条に定める候補者を推薦する場合には、所定の必要書類を添付し、文書をもって行わなければならない。

(受賞者の決定)

第9条 学長賞、優秀賞、奨励賞の受賞者は、推薦された候補者について、学部長会議の意見を聴いて、学長が決定する。

(委員会)

第10条 部科校長及び副学長（競技スポーツ担当）が申請した候補者の選考その他諸事項を審議するため、学長賞候補者選考委員会（以下「委員会」という）を置く。

(委員会の構成)

第11条 委員会は、次の者をもって構成し、委員は大学が委嘱する。

- ① 副学長（学務担当）
- ② 副学長（学生担当）
- ③ 副学長（競技スポーツ担当）
- ④ 学部長及び通信教育部長 若干名
- ⑤ 学務部長
- ⑥ 学生部長
- ⑦ 競技スポーツ部長
- ⑧ 付属高等学校及び小学校の校長 若干名

⑨ その他学長が推薦する者 若干名

2 委員会の委員長は、副学長（学生担当）とする。

3 委員長及び委員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

4 委員長に事故あるとき又は欠けたときは、学生部長がその職務を代行する。

(委員会の運営)

第12条 委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

2 委員長は、必要に応じて委員以外の者を出席させて意見を求めることができる。

(専門委員会)

第13条 委員会は、第3条第2号から第5号の推薦について意見を聴くため、必要に応じて専門委員会を置くことができる。

2 専門委員会は、委員長が招集し、その議長となる。

3 専門委員会の委員は、委員以外の者から、学長の承認を得て委員長が委嘱する。

4 専門委員会委員の任期は、第11条第3項に準ずる。

5 専門委員会は、学長賞等の推薦について、委員会に報告する。

(部科校長賞の決定等)

第14条 部科校長賞は、第3条に定める部門について、各部科校で表彰する。

2 部科校長賞の受賞者は、教授会又は教職員会議が審査し、推薦された者について、部科校長が決定する。第3条第2号及び第3号の部門の決定に当たっては、前条に定める専門委員会の意見を聴くことができる。

3 部科校長賞の受賞者については、文書をもって大学に報告しなければならない。

(所 管)

第15条 この規程の学生に関する事務は、本部については学生部、学部等については、学生課が所管する。ただし、学業部門に関する事務は、本部については学務部、学部等については教務課が所管し、日本大学競技部に所属する学生のスポーツ部門に関する事務は競技スポーツ部が所管する。

2 生徒及び児童に関する事務は、本部については学務部、高校等については、事務課等が所管する。

(準付属高等学校等への適用)

第16条 第2条第1項第1号から第3号までについては、学部長会議の意見を聴いた上、本大学の準付属高等学校等の生徒に適用することができる。

附 則

1 この規程は、令和5年10月1日から施行する。

2 昭和50年12月5日制定の日本大学総長賞規程は、これを

廃止する。

特待生規程

(特待生)

第1条 本大学学部、通信教育部及び短期大学部（以下「学部等」という）に在学する学生（1年次生を除く）のうち、学業成績が優秀で、品行方正な者を選考の上、日本大学特待生（以下「特待生」という）とする。

(奨学金)

第2条 特待生は、甲種及び乙種とし、次の奨学金を給付する。

- ① 甲種 授業料1年分相当額の半額及び図書費12万円
- ② 乙種 授業料1年分相当額の半額

(候補者の推薦)

第3条 特待生候補者は、在学する学部等の長（以下「学部長等」という）が教授会の審議を経て選考し、所定の書類を添付して、学長に推薦する。

2 毎年度の特待生候補者の数については、別に定める基準に基づき決定する。

(選考決定)

第4条 特待生は、学部長等が推薦した候補者について、学部長会議の意見を聴いた上、学長が決定する。

2 特待生は、毎年度選考の上、決定する。ただし、再選考を妨げない。

(取消し)

第5条 特待生が第1条の資格を欠いた場合には、学長は、学部長等の意見を聴いて、特待生を取り消すことができる。

(奨学金の返還)

第6条 特待生が休学、退学又は前条によって特待生を取り消された場合には、学長は、当該年度の奨学金の全部又は一部を返還させることができる。

附 則

- 1 この規程は、平成29年4月1日から施行する。
- 2 従来の奨学規程は、本規程施行と同時に廃止する。

日本大学生産工学部留学に関する内規

(目 的)

第1条 この内規は、日本大学学則第27条の2、第37条第5項及び第9項、第117条第9項に基づき、生産工学部及び大学院生産工学研究科（以下「本学部」という）の学生が海外に留学する場合の取扱いについての必要事項を定める。

(留学の定義)

第2条 この内規にいう「留学」とは、本学部の教授会又は大学院分科委員会（以下「教授会等」という）の審議を経て、学部長又は研究科長（以下「学部長等」という）の許可を得て、外国の大学若しくはこれに相当する高等教育機関又は海外の研究機関（以下「大学等」という）に原則として1学年在学又は在籍し、勉学若しくは研究するものをいう。

(留学の種類)

第3条 この内規にいう留学の種類は、次の各号の一に該当するもので、その運用基準については別に定める。

- ① 本学部海外提携校への学術交流協定等に基づく派遣交換留学
- ② 本学部海外提携校への留学
- ③ 日本大学（以下「本学」という）の海外提携校への留学

又は学術交流協定等に基づく派遣交換留学

- ④ 本学又は本学部と学術交流協定等を結んでいない外国の大学等への留学

(留学に関する手続)

第4条 留学をしようとする者には、あらかじめ次の書類を提出させた上、教授会等の審議を経て、学部長等が許可を与える。

- ① 本学部所定の留学届
 - ② 留学先となる大学等が発行する入学許可書、受入書等
- 2 留学を終えた者には、次の書類を帰国後速やかに提出させる。
- ① 本学部所定の帰国届
 - ② 留学先の大学等が発行する在学期間又は在籍期間を明記した証明書
 - ③ 様式任意の学習成果報告書

(在学年数の取扱い)

第5条 留学期間は、修業年数に算入する。

(証明書の発行)

第6条 留学期間中は、在学証明書を発行する。

(留学中に修得した単位の認定)

第7条 留学期間中に留学先の大学等において修得した単位のうち、教授会等の審議を経て、学部長等が適当と認めたものに限り、本学部の単位として認定することができる。

2 前項の規定により、認定することのできる単位数は、他の事由により認定された単位数と合わせて次のとおりとする。

- ① 学部においては、60単位を超えない範囲
- ② 大学院においては、15単位を超えない範囲

(留学期間中の学費)

第8条 留学期間中は、留学生在籍料を徴収し、他の諸費は徴収しない。

2 授業料を納入した後に留学を許可された場合は、すでに納入された授業料の超過分を、次の学期の授業料に充てることができる。

(留学許可の取り消し)

第9条 留学を許可した者について、第2条に該当する留学生として不適当であると認められる事情が生じた場合は、教授会等の審議を経て、学部長等は、留学の許可を取り消すことができる。

2 前項の規定により留学の許可を取り消した場合は、前条の規定を適用しない。

(継続履修)

第10条 通年科目の継続履修は、次のとおりとする。

- ① 年度の後期から留学する者については、留学前に履修し

ていた通年科目が帰国した年度に同一教員・同一科目で開講されている場合、継続して履修することを認めることができる。

② 留学前に履修していた通年科目が帰国した年度に同一教員・同一科目で開講されていない場合、別教員・同一科目で継続履修することを認めることができる。

③ 留学前に履修していた通年科目が帰国した年度に同一教員・同一科目で開講しているが時間割が重複しているため、履修できない科目がある場合、その履修できない科目について、別教員・同一科目にて継続履修することを認めることができる。

④ 上記①～③にかかわらず、以下については継続履修を認めない。

- (1) 帰国年度に当該授業科目が開講されていない場合
- (2) 授業内容が著しく異なる場合
- (3) 担当教員の許可を得ることができない場合

(継続履修の手続)

第11条 継続履修の手続については、継続履修願を所定の期日までに教務課へ提出する。

(出発年度の通年科目の成績評価)

第12条 出発年度の通年科目の成績評価については、「履修中止」とする。

附 則

この内規は、令和6年4月1日から施行する。

日本大学生産工学部情報システム利用要項

(趣 旨)

第1条 この要項は、生産工学部（以下学部という）の情報システム（以下システムという）の円滑な運用を図るため、システムの利用について必要な事項を定める。

(適用範囲)

第2条 この要項は学部のキャンパスの内外を問わず、システムを利用する場合に適用する。

(構 成)

第3条 システムとは、次のものをいう。

- ① 学部が管理するネットワークと情報資産
- ② 学部が管理するコンピュータ機器群
- ③ 学部が第1号及び第2号を使用して提供する情報サービス（電子メール、電子ニュース、Web ページ等）
- ④ 前各号に関連する付帯設備及び装置

(利用者の資格)

第4条 システムを利用できる者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- ① 学部の教職員
- ② 学部の学生、大学院学生、研究生、科目等履修生、特別聴講学生
- ③ その他学部長が認めた者

(利用の申請)

第5条 システムを利用する者は、所定の利用申請書を庶務課に提出するものとする。ただし、前条第2号の者は省略するものとする。

(利用の承認)

第6条 学部長は、前条の申請書を受理し、適当と認めた者（以下利用者という）には利用者識別名（以下ユーザIDという）を与える。

2 前項のユーザIDの有効期間は、承認の日から次の各号のとおりとする。

- ① 学部専任教職員については、専任の期間。ただし、本人の希望により3か月以内の延長を認める。
- ② 学部の学生、大学院学生、研究生、科目等履修生、特別聴講学生については、在学の期間
- ③ その他の者は、認めた期間

(ユーザIDの管理)

第7条 利用者は、ユーザIDを自己の責任において管理し、以下の各号を遵守するものとする。

- ① 他の利用者又は第三者に自己のユーザIDを使用させたり、譲渡、貸与しない。
- ② 他の利用者のユーザIDを不正に使用しない。
- ③ ユーザIDが第三者に使用されていることを知った場合、速やかに庶務課に連絡の上、必要な指示を受ける。

(変更の届出)

第8条 申請事項に変更を生じた場合は、速やかに庶務課に届出なければならない。

(利用の目的)

第9条 システムの利用は、教育、研究、事務利用を目的とする。ただし、学部長が特に認めた場合は、この限りでない。

(遵守事項)

第10条 利用者は、以下の各号を遵守するものとする。

- ① ネットワークを利用する場合は、別に定める「生産工学部ネットワーク利用に関する要項」
- ② 教育施設を利用する場合は、別に定める「生産工学部教育情報関係施設利用要項」
- ③ 研究施設を利用する場合は、別に定める「生産工学研究所情報関係施設利用要項」

(利用の制限)

第11条 利用者が、この要項に違反したときは、学部長はシステムの利用を制限することができる。

(免責)

第12条 利用者が、この要項に違反し、利用者又は第三者に生じた損害について、学部は一切責任を負わない。

(損害賠償)

第13条 利用者が、故意又は過失によりシステムを破壊、紛失又は汚損した場合は、学部はその損害を賠償させることができる。

(所管)

第14条 この要項に関する事務は、庶務課が行う。

附 則

この要項は、平成16年4月1日から施行する。

生産工学部ネットワーク利用に関する要項

(目 的)

第1条 この要項は、「日本大学における不正アクセス対策要項」第4条の定めにより、インターネット社会における情報セキュリティの重要性を認識し、生産工学部におけるネットワークと情報資産(以下ネットワークという)を内外の脅威から守り「被害者にならない」「加害者にならない」ために、セキュリティ対策を講じ、モラルの維持、円滑な運用を目的とする。

- ① セキュリティ対策とは、不正な侵入、漏えい、改ざん、破壊、利用妨害などが発生しないように努め、さらに、障害発生(自然災害、機械故障、人災)を未然に防止するように対策を講じることをいう。
- ② モラルの維持とは、情報倫理であり、著作権、知的財産権の侵害や、公序良俗などに反する行為をしないことをいう。
- ③ 円滑な運用とは、教育・研究、学部内の管理業務が障害なく運用できることをいう。

なお、ネットワーク利用に関する組織・規程等が制定されるまでの当分の間、これを適用するものとする。

(利用者)

第2条 ネットワークを利用できる者は次のとおりとする。

- ① 本学部学生・大学院学生
- ② 本学部教職員
- ③ その他学部長が認めた者

(遵守事項)

第3条 ネットワークを利用する者は、次の各号に掲げる事項を遵守するものとする。

- ① この要項の目的に則さない行為をしないこと。
- ② ネットワークを内外の脅威から守り、かつ、自分自身が感染元にならないように、適切に機能する状態を保つこと。
- ③ プライバシーを侵害する行為をしないこと。
- ④ 知的財産権を侵害する行為をしないこと。
- ⑤ 他人を詐称するなどしてアクセスを許されていないコンピュータにアクセスしないこと。
- ⑥ 営利を目的とした行為をしないこと。

- ⑦ 不適切な内容の情報の発信や、法令および社会慣行に反する行為をしないこと。

(利用の制限)

第4条 学部長は、利用者がこの要項に反した場合には、その者の通信を即時に遮断するとともに、ネットワークの利用を制限すること、または取り消すことができる。

(所 管)

第5条 この要項に関する事務は、庶務課が所管する。

附 則

この要項は、平成14年6月6日から施行する。

日本大学生産工学部ホームページ及びサーバ管理要項

(趣 旨)

第1条 この要項は、日本大学生産工学部（以下学部という）の教育・研究の発展のために、インターネットを介した情報発信手段として開設する学部ホームページ（以下ホームページという）及びWWWサーバ（以下サーバという）の管理運営に必要な事項を定めたものである。

(定 義)

第2条 この要項でいう「ホームページ」とは、学部が情報発信を行うことを目的として、一元的に管理運用する電子情報を指し、「サーバ」とは、その電子情報を蓄積・供給するシステムをいう。

(ワーキンググループ)

第3条 ホームページ及びサーバの円滑な管理運用を行うため、日本大学生産工学部広報委員会（以下委員会という）の下にホームページ管理ワーキンググループ（以下ワーキンググループという）を置く。

(ワーキンググループの業務)

第4条 ワーキンググループは次の業務を行う。

- ① ホームページの内容に関する事項
- ② 学部からの電子情報発信に関する事項
- ③ その他、委員会から付議された事項

(ホームページ)

第5条 ホームページには次の情報を掲載することができる。

- ① 学部の案内及び広報
- ② 学部の入試広報
- ③ 学部が提供する学科の情報
- ④ その他、委員会が認めたもの

(情報掲載申請)

第6条 ホームページに情報の掲載を希望する者は、委員会に申請し、所定の手続きを経た後、許可を受けなければならない。

(情報内容の責任)

第7条 ホームページの情報内容については、申請者が責任を

負うものとする。

(内容の作成)

第8条 情報内容は、原則として申請者が作成する。

(内容の収録場所)

第9条 情報内容の収録場所（ディレクトリ、URL）は、ワーキンググループで決定する。

(リンク申請)

第10条 ホームページにリンク先を掲載希望する者は、委員会に申請しなければならない。

(更新の義務)

第11条 ホームページに情報を掲載した者は、常に情報内容を最新のものに更新し、不要になった情報を削除するように努めなければならない。

(運用の一時停止)

第12条 委員会は、サーバの利用規制および機器の点検などの必要があると認められたときは、サーバの運用を一時停止することができる。

(掲載情報の中止)

第13条 委員会は、掲載情報が本要項の趣旨に反する内容であると認められる場合、情報掲載申請者に通告するとともに、情報の掲載を中止することができる。

(所 管)

第14条 ホームページ及びサーバ管理に関する事務は庶務課が行う。

附 則

この要項は、平成14年4月1日から施行する。

日本大学生産工学部教育用情報関係施設利用要項

（趣 旨）

第1条 この要項は、生産工学部（以下学部という）が提供する教育用情報関係施設（以下情報関係施設という）の利用についての必要な事項を定める。

（構 成）

第2条 情報関係施設とは、次のものをいう。

- ① 情報処理演習室（津田沼校舎 24 号館 301 室, 401 室, 402 室）
- ② e-Space（津田沼校舎 24 号館 305 室）
- ③ 実習校舎教育用コンピュータ実習室（実習校舎 51 号館 206 号室, 52 号館 401 室, 402 室, 404 室, 405 室）

（利用者の資格）

第3条 情報関係施設を利用できる者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- ① 学部の教職員
- ② 学部の学生、大学院学生、研究生、科目等履修生、特別聴講学生
- ③ その他学部長が認めた者

（利用の目的）

第4条 情報関係施設の利用は、教育を目的としたものに限る。ただし、学部長が特に認めた場合は、この限りでない。

（利用予約）

第5条 時間割上の授業以外で情報関係施設の専有利用を希望する者は、所定の利用申込書を教務課に提出するものとする。

（ソフトウェア利用上の注意）

第6条 情報関係施設に整備されたソフトウェア（以下整備ソフトという）を複写又は消去、破壊してはならない。

（整備ソフト以外のソフトウェア利用上の注意）

第7条 整備ソフト以外のソフトウェア（以下利用者ソフトという）の利用については、次の各号による。

- ① 利用者ソフトの内容、動作等については、学部は責任を負わない。
- ② 利用者ソフトの著作権については、利用者各自が責任を負うものとする。
- ③ 利用者ソフトが原因でシステムに障害等の不都合が生じた場合は、利用を停止する。

（機器等の位置復元）

第8条 利用者は、使用した機器等を元の位置に復すること。

（持込み機器の搬出）

第9条 利用者が独自に持込んだ機器等は、使用後速やかに搬出するものとする。

（機器等の貸出し）

第10条 機器、ソフトウェアライセンス、説明書等を情報関係施設以外の場所で使用する場合は、専任教職員が所定の借出書を教務課に提出するものとする。

（事故の報告）

第11条 利用者は、情報関係施設の機器、備品が故障又は破損した場合、教務課に連絡の上、必要な指示を受けるものとする。

（遵守事項）

第12条 利用者は、別に定める「生産工学部ネットワーク利用に関する要項」及び情報関係施設内における喫煙、飲食の禁止を遵守するものとする。

（利用の制限）

第13条 利用者が、この要項に違反したときは、学部長は情報関係施設の利用を制限することができる。

（免 責）

第14条 利用者が、この要項に違反し、利用者又は第三者に生じた損害について、学部は一切責任を負わない。

（損害賠償）

第15条 利用者が、故意又は過失により情報関係施設の機器、備品および整備ソフトを破壊、紛失又は汚損した場合は、学部はその損害を賠償させることができる。

（利用時間）

第16条 情報関係施設の利用時間は、別に定める。

（所 管）

第17条 この要項に関する事務は、教務課が行う。

附 則

この要項は、平成 27 年 4 月 1 日から施行する。

入学前の既修得単位数の取扱いに関する要項

(趣 旨)

第1条 この要項は、日本大学学則第37条第6項、第7項及び第8項に基づき、学生が生産工学部に入学する前に大学又は短期大学等において履修した授業科目について修得した単位（以下「既修得単位」という）の取扱いについて必要事項を定める。

(単位認定)

第2条 学生からの申し出により、既修得単位のうち、学生が所属する学科（以下所属学科という）のカリキュラムと整合性のある授業科目について認定することができる。

(認定方法)

第3条 認定方法は、授業科目ごとの個別認定とし、所属学科、教養・基礎科学系及び各学科の方針に基づき、連携の上、振り替えるものとする。

(認定単位数の上限)

第4条 認定単位数は30単位を上限とし、履修科目登録単位数の上限に関する基準の適用外とする。

(成績評価)

第5条 認定する授業科目の成績評価は「認定」とし、表記は「N」とする。

(認定手続)

第6条 単位認定の手続きは、次の手順とする。

- ① 入学時に新入生に対して、本制度の概要及び申請手続等について周知する。
- ② 単位認定を希望する学生は、原則として、①による手続期間内に成績証明書及び既修得単位を修得した年度の授業計画（シラバス）を添えて、教務課に申し出る。
- ③ 認定する授業科目は、所属学科、教養・基礎科学系及び各学科が連携して学生の意向を踏まえ認定案を作成し、学務委員会、担当会議、担当・主任会議、教授会の審議を経て、学部長が決定する。

附 則

- 1 この要項は、平成27年4月1日から施行する。
- 2 編入学者及び再入学者に対しては別途定めることとし、この要項は適用しない。

国際コミュニケーション科目における単位認定に関する申合せ

(趣 旨)

この申合せは、令和4年度施行カリキュラムにおける国際コミュニケーション科目(英語系)への単位認定に関する必要事項を定める。

(適用範囲)

① 日本大学学則第37条第4項に基づき、日本大学生産工学部(以下「本学部」という)の学生が次の研修に参加し修得した科目又は修了したプログラムに関してイングリッシュスキルCもしくはイングリッシュスキルDの単位を認定する。

(1) 日本大学短期海外研修

ア ケンブリッジ大学ペンブルック・カレッジ・サマースクール(英国)

イ ニューカッスル大学スプリングスクール(オーストラリア)

(2) 本学部語学研修

ア ミシシッピ州立大学(米国)

イ カナダ語学研修(カナダ)

(3) その他本学部が認めたもの

② 日本大学学則第27条の2、第37条第5項及び第9項及び日本大学生産工学部留学に関する内規第2条に基づき、本学部の学生が次の派遣留学又は留学先で受講した語学研修に関して研修内容を精査の上、イングリッシュスキルCもしくはイングリッシュスキルDの単位を認定する。

(1) 本学部ケント州立大学派遣留学生制度におけるESLセンターでの語学研修

(2) 本学ウェスタンミシガン大学派遣留学生制度におけるCELCISでの語学研修

(3) 日本大学生産工学部留学に関する内規第2条に基づき、学部長の許可を受けて留学した留学先の英語に関する語学研修

③ 以下のとおり、各試験で基準を満たした場合、単位を認定する。

試験種別	基準	認定科目(単位数)
TOEFL(iBT)	79点以上	英語Ⅰ(1) 英語Ⅱ(1)
TOEIC(IP試験含む)	760点以上	イングリッシュスキルA(1) イングリッシュスキルB(1) イングリッシュスキルC(1) イングリッシュスキルD(1)
実用英語技能検定	準1級以上	
IELTS	5.5以上	
TOEFL(iBT)	57-78点	英語Ⅰ(1) 英語Ⅱ(1)
TOEIC(IP試験含む)	600-759点	イングリッシュスキルA(1) イングリッシュスキルB(1)
IELTS	5.0-5.4	
TOEFL(iBT)	45-56点	
TOEIC(IP試験含む)	500-599点	英語Ⅰ(1) 英語Ⅱ(1)
実用英語技能検定	2級	
IELTS	4.0-4.9	

(申 請)

単位認定を希望する学生は、所定書式により所定の期日までに教務課へ申請することとする。

(単位の認定)

- ① 教養・基礎科学系で、成績証明書、修了証、スコア票やプログラム、授業計画(シラバス)等により、認定予定の科目を確認する。
- ② 単位の認定は、学務委員会、担当会議、担当・主任会議、教授会の審議を経て、学部長の承認を得るものとする。

(成績評価)

成績評価は認定とし、成績表示は「N」とする。

附 則

この申合せは、令和6年4月1日から施行する。

学 園 歌

日本大学校歌

日本大学工科の歌(若きエンジニアの歌)

日本大学賛歌

日大の歌 (桜の木の下で)

日本大学応援歌 (花の精鋭)

日本大学応援歌 (水の覇者日大)

日本大学応援歌 (輝く日大)

日本大学校歌

日本大学校歌

作詞 相馬御風

作曲 山田耕筈

Marcia energicamente (M.M. ♩ = 120)

1. ひにひ に あらたに ぶんかの は なの さかゆ
2. しかい に ききんじ ひいづ るく に ふかく

くせかーい の こうやのう えと あさひとかが
とゆーるーがーぬ けんがくーのも と はえあるれき

やくの くにの なお い て ぎぜんとたちたる だい
し の みちひ とす じ に こうじょうやまざる だい

がくにほん せ い ぎとじゅ うーの き ひ うの も
がくにほん せ い の いち ねーん ほ の おと も

とにる あつ まるが く との しめ い は おも し い
とゆ る わ づ れらが ゆ く て の ひかりを みよ や

ざ た た えん だ い がくにほんい ざ う た わん わ れ ら がーり そー お
ざ た た えん だ い がくにほんい ざ う た わん わ れ ら がーり そー お

日に日に新たに 文化の華の
さかゆく世界の 曠野の上に
朝日と輝く 国の名負いて
巍然と立ちたる 大学日本
正義と自由の旗標のもとに
集まる学徒の 使命は重し
いざ 讀えん 大学日本
いざ 歌わん われらが理想

四海に先んじ 日いつる国に
富嶽とゆるがぬ 建学の基礎
栄ある歴史の 道一すじに
向上息まざる 大学日本
治世の一念 炎と燃ゆる
われらが行く手の 光を見よや
いざ 讀えん 大学日本
いざ 歌わん われらが理想

日本大学工科の歌
(若きエンジニアの歌)

日本大学工科の歌
若きエンジニアの歌

Marciale. (♩ = 114)

堀内敬三 作詞・作曲

1. しょう かん の ひ い づ る く に こう そ わ が そ こ く そ
2. せい しゅん に ゆ め あ り を げん せ に あ た そ り こ あ く り
3. えい えん の ひ か り を げん せ に あ た そ り こ あ く り

の な を ば に な い て そ び ゆ わ が ぼ こ れ う の び
ん じ り つ と き に ほ う し と む あ す の こ こ ろ も ら て か が ら
ぎ り な とき に ほ う し と む あ す の こ こ ろ も ら て か が ら

ゆ く く に ほ ん の ち か く ら は こ こ し に ち
た に さ ち あ と る せ か つ い の い ず を く ぶ を
き

ひ ら き ゆ く も の わ か き エ ジ ニ ア ア
と し で す は え あ り わ わ か き エ ジ ニ ア ア

日本大学工科の歌
若きエンジニアの歌
堀内敬三 作詞・作曲

一、昭煥の日出づる 国こそわが祖国
其の名をば担いて 響ゆわが母校
伸びゆく日本の 力は茲に
地を拓き行く者 若きエンジニア

二、青春に夢あり 宇宙に真理あり
現実と理想を 結ぶもの我等
科学の力と 不屈の意志を
武器として進まん 若きエンジニア

三、永遠の光を 現世に与うべく
限りなき奉仕と 愛の心もて
新たに幸ある 世界を築く
わが腕に栄あり 若きエンジニア

日本大学賛歌

日本大学賛歌

石本美由起 作詞
服部克久 作曲

と も は み ら い を に な う

し め い に も え て い つ も あ た ら し い あ し

た を み つ め る ひ ざ し あ ふ れ る

そ ら へ り そ う の つ ば さ と も

よ た く ま し く ひ ろ げ て と ば

そ う に ち だ い に ほ ん の こ こ ろ う け

つ ぐ わ れ ら に ち だ い に ち だ い に ち だ い

せ か い を か た ろ う お お に ち だ い

一、友は
未来を担う 使命に燃えて
いつも
新しい明日を見つめる
陽射し
あふれる空へ 理想のつばさ
友よ
遅く 広げて 飛ばそう
日大 日本の精神 受け継ぐ吾等
日大 日大 日大 世界を語ろう
おお 日大

二、花は
いのちを育て 試練に耐えて
いつも
素晴らしい 希望を咲かせる
人は
歴史を尊び やしなう気風
友よ
団結の 人の和 つくろう
日大 日本の闘志 受け継ぐ吾等
日大 日大 日大 世界を目指そう
おお 日大

三、星は
宇宙の夢を 描いて光り
いつも
この胸に 憧れを与える
いざや
自由の旗を 雄々しくかざし
友よ
向学の 若さを競おう
日大 日本の文化 受け継ぐ吾等
日大 日大 日大 世界を学ぼう
おお 日大

金澤 裕 作詞
 山路夫 補作
 森田公一 作曲

日大の歌 桜の木の下で

日大の歌 (桜の木の下で)

さくら のきのしたで かたろ うともよー きぼ
 うにみちたー わかい ひの ゆめ い
 ま このとき は か え ら ない け ど は
 な びら かたに に かか る な か で き み
 と か たつ た ひ と ー とき を わ す
 れ ない い つ ま で も わ す れ ない

一、桜の木の下で 語ろう友よ
 希望に満ちた 若い日の夢
 いまこの時は 帰らないけど
 花びら肩に かかる中で
 君と語った ひとときを
 忘れない いつまでも 忘れない

二、桜の木の下で 歌おう友よ
 心の中の あふれる想い
 憧れこめた その歌声は
 流れる雲に 乗ってゆくよ
 君と歌った ひとときを
 忘れない いつまでも 忘れない

三、桜の木の下で 逢おう友よ
 理想に燃えた 若い瞳よ
 季節が移り 別れたあとも
 いつでも逢える 仲間ならば
 君と誓った ひとときを
 忘れない いつまでも 忘れない

東 辰三 作詞
 明本京静 作曲

日本大学応援歌 花の精鋭

日本大学応援歌 (花の精鋭)

1. か が や く で た ん とう ぼ こ う の た い め に
 2. か が や く で た ん とう ぼ こ う の た い め に
 3. か が や く で た ん とう ぼ こ う の た い め に
 え く い な よ い に な い て い ま き ひ ら く
 あ れ な り そ は ー ら め て い さ ま き ー ひ ら く
 な の せ い え い に ち だ い け ん じ
 フェア プレイ に ち だ い フェア プレイ に ち だ い た て う て か て
 し ゅ う り ほ ほ え む は な の に ち だ い

一、輝く伝統 母校の為に
 荣誉担いて 今開く
 花の精鋭 日大健児
 フェアプレイ 日大
 フェアプレイ 日大
 立て 打て 勝て
 勝利微笑む 花の日大

二、輝く太陽 燃え立つ意気に
 紅い染めて 咲き誇る
 花の精鋭 日大健児
 フェアプレイ 日大
 フェアプレイ 日大
 立て 打て 勝て
 勝利微笑む 花の日大

三、輝く瞳に みなぎる闘志
 あたりはらいて 咲ききそう
 花の精鋭 日大健児
 フェアプレイ 日大
 フェアプレイ 日大
 立て 打て 勝て
 勝利微笑む 花の日大

日本大学応援歌（水の覇者日大）

日本大学応援歌 水の覇者日大

サトウ・ハチロー 作詞
古関 裕而 作曲

Tempo di Marcia



一、青きは希望の 山の峰
澄めるは心と 水の色
富士をば背負い 堂々と
しぶきをあげて 技を練る
歴史は唄う 日大の
伝統輝く 水の覇者
日大 日大 おお日大

二、南の里なら 河育ち
北なら海辺の 潮の子
津々浦々より 集いさし
精鋭練磨の その日夜
今日また勝てり 日大の
伝統輝く 水の覇者
日大 日大 おお日大

三、光と競え フェニックス
風に勝利の 旗が鳴る
豪快の意気 高らかに
たたえよ若さ 示せよ力
日大 日大 いざふるえ日大

四、水上日本の 声名を
守るは我等の 肩にあり
記録の更新 むねとして
世界の覇者たれ 王者たれ
轟け響け 日大の
伝統輝く 水の覇者
日大 日大 おお日大

日本大学応援歌（輝く日大）

日本大学応援歌 輝く日大

松阪直美 作詞
猪俣公章 作曲



一、戦えば勝つ 伝統の
誇り輝く わが母校
烈々の意気 天を突く
たたえよ若さ 示せよ力
日大 日大 いざふるえ日大

二、どの如き 精鋭の
向う所に 敵はなし
さつそこの意気 花と咲く
たたえよ若さ 示せよ力
日大 日大 いざふるえ日大

三、光と競え フェニックス
風に勝利の 旗が鳴る
豪快の意気 高らかに
たたえよ若さ 示せよ力
日大 日大 いざふるえ日大



キャンパス案内図

津田沼キャンパス

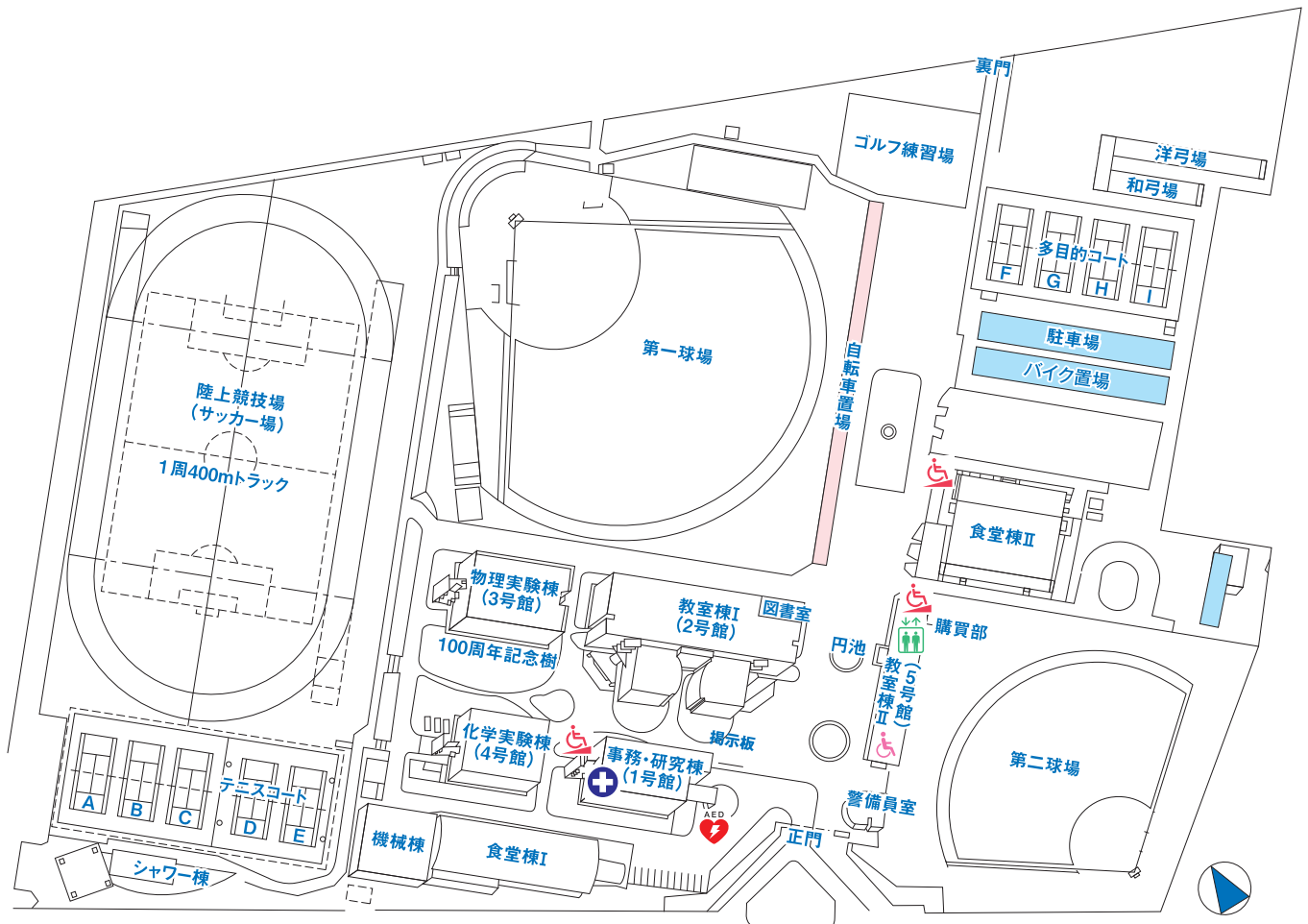
実籾キャンパス

キャンパス案内図

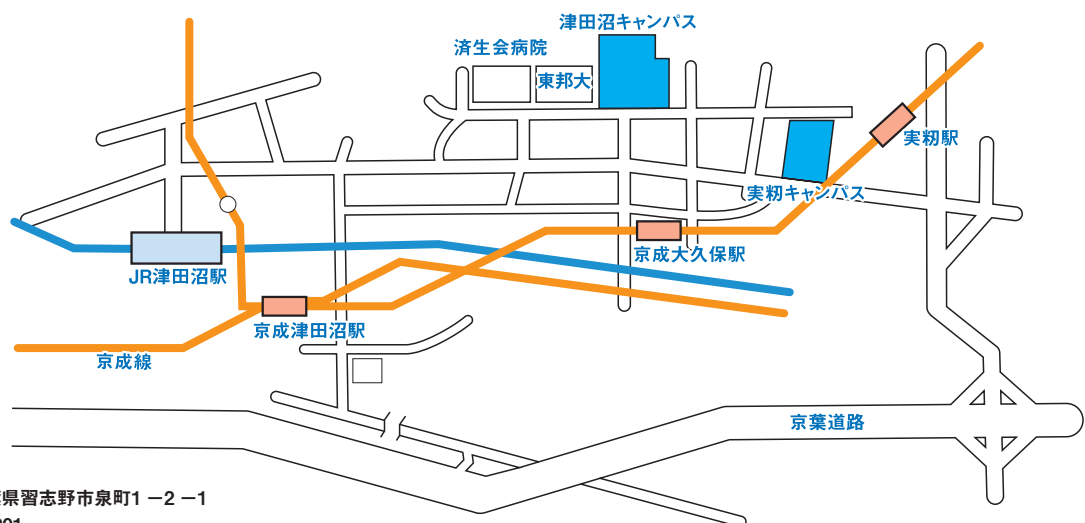
津田沼キャンパス



実習キャンパス



キャンパス案内図



《津田沼キャンパス》
〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1
電話 047 (474) 2201

《実習キャンパス》
〒275-8576 千葉県習志野市新栄2-11-1
電話 047 (474) 2801

日本大学情報管理宣言

日本大学

日本大学は、教育理念を実現し、社会的責任を全うし、本学の誇りを守るため、次の三つを宣言します。

- 1 日本大学は、業務・教学情報の外部持ち出しを許しません。
- 1 日本大学は、情報を大学の重要な財産と考え、厳格に管理します。
- 1 日本大学は、構成員に対し情報管理教育を徹底します。

日本大学の構成員は、自らが関わる情報が、大学の誇りと構成員・校友の尊厳に関わるものであることを常に自覚し、良識を持って情報に接することを誓います。

個人情報取扱告知文

日本大学生産工学部

入学手続時及び在学中に収集する学生本人及び保証人の氏名、住所、生年月日及びその他の個人情報、学籍・成績管理、教育、学生生活支援、学費の案内、図書館利用、就職支援等及びこれらの業務に付随する学生及び保証人への連絡・通知・掲示等、本大学の教育事業に必要な範囲で利用します。

また、これらの業務の一部を業者に委託する場合があります。この場合、当該業務の委託を受けた業者は、上記利用目的の達成に必要な範囲を超えて個人情報を利用することはありません。

なお、本大学では、学生への教育・指導をより適切に行うため、保証人に対して学生の学業成績及び出席状況等の開示並びに履修状況等についての相談を行う場合があります。

【問合せ先】生産工学部教務課・学生課



機械工学科



電気電子工学科



土木工学科



建築工学科



応用分子化学科



マネジメント工学科



数理情報工学科



環境安全工学科



創生デザイン学科



教養・基礎科学系

津田沼キャンパス

〒275-8575 千葉県習志野市泉町1-2-1

TEL.047-474-2201

実籾キャンパス

〒275-8576 千葉県習志野市新栄2-11-1

TEL.047-474-2801